阿志岐小学校昇降機設備設置工事

図　面　目　録

＜　建築図　＞

図面番号	図面名称	縮尺
Ａ－０１	図面目録	－
Ａ－０２	建築工事特記仕様書（１）	－
Ａ－０３	建築工事特記仕様書（２）	－
Ａ－０４	建築工事特記仕様書（３）	－
Ａ－０５	建築工事特記仕様書（４）	－
Ａ－０６	面積表	－
Ａ－０７	全体配置図・付近見取図	1/400
Ａ－０８	１階平面図	1/150
Ａ－０９	２階平面図	1/150
Ａ－１０	３階平面図	1/150
Ａ－１１	全体立面図	1/100
Ａ－１２	立面図・断面詳細図（１）	1/50
Ａ－１３	断面詳細図（２）	1/50
Ａ－１４	既存・増築後　平面詳細図・建具表	1/50・1/100
Ａ－１５	既存・増築後　展開図	1/50・1/100
Ａ－１６	雑詳細図・外構図（1）	1/30・1/100
Ａ－１７	外構図（2）	1/100
Ａ－１８	ＡＬＣ縦壁ＨＤＲ構法設計施工標準図	1/10
Ａ－１９	仮設計画図	1/300・1/100
Ａ－２０	消防法における無窓階の判定	1/250

＜　建築図　＞

図面番号	図面名称	縮尺
Ａ－２１	エレベーター詳細図（１）	-
Ａ－２２	エレベーター詳細図（２）	1/20
Ａ－２３	エレベーター詳細図（３）	1/50
Ａ－２４	エレベーター詳細図（４）	1/20

＜　構造図　＞

図面番号	図面名称	縮尺
Ｓ－０１	新　構造設計特記仕様書（１）	－
Ｓ－０２	新　構造設計特記仕様書（２）	－
Ｓ－０３	新　鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）	－
Ｓ－０４	新　鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）	－
Ｓ－０５	新　鉄筋コンクリート構造配筋標準図（３）	－
Ｓ－０６	鉄骨構造標準図（１）	－
Ｓ－０７	鉄骨構造標準図（２）	－
Ｓ－０８	スクリューパイルEAZET　設計施工標準図	－
Ｓ－０９	ハイベースNEO工法　設計施工標準図	－
Ｓ－１０	ハイベースNEO工法　特記仕様書	－
Ｓ－１１	ボーリング位置図	1/300
Ｓ－１２	ボーリング柱状図	1/150
Ｓ－１３	デッキプレート特記仕様書	－
Ｓ－１４	基礎伏図・詳細図	1/50
Ｓ－１５	梁伏図１	1/50
Ｓ－１６	梁伏図２	1/50
Ｓ－１７	軸組図	1/100
Ｓ－１８	小梁接合部詳細図	－
Ｓ－１９	小梁接合部詳細図	－
Ｓ－２０	鉄骨詳細図	1/50

＜　電気設備図　＞

図面番号	図面名称	縮尺
Ｅ－０１	校内配電線路図	1/400
Ｅ－０２	１階平面図	1/100
Ｅ－０３	２階平面図	1/100
Ｅ－０４	３階平面図	1/100

図面番号	図面名称	縮尺
Ｍ－０１	衛生設備　各階平面詳細図（既存・改修後）	1/50

施　　主：筑　紫　野　市

設計・監理：浜地設計　株式会社

施　　工：ー

備考

１級建築士事務所
浜地設計 株式会社

〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　桑　大二郎

工事名称	縮尺	図面No.
阿志岐小学校昇降機設備設置工事	Ａ－１　－	Ａ－０１
図面名称：図面目録	Ａ－３　－	日付：2026.2

建　築　工　事　特　記　仕　様　書

1）　工　事　概　要

1．工事名称　阿志岐小学校昇降機設備設置工事

2．工事場所　福岡県筑紫野市大字阿志岐2350番

3．工事概要　昇降機設備設置及び付帯工事

4．別途工事　・　　　・

・　　　・

5．建物概要

敷地面積　17,384.80㎡

鉄骨造　３階建て　建築面積　13.59 ㎡　　延べ面積　40.77 ㎡

2）　建　築　工　事　仕　様

1．標　準　仕　様

図面及び特記仕様に記載されていない事項はすべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和７年版）」及び「建築工事監理指針（令和７年版）」による。

2．特　記　仕　様

（１）項目は番号に○印のついたものを適用する。

（２）特記事項は○印のついたものを適用する。

○印のつかない場合は、※印のついたものを適用する。

○印と⊗印のついた場合は、共に適用する。

（３）特記事項に記載の（　　）内表示番号は、公共建築工事標準仕様書の当該項目、当該図、又は当該表を示す。

（４）形状寸法の単位は特記なきかぎりミリメートルとする。

章	項　目	特　記　事　項

① 各章共通事項

①．適用基準等

図面もしくは特記仕様書に記載なき場合は、以下の仕様書による。

（１）「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和７年版」国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（以下「標準仕様書」又は「標仕」という。）による。

（２）「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）令和７年版」国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

（３）「公共木造建築工事標準仕様書　令和４年版」　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

（４）「建築物解体工事共通仕様書　令和４年版」　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

②．補足基準等

適用仕様等、図面、特記仕様書に記載なきものについては、以下の基準、指針、要領、標準図等による。

（1）「建築構造設計基準 令和３年版」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

（2）「建築工事標準詳細図　令和４年版」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

（3）「建築工事監理指針　令和７年版」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

（4）「建築改修工事監理指針　令和７年版」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

（5）「建築工事安全施工技術指針・同解説　平成27年版」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

（6）「建設廃棄物処理指針」 厚生労働省生活衛生局

（7）「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び　　厚生労働省労働基準局
石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル」　環境省水・大気環境局

（8）「建築物等の解体等工事における石綿粉じんへのばく露防止マニュアル（新版）」　建設業労働災害防止協会

（9）「基礎ぐい工事の適正な施工を確保するために講ずべき措置」国土交通省告示第468号

(10)「官庁施設の総合耐震診断・改修基準及び同解説(平成８年版)」建設大臣官庁営繕部監修

(11)「建築工事標準仕様書・同解説」　日本建築学会

(12)「建築工事の手引き」　（公財）福岡県建設技術情報センター編集

③．適用範囲等

全ての設計図書は相互に補完する。ただし設計図書間に相違がある場合の、適用の優先順位は、次の（ア）から（オ）までの順番のとおりとする。

（ア）質問回答書　（（イ）から（オ）に対するもの）

（イ）

（ウ）特記仕様書

（エ）別冊の図面

（オ）標準仕様書

④．現場に常備する図面等

上記の「１.適用基準等」及び「２.補足基準等」のうち、当該工事に係る図書等については現場事務所に常備し監督員の確認を得ること。

⑤．工事実績サービス（CORINS）への登録

受注者は、工事請負額が５００万円以上の工事について、受注時は契約締結後１０日以内に、登録内容の変更時は変更があった日から１０日以内に、工事完成時は完成後１０日以内に、工事実績情報サービス（CORINS）に基づき、「建設情報実績」を作成し、建築都市総務課契約室の確認を受けた後に、（一財）日本建設情報総合センターに提出しなければならない。また、同センター発行の「登録内容確認書」の写しを建築都市総務課に提出しなければならない。ただし、期間には、行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号）に定める行政機関の休日は含まない。

問い合わせ先　〒812-0013　福岡市博多区博多駅東3-11-28博多サンシティビルⅡ6F
（一財）日本建設情報総合センター九州地方センター
TEL　092-411-3664　FAX　092-411-3486　(1.1.4)

⑥．施工体制台帳

※現場説明書による。受注者は下請け契約を行う全ての工事で施工体制台帳を作成し、工事現場に据え置くとともに、その写しを監督員に提出すること。

⑦．実施工程表

・概成工期（令和　年　月　日）　※概成工期　設けない　(1.2.1)

⑧．余裕期間

方式　・発注者指定方式　・任意着手方式

（余裕期間内は、受注者の責により現場に搬入しない資材等の準備を行うことができるが、資材の搬入、仮設物の設置等、工事の着手を行ってはならない。なお、実工事期間には、準備・後片付け期間を含む。詳細は、契約特則による。）

⑨．工事の記録

工事日報は、工事記録を兼ねることができる。

下記要領により撮影し、写真帳に説明を記入のうえ提出する。（原版は撮影業者が保管する。）　(1.2.4)

区　分	分　類	規　格	部数	原版の大きさ	備考
着工前	カラー	※サービス版 ・（　　）	※１部 ・（　）	24×36以上又はﾃﾞｼﾞﾀﾙ画像	撮影箇所は監督員との協議による
施工中	カラー	※サービス版 ・（　　）	※１部 ・（　）	24×36以上又はﾃﾞｼﾞﾀﾙ画像	撮影箇所は監督員との協議による
完成時	カラー	※サービス版 ・（　　）	※２部 ・（　）	24×36以上又はﾃﾞｼﾞﾀﾙ画像	撮影箇所は監督員との協議による
注　記	撮影者は建築完成写真の撮影実績がある者で、監督員が承諾する撮影者(着工前、施行中)、監督員の承諾する専門業者(完成時)とする。 電子データはRGB(フルカラー)、JPEG形式としCD-Rで提出する。（200万画素以上300dpi以上）				

各工程ごとに作業時の状況がわかるように黒板(工事名、撮影箇所等記入)､スケール等をあて撮影する。このほか、写真の撮影、整理等については国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「工事写真撮影ガイドブック建築工事編及び解体工事編」による。

⑩．電気保安技術者

※適用する（工事用電力設備の保安責任者が兼ねる。 ）　・適用しない　(1.3.3)

11．施工条件

(1.3.5)

⑫．建設リサイクル法

「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(建設リサイクル法)の対象となる工事に該当（・する　・しない）

⑬．建設副産物の処理について

建　設　副　産　物　の　処　理　に　つ　い　て
資源の有効利用、環境負荷の低減等を図り、「資源循環型社会」を構築するため、建設副産物の発生抑制、再利用、適正処理を推進する。 現場内で発生する建設副産物の処理については、現場内において発生する品目ごとに分別し指定された場所へ集積すること。 また、施工区分表に積み込み・運搬・処分までの指示がある工事については、現場内に分別保管場所を設置するとともに、再生資源の利用の促進に関する法律、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、建設廃棄物処理指針その他関係諸法令等によるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い、指定された方法により適正に処理を行うこと。 工事に際しては、工事着手時に建設副産物処理計画書、再生資源利用計画書等を、工事竣工時に建設副産物の処理結果報告書、再生資源利用実施書等を提出すること。

指定副産物（原則として再資源化施設へ持込むもの）	
がれき類 （コンクリート塊） （アスファルト塊） 木くず 建設発生土 汚泥	指定副産物の工事現場からの搬出、再生資材等の利用等については、「リサイクル原則化ルール（平成１８年６月１２日策定）」により実施する。 建設汚泥については、「建設汚泥の再生利用に関するガイドライン（平成１８年６月１２日　事務次官通知）」に従い、建設汚泥の再生利用を推進する。

その他の廃棄物
廃プラスチック　ガラス、陶磁器くず　廃石膏ボード　金属くず　繊維くず

特別管理産業廃棄物	
廃石綿等	「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル(環境省水・大気環境局大気環境課)」及び「石綿障害予防規則(平成17年7月1日施行)」に従い、収集、運搬、処分を行う。
廃ＰＣＢ等	「電気事業法：電気関係報告規則」及び「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に従い、報告書の作成・届出を行うとともに、適正に保管できるようにして施設管理者に引き渡すこと。

⑭．施工中の環境保全等

建築基準法、建設リサイクル法、環境基本法、騒音規制法、振動規制法、大気汚染防止法、水質汚濁防止法、廃棄物処理法、土壌汚染対策法、資源有効利用促進法その他関係法令等に定めるところによるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い、工事の施工の各段階において、騒音、振動、粉じん、臭気、大気汚染、水質汚濁等の影響が生じないよう、周辺環境の保全に努める。　(1.3.10)

排出ガス対策型建設機械について
「排出ガス対策型建設機械指定要領」に基づき、指定された建設機器を使用すること。 （対象機種：ﾊﾞｯｸﾎｳ、ﾌﾞﾙﾄﾞｰｻﾞ、ﾄﾗｸﾀｰｼｮﾍﾞﾙ（車輪式）、空気圧縮機（可動式）、油圧ﾕﾆｯﾄ（油圧ﾊﾝﾏ･ｱｰｽｵｰｶﾞ油圧式鋼管圧入引抜機･油圧式杭圧入引抜機・ｱｰｽｵｰｶﾞ･ｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ掘削機ﾘﾊﾞｰｻｰｷｭﾚｰｼｮﾝﾄﾞﾘﾙ・ｱｰｽﾄﾞﾘﾙ・地下連続壁施工機・全回転型ｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ掘削機の基礎工事用機械のうちﾍﾞｰｽﾏｼﾝとは別に独立したﾃﾞｨｰｾﾞﾙｴﾝｼﾞﾝ駆動の油圧ﾕﾆｯﾄを搭載しているもの）、ﾛｰﾄﾞﾛｰﾗｰ、ﾀｲﾔﾛｰﾗ、振動ﾛｰﾗ、ﾎｲｰﾙｸﾚｰﾝ、発電発動機（可動式（溶接兼用機を含む））但し、以上はﾃﾞｨｰｾﾞﾙｴﾝｼﾞﾝ（ｴﾝｼﾞﾝ出力7.5Ｋｗ以上260Ｋｗ以下）を搭載したものに限る。）

･工事における振動被害防止要領の適用　振動計の設置については現場説明書による

15．再資源利用(促進)

※ 提出する　・提出しない

⑯．建築材料等

本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。ただし、「同等のものとする場合は、監督員の承諾を得る。」と特記されたものについては、国土交通省大臣官房営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿（最新版）」による。福岡県認定リサイクル製品の使用製品名及び使用部位については、現場説明書によること。標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、監督員の承諾を受け、当該製品の指定工法によることができる。　(1.4.1、1.4.2)

環境への配慮について
国による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）により、環境負荷の低減できる材料を選定すること。 使用する材料の選定に当たっては、揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮すること。 工事に使用する材料は、アスベストを含有しないものとする。 指定品目、判断基準は「福岡県環境物品等調達方針」によること。

17．技能士

※適用する　・適用しない　(1.5.2)

適用工事及び種別、職種は下記による。

工事範囲（契約単位）			工事種別	技能検定職種
木造以外の建物	住宅	20戸以上	・鉄筋工事	鉄筋施工
			・コンクリート工事	型枠施工
			・木工事	建築大工
			・左官工事	左官
	住宅以外の建物	1,500㎡以上	・塗装工事	塗装
			・屋根及び樋工事	建築板金
			・内装工事	内装仕上げ施工
			・内装工事	表装
			・金属工事	内装仕上げ施工（鋼製下地）
造園工事		請負額　300万以上	・植栽工事	造園

18．施工の検査等

見本施工の実施箇所（　　　　）　工種（　　　　）　(1.5.5)

19．ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の測定

室内空気中化学物質の濃度測定　・行う　・行わない

ホルムアルデヒド測定の検体数　・　カ所

VOC測定の検体数　・　カ所

測定対象室

・図示

測定位置、方法については、測定前に監督員に確認する。

測定方法等は「揮発性有機化合物の室内測定要領」参照

※学校施設については、文部科学省「学校環境衛生基準」(平成２１年４月１日告示第60号)に基づきVOC等の測定を行う。　(1.5.9)

⑳．完成図等

種類及び提出形式は下記による　(1.7.2)

種　類	提　出　形　式	部　数
完成図 ※設計図一式	※二つ折り白焼き製本（Ａ１） ※ＣＡＤデータ(ＪＷＷ又はＤＸＦ) ※ＰＤＦデータ(竣工図電子データ作成要領による)	※１部 ・（　）部
総合図 ※一式	※二つ折り白焼き製本（適宜Ａ１又はＡ３） ※ＣＡＤデータ(ＪＷＷ)	※１部 ・（　）部
施工図 ※構造躯体 ※平面図 ※建具 ※屋根及び樋 ・（　　）	※二つ折り白焼き（適宜Ａ１又はＡ３） ※ＣＡＤデータ(ＪＷＷ)	※１部 ・（　）部
工作図 ※家具図 ・（　　）	※二つ折り白焼き（適宜Ａ１又はＡ３） ※ＣＡＤデータ(ＪＷＷ)	※１部 ・（　）部

（注）データの提出はCD-R、DVD-R又はUSBフラッシュメモリーに保存して提出すること。

㉑．保全に関する資料

「標仕」1.7.3(ア)の他、下記について必要事項を記入のうえ監督員に提出する。

建設大臣官房官庁営繕部監修の「管理者のための建築物保全の手引き」

提出部数　※ 2 部　・（　）部

保全に関する説明書　※建物概要及び内部仕上げ表　※施工者一覧表
※取り扱い説明書、メンテナンスについての注意事項　(1.7.3)

㉒．設計ＧＬ

※図示による　・現状地盤の平均高さとし、監督員の指示による

㉓．過積載の防止

ダンプトラック等による工事用資機材等の過積載を行わないこと。さし枠の装置又は物品積載装置の不正改造をしたダンプトラックは工事現場内に出入りさせないこと。

㉔．解体等工事の範囲

解体等工事にかかる範囲は以下のとおり。

⊙建築物　⊙地上部 ⊙地下部 ・杭 ・（　　　）

・付属構造物　・浄化槽 ・貯油槽 ・杭 ・（　　　）

⊙電気設備　⊙建物内配管配線 ・電気設備機器 ・（　　　）
・建物への引込線 ・敷地への引込線（廃止） ・（　　　）

⊙給排水設備　⊙建物内配管配線 ・衛生設備機器 ・（　　　）
⊙建物への引込管 ・敷地への引込管（玉下ろし） ・（　　　）

・空調設備　・建物内配管 ・空調設備機器 ・建物内風道 ・（　　　）

・ガス設備　・建物内配管 ・ガス設備機器 ・（　　　）
・建物への引込管 ・敷地への引込管（廃止） ・（　　　）

・屋外付帯　・門、門塀 ・塀、フェンス ・舗装（　　　）
・植栽（　　　） ・（　　　）

⊙有害廃棄物の処理　・廃PCB ・特定フロンガス ・廃石綿等 ・（　　　）

・什器、備品類等の撤去

⊙各種残留物等の撤去は下表による。　※を標準とする。

区　分	建物管理者	工事受注者
アスベスト含有建材		※
オイルタンク内のオイル	※	
ピット（浄化槽、便槽）汚泥	※	
使用されていた酸、アルカリ、薬品等	※	
医療系特別管理産業廃棄物、放射性廃棄物	※	
フロン、ハロン使用機器		※
ＰＣＢ使用機器		※

㉕．敷地に関する調査

・敷地内障害物の調査　⊙敷地内配管、配線の調査　・地下水位の調査

㉖．原形復旧

工事中、取合部その他本工事範囲外の部分に汚損が生じた場合は原形に復する。

㉗．設備工事との取合い

※施工区分表による

・施工範囲は下記による

※図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強

※図示した壁、天井の仕上げ材、下地材の切込み及び下地材の補強

※駆動装置が電動による建具類の２次配線及び操作スイッチ

※自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強

・（　　　　）

28．風速及び地表面粗度区分

風速　（・ 32 m/秒　・ 34 m/秒　）

地表面粗度区分（・Ⅰ　・Ⅱ　・Ⅲ　・Ⅳ　）　（各章共通）

㉙．接着剤

ホルムアルデヒド放散等級（※Ｆ☆☆☆☆　・Ｆ☆☆☆　・Ｆ☆☆　）　（各章共通）

㉚．総合図での調整

各工事の着工に先立ち、各施工図の基準となる総合図を作成し、監督員の承諾を受ける。総合図は施工図作成に先立ち、建築・設備・その他別途発注工事業者の情報などをすべて盛り込んだ図面とし、それらの接点の細部調整を行う。

総合図の調整は、建築工事の受注者が行い、設備工事・その他の受注者がそれに協力する。

㉛．参考図の取り扱い（ﾒｰｶｰ仕様の図面）

参考図の製品等の使用にあたっては、参考図以外の形状等に多少相違がある製品等でも同等品以上であれば使用できる。

㉜．竣工後の調査

竣工後(※２　・１)年以内に当該工事範囲に関する経年変化の状況を調査し、報告すること。

② 仮設工事

①．監督員事務所

※設ける　（ 10 ）㎡程度　・設けない　(2.3.1)

監督員事務所に設ける設備、備品については監督員と協議する。

② 工事用水

構内既存の施設　⊙利用できる（※有償　・無償）　※利用できない

③ 工事用電力

構内既存の施設　⊙利用できる（※有償　・無償）　※利用できない

④ 総合仮設計画書

※要する　・要しない

⑤ 危険防止

仮囲い等　・設けない　※設ける

設置方法　⊙鋼製仮囲い（H＝2.0ｍ）
・シート張り　・ロープ張り
・（　　　）

ゲート　・シート　（W＝　ｍ）　・パネル（W＝　ｍ）
⊙ハンガー（W＝5.0ｍ）

垂直防護施設　・メッシュシート（・防炎Ⅰ類 ・防炎Ⅱ類）･防音シート（防炎Ⅰ類同等）
・（　　　）
・枠付き金網　・アルミ防音パネル

水平防護施設　・防護棚（朝顔）　・ダブルネット　・（　　　）

防護施設等取付足場

手すり先行足場について
足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省 基発1226第2号令和5年12月26日）」の「手すり先行工法等に関するガイドライン」によるものとし、足場の組立て、解体、変更の作業時及び使用時には、両面に常時、手すり、中桟及び幅木の機能を有するものを設置しなければならない。 なお、設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等の作業に関する基準」の２の（１）手すり据置方式又は（２）手すり先行専用足場方式により行うこと。

⊙枠組足場　・くさび緊結式足場　・単管足場　・（　　　）

6．構台

養生構台　・設置する（図示による）　・設置しない

乗入れ構台　・設置する（幅員　ｍ、長さ　ｍ）　・設置しない

⑦．工事表示板等

監督員の指示による。

⑧．工事車両の出入口

工事用車両の出入口では、一般通行人及び一般車両の安全確保に努めること。

交通誘導員　※配置する（ 1 名以上）　・配置しない

③ 土工事

①．埋戻し及び盛土

種別　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　(3.2.3)

②．建設発生土の処理

・構内指示の場所に堆積　・構内指示の場所に敷き均し　(3.2.5)

採石法の適用に関する協議について
敷地内において真砂土を採取した場合でも、面積、量及び現地の状況などにより、採石法（昭和２５年法律第２９１号）の適用を受ける場合があるため、十分注意すること。

備考

④ 地業工事

①．既製ｺﾝｸﾘｰﾄ杭及び鋼杭地業

(4.3.3)(4.4.3)

杭の種類	規格、材質など	長さ(m)	断面寸法	継手及び継手形状	先端部形状
・高強度ﾌﾟﾚｽﾄﾚｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ杭	JIS規格品又は建築基準法に基づく杭 ※A種　・B種　・C種			※なし ・あり ※溶接式 ・（　　）	※閉そく平たん形 ・開放形 ・閉そく形 ・（　　）
・拡径断面を有する遠心力高強度ﾌﾟﾚｽﾄﾚｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ杭	JIS規格品又は建築基準法に基づく杭 ※A種　・B種　・C種			※なし ・あり ※溶接式 ・（　　）	※閉そく平たん形 ・開放形 ・閉そく形 ・（　　）

鋼杭の材料　※図示による

杭の施工法

・特定埋込み杭工法　(4.3.5)

・旧38条認定工法（国土交通省住宅局建築指導課事務連絡（H14.1.11））

・建築基準法施行規則第１条の３第１項の規定に基づく認定工法

・指定性能評価機関による技術評定を取得した工法（評定の適用範囲とみなせる場合）

・（　　　　）

・セメントミルク工法　(4.3.4)

アースオーガーの支持地盤への掘削深さ　※ 1.5m　・（　　m）

2．場所打ちコンクリート杭地業

鉄筋の種別　※異形鉄筋　(4.5.4)

帯筋　※図示による

鉄筋の最小かぶり厚さ　※１００mm　・（　　）

鉄筋かごの補強　※図示による

コンクリートの種別　・Ａ種　・Ｂ種　(表4.5.1)

セメント　※高炉セメントＢ種　・（　　）

掘削工法　(4.5.5)

・アースドリル工法　・リバース工法　・オールケーシング工法

孔壁測定装置　・使用する（※超音波　・（　　））　・使用しない

支持層への根入れ深さ及び水平方向への位置ずれの精度　※図示による

3．試験杭

杭の本数　※図示による　・最初の１本

杭の位置　※図示による　・（　　）　(4.2.2)

杭の種類　※本杭と同じ　・（　　）

杭の寸法　長さ（ｍ）　※本杭と同じ　・（　　）

断面寸法　※本杭と同じ　・（　　）

長期設計支持力　（　　kN／本）

4．試験堀

試験堀の位置　※図示による　・（　　）

試験堀の本数　※図示による　・（　　）

試験堀の径　※本杭と同じ　・（　　）

⑤．砂利地業

材料　※再生クラッシャラン　・切込砂利　・切込砕石　・（　）　(4.6.2)(4.6.3)

厚さ　※６０　・（　　）

⑥．捨てｺﾝｸﾘｰﾄ地業

厚さ　※５０　・（　　）　(4.6.4)

7．床下防湿層

※ポリエチレンフィルム　厚さ　※０．１５　・（　　）　(4.6.5)

8．施工試験

・杭の載荷試験　(4.2.3)

・鉛直載荷　・載荷

・地盤の載荷試験　(4.2.4)

・平板載荷試験　・（　　）

9．六価クロム溶出試験（及びタンクリーチング試験）

※行わない　・行う

下記に示す工種について、六価クロム溶出試験（及びタンクリーチング試験）を実施し、試験結果（計量証明書）を提出するものとする。

六価クロム溶出試験対象工種名及び検体数：

地盤改良工　固結工法　：　配合設計段階　検体、施工後段階　検体
表層安定処理工法　：　配合設計段階　検体、施工後段階　検体
路床安定処理工法　：　配合設計段階　検体、施工後段階　検体
合計　検体

タンクリーチング試験対象工種名及び検体数：

地盤改良工　固結工法　：　検体
表層安定処理工法　：　検体
路床安定処理工法　：　検体
合計　検体

⑤ 鉄筋工事

①．鉄筋の種類

材質　※JIS G 3112　・建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けたもの　(5.2.1)

種　類	⊙SD295A	⊙SD345	・SD390		
径	D16以下	D19以上			

②．鉄筋の継手

(5.3.4)

接合方法	部　位	径	備　考
⊙ガス圧接・重ね継手・溶接継手・機械式継手 ・（　　）	柱・梁の主筋	※Ｄ１９以上 ⊙（ D22以上 ）	
※重ね継手 ・（　　）	その他	※Ｄ１６以下 ⊙（ D19以下 ）	

③．帯筋

・（　　　　）　(別途配筋標準図)

④．壁開口部補強の種別

一般壁　・Ａ形　※Ｂ形　(別途配筋標準図)

耐震壁　・Ａ形　※Ｂ形　・（　　）

5．土間スラブ打継ぎ補強

※入れる　・入れない　(別途配筋標準図)

補強箇所　※Ｓ形配筋のスラブ

6．土間コンクリート補強

※入れる　・入れない　(別途配筋標準図)

補強箇所　・土間コンクリート　・犬走り　・（　　）

7．はり貫通孔

補強形式　※Ｈ形　・ＭＨ形　・Ｍ形　・（　　）　(別途配筋標準図)

スリーブの材料　(表6.8.1)

・鋼管（JIS G 3452（白管））　・硬質ポリ塩化ビニル管（JIS K 6741（VU））

・溶融亜鉛めっき鋼板　・つば付き鋼管（JIS G 3452（黒管））

・紙チューブ（φ200mm以下かつ開口補強不要な箇所）

⑧．溶接金網

※JIS G 3551規格品　(5.2.2)

形状（　　）　寸法（　　）　径（　　）

⑨．圧接完了後の試験

※外観試験　(5.4.10)

※抜取り試験（※超音波探傷試験　・引張試験）

備考

HA ARCHITECT OFFICE　1級建築士事務所　浜地設計 株式会社

〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎

工事名称	縮尺	図面No.
阿志岐小学校昇降機設備設置工事	A-1　-	Ａ－０２
図面名称		日付
建築工事特記仕様書（１）	A-3　-	2026.2

⑥ コンクリート工事

①．ｺﾝｸﾘｰﾄの強度　(6.2.2)

設計基準強度（Fc）　N/mm²	類別	18	21	24		30	
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	部位		基礎 その他				
軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ　・１種・２種	部位						

②．ｺﾝｸﾘｰﾄの種類　※Ⅰ類　・Ⅱ類　(6.2.1)

③．ｺﾝｸﾘｰﾄの材料　(6.3.1)
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのＡ種
・高炉セメントＢ種（※場所打ちコンクリート杭　・　　）
・（　　）

④．スランプ　(6.2.4)

打込み箇所	基礎、基礎梁、土間スラブ	柱、梁、スラブ、壁	（　　）
所要スランプ	⊙15　・18	※18	・（　　）

⑤．普通ｺﾝｸﾘｰﾄの調合　(6.3.2)
※単位水量の上限値　185 kg/m³
※単位セメント量の下限値　270 kg/m³
※水セメント比の上限値　65 %　（高炉セメントＢ種　60%）
※所要空気量の目標値　4.5 %
※塩化物の含有量　0.30 kg/m³　以下
構造体強度補正値（Ｓ）　※監督員の承認を受けること。　(表6.3.2)

⑥．無筋コンクリート　設計基準強度　※18N/mm²　・（　　）N/mm²　(6.14.1)
適用箇所は「標仕」6.14.1 (4) による

スランプ	適用箇所
15	
18	

⑦．打放し仕上げの種別　※合板せき板を用いる場合　(6.2.5)(表6.2.4)(6.8.3)

種別	適用箇所
・Ａ　種	
⊙Ｂ　種	
・Ｃ　種	

・（　　）

⑧．ｺﾝｸﾘｰﾄの仕上りの平たんさ　(表6.2.5)

種別	適用箇所 柱・梁・壁	適用箇所 床
a　種	・化粧打放しｺﾝｸﾘｰﾄ　・塗装仕上げ ・壁紙張り　・ｾﾗﾐｯｸﾀｲﾙ張り（接着剤） ・（　　）	・合成樹脂塗床　・ﾋﾞﾆﾙ系床材張り ・床ｺﾝｸﾘｰﾄ直均し仕上げ　・ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ ・（　　）
b　種	・仕上塗材塗り ・（　　）	・ｶｰﾍﾟｯﾄ張り　・防水下地 ・ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ材塗り ・（　　）
c　種	・ｾﾗﾐｯｸﾀｲﾙ張り（ｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ） ・ﾓﾙﾀﾙ塗り ・鋼鏝下地 ・（　　）	・ﾀｲﾙ張り　・ﾓﾙﾀﾙ塗り ・二重床 ・（　　）

⑨．基礎及び地中梁型枠　⊙普通型枠　・ラス型枠

⑦ 鉄骨工事

①．鉄骨製作工場　※監督員の承諾する工場　(7.1.3)
・Sｸﾞﾚｰﾄﾞ　・Hｸﾞﾚｰﾄﾞ　・Mｸﾞﾚｰﾄﾞ　・Rｸﾞﾚｰﾄﾞ　・Jｸﾞﾚｰﾄﾞ
加工能力等条件（　　）

②．施工管理技術者　※適用する　・適用しない　(7.1.4)

③．鋼材の種類　材質　※ＪＩＳ等の規格品　(7.2.1)
・建築基準法に基づき指定又は認定を受けた構造用鋼材及び鋳鋼
種類　・ＳＳ４００
・（　　）　・（　　）　・（　　）

④．高力ボルト　※トルシア形高力ボルト　認定品セットの種類　※2種(S10T)　(7.2.2)
・ＪＩＳ形高力ボルト　JIS Ｂ 1186　セットの種類　※２種（F10T）
・溶融亜鉛メッキ高力ボルト　認定品　セットの種類　※１種（F8T相当）
・その他の認定高力ボルト　（　　）

⑤．アンカーボルト　材質　・構造用アンカーボルト　※JIS B 1220のABR400　・（　　）　(7.2.4)
材質　・建方用アンカーボルト　※JIS G 3101のSS400　・（　　）　(7.10.3)

⑥．ターンバックル　胴の種類 ※割枠式・（　　）　ボルトの種類 ※羽子板ボルト・（　　）　(7.2.6)

⑦．柱底均しモルタル　種別　※Ａ種　・Ｂ種　(7.10.3)(表7.10.2)

⑧．エンドタブ　切断箇所及び切断範囲　※図示による　(7.6.7)

⑨．溶接部の試験　※外観試験　(7.6.12)
試験箇所　※全数試験　・図示による　・（　　）
（参考）「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」
独立行政法人　建築研究所　監修
※超音波探傷試験（完全溶け込み溶接）
・工場溶接　AOQL　※4.0%　・2.5%
検査水準　※第６水準　・（　　）
・現場溶接　※全数試験

⑩．塗料の種別　SRC造の溶接された鋼製スリーブの内面　(7.8.4)
※表18.3.1 鉄鋼面錆止め塗料の種別　Ａ種
・（　　）
耐火被覆材の接着面
・（　　）

⑪．耐火被覆材の種別及び性能　・ラス張りモルタル塗り　⊙耐火材吹付け　・耐火板張り　・耐火材巻付け　・耐火塗料
※所用性能は図面図示による　・（　　）　(7.9.2)

⑫．ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ等の設置　建方用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの保持及び埋込み工法　(7.10.3)(表7.10.1)
種別　・Ａ種　※Ｂ種

⑧ コンクリートブロック、ALCパネル及び押出成形セメント板工事

1．補強コンクリートブロック積み　種類　※JIS A 5406 の空洞ブロック16　・（　　）　(8.2.2)
厚さ　・（　　）
鉄筋　SD295

2．コンクリートブロック帳壁及び塀　種類　※「標仕」表8.3.1による　・（　　）　(8.3.2)
厚さ　・（　　）

③．ＡＬＣパネル　種類　※JIS A 5416　(8.4.2)(表8.4.2)(表8.4.3)(表8.4.4)

種類	単位荷重（N/m²）	厚さ（mm）	取付け工法（種別）
⊙外壁パネル	・（　　）	※100　⊙125	⊙A　・B
⊙間仕切パネル	・（　　）		・C　・D　⊙E
・屋根パネル	・（　　）		※「標仕」8.4.4による
・床パネル	・（　　）	・100　・150	

床パネルの耐火性能　・要　・不要
耐火目地材　※図示による　・（　　）

4．押出成形ｾﾒﾝﾄ板工事　※厚物（厚さ５０mm以上）　(8.5.2)(表8.5.1)(表8.5.2)
種類　※ＪＩＳ　Ａ　５４４１

施工箇所	表面形状	厚さ(mm)	工法	耐火性能
・外　壁	※フラットパネル	・50 ⊙60 ・（　）	⊙A種 ・B種	※有り （　　） ・無し
	・デザインパネル(図示)	・50 ・60 ・（　）		
	・タイルベースパネル	・60 ・（　）		
・間仕切り	※フラットパネル	・50 ・60 ・（　）	・B種 ・C種	※有り （　　） ・無し
	・デザインパネル(図示)	・50 ・60 ・（　）		
	・タイルベースパネル	・60 ・（　）		

・外壁のパネル幅及びパネル相互の目地幅　※図示による　(8.5.3)
・製造所（　　）同等以上　・評価名簿による

・薄物（厚さ５０mm未満）
種類　※ＪＩＳ　Ａ　５４４１

施工箇所	表面形状	厚さ(mm)	耐火性能
	※フラットパネル	・（　　）	※無し
	・デザインパネル(図示)		・有り（　　）

・製造所（　　）同等以上　・評価名簿による

⑨ 防水工事

1．アスファルト防水　(表9.2.3～表9.2.9)

施工箇所	種別	防水層の押さえ	備考

アスファルトの種類　※３種　・（　　）　(9.2.2)
屋根保護防水断熱工法の断熱材及び厚さ
※JIS A 9521　押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡのスキン層付き
厚さ　※25　・（　　）
防水立上がり部の保護材　(9.2.5)
・乾式保護材　※押出成形セメント板 厚さ（　mm）　・（　　）
・防水層保護れんが　※JIS R 1250（普通れんが）　・（　　）

2．改質アスファルトシート防水　(表9.3.1～表9.3.3)

施工箇所	種別	厚さ	備考
ELV棟　屋根	AS-T2		

・仕上げ塗料の種類　※製造メーカー標準仕様による　・（　　）
・仕上げ塗料の使用量　・（　　）

3．合成高分子系ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄ防水　(表9.4.1)（表9.4.2)

施工箇所	種別	厚さ	仕上げ塗料塗り(露出の場合)
	・S-F1　・S1-F1	※1.2 ・（　）	※カラー　・シルバー
	・S-F2　・S1-F2	※2.0 ・（　）	
	・S-M1　・S1-M1	※1.5 ・（　）	※カラー　・シルバー
	・S-M2　・S1-M2	※1.5 ・（　）	

・仕上げ塗料の種類　※製造メーカー標準仕様による　・（　　）
・仕上げ塗料の使用量　・（　　）
・S-C1工法のモルタル塗り厚　※20mm　・（　　）

4．塗膜防水　(表9.5.1)(表9.5.2)

施工箇所	種別	備考
	・Ｘ－１　・Ｘ－２	仕上げ塗料塗り　※カラー　・シルバー
	・Ｙ－１　・Ｙ－２	種別Y-2における保護層　※適用する　・適用しない

種別X-1における脱気装置　※図面図示による　・種類（　　）・設置数量（　　）

5．ケイ酸質系塗布防水　防水の種類　・Ｃ－ＵＩ　・Ｃ－ＵＰ　施工箇所（　　）　(9.6.2・3)　(表9.6.2)

6．シーリング用材料　「標仕」表9.7.1による。　(9.7.5)
接着性試験　※簡易接着性試験
・引張接着性試験（部位　　）

⑦．施工　次表のとおりとする。

(1) 延べ面積が５００㎡以上の建築物 (2) 特殊な用途等に係る建築物で、高度な防水技術を要するものと監督員が承諾する場合	防水施工業者は建設業法第３条の許可（防水工事業）を受けている者で、（一社）福岡県防水工事業協会会員又は、これと同等以上の施工責任が認められる者から選ぶこと。
(3) (1)、(2) 以外の場合	防水施工業者は建設業法第３条の許可（防水工事業）を受けている者から選ぶこと。

⑧．保証年限　防水保証年限は、引渡しの日から次表のとおりとする。
保証については防水工事業者が（一社）福岡県防水工事業協会会員の場合は、受注者、防水工事業者、（一社）福岡県防水工事業協会の連名保証とする。
その他の場合は、受注者、防水工事業者、製造メーカーの連名保証とする。

保証年限（年）	防水の種類
１０	アスファルト防水 (A-1,2,3、A1-1,2,3、B-1,2,3、B1-1,2,3、D-1,2,3,4、D1-1,2) 改質アスファルト防水 (AS-T1,2,3,4、AS-J1、AS1-T1、AS1-J1) 合成高分子系ルーフィングシート防水 (S-F1,2：ｼｰﾄ(ｱ)1.5mm及び2.0mm、S-M1,2、S1-F1,2、S1-M1,2)、塗膜防水 (X-1,2)
7	合成高分子系ルーフィングシート防水 (S-F1：ｼｰﾄ(ｱ)1.2mm)

9．その他の防水

施工箇所	種別・工法	保証年限（年）	備考

10 石工事

1．材料　(10.2.1)(10.7.2)(10.7.3)(表10.2.1)(表10.2.2)
壁及びその他(床を除く)の石材　※1等品　・（　　）

施工箇所	種類・産地・名称	厚さ(mm)	仕上げの種類	備考

・テラゾブロック及びテラゾタイル
種石の種類　※大理石　・（　　）
種石の大きさ　※1.5～12mm　・（　　）
表面仕上げ　※本磨き　・（　　）

2．取付金物　・外壁湿式工法及び内壁空積工法用金物　(10.2.2)
材質　※SUS304　・（　　）
寸法　※L-75x75x6　長さ=100又は150mm　・（　　）
・乾式工法用金物　材質　※SUS304　(表10.2.4)
・スライド方式　・ロッキング方式　・（　　）
・その他金物の材質、形状及び寸法
・（　　）・（　　）・（　　）

3．外壁湿式工法　石材の厚さ　※有効厚さ 25mm以上　・（　　）　(10.3.2)
石裏面処理　・行う　・行わない　裏打ち処理　・行う　・行わない
下地ごしらえ　※流し筋工法　・（　　）　(10.3.3)
目地幅　※6mm以上　・（　　）

4．内壁空積工法　石材の厚さ　※有効厚さ 20mm以上　・（　　）　(10.4.2)
石裏面処理　・行う　・行わない　裏打ち処理　・行う　・行わない
下地ごしらえ　※あと施工ｱﾝｶｰ・横筋流し工法　・あと施工ｱﾝｶｰ工法　(10.4.3)
目地幅　※6mm以上　・（　　）

5．乾式工法　石材の厚さ　外壁　※有効厚さ 30mm以上　・（　　）　(10.5.2)
内壁　※有効厚さ 25mm以上　・（　　）
石裏面処理　・行う　・行わない　裏打ち処理　・行う　・行わない
目地幅　※8mm以上　・（　　）　(10.5.3)

6．床及び階段の石張り　石の品質　※2等品　・（　　）　(10.6.2)(10.6.3)(表10.2.1)(表10.2.2)

施工箇所	種類・産地・名称	厚さ(mm)	仕上げの種類	備考
			※粗磨き・（　）	
			※粗磨き・（　）	

石裏面処理　・行う　・行わない
目地幅　屋内　・（　　mm）　屋外　・（　　mm）

7．特殊部位の石張り　石裏面処理　・行う　・行わない
目地幅　屋内　・（　　mm）　屋外　・（　　mm）
笠木、甲板等の乾式工法の場合は行う。　(10.7.2)

8．製造所及び施工業者　・監督員の承諾による　・（　　）同等以上

11 タイル工事

1．材料　タイルの試験張り　※行わない　・行う　(11.1.4)(11.2.2)
タイルの見本焼き　※行わない　・行う

2．セラミックタイル張り　(11.2.2～3.6)(表11.2.1)

施工箇所	形状・寸法	きじの質 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 無ゆう	施ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	素本焼き	備考

下地及びタイルごしらえ
・MCR工法　・目荒らし工法　・（　　）　(11.2.6)(11.3.5)
壁タイル張りの工法
・モルタル張り
張付け用材料　※既調合モルタル　・（　　）　(11.2.3)
工法　※「標仕」表11.2.3による　・（　　）
・接着剤張り
張付け用材料　・有機系接着剤（内装用）　・有機系接着剤（外装用）
・（　　）　(11.3.2)
工法　※「標仕」表11.3.2による　・（　　）

3．施工後の確認及び試験　※打診による確認　(11.1.7)
※接着力試験

12 木工事

1．木材　ホルムアルデヒド放散量　※Ｆ☆☆☆☆等級のもの　・（　　）　(12.2.1)
木材含水率　※Ａ種　・Ｂ種　造作材の品質　※Ａ種　・Ｂ種
間伐製材の適用　※図示による　・（　　）

2．製材　※図示による　(12.2.1)

3．造作用集成材　※図示による　(12.2.1)

4．造作用単板積層材　※図示による　(12.2.1)

5．直交集成板　※図示による　(12.2.1)

6．合板等　※図示による　(12.2.1)

7．接着剤　接着剤は、接着する材料に適したものとする。　(12.2.2)
ホルムアルデヒド放散量　※Ｆ☆☆☆☆等級のもの　・（　　）

8．防腐、防蟻処理　・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理　(12.3.1)

施工箇所	保存処理性能区分
	・K2　・K3　・K4

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

施工箇所	処理の方法
	※標準仕様書12.3.1(イ)(b)①～④による

防蟻処理　保証期間５年、専門業者の責任施工とし、報告書を提出すること。

13 屋根及びといい工事

1．長尺金属板葺　(13.2.2)（表13.2.1)

屋根葺形式	長尺金属板の種類	板厚(mm)	備考
	※JIS G 3322塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛メッキ鋼板及び鋼帯	・0.4mm以上	

施工業者　※監督員の承諾による　・（　　）同等以上

2．折板葺　(13.3.2)（表13.2.1)

材種	形式による区分	山高及びピッチ	板厚(mm)	耐力による区分
・塗装溶融亜鉛めっき鋼板	※重ね形又ははぜ締め形	山　高（　） ピッチ（　）		（　　）種

軒先面戸板　※有り　・無し
施工業者　※監督員の承諾による　・（　　）同等以上

3．粘土瓦葺　(13.4.2)

種類	大きさ・産地等	金物	備考

棟の工法
・7寸丸伏せ棟　・のし積み棟　・（　　）　(13.4.3)

4．とい　(13.5.2)(表13.5.1)

材種	径	施工箇所	備考
・配管用鋼管			
・ステンレス鋼管			SUS304　厚（　）
⊙硬質塩化ビニル管（ＶＰ）	Φ75	ELV棟	
・硬質塩化ビニル管（ＲＦ－ＶＰ）			

防露　※「標仕」表13.5.3により行う　(13.5.2)
・次の箇所には行わない（　　）
とい受金物　※ステンレス製　・鋼製（亜鉛めっき）　(表13.5.2)

備考

⑭ 金属工事

1．ステンレスの表面仕上げ　建築工事監理指針 (14.2.3)(表14.2.6)

種類	施工箇所	備考
※ＨＬ程度	・下記以外の見え掛かり全て	
・No.２Ｂ程度		
・鏡面仕上げ		

2．アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理　(14.2.1)(表14.2.1)

種類	施工箇所	備考
・ＢＢ－１種		無着色
・ＢＢ－２種		・ﾌﾞﾗｳﾝ系　・ﾌﾞﾗｯｸ　・ｽﾃﾝｶﾗｰ

3．鉄鋼の亜鉛めっき　(14.2.2)(表14.2.2)

施工箇所	亜鉛めっきの種別	備考
	溶融・Ａ種・Ｂ種・Ｃ種	JIS H 8641
	電気・Ｄ種・Ｅ種・Ｆ種	JIS H 8610

④．軽量鉄骨天井下地　野縁等の種類　(14.4.2)(表14.4.1)
屋内　※１９形　・２５形　・（　　）
屋外　・１９形　※２５形　・（　　）

⑤．軽量鉄骨壁下地　屋外における野縁等の間隔　（　　）　(14.4.3)
スタッド、ランナの種類　(14.5.3)(表14.5.1)
※「標仕」表14.5.1による　⊙図示による

6．金属成形板張り　(14.6.2)(表14.2.1)

材種	製法	材種	寸法(mm)	厚(mm)	表面処理
・ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ系	・押出し ・ロール	※ｱﾙﾐﾆｳﾑ ・（　）			・BB-1種 ・BB-2種（　　）
・ﾊﾟﾈﾙ系	※ﾌﾟﾚｽ				

伸縮調整継手　・設ける　・設けない

7．アルミニウム製笠木　部材の種類　・250形　・300形　・350形　・（　　）　(表14.7.1)
表面処理　※ＢＢ－１種又はＢＢ－２種　・（　　）　(14.7.2)(表14.2.1)
雷保護システム JIS Z 9290-3-2019　※無　・有

⑮ 左官工事

1．防火材料など　屋内の壁及び天井の仕上げ材は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けた防火材料とする。

2．モルタル塗り仕上げ　材料　・既調合モルタル　・現場調合モルタル　(15.3.2)

③．仕上塗材仕上げ　(15.6.2)(表15.6.1)(15.6.6)

種類	呼び名	仕上げの形状	工法	備考
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Ｓｉ ・可とう形外装薄塗材Ｓｉ ・外装薄塗材Ｅ ・可とう形外装薄塗材Ｅ ・防水形外装薄塗材Ｅ ・外装材薄塗材Ｓ ・内装薄塗材Ｃ ・内装薄塗材Ｌ ・内装薄塗材Ｓｉ ・内装薄塗材Ｅ ・内装薄塗材Ｗ	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状 ・着色骨材砂壁状 ・砂壁状じゅらく ・京壁状じゅらく	・吹付け ・ﾛｰﾗｰ塗り ・こて塗り	
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材Ｃ ・外装厚塗材Ｓｉ ・外装厚塗材Ｅ ・内装厚塗材Ｃ ・内装厚塗材Ｌ ・内装厚塗材Ｇ ・内装厚塗材Ｓｉ ・内装厚塗材Ｅ	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・ひき起こし ・かき落とし ・凹凸状	・吹付け ・ﾛｰﾗｰ塗り ・こて塗り	上塗材 ・外装厚塗材Ｃ ※セメントスタッコ ・ｾﾒﾝﾄｽﾀｯｺ以外の塗材の場合 （　　） ・外装厚塗材Ｓｉ,Ｅ ・適用　・適用しない
⊙複層仕上塗材	・複層塗材ＣＥ ・可とう形複層塗材ＣＥ ・複層塗材Ｓｉ ⊙複層塗材Ｅ ・複層塗材ＲＥ ・防水形複層塗材ＣＥ ・防水形複層塗材Ｅ ・防水形複層塗材ＲＥ	・凸部処理 ⊙凹凸状 ・ゆず肌状	⊙吹付け ・ﾛｰﾗｰ塗り	上塗材 ※水系アクリルつやあり ・水系ポリウレタンつやあり ・（　　）
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材 ・こて塗用軽量塗材	・砂壁状 ・平たん状	・吹付け ・こて塗り	

※ホルムアルデヒドの放散量　Ｆ☆☆☆☆等級のもの・（　　）

4．ﾏｽﾁｯｸ塗材塗り　種別　・Ａ種　・Ｂ種　(15.7.2)

5．しっくい塗り等　・せっこうプラスター塗り　・ドロマイトプラスター　(15.8.1～15.11.8)
・しっくい塗り　・こまい壁塗り
※　下地、仕上げ等は図示による

6．ﾛｯｸｳｰﾙ吹付け　(15.12.2)(15.12.3)

種類	色彩	厚さ
・一般用　・（　　）	・着色　・原色	・10 ・15 ・20 ・（　）

※ホルムアルデヒドの放散量　Ｆ☆☆☆☆等級のもの・（　　）

改修工事特記仕様書

④ 外壁改修工事塗り仕上げ

1．施工調査数量　調査範囲　※図示　・（　　）　(1.6.2)
調査項目　※仕上げ塗材等の劣化部分、剥落部分等を壁面に表示する。
※既存塗膜と新規塗材との適合性を確認する。
調査方法　・図示　※目視及ぶ打診　・（　　）
調査報告書　※（　　）部を監督員に提出する。

2．調査のための破壊部分の補修　補修方法　・図示　・（　　）　(1.6.3)

③．既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整　既存塗膜劣化部の除去、下地処理の工法　(4.5.4)(表4.5.4～4.5.7)

工法	処理範囲	下地処理
※高圧水洗工法（３０MPａ程度以上）	※既存仕上げ面全体・図面図示	
・サンダー工法（１０MPａ程度以上）	※既存仕上げ面全体・図面図示	
・塗膜剥離剤工法	※既存仕上げ面全体・図面図示	
・集じん装置併用手工具ケレン工法 ・集じん装置付き超高圧水洗工法 ・集じん装置付きディスクグラインダーケレン工法	※既存仕上げ面全体・図面図示 ・（　　）	
・水洗い工法	※上記処理範囲以外の既存面全面 ・（　　）	

塗膜剥離剤　製造所（　　）
下地調整材
※下地調整塗材
・防水形仕上塗材主材を使用
・ポリマーセメントモルタル　製造所（　　）

備考

１級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　桑　大二郎

工事名称	縮尺	図面No.
阿志岐小学校昇降機設備設置工事	A－1　－	A－03
図面名称：建築工事特記仕様書（２）	A－3　－	日付 2026.2

16 建具工事

1．ｱﾙﾐﾆｳﾑ製建具

(16.2.2～4)(表16.2.1)(表16.2.2)

種　別	外部に面する建具	内部建具
※普通サッシ	・A種　・B種　・C種　・D種　・E種　・（　）	
・防音サッシ	性能（　）	
・断熱サッシ	性能（　）	
表面処理	※BB-1種　・BB-2種　・（　）	※BC-1種・BC-2種

※枠の見込み寸法　・図示による　・（　）
ステンレス鋼板　※SUS304

2．網戸

※外面納まりの可動式　・（　）　(16.2.3～4)
網の材種　※合成樹脂製　・ガラス繊維入り合成樹脂製　・ステンレス製

3．樹脂製建具

(16.3.2)(表16.3.1)(表16.3.2)

種　別	外部に面する建具	内部建具
※普通サッシ	・A種　・B種　・C種　・D種　・E種　・（　）	
・防音サッシ	性能（　）	
・断熱サッシ	性能（　）	

※枠の見込み寸法　・図示による　・（　）

4．鋼製建具

簡易気密型ドアセットの性能値　(16.4.2)
※適用する（※Ａ－３　・　）　・適用しない
亜鉛めっき鋼板のめっき付着量　※Ｚ１２又はＦ１２　・（　）　(16.4.3)
鋼板の厚さ　※「標仕」表16.4.2による　・建具表による　(16.4.4)

5．鋼製軽量建具

簡易気密型ドアセット　※適用する（※Ａ－３　・　）　・適用しない　(16.5.2)
ビニル被覆鋼板　・適用する　・適用しない　(16.5.3)
カラー鋼板　・適用する　・適用しない
召合わせ、縦小口包み板などの材質　※鋼板　・ステンレス鋼板　・（　）
鋼板の厚さ　※「標仕」表16.5.1による　・建具表による　(16.5.4)

6．ステンレス製建具

材質　※SUS304・（　）　表面仕上げ　※HL　・（　）　(16.6.2～5)
曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ

7．木製建具

建具材の加工、組立時の含水率　・A種　※B種　・C種　(表16.7.1)(16.7.2～4)
合板　※普通合板　・天然木化粧合板　・特殊加工化粧合板
ミディアムデンシティファイバーボード（ＭＤＦ）及びパーティクルボード
ホルムアルデヒドの放散量
※F☆☆☆☆等級のもの　・F☆☆☆等級のもの
かまち戸の樹種　かまち（　）　鏡板（　）
ふすまの上張り　・新鳥の子程度又はビニル紙程度　・鳥の子
フラッシュ戸の表面板の厚さ　※「標仕」表16.7.6による　・（　）
フラッシュ戸の工法　※「標仕」表16.7.8による　・（　）

8．建具用金物

見本品を監督員に提出して承諾を受ける。　(表16.8.1)(16.8.2～4)
マスターキー　※製作する（※新規　・既存に合わせる）　・製作しない
建具金物の種類　(表16.8.1)

種　類	品　質　・　規　格
シリンダー箱錠 本締り錠 ドアクローザ	評価名簿による。
ピボットヒンジ	
ヒンジクローザ フロアヒンジ	評価名簿による。

9．自動ドア開閉装置

駆動装置の性能値　(16.9.2～3)
引き戸用　※「標仕」表16.9.1による　・（　）
引き戸（多機能トイレ）用　※「標仕」表16.9.2による　・（　）
検出装置　※「標仕」表16.9.3による　・（　）
戸の開閉方式　※図示による　・（　）
検出装置の種類　・光線（反射）センサー　・熱線センサー　・音波センサー
・光電センサー　・電波センサー
・タッチスイッチ　・押しボタンスイッチ　・多機能トイレスイッチ
工事範囲　一次側配線は別途工事とし、開閉機構以降の二次側配線は本工事に含む。

10．重量シャッター

機能による種類　(16.11.2～4)
・管理用　・防火（・外壁用　・屋内用）　・防煙
シャッターケース（防火・防煙以外の場合）　・設ける　・設けない　(16.11.2)
開閉機能による種類　(表16.11.1)
※上部電動式（手動併用）　電源※　φ　V　kw 以下（過電流保護装置付）
・上部手動式
耐風圧強度　・（　）
屋内用防火、防煙シャッターの危害防止機構　※障害物感知装置・シャッター二段降下方式
落下防止装置　・二重チェーン　・急降下制動装置　・急降下停止装置
設置個所は図示による
工事範囲　一次側配線は別途工事とし、開閉機構以降の二次側配線は本工事に含む。

11．軽量シャッター

開閉機能による種類　(16.12.2～4)(表16.12.1)
※手動式
・上部電動式（手動併用）　電源※　φ　V　kw 以下（過電流保護装置付）
耐風圧強度　・（　）
スラットの形状　※インターロッキング形　・オーバーラッピング形
工事範囲　一次側配線は別途工事とし、開閉機構以降の二次側配線は本工事に含む。

12．ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱ

セクション材料　※スチールタイプ　・アルミニウムタイプ　(16.13.2)
・ファイバーグラスタイプ
開閉方式　※バランス式　・チェーン式　・電動式
収納方式　・スタンダード形　・ローヘッド形　・ハイリフト形
・バーチカル形
ガイドレール　※溶融亜鉛めっき鋼板(めっきの付着量Z27)　・ステンレス鋼板（SUS304）
耐風圧性能　・（　）　(16.13.3)

13．ガラス

建具に取り付けるガラス及びガラスブロックは図面図示（建具表）による。　(16.14.2)
ガラス留め材　(16.14.2(2))(16.14.3)

建具の種類	材　種	
アルミニウム製	※シーリング材（SR-1）	・グレイジングガスケット
鋼製、ステンレス製	※シーリング材（SR-1）	

ただし、防火戸は建築基準法に基づく個別認定品とする。

17 カーテンウォール工事

1．メタルカーテンウォール

(17.1.3)(17.2.2)

種　別	
主要構成材料	※アルミニウム製　・ステンレス製
気密性	・A-3　・A-4　・（　）
水密性	・W-4　・W-5　・（　）
枠の見込み寸法	※図示
表面処理	・A-1種　・B-1種　・（　）
耐震性（層間変位量）	※±1/200ｈ以上　・（　）
遮音性	・T-3　・T-4　・（　）
断熱性	・H-4　・H-5　・（　）
耐火性	・適用しない　・適用する（　）時間

耐風圧性能　※建築基準法で定められた風圧力に対して安全であること。
・正圧　kg／㎡以上及び負圧　kg／㎡以上に対して安全であること
シーリング材及びガラス留め材の種類　(17.2.2)
・金　属ーーーガラスの場合　（　）
・金　属ーーー石、タイルの場合（　）
・ガラスーーーガラスの場合　（　）
・上記以外のシーリング材の種類は「標仕」表9.7.1による
構造用ガスケット　※適用しない　・適用する（施工箇所：　）
断熱材　※適用しない　・適用する（種類：　厚さ：　施工箇所：図示）
熱線反射ガラスの映像調整　※行う　・行わない
カーテンウォールの方式
・方立方式
・バックマリオン方式　・単純２片支持構法　・ＳＳＧ構法）
・パネル方式
・スパンドレル方式
・小型パネル組み合わせ方式（・ノックダウン方式　・ユニット方式）

2．ＰＣカーテンウォｰﾙコンクリートの種類

コンクリートの種類及び品質　(17.1.3)(17.3.2)
※軽量コンクリートの１種　・（普通コンクリート　）
設計基準強度（Fc）　※３０N/mm²　・（　）
所要スランプ　※12　・（　）
鉄筋　※ＳＤ２９５Ａ　・（　）
補強鉄線　※図示による
目地用シーリング材　※（　）
断熱材　※適用しない　・適用する（種類：　厚さ：　施工箇所：図示）
先付け材料等　※図示による
表面仕上げ　※（　）
耐風圧性能　※建築基準法に定められた風圧力に対して安全であること。
・正圧　kg／㎡以上及び負圧　kg／㎡以上に対して安全であること
耐震性能（層間変位量）　※±１／２００ｈ以上　・（　）

18 塗装工事

①．材料

屋内の壁及び天井の塗装仕上げ材は、建築基準法に基づき防火材料の指定又は認定を受けたものとする。　(18.1.3)
塗料は、トルエン等の含有量が少ない規格品とする。
ホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・（　）

②．塗装業者

・(一社) 日本塗装工業会の会員　※監督員の承諾する塗装業者

③．素地ごしらえ

(表18.2.1)～(表18.2.7)

素地	種別	備考
⊙木部	※Ａ種(不透明塗料塗りの場合) ※Ｂ種(透明塗料塗りの場合)	
・鉄鋼面	・Ａ種　・Ｂ種　※Ｃ種	
・亜鉛めっき鋼面	・Ａ種　・Ｂ種	
・モルタル面、プラスター面	・Ａ種　※Ｂ種	
⊙コンクリート面、ＡＬＣパネル面	・Ａ種　※Ｂ種	
・押出成形セメント板面	・Ａ種　⊙Ｂ種	
⊙ボード面	※Ａ種　・Ｂ種	目地継ぎ目処理工法
	・Ａ種　※Ｂ種	

④．錆止め塗料塗り

塗料種別　(表18.3.1)～(表18.3.2)

塗装面	種別	備考
・鉄鋼面	※Ａ種(屋外) Ｂ種(屋内)・Ｃ種・Ｄ種 ※・Ｂ種(ＥＰ－Ｇの場合)	
・亜鉛めっき鋼面	※Ａ種　※Ｂ種（その他） ※Ｃ種(ＥＰ－Ｇの場合)	

錆止め塗料塗り　(表18.3.3)(表18.3.4)

塗装面	種別	備考
⊙鉄鋼面	※Ａ種(見え掛り部)　※Ｂ種(見え隠れ部)	
・亜鉛めっき鋼面	※Ａ種(鋼製建具等)　※Ｂ種(その他)	

5．合成樹脂調合ﾍﾟｲﾝﾄ塗り(SOP)

(表18.4.1)～(表18.4.3)

塗装面	種別		塗料の種類	備考
・木部	※Ａ種(屋外)	※Ｂ種(屋内)	※１種　・２種	
・鉄鋼面	・Ａ種	※Ｂ種	※１種　・２種	
・亜鉛めっき鋼面			※１種　・２種	

6．クリヤラッカー塗り（ＣＬ）

(表18.5.1)

塗装面	種別		備考
・木部(屋内)	・Ａ種	※Ｂ種	

7．アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（ＮＡＤ）

(表18.6.1)

塗装面	種別		備考
・コンクリート面（屋内）	・Ａ種	※Ｂ種	
	・Ａ種	※Ｂ種	

8．耐候性塗料塗り（ＤＰ）

(表18.7.1)～(表18.7.3)

塗装面	種別		塗料の種類	備考
・鉄鋼面（屋外）	・Ａ種	・Ｂ種	※上塗り１級　・（　）	
・亜鉛めっき鋼面	・Ａ種	・Ｂ種	※上塗り１級　・（　）	
・ｺﾝｸﾘｰﾄ面、押出成形ｾﾒﾝﾄ板	・Ａ種	・Ｂ種・Ｃ種	※上塗り１級　・（　）	

⑨．つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り（ＥＰ－Ｇ）

(表18.8.1)～(表18.8.4)

塗装面	種別		備考
⊙木部	※Ａ種	・Ｂ種	
・鉄鋼面	・Ａ種	※Ｂ種	
・亜鉛めっき鋼面	・Ａ種	・Ｂ種	
⊙コンクリート面	・Ａ種	※Ｂ種	
	・Ａ種	※Ｂ種	

10．合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り（ＥＰ）

(表18.9.1)

塗装面	種別		備考
・コンクリート面	・Ａ種	※Ｂ種	
・モルタル面	・Ａ種	※Ｂ種	

11．ウレタン樹脂ワニス塗り（ＵＣ）

(表18.10.1)

塗装面	種別		備考
・木部（屋内）	・Ａ種	※Ｂ種	
	・Ａ種	※Ｂ種	

12．ステイン塗り

(表18.11.1)

塗装面	種別		備考
・木部	・Ａ種	※Ｂ種	
	・Ａ種	※Ｂ種	

13．木材保護塗装塗り（ＷＰ）

(表18.12.1)

塗装面	種別		備考
・木部（屋外）	・Ａ種	※Ｂ種	
	・Ａ種	※Ｂ種	

19 内装工事

①．接着剤

壁紙、ビニル床タイル、ビニル床シート、幅木に使用する接着剤は、トルエン等の含有量が少ない規格品とする。壁紙用の接着剤は、フタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を使用している規格品とする。
ホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・（　）　(19.2.2)

②．ビニル床シート張り

(19.2.2)(19.2.3)

材　種	種　類	記号	色柄	厚さ	工　法	特殊機能	備　考
ビニル床シート	※発泡層のないもの ・発泡層のあるもの	※ＦＳ ・（　）	※無地 ・模様	※2.5 ⊙2.0 ・（　）	※熱溶接 ・突付け	・帯電防止 ・耐動荷重性 ・防滑性 ・耐薬品性	

3．ビニル床タイル張り

(19.2.2)(19.2.3)

材　種	種　類	形　状	厚　さ	色　柄
ビニル床タイル	※コンポジションビニル床タイル（半硬質） ・コンポジションビニル床タイル（硬質） ・ホモジニアスビニル床タイル	※300角 ・（　）	※2.0 ・3.0 ・（　）	図示による
	・帯電防止ビニル床タイル（置敷タイプ）	※500角	※2.0	
	・帯電防止ビニル床タイル（パネル一体タイプ）	・（　）	・（　）	

帯電防止ビニル床タイル（置敷タイプ）の接着剤は粘着剤離形とし、製造所の指定する製品とする。

④．ビニル幅木

材種　※軟質　・硬質　(19.2.2)
厚さ　※1.5　・（　）
高さ　※60　・75　⊙100　・（　）

5．カーペット敷き

織じゅうたん　(19.3.1～3)(表19.3.1)(表19.3.2)

種　別	織　り　方	パイルの形状	色　柄	備　考
・A種 ・B種 ※C種	・ウィルトン ・ダブルフェース ・アキスミンスター	※カットパイル ・ループパイル ・（　）	※無地 ・柄物	・防虫加工品 ・人体帯電圧 ※3kv以下・（　）

下敷き材　※反毛フェルト（JIS L 3204）第２種２号（厚８）

タフテッドカーペット　(19.3.1～3)(表19.3.1)(表19.3.2)

パイル形状	パイル長	工　法	備　考
・カットパイル	※5～7　・（　）	※全面接着工法	・人体帯電圧
・マルチレベルループ	※4～6　・（　）	・グリッパー工法	※3kv以下・（　）
・レベルループパイル	※4　・（　）		
・カット、ループ併用	・（　）		

タイルカーペット　(19.3.1～3)(表19.3.1)(表19.3.2)

種　別	パイルの形状	寸　法	総厚さ	色柄	電気抵抗
※一種	※ループパイル	※５００角	※6.5	・無地	※適用しない
・二種	・カットパイル	・（　）	・（　）	・柄物	・10⁷　Ω以下

6．合成樹脂塗床

(19.4.2)(19.4.3)(表19.4.1～8)

種　別	仕　上　げ　の　種　類
・弾性ウレタン塗床材	※平滑仕上げ　・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ
・エポキシ樹脂塗床材	※薄膜流しのべ仕上げ　・厚膜流しのべ仕上げ（※平滑　・防滑） ・樹脂モルタル仕上げ（※平滑　・防滑）　・薄膜型床塗仕上げ

ホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・（　）

7．フローリング張り

(19.5.2～19.5.6)(表19.5.1～表19.5.6)

類　別		樹　種	工法及び寸法		厚さ・大きさ(mm)	塗　装
複　合	※複合フローリング ・（　）	※なら ・（　）	※釘留め工法 ・接着工法	・A種　・B種　※C種	厚さ・15（　） 幅・75　・90・（　） 長さ・　以上	※塗装品 ・無塗装品
単　層	・（　）	・（　）	・（　）			

ホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・（　）

8．体育館用フローリング張り

樹　種　・（　）
接着剤　・エポキシ樹脂系　・ウレタン樹脂系
表面塗装　・ポリウレタン樹脂塗料３回塗り　・（　）
張り付け　・下張り板に接着剤で接着し、隠し釘と脳天釘で止める
下張り板　・１２mm以上（木製根太）　※１５mm以上（鋼製根太）
ホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・（　）
厚さ ※1.8　幅・

9．畳敷き

※別添1　畳工事特記仕様書による　(表19.6.1)

⑩．せっこうボードその他ボード及び合板張り

(19.7.2)

材　種	種　別	張　り　方	厚　さ	備　考
⊙せっこうボード		⊙下地張り ⊙上張り ・突付け ・目透し ・継目処理工法	⊙9.5 ⊙12.5 ・15	
・化粧せっこうボード	・トラバーチン模様	・直張り	※突付け	※9.5　寸法 ※450×910 ・910×910
	・木目模様 （裏桟付）	・直張り	※目透し	※9.5　専用軽鉄下地材付き
・けい酸カルシウム板		・目透し ・継目処理	※6　・8 ・10　・12 ・（　）	タイプ２（無石綿）
・木質セメント板	・硬質木毛ｾﾒﾝﾄ板 ・普通木毛ｾﾒﾝﾄ板	・打込み ・張付け ・敷込み	・20 ※25 ・30	
・繊維板 ・ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ				
・天然木化粧合板				・福岡県産材

ホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・（　）
遮音シール材　※アクリル系シーリング材　・ｳﾚﾀﾝ系シーリング　・ジョイントコンパウンド

(19.7.2)(19.7.3)

材　種	表　面　の　品　質	厚　さ	工　法
・普　通　合　板	生地のまままたは透明塗料塗りの場合 ※ラワン程度　・（　）	・5.5　・9　・12	※A種
	不透明塗料塗りの場合 ※しな程度　・（　）	・5.5　・9　・12	・B種
・天然木化粧合板	・（　）	・（　）	

壁又は天井に使用する合板は、建築基準法に基づき防火材料の指定又は認定を受けたもの。
ホルムアルデヒド放散量　※F☆☆☆☆　・（　）
パーティクルボード及びＭＤＦのホルムアルデヒド放散量　(19.7.2)
※Ｆ☆☆☆☆　・（　）

11．壁紙張り

壁紙はJIS A 6921により、建築基準法に基づく防火材料の指定または認定を受けたもの。
ホルムアルデヒドの放散量　※F☆☆☆☆　・（　）　(19.8.2)

施　工　箇　所	品　質	程　度	防火性能の級別
			・不燃　・準不燃　・（　）
			・不燃　・準不燃　・（　）
			・不燃　・準不燃　・（　）
			・不燃　・準不燃　・（　）

素地ごしらえの種別　(19.8.3)
モルタル及びプラスター面　・Ａ種　※Ｂ種
コンクリート面　・Ａ種　※Ｂ種
せっこうボード面　・Ａ種　※Ｂ種
施工業者　※内装専門業者とする　・（　）

12．断熱材

・打込み断熱材　(19.9.3)

材　種	種　類	厚　さ
※押出法ポリスチレンフォーム断熱材 （スキン層なし）	※2種b　・（　） ・3種b（接地部分）	※25　・（　）
・硬質ウレタンフォーム断熱材	・　・（　）	・（　）

ホルムアルデヒドの放散量　※F☆☆☆☆　・（　）
施工箇所
※現場発泡工法に示された施工箇所以外の箇所
・（　）
・現場発泡断熱材（吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材）　(19.9.4)
難熱性　※評価名簿による
厚さ　・２５　・（　）
施工箇所　※窓回り等の断熱補修部分　・（　）

13．吸音材

材　種	品　質・規　格	厚　さ
・ロックウール吸音材	ロックウール吸音ボード1号（60K）　RW-B	・25　・（　）
・ロックウール化粧吸音材	DR	※9　・（　）
・グラスウール吸音材	グラスウール吸音ボード2号32K　GW-B ガラスクロス（ＪＩＳ R3414）頑縫張	※25

ガラスクロス張りグラスウール吸音ボード（910×1820）の取付け工法
ポロプロピレン及びプラスチックファスナー留め　４本／㎡程度以上

20 ユニット及びその他工事

1．フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工箇所	構　法	寸法 (mm)	高さ (mm)	適用地震時 水平力	耐荷重性能	表面仕上材	備　考
	・支柱調整式 ・置敷式	・500×500		・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット	

帯電防止性能（U値）　・0.6以上　・1.2以上　・（　）
感電防止性能　（漏えい抵抗　R≧1×10⁶Ω）
構成材の材質　・アルミニウム　・鋼製　・（　）
品質　評価名簿による

2．可動間仕切（既製間仕切）

(20.2.3)

構　造　形　式	パネル部の総厚さ	表　面　材　種　厚　さ	仕　上　げ
※パネル式 ・スタッド式 ・スタッドパネル式	・（　）以上	※鋼板　・（　） ※0.6　・（　） ・（　）	※メラミン樹脂又はアクリル樹脂焼付け ・（　）

ホルムアルデヒドの放散量　※F☆☆☆☆
品質 JIS A 6512によるもの又は評価名簿によるもの

3．移動間仕切（ｽﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞﾄﾞｱ）

(20.2.4)

表面板	仕上げ	パネル厚	遮音性
・鋼板 ・（　）	・焼付け ・（　）	※６０　・８０　・１００ ・（　）	・一般タイプ ・遮音タイプ

品質　評価名簿による

4．トイレブース

仕　様　(20.2.5)
パネル　・メラミン樹脂系化粧板　・ポリエステル樹脂系化粧板　・（　）
ホルムアルデヒドの放散量　※F☆☆☆☆
部　材　・アルミ製　・ステンレス製　・（　）
附属金物　※ステンレス製　・（　）
足形状　※幅木型　・足金物型
形　式　・丁番吊　・中心吊

5．手すり

(20.2.6)

種　類	材料の種別	表　面　処　理
・手すり	※ステンレスＳＵＳ３０４	※ﾋﾚ程度　・鏡面仕上げ　・（　）
	・鉄	亜鉛めっき　外部　※Ｃ種 内部　※Ｅ種

6．・階段滑り止め

・金属製　材　種　※ステンレス製（SUS304）　・真鍮製　(20.2.7)
形　式　※ビニルタイヤまたは合成ゴムタイヤ入り　・タイヤなし
幅　※３５　・（　）
取付け　※接着工法　・（　）
・磁器製　幅　※６０　・（　）

・階段手すり

材　種	表面仕上げ	直径（mm）	取付箇所
※集成材	※クリヤラッカー	・60　・45	
・ステンレスパイプ	・ＨＬ		
・鋼製パイプ	・ＥＰ－Ｇ		
・ビニル製			

⑦．床目地棒床見切金物

※図示による
床仕上げの異なる箇所には目地棒を入れる。　(20.2.8)
※ステンレス製６×１２　・ステンレス製４×１２　・黄銅製４×１２
⊙ステンレス製　t=1.5　W=40

8．黒板及びホワイトボード

※別添2 福岡県黒板工事特記仕様書の項目を適用する　(20.2.9)
・図示による

9．鏡

縁　※なし　・あり（　）　(20.2.10)
ガラス厚　※５mm　・（　）

⑩．表示

※図示による　(20.2.11)
・下記による

種　類	材　種	寸　法	取付方法
・衝突防止表示	・ステンレス製市販品　・（　）		
・非常用進入口の表示	・市販品　・（　）		
・室名札	・ステンレス製　・（　）	・（　）　・面付　・持出し	
・ピクトグラフ	・ステンレス製　・（　）		
・案内板	・ステンレス製　・（　）		
・（　）	・（　）		
・（　）	・（　）		

11．タラップ

(20.2.12)

種　類	材料の種別	表　面　処　理
・タラップ	※ステンレスＳＵＳ３０４	※研磨無し
	・鉄	亜鉛めっき　内外部　※Ｃ種 ・（　）

備考

備考

１級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　桑　大二郎

工事名称	縮尺	図面No.
阿志岐小学校昇降機設備設置工事	A-1　-	A－04
図面名称：建築工事特記仕様書（３）	A-3　-	日付 2026.2

⑳ユニット及びその他工事

12．煙突ライニング
・煙突用成形ライニング材　(20.2.13)
適用安全使用温度　※６５０℃　・（　　）℃
・キャスタブル耐火材
製造所　※監督員の承諾する製造所　・（　　）同等以上

13．ブラインド　(20.2.14)

形　式	※横型ブラインド（JIS A4801）	・縦型ブラインド
スラットの材種	※アルミニウム合金	・アルミニウム合金・クロス
開閉方式	※ギヤ式　・コード式　・操作棒式	・１本操作コード ※2本操作コード
スラットの幅	※25　・35	・80　・100

14．ロールスクリーン　材種、品質等　（　　）　(20.2.15)

15．カーテン及びカーテンレール　(20.2.16)（表20.2.1）

施工箇所	きれ地名称品質	ひだの種類	形　式	開閉装置
			・片引き　・引分け	・有　※無
			・片引き　・引分け	・有　※無
			・片引き　・引分け	・有　※無
			・片引き　・引分け	・有　※無

※暗幕用カーテンの両端、上部及び召合せの重掛けは３００mm以上とする。
カーテンレール　(JIS A 4802)
材種　※ステンレス製　・アルミニウム製　・鋼製
形状　※Ｃ型　・角型

⑯．ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞﾎﾞｯｸｽ及びカーテンボックス
材種　※アルミニウム製（既製品）　・鋼製　⊙（木製　　）
色彩　※シルバー　・着色　・（　　）
形状　※溝幅９０×深さ１５０　・溝幅（　　）×深さ（　　）

17．コーナービード　材種　※ステンレス製　・（　　）

⑱．天井見切縁
材　種　※アルミニウム押出型材　・塩化ビニル製
施工箇所　※仕上表による　・（　　）

⑲．点検口

施工箇所	材　種	寸　法
天　井	※アルミニウム　・（　　）	⊙450×450　※600×600
床	※アルミニウム　・ステンレス	・450×450　※600×600
	形式　・一般型　・簡易密閉型　・密閉型　・（　　）	

20．くつふきマット
材種　※塩化ビニル製又はゴム製（受枠ステンレス製）SUS304
・硬質アルミニウム製（受枠硬質アルミニウム合金製）
・ステンレス製（受枠ステンレス製）SUS304

種　類	規格等	耐荷重による種類
・鋼製書架	ＪＩＳ　Ｓ　１０３９による	・１種　・２種　・３種
・鋼製物品棚		・４種　・５種　・６種

22．旗ざお
材種　※アルミニウム合金製　・（　　）
形状　・テーパー式　・同一断面
形式　・ロープ式　・ハンドル式
寸法　・（　　）

23．旗ざお受金物　材種　※ステンレス製（市販品）SUS 304　・（　　）

24．流し台ユニット
ステンレス流し台　仕様・寸法（　　）
コンロ台　（　　）
吊戸棚　（　　）
水切棚　（　　）

25．視覚障害者用誘導床材

施　工　箇　所	材　質	寸　法	備　考
	・磁器製又はせっ器製	・300角　・（　　）	無ゆう　黄色
	・ビニル床タイル	・300角	黄色
	・点字鋲		真ちゅう製
	・コンクリート製	・300角　厚60	黄色

26．既製フェンス
・ビニル被覆エキスパンドフェンス　・樹脂塗装メッシュフェンス
・鋼管フェンス　・（　　）

27．かぎ箱　※鋼製市販品　・３０組用　・６０組用　・１２０組用

28．敷地境界標
種類　※コンクリートブロック製（市販品）
・花こう岩類の石材（文字記号等入り）

29．屋外掲示板
照明器具　※あり　・なし
施　錠　※あり　・なし

30．車止め支柱
材種　※ステンレス製（上下式鎖内蔵型）　・（　　）
形状　※スプリング付き　・スプリングなし

31．新聞受・郵便受　・（　　）

32．木製家具　家具専門メーカーの製作品とする。

33．収納・収納家具
合板類
ホルムアルデヒドの放散量　※F☆☆☆☆　・（　　）
ミディアムデンシティファイバーボード（ＭＦＤ）及びパーティクルボード
ホルムアルデヒドの放散量　※F☆☆☆☆　・（　　）

㉔．施工中の安全管理　接着剤及び塗料の配布に当たっては、使用方法及び塗布量を十分に管理し、適切な乾燥時間をとるものとする。また、施工時、施工後の通風、換気を十分に行い、室内に発散した化学物質等を室外に放出させる。

21 排水工事

1．排水管　(21.2.1)（表21.2.1）

材　種	管の種類	管形状（接合方法）
※遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管（※１種　・２種）	※Ｂ形（ゴム接合）
・硬質ポリ塩化ビニル管	※VP　・VU　・RS-VU	

2．排水桝及びふた　※図示による　(21.2.1)

3．グレーチングふた　(21.2.1)
材　質　・鋼製　・ステンレス製　・（　　）
形　式　※受枠付き　・（　　）
種　類　・溝ふた用　・桝ふた用　・かさ上げ用　・Ｕ字溝用
適用荷重　・歩行用　・Ｔ－２用　・Ｔ－６用　・Ｔ－（　）用
上面形状　・凹凸形　・平形　・（　　）
ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾞｯﾁ・細目　・普通目　・（　　）

4．鋳鉄製マンホールふた
種　類　・水封形　・密閉形　・簡易気密形　・中蓋付密閉形
適用荷重　・Ｔ－２用　・Ｔ－６用　・Ｔ－（　）用

5．埋戻し材料　「標仕」表3.2.1による　※Ｂ種　・（　　）種

㉒舗装工事

①．路床材料　盛土の種類　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　(22.2.3)(表3.2.1)

②．路床土の支持力比（ＣＢＲ）試験
※行わない　・行う（※乱した土　・乱さない土）　(22.2.5)

③．路床締固め度試験　※行わない　・行う　(22.2.5)

④．現場ＣＢＲ試験　※行わない　・行う　(22.2.5)

⑤．路盤材料　(22.3.3)(表22.3.1)
※再生クラッシャランＲＣ－４０
・クラッシャランスラグＣＳ－４０
・クラッシャランＣ－４０　・（　　）

⑥．アスファルト舗装
車道部の基層　※なし　・あり　(22.4.2)(表22.4.1)
アスファルト　※再生アスファルト　・ストレートアスファルト　(22.4.3)
加熱アスファルト混合物の種類　(22.4.4)(表22.4.4)

区分	※一般地域	・寒冷地域
表層	※密粒度アスファルト混合物（１３） ・細粒度アスファルト混合物（１３）	※密粒度アスファルト混合物（１３Ｆ）

アスファルト混合物等の抽出試験　※行わない　・行う　(22.4.6)

7．コンクリート舗装
コンクリート舗装等に使用するコンクリートは「標仕」表22.5.1による。　(22.5.3)
早強セメント　※使用しない　・使用する
コア採取厚さ試験　・行う　・行わない　(22.5.6)

8．カラー舗装　車道部　(22.6.2)（22.6.3）(表22.6.1)
カラー舗装の種類　加熱系　・アスファルト混合物　・石油樹脂系混合物　・図示
常温系　・ニート工法　・塗布工法　・図示
常温系カラー舗装の下部　・アスファルト舗装　・コンクリート舗装
結合材による種類　・図示　・（　　）
車道部の基層の適用　・適用しない　・適用する
歩道部
カラー舗装の種類　加熱系　・アスファルト混合物　・石油樹脂系混合物　・図示
常温系　・ニート工法　・塗布工法　・図示
常温系カラー舗装の下部　・アスファルト舗装　・コンクリート舗装
結合材による種類　・図示　・（　　）
車道部の基層の適用　・適用しない　・適用する

9．透水性ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装
アスファルト混合物の抽出試験　・行う　・行わない　(22.7.6)

10．ブロック系舗装　(22.8.2)(22.8.3)

種　類	・ｺﾝｸﾘｰﾄ平板舗装	・ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ舗装　・（　　）
厚　さ	※６０	※歩行部６０ ※車道部８０　・（　　）

ジオテキスタイル　・適用する(60g/㎡)　・適用しない

⑪．区画線等
トラフィックペイント　JIS K 5665
※溶触型（厚1.5）　・加熱型（厚1.0程度）
区画線幅　※１５０　・（　　）
・身障者用駐車場スペース表示（1500角）
・駐車スペースナンバー表示（ 350角）

23 植栽工事
※別添３福岡県植栽工事特記仕様書による

施　工　区　分　表

（○印を塗りつぶしたものを適用する）

工　事　内　容				建築	外構	植栽	電気	電話	昇降	給衛	空調	ガス	黒板畳	備　考
機器の基礎	電気関係		屋内	○										電気と十分協議すること
		配電盤・制御盤の基礎	屋外	○										
			屋上	○										
		自家発電機の基礎　（アンカーボルトを除く）		○										
		テレビアンテナの基礎（　〃　）		○										
		避雷針の基礎（　〃　）		○										
	機械関係	屋内設備		○										機械と十分協議すること
		屋外設備（架台、アンカーボルト含む）		○										
		屋上設備（架台、アンカーボルト除く）		○										
	特記した基礎													
開口部	梁、床、壁	補強を要するもの					○	○	○	○	○	○		
	貫通スリーブ	補強を要しないもの					○	○	○	○	○	○		
	梁、床、壁	補強を要するもの		○										
	貫通部型枠	補強を要しないもの		○										
	軽量鉄骨下地、	補強を要するもの		○										
	壁・天井ボード類の切込み	補強を要しないもの		○										
	埋込型分電盤、	補強を要するもの		○										
	端子盤等の型枠	補強を要しないもの		○										
	上記開口部の補強			○										
	上記開口部の墨出し						○	○	○	○	○	○		
	スリーブの穴埋め（型枠の穴埋めを含む）						○	○	○	○	○	○		
	ＯＡフロア器具取付用			○										
点検口	床、壁、天井			○										
ガラリ	外壁面（ダクト、チャンバーの接続用含む）			○										
	建具取付			○										
	空調用リターン										○			
排気フード	厨房									○	○	○		
	上記以外			○						○	○	○		
換気扇の取付枠及びアルミパネル				○										
換気扇	壁換気扇（ウェザーカバー含む）										○			
	天井換気扇（ベントキャップ含む）										○			
流し台	排水トラップ含む			○										
防油提	オイルサービスタンクの防油提		自火発電用	○										
			空調用	○										
床下水槽のマンホール蓋	タラップ含む			○										
屋外配水管	雨水			○										
	汚水、雑配水管									○				
雨水竪樋	ルーフドレイン含む			○										
身障者用便所手すり				○										
はめ込み形洗面器用カウンター（前板共）				○										
ガスボンベ転倒防止用の鎖												○		
電気配管配線	機械設備機器付属の制御盤以降の配管配線（接地共）										○			
	機械設備機器付属の制御盤と電源供給及び配管配線						○							
	機械設備自動制御と電気設備盤との電源供給						○							
	機械設備自動制御と電気設備盤との操作回路の渡り配管配線										○			
	天井吊り型ＦＣＵ、個別パッケージ、全熱交換器と操作スイッチとの渡り配管						○							
	天井吊り型ＦＣＵ、個別パッケージ、全熱交換器と操作スイッチとの渡り配線										○			
	天井吊り型ＦＣＵ、個別パッケージ、全熱交換器と操作スイッチ										○			
	天井吊り型ＦＣＵ、個別パッケージ、全熱交換器と操作スイッチ埋込ボックス						○							
	煙感知器から連動制御盤を経て防煙ダンパー及び排煙口に至る配管配線						○							
	小便器用節水装置制御盤以降の配管配線									○				
	自動ドア及び電動シャッターなどの制御部への電源供給						○							
	自動ドア及び電動シャッターなどの制御部			○										
	自動ドア及び電動シャッターなどの操作スイッチ間の配管配線及び操作スイッチ						○							
	防火扉レリーズ						○							
	電極棒（フロートスイッチ含む）									○				
	配線ピット及び蓋			○										
	別途機器などへの接続						○			○	○			
パッケージエアコンの配線	室外機・室内機間の伝送線										○			
	室外機・室内機間の電源渡り線										○			
	室内機・リモコン間の配線										○			
	室内機・リモコン間の配管						○							
	リモコン埋込ボックス						○							
	室内機・集中リモコン間の渡り伝送線										○			
ガス漏れ探知機（遮断弁連動）												○		
ＯＡフロア用配線器具							○							
電気錠	電気錠及び通電金具			○										
	ＴＥＮキー及び制御盤						○							
エレベーター出入口三方枠（金属製）									○					大理石のみ建築工事
シャワーユニット（バスユニット）				○										
ガス給湯器リモコン用ケーブル										○		○		
ガス給湯器電線管及びボックス							○							
消火栓始動器（起動装置）							○							
畳工事													○	
黒板工事	下地補強			○										
	黒板・白板・掲示板												○	
植栽工事						○								

備考

備考

１級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　桑　大二郎

工事名称	阿志岐小学校昇降機設備設置工事	縮尺	A-1　-	図面No.	A－０５
図面名称	建築工事特記仕様書（４）		A-3　-	日付	2026.2

現況　校舎棟　面積表

棟名	管理教室棟	管理教室棟 配膳室増築	普通教室棟 昇降口　渡り廊下	校舎棟全体
符号	①⑤	②	③④	①～⑤
構造	RC造３階建	RC造1階建	RC造２階建	
１階	619.36	8.00	514.49	1,141.85
２階	616.74		364.74	981.48
３階	616.74			616.74
塔屋	34.05			34.05
合計	1,886.89	8.00	879.23	2,774.12
建築面積	658.03	8.00	469.26	1,135.29
建築時期	S49.12	S62.10	S54.03	
面積根拠	申請面積	設計図面積	申請面積	
確認済	S49年6月10日 第　208　号	不明	S53年9月4日 第　576　号	
検査済	S49年12月24日 第　1295　号	不明	S54年2月19日 第　1313　号	

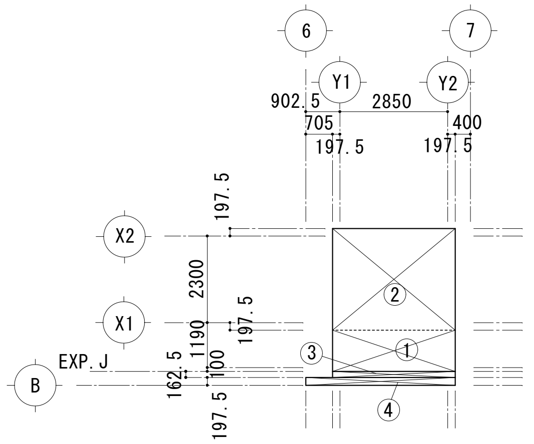
※　⑤プロパン庫を含む

屋内運動場棟　既設面積表

棟名	屋内運動場
符号	⑥
構造	RC造２階建
１階	723.86
２階	100.50
３階	
塔屋	
合計	824.36
建築面積	771.31
建築時期	
面積根拠	申請面積
確認済	S51年8月12日 第　568　号
検査済	S52年2月25日 第　1260　号

附属棟建築物　既設面積表

棟名	学童保育	プール棟	体育倉庫	屋外便所	プレハブ 倉庫	プレハブ 倉庫	プレハブ 倉庫	プレハブ 倉庫	プレハブ 倉庫	既設附属棟面積 合計
符号	⑦	⑧	⑨	⑩	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	⑦～⑩ ㉛～㉟
構造	木造平屋建	RC造平屋建	S造平屋建	S造平屋建	S造平屋建	S造平屋建	S造平屋建	S造平屋建	S造平屋建	
１階	66.79	170.39	42.42	41.02	14.58	9.54	9.24	9.36	2.16	365.50
合計	66.79	170.39	42.42	41.02	14.58	9.54	9.24	9.36	2.16	365.50
建築面積	66.79	170.39	42.42	41.02	14.58	9.54	9.24	9.36	2.16	365.50
建築時期		H17.03	H17.03	H9.11						
面積根拠	申請面積	設計図面積	設計図面積	施設台帳	実測	実測	実測	実測	実測	
確認済	H4年12月18日 第　1628　号	未確認 プール棟	未確認 プール棟	不明	不明	不明	不明	不明	不明	
検査済	H5年3月18日 第　1628　号	で提出	で提出							



① 3.245×1.0925 = 3.545163
② 3.245×2.695 = 8.745275
③ 3.245×0.1625 = 0.527313
④ 3.950×0.1975 = 0.780125

増築部分の床面積　求積図　1：100(A3；1：200)

増築部分の床面積　求積表

	EXP.Jより新設側			既設棟部分			各階　計	
１階	①+②	12.290438	12.29	③+④	1.307438	1.30	13.597876	13.59
２階	①+②	12.290438	12.29	③+④	1.307438	1.30	13.597876	13.59
３階	①+②	12.290438	12.29	③+④	1.307438	1.30	13.597876	13.59
合計	12.29×3=		36.87	1.30×3=		3.90		40.77

増築部分の建築面積　求積表

建築面積	①+②+③+④	13.597876	13.59

昇降路面積

面積	②　(8.745275) ×3 = 26.235825	26.23

附属棟の床面積・建築面積　求積表

附属棟名		計算式	床面積	建築面積
⑩	体育倉庫	9.174×4.624	42.42	42.42
⑪	屋外便所	7.200×5.400 + 1.100×1.950	41.02	41.02
㉛	プレハブ倉庫	2.700×5.400	14.58	14.58
㉜	プレハブ倉庫	2.650×3.600	9.54	9.54
㉝	プレハブ倉庫	2.200×4.200	9.24	9.24
㉞	プレハブ倉庫	2.600×3.600	9.36	9.36
㉟	プレハブ倉庫	1.800×1.200	2.16	2.16

申請対象校舎棟　面積表

校舎棟			
	（申請部分）	（申請以外の部分）	
棟名 符号	増築　ELV	既設校舎棟 ①～⑤	合計
１階	13.59	1,141.85	1,155.44
２階	13.59	981.48	995.07
３階	13.59	616.74	630.33
塔屋		34.05	34.05
床面積計	40.77	2,774.12	2,814.89
建築面積	13.59	1,135.29	1,148.88

学校全体　面積表

	増築　面積	既設　面積				全体　面積
	（申請部分）	（申請以外の部分）				
棟名 符号	増築　ELV	既設　校舎棟 ①～⑤	既設　屋内運動場棟 ⑥	既設　附属棟 ⑦～⑩ ㉛～㉟	小計 ①～⑩　㉚～㊱	合計
１階	13.59	1,141.85	723.86	365.50	2,231.21	2,244.80
２階	13.59	981.48	100.50		1,081.98	1,095.57
３階	13.59	616.74			616.74	630.33
塔屋		34.05			34.05	34.05
床面積計	40.77	2,774.12	824.36	365.50	3,963.98	4,004.75
建築面積	13.59	1,135.29	771.31	365.50	2,272.10	2,285.69

敷地面積　：17,384.80㎡　（　過去申請時敷地面積　）
屋外プール移設建築工事時
既存校舎敷地面積：　15,634.00
プール敷地面積：　1,750.80　合計：17,384.80

※　容積対象床面積　＝　全体床面積-昇降路床面積
4,004.75 - 26.23　=　3,978.52

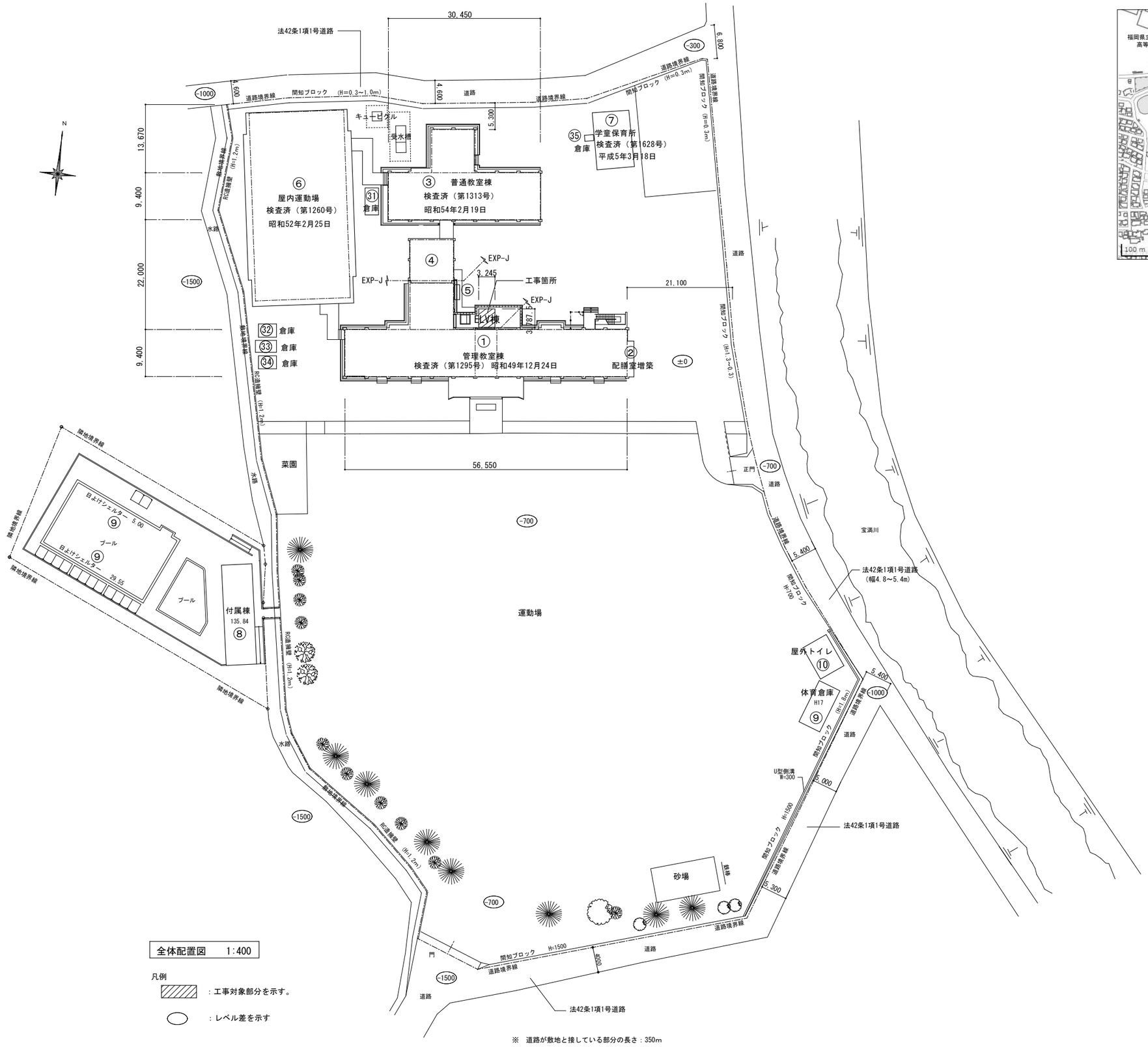
容積率　：　3,978.52　/　17,384.80　×　100
= 22.885049 ≒　22.89　＜　200　%

建蔽率　：　2,285.69　/　17,384.80　×　100
= 13.147635 ≒　13.15　＜　60　%

備考

1級建築士事務所　浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎

工事名称	阿志岐小学校昇降機設備設置工事	縮尺	A－1　1/400	図面No.	A－06
図面名称	面積表		A－3　1/800	日付	2026.2



全体配置図　1:400

凡例

：工事対象部分を示す。

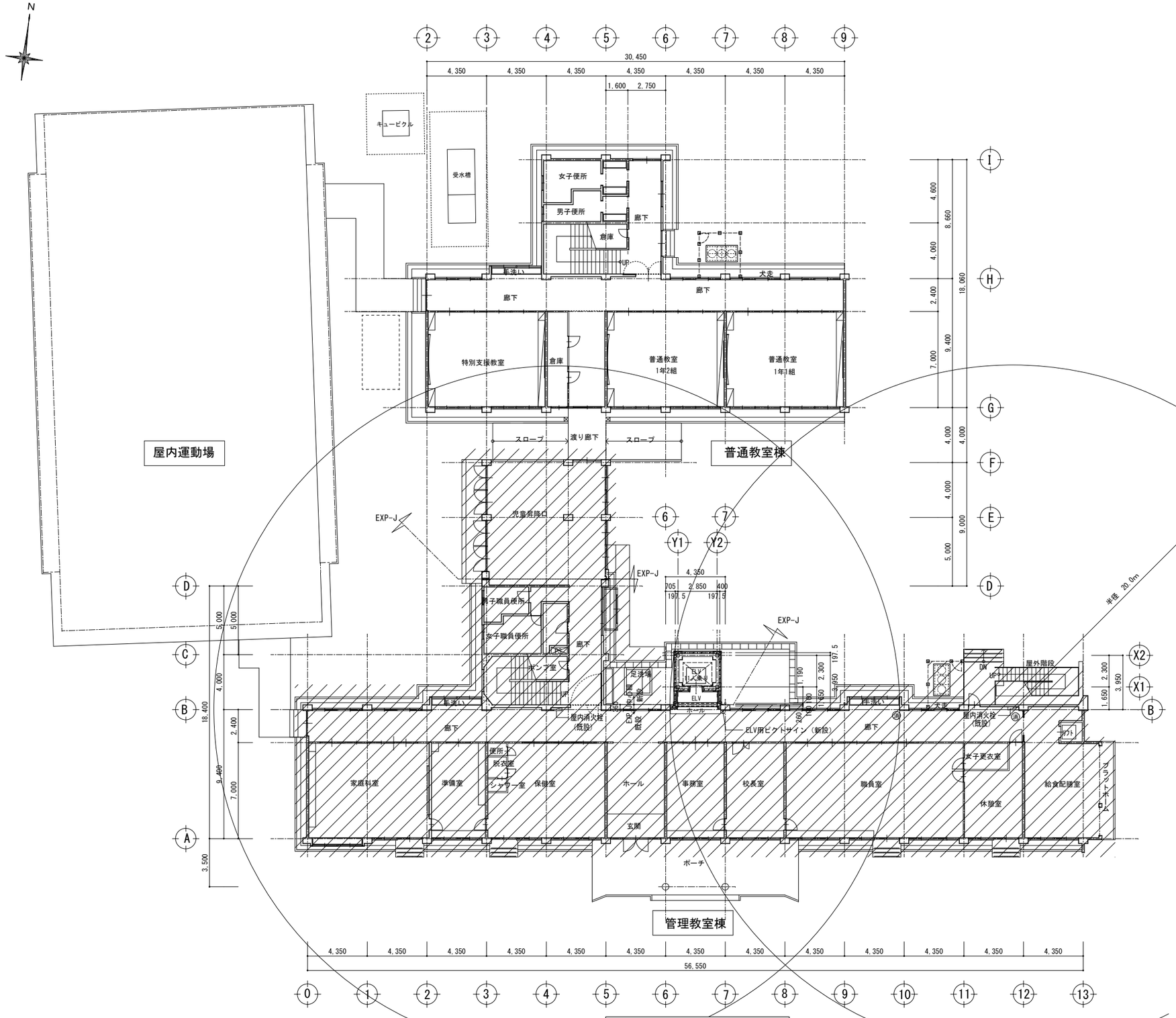
：レベル差を示す

※　道路が敷地と接している部分の長さ：350m

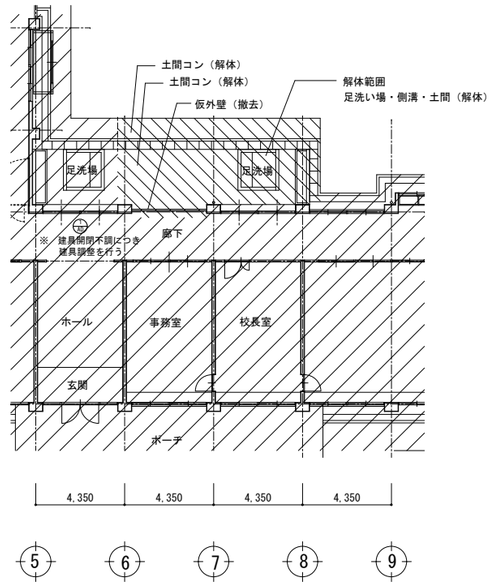
工事場所：筑紫野市大字阿志岐2350

付近見取図　NON SCALE

備考	1級建築士事務所 浜地設計 株式会社	〒814-0133 福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１ 一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号 一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎	工事名称 阿志岐小学校昇降機設備設置工事	縮尺 A-1 1/400	図面No. A－07
			図面名称 全体配置図・付近見取図	A-3 1/800	日付 2026.2



1階平面図　1:150



既存１階平面図　1:150

凡例
- ：既存部分を示す。
- ：解体部分を示す。
- 消：仮設消火器(ABC10型)　工事期間中に設置

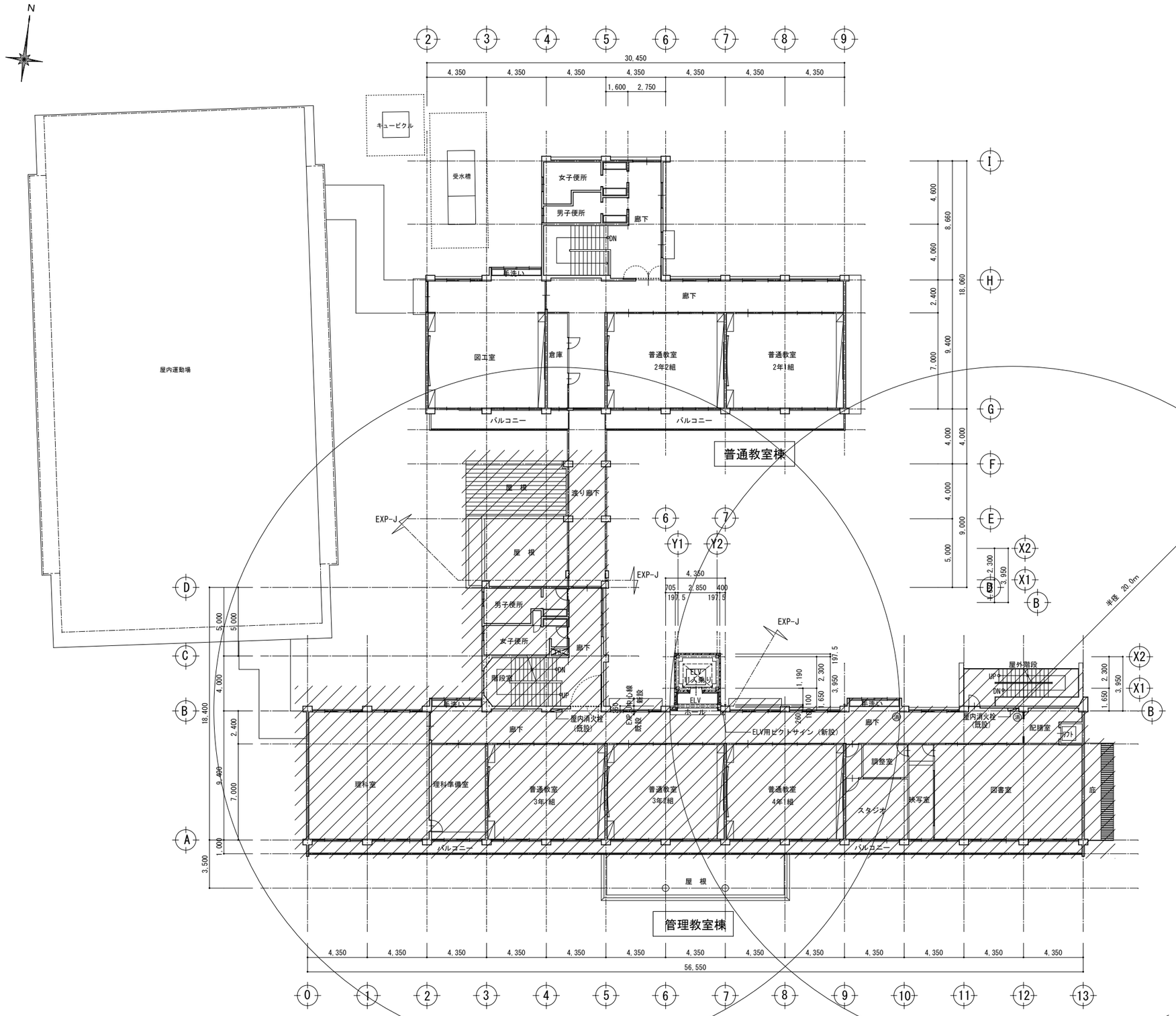
■　外部仕上	
屋根	コンクリート金ゴテ下地　改質アスファルトシート防水（ＡＳ-Ｔ２）
パラペット	アルミ笠木　Ｗ＝350
外壁	ｔ＝125　ＡＬＣ板の上　複層塗材　Ｅ　　耐火構造：（告示1399号第１-１-ト）
巾木	コンクリート打放し下地調整の上　複層塗材　Ｅ
樋	竪樋　カラーＶＰ75　掴み金物　ＳＵＳ
	ドレイン　鋳鉄製　ヨコ引ドレイン　75用
雑金物	ＥＸＰ-Ｊカバー　　アルミ製　外壁・屋根タイプ　（耐火帯付200タイプ）
	「遮炎性能」（適合証番号：EAJ-防災-3019）

■　耐火認定材料		
柱	（ＡＬＣ合成被覆）１時間耐火　ロックウール　25mm	ＦＰ０６０ＣＮ-９４５８
梁	（ＡＬＣ合成被覆）１時間耐火　ロックウール　25mm	ＦＰ０６０ＢＭ-９４０６
床スラブ：ＱＬデッキ（QL99-50-1.2）　床、１時間耐火　FP060FL-9101		
ＡＬＣ　t=125	耐火　告示第１３３９号　第１-１-ト	
■　防火認定材料		
石膏ボード（ＰＢ）　12.5mm	ＮＭ-８６１９	
石膏ボード（ＰＢ）　9.5mm	ＱＭ-９８２８	

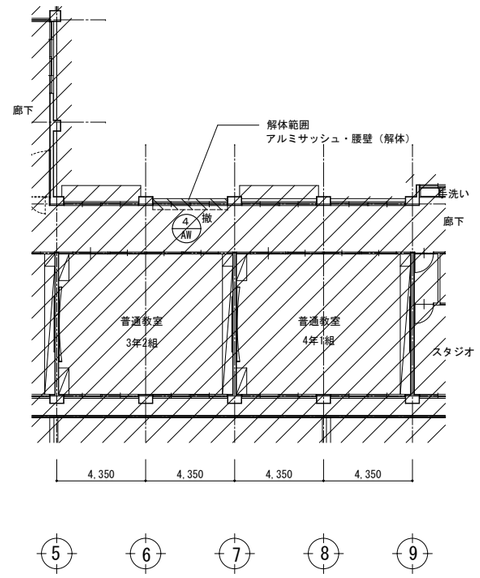
備考

１級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎

工事名称	縮尺	図面No.
阿志岐小学校昇降機設備設置工事	A-1　1/150	A－０８
図面名称：１階平面図	A-3　1/300	日付：2026.2



２階平面図　1:150



既存２階平面図　1:150

凡例
- ：既存部分を示す。
- ：解体部分を示す。
- 消：仮設消火器(ABC10型)　工事期間中に設置

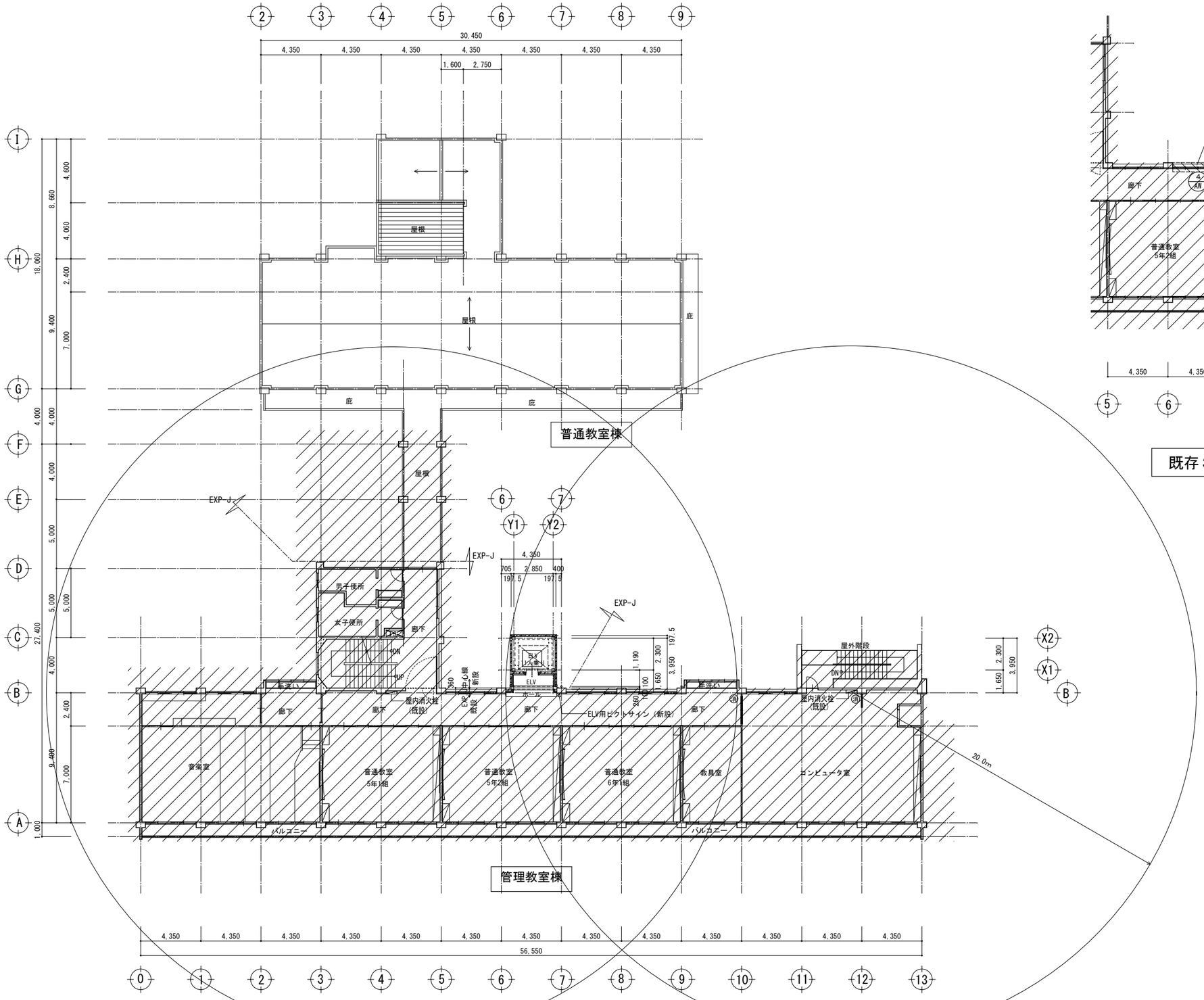
■　内部仕上

室名		ELVホール・廊下
床	新設	t=2.0　長尺シート貼　（溶接工法）　モルタル下地　（新設）
	既設	既存床　長尺シート　撤去の上モルタル下地調整　（撤去）
		t=2.0　長尺シート貼　（溶接工法）　（貼替）
巾木	新設	ソフト巾木　H=100（新設）
	既設	既存ソフト巾木（撤去）の上　ソフト巾木　H＝100（新設）
壁	新設	712.5mmPB+79.5mmPB　EP-G塗装（新設）
	既設	既存壁モルタル塗部分下地調整の上　EP=G塗装（塗替）
天井	新設	t=9.5mmPB貼　EP-G塗装（新設）　軽量鉄骨天井下地（新設）
	既設	t=9.5mmPB貼　EP-G塗装（新設）
		既存軽量鉄骨天井下地利用　（利用）
備考		各階１カ所　ELV用ピクトサイン（持出型200×200）（新設）
		2，3階　帽子掛け木製枠（移設）
		3階　天井点検口　450角　1カ所　（新設）
		EXP-J：天井・内壁　アルミ製W＝200用　床用ステンレス製W＝200用（耐火用）

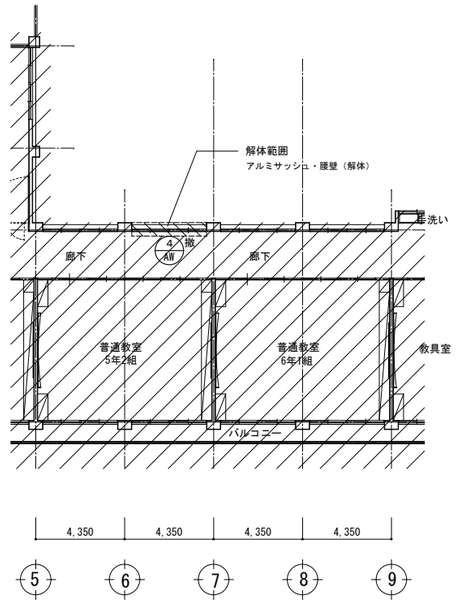
備考

１級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎

工事名称	阿志岐小学校昇降機設備設置工事	縮尺	A－1　1/150	図面No.	A－０９
図面名称	２階平面図		A－3　1/300	日付	2026.2



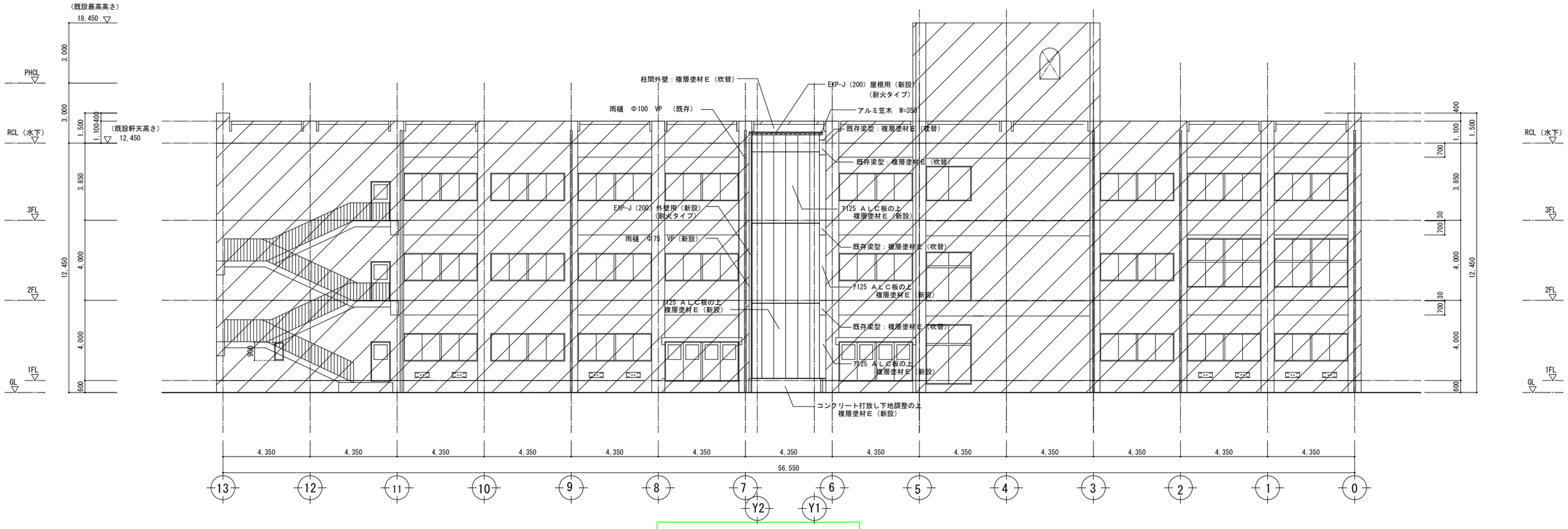
３階平面図　1:150



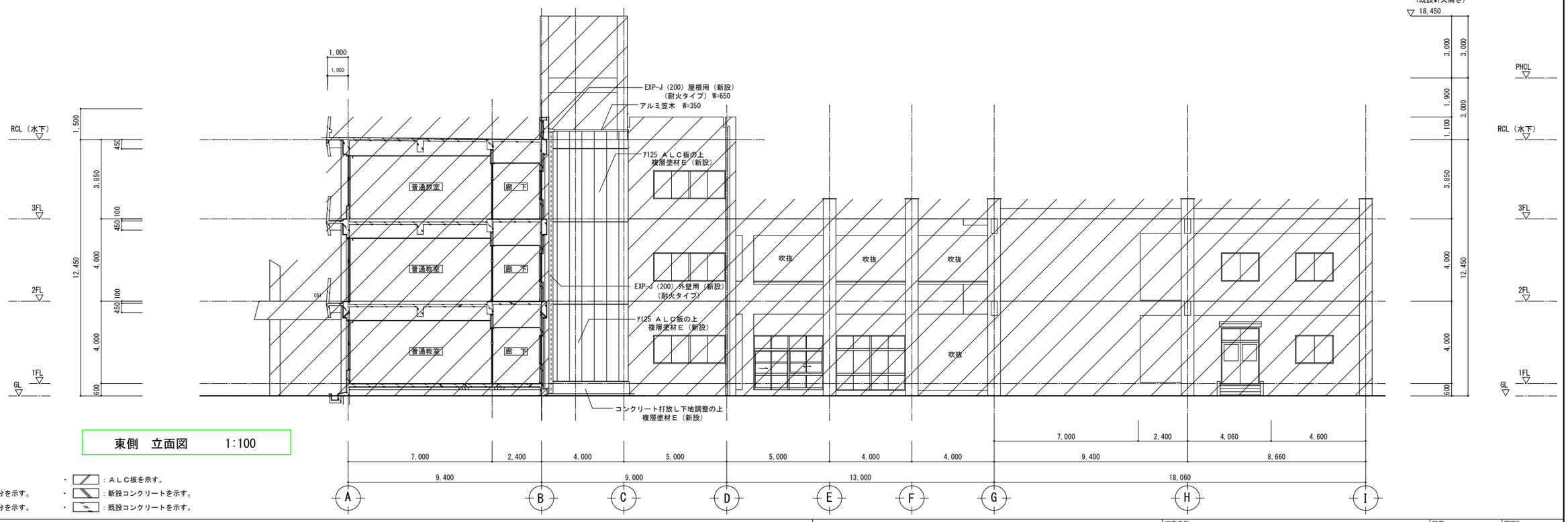
既存３階平面図　1:150

凡例
- ▨：既存部分を示す。
- ▧：解体部分を示す。
- 消：仮設消火器(ABC10型)　工事期間中に設置

備考	1級建築士事務所 浜地設計 株式会社	〒814-0133 福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１ 一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号 一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎	工事名称 阿志岐小学校昇降機設備設置工事	縮尺 A－1 1/150 / 図面No. A－１０
			図面名称 ３階平面図	A－3 1/300 / 日付 2026.2



北側　立面図　　1:100



東側　立面図　　1:100

凡例

- ：既存部分を示す。
- ：解体部分を示す。
- ：ＡＬＣ板を示す。
- ：新設コンクリートを示す。
- ：既設コンクリートを示す。

備考

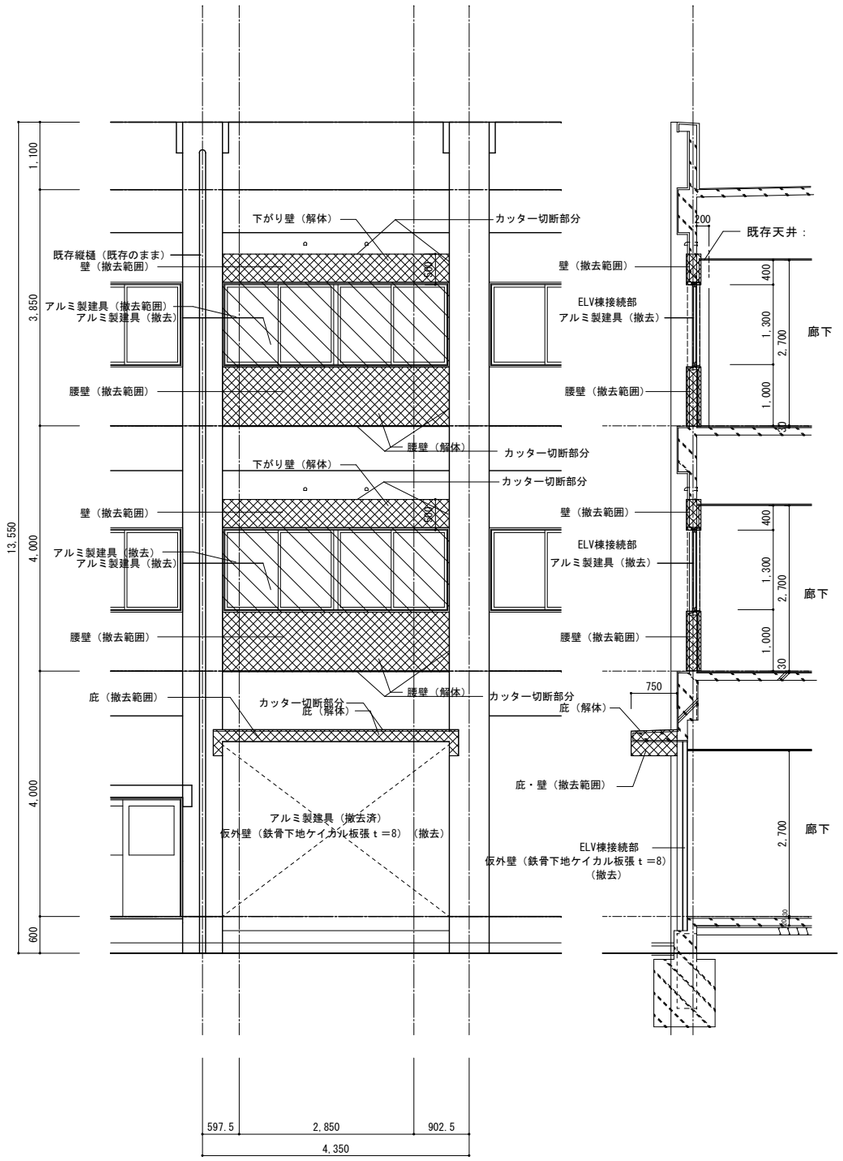
1.　　で囲われた仕上材は、アスベスト含有建材として取り扱うこと

アスベスト含有建材には、石綿が含まれている為「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル」「石綿障害予防規則」等、関係法令を厳守の上、

廃棄物の処理及び清掃に関する法律に従い撤去・収集運搬・処分を行う事。

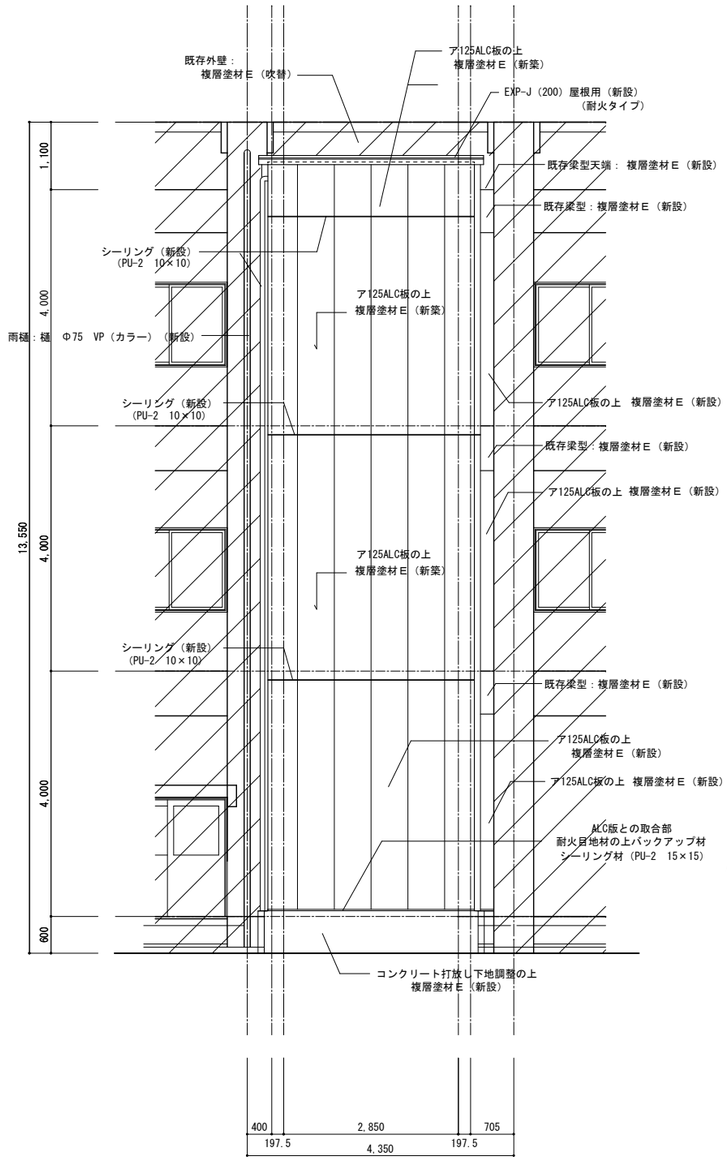
１級建築士事務所
浜地設計　株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　桑　大二郎

工事名称	縮尺	図面No.
阿志岐小学校昇降機設備設置工事	A－1　1/100	A－１１
図面名称：全体立面図	A－3　1/200	日付：2026.2

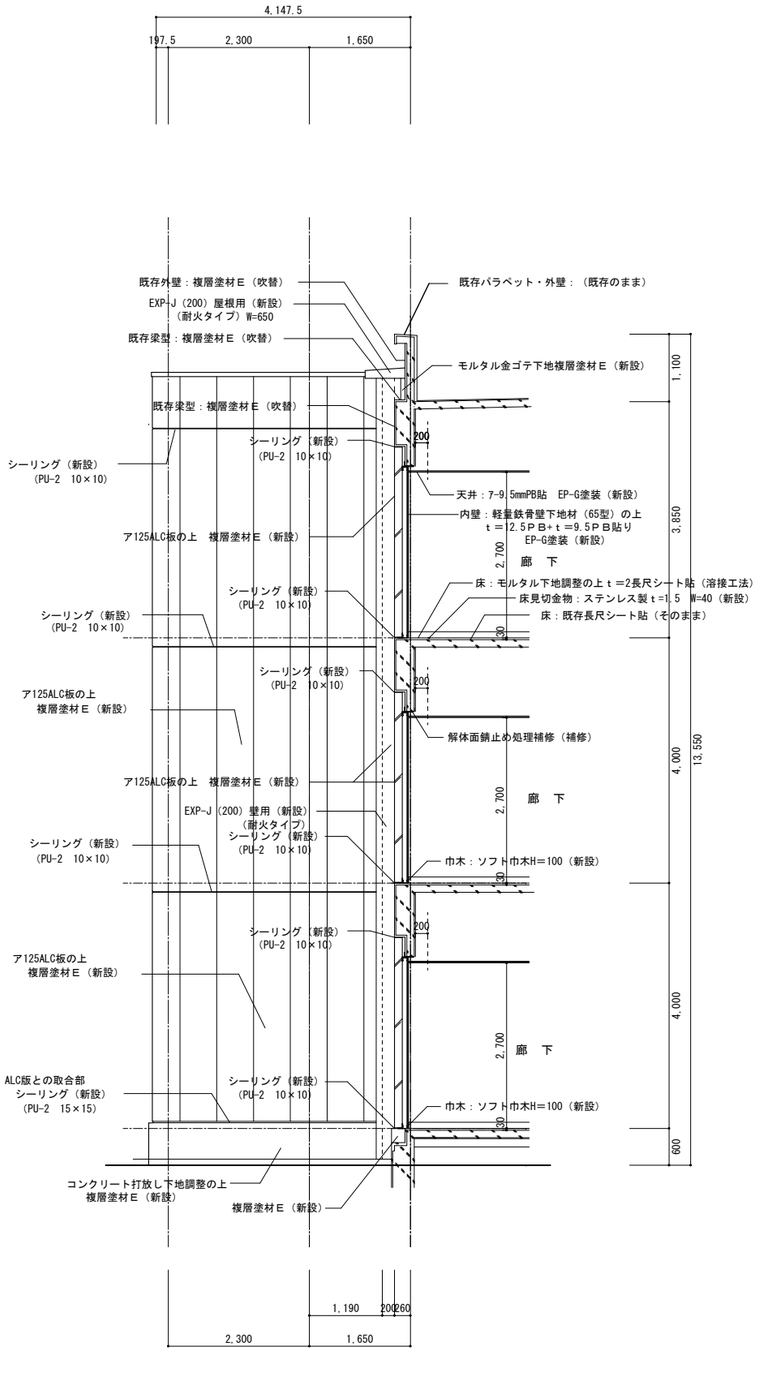


既存　北側立面図　S＝1/50

既存　断面詳細図　S＝1/50



北側立面図　S＝1/50



西面立面図　S＝1/50

凡例

- ：既存部分を示す。
- ：解体部分を示す。
- ：解体部分を示す。
- ：ＡＬＣ板を示す。
- ：新設コンクリートを示す。
- ：既設コンクリートを示す。

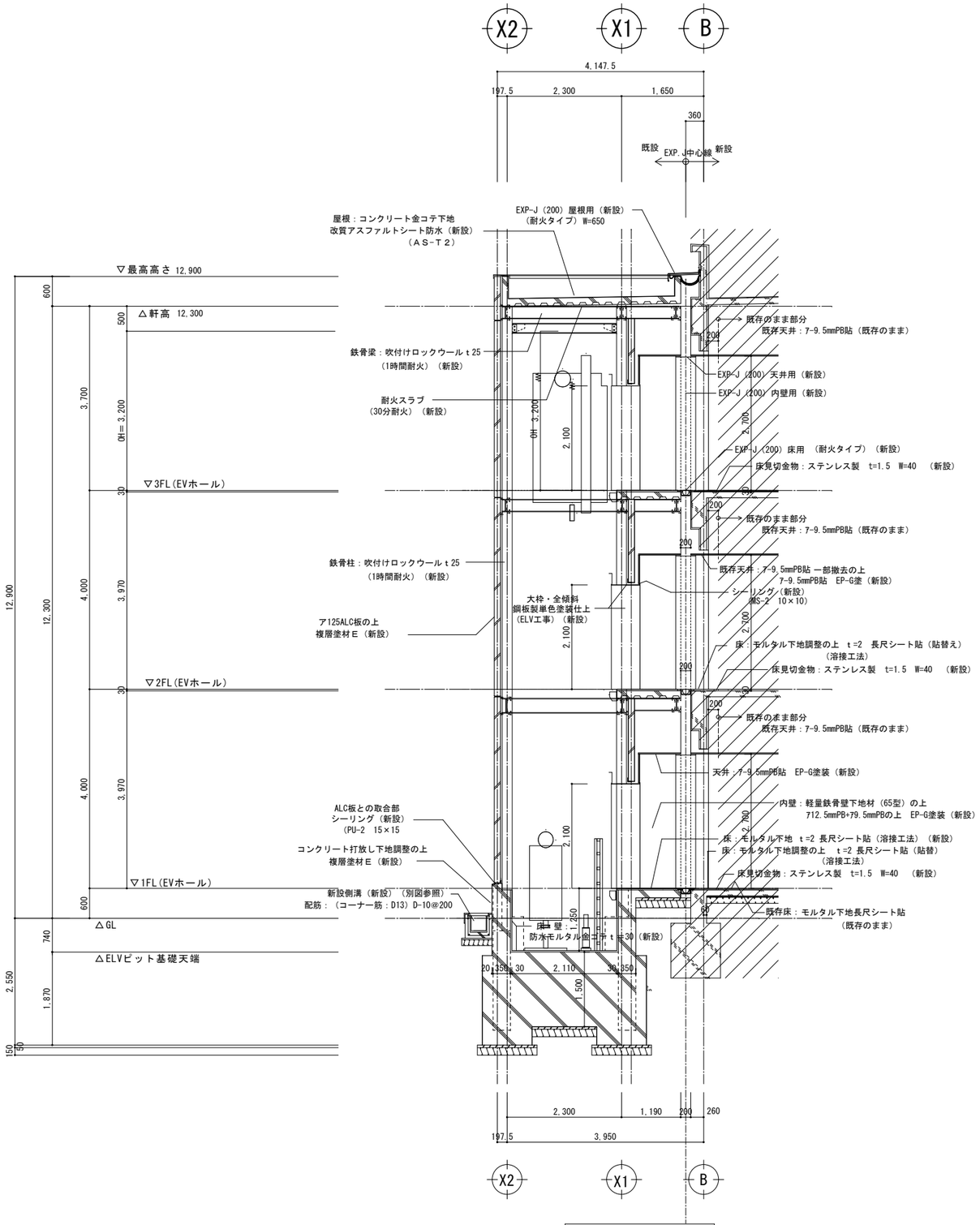
備考

1. ［　　］で囲われた仕上材は、アスベスト含有建材として取り扱うこと
アスベスト含有建材には、石綿が含まれている為「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル」「石綿障害予防規則」等、関係法令を厳守の上、
廃棄物の処理及び清掃に関する法律に従い撤去・収集運搬・処分を行う事。

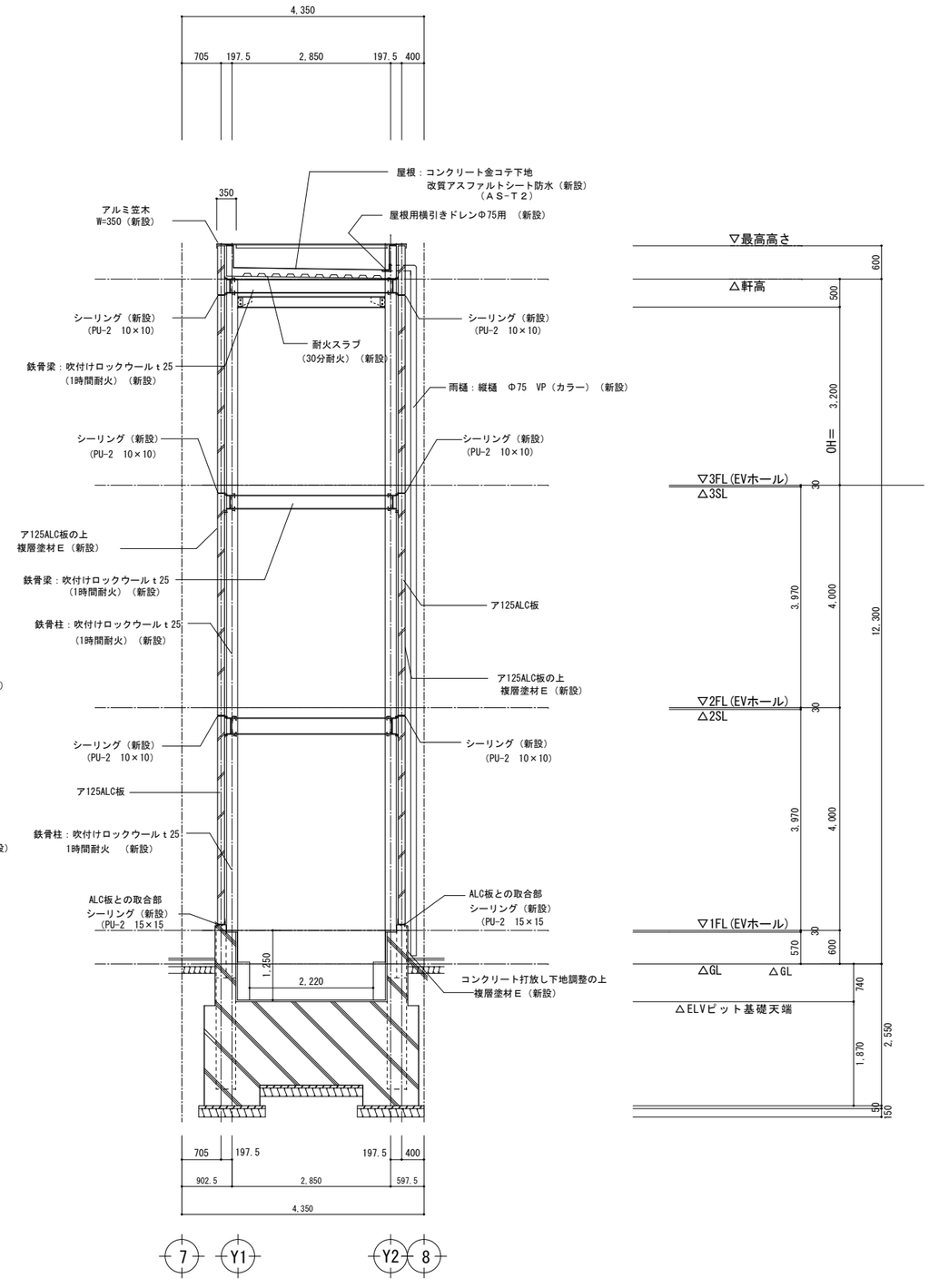
2. サッシュ廻りのシーリング　MS-2　10×10
3. シーリング（新設）（PU-2　10×10）ハ　耐火目地材ヲ充填

HA ARCHITECT OFFICE
1級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎

工事名称	縮尺	図面No.
阿志岐小学校昇降機設備設置工事	A－1　1/50	A－１２
図面名称：立面図・断面詳細図（１）	A－3　1/100	日付 2026.2



断面詳細図　S＝1/50



断面詳細図

凡例

- ：既存部分を示す。
- ：ＡＬＣ板を示す。
- ：解体部分を示す。
- ：新設コンクリートを示す。
- ：解体部分を示す。
- ：既設コンクリートを示す。

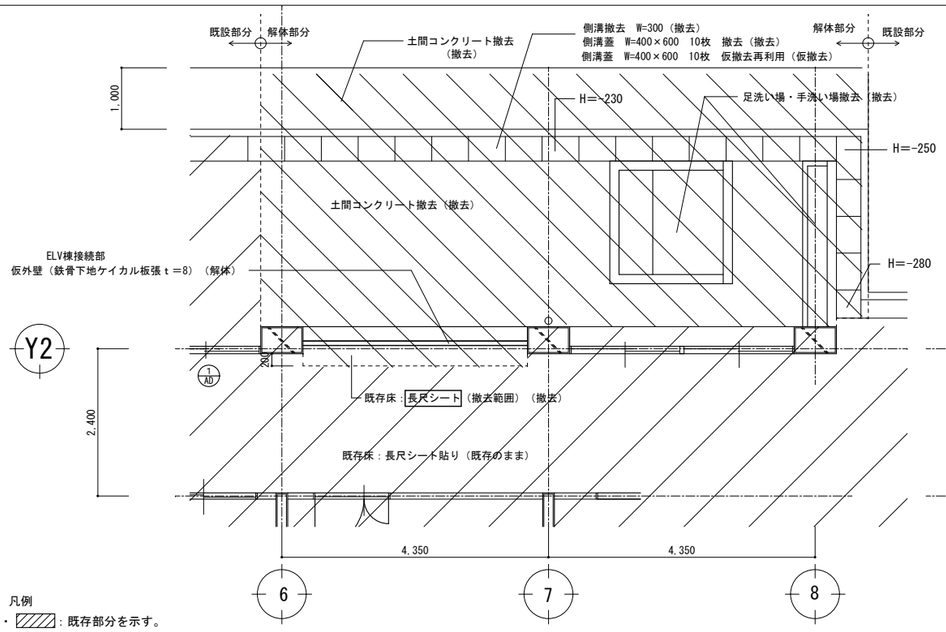
備考

1. ［　　］で囲われた仕上材は、アスベスト含有建材として取り扱うこと
アスベスト含有建材には、石綿が含まれている為「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル」「石綿障害予防規則」等、関係法令を厳守の上、
廃棄物の処理及び清掃に関する法律に従い撤去・収集運搬・処分を行う事。
2. サッシュ廻りのシーリング MS-2 10×10
3. シーリング（新設）（PU-2 10×10）ハ 耐火目地材ヲ充填

HA ARCHITECT OFFICE
1級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士 大臣登録第161944号 秦 大二郎

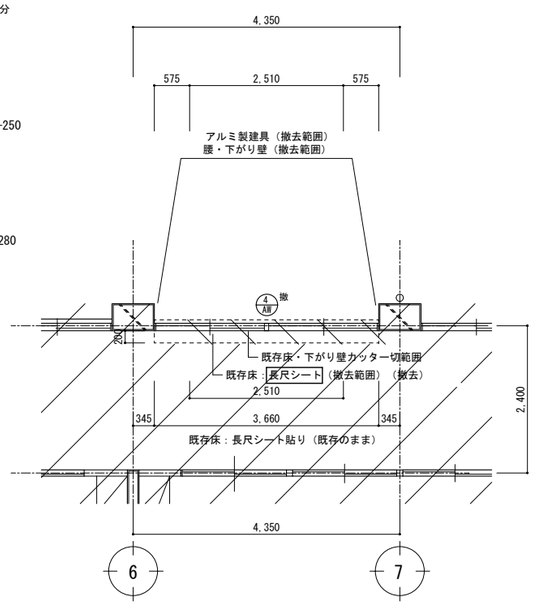
工事名称	縮尺	図面No.
阿志岐小学校昇降機設備設置工事	A－1 1/50	A－１３
図面名称：断面詳細図 （２）	A－3 1/100	日付 2026.2

既存平面詳細図　S＝1/50

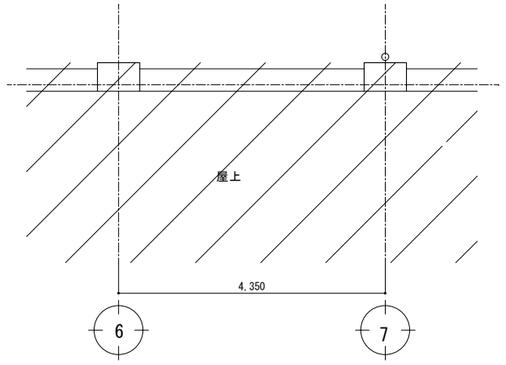


凡例
- ▨：既存部分を示す。
- ▨：解体部分を示す。

1階平面詳細図　1/50

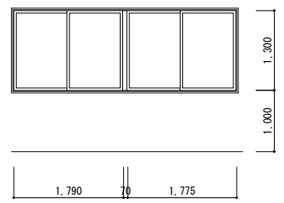


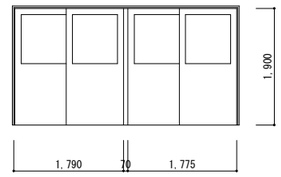
2・3階平面詳細図　1/50



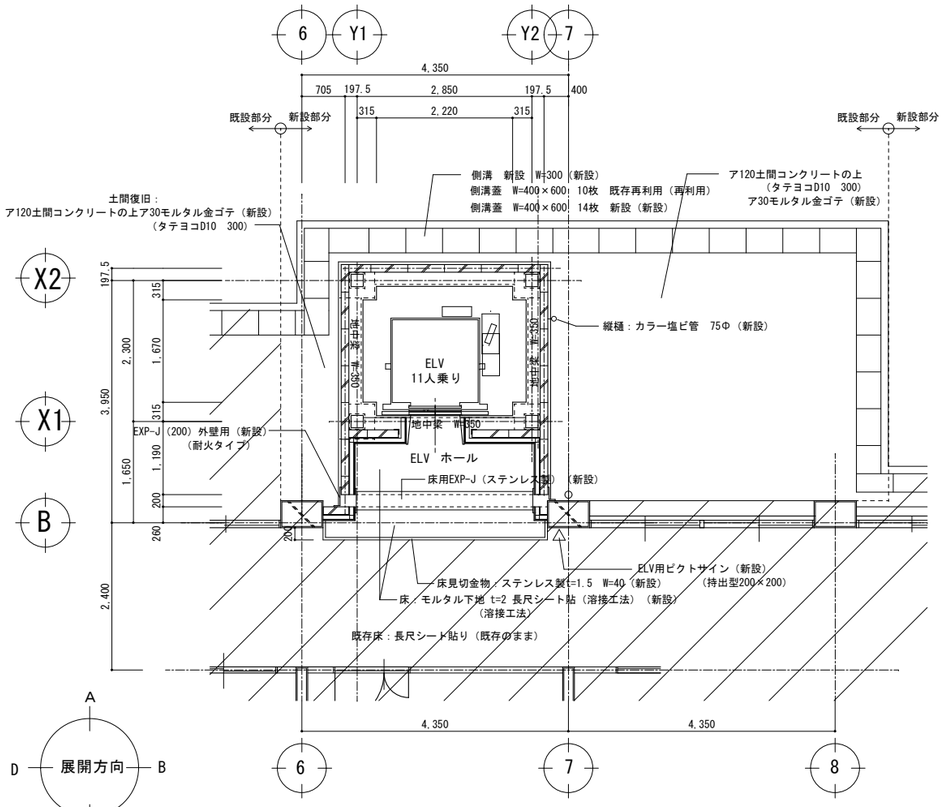
屋階平面詳細図　1/50

撤去　建具表　・　調整

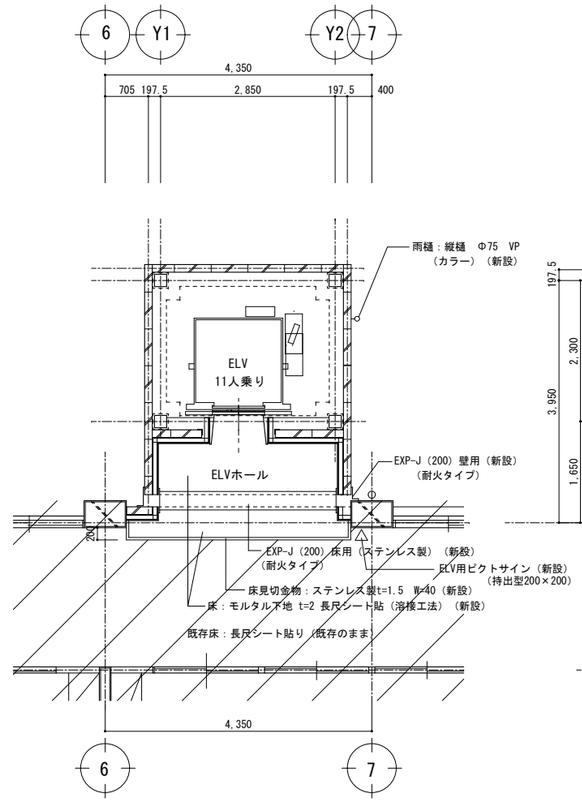
記号・数量	室名：廊下　撤 4/A8　2ヶ所
形状 寸法	
材質・型式	引き違いアルミサッシュ
仕上・見込	70
硝子	5mm　トーメイ
附属金物	取付金物一式　方立　アルミ製額縁
備考	

記号・数量	室名：廊下　1 A0　1ヶ所
	＊ X5-X6間の同建具について開閉機構の調整をする
形状 寸法	
材質・型式	引き違いアルミドア　片面フラッシュ
仕上・見込	70
硝子	3mm　トーメイ
附属金物	取付金物一式　引手　差し込み錠
備考	＊ X5-X6間の同建具について開閉機構の調整をする

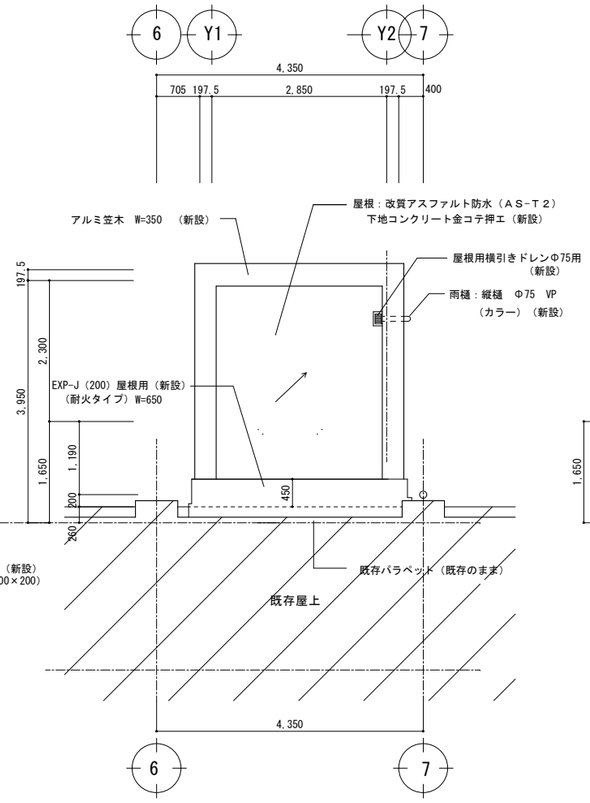
増築後平面詳細図　S＝1/50



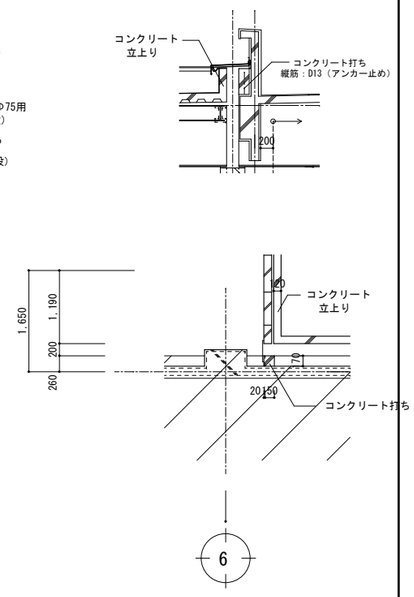
1階平面詳細図　1/50



2・3階平面詳細図　1/50



屋階平面詳細図　1/50

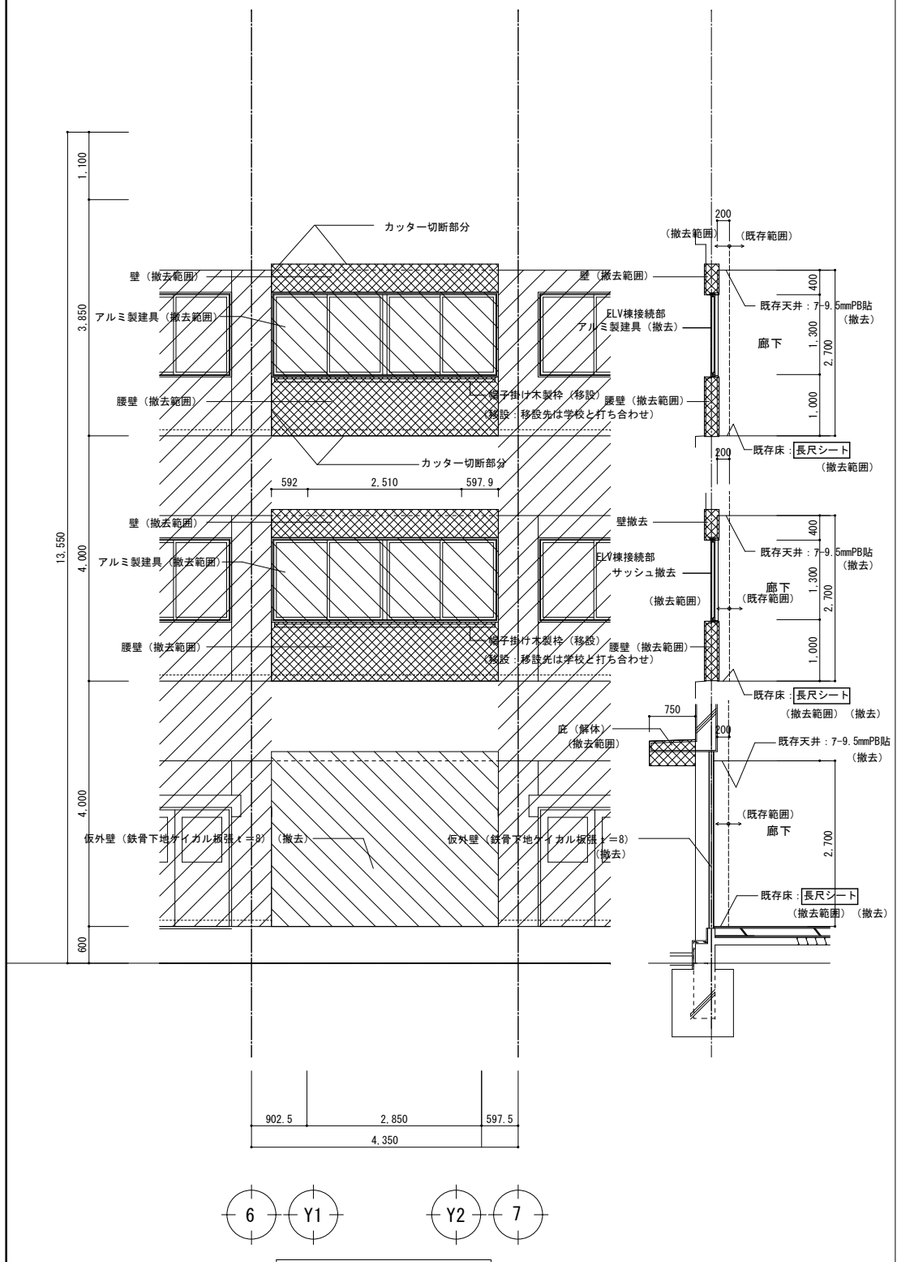


備考	
1.	▭ で囲われた仕上材は、アスベスト含有建材として取り扱うこと
	アスベスト含有建材には、石綿が含まれている為「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル」「石綿障害予防規則」等、関係法令を厳守の上、
	廃棄物の処理及び清掃に関する法律に従い撤去・収集運搬・処分を行う事。
2.	EXP-Jはすべて200タイプとする

HA 浜地設計
1級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎

工事名称	阿志岐小学校昇降機設備設置工事	縮尺	図面No.
		A－1　1/50	A－１４
図面名称	既存・増築後　平面詳細図・建具表	A－3　1/100	日付 2026.2

既存　展開図　S＝1/50

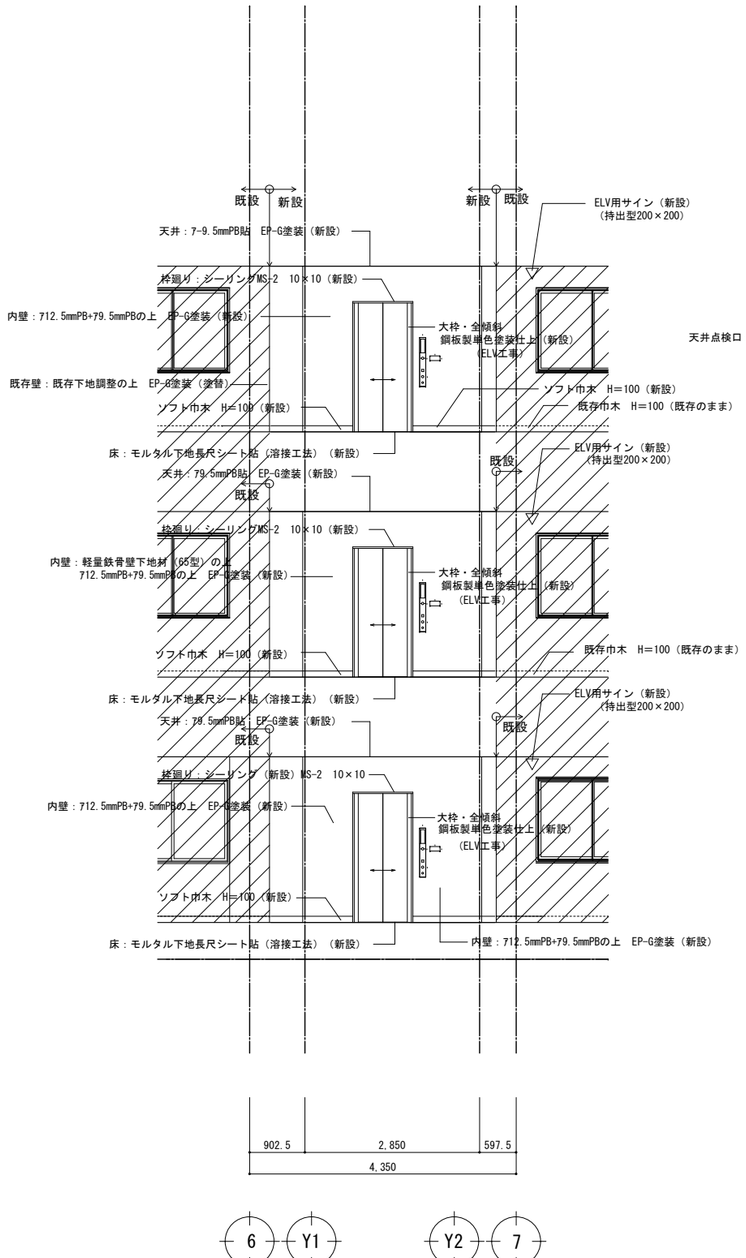


A面展開図　S＝1/50

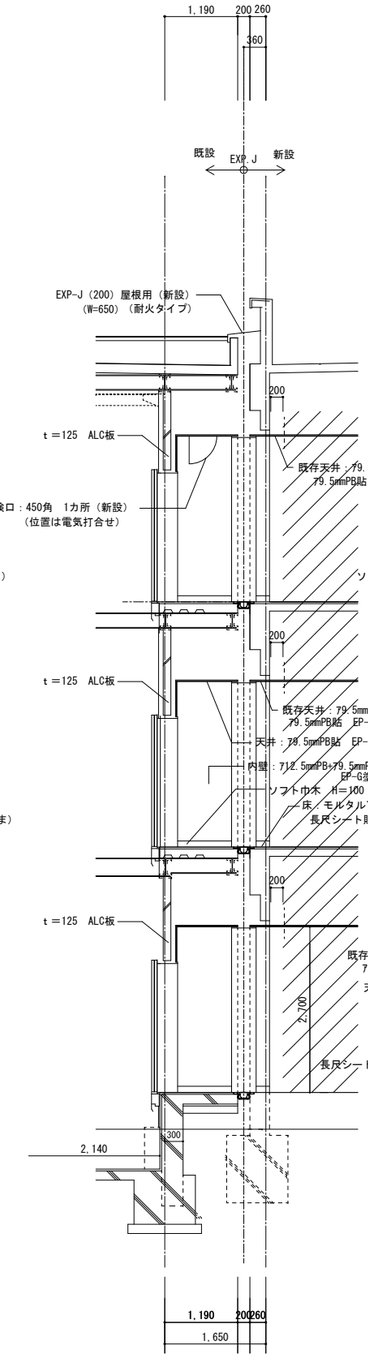
凡例

- ：既存部分を示す。
- ：解体部分を示す。
- ：解体部分を示す。

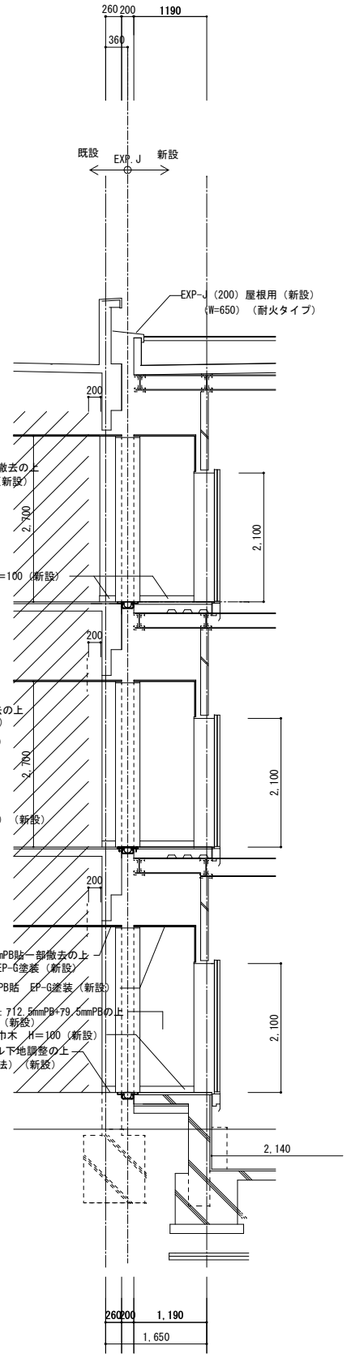
増築後　展開図　S＝1/50



A面展開図　S＝1/50



B面展開図　S＝1/50



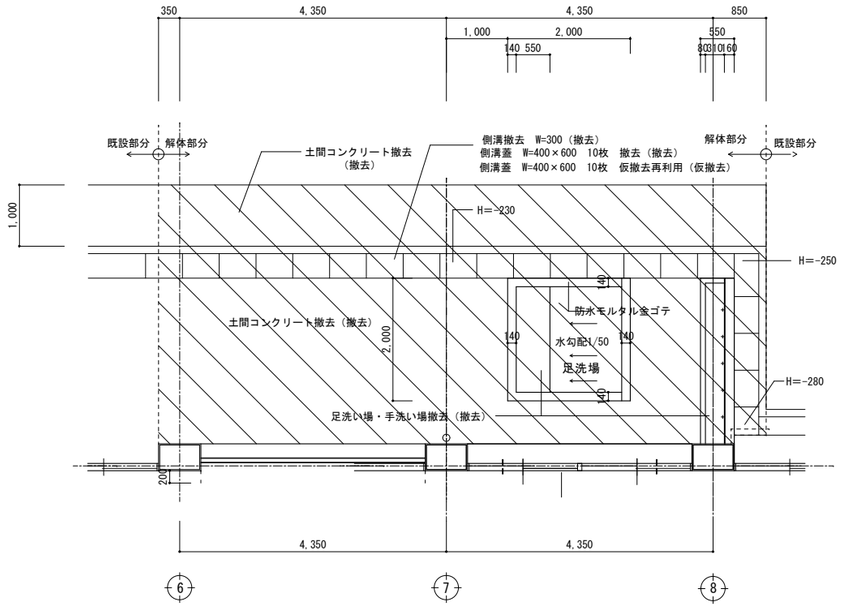
D面展開図　S＝1/50

備考	1. ［　　］で囲われた仕上材は、アスベスト含有建材として取り扱うこと アスベスト含有建材には、石綿が含まれている為「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル」「石綿障害予防規則」等、関係法令を厳守の上、 廃棄物の処理及び清掃に関する法律に従い撤去・収集運搬・処分を行う事。

HA 浜地設計
1級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎

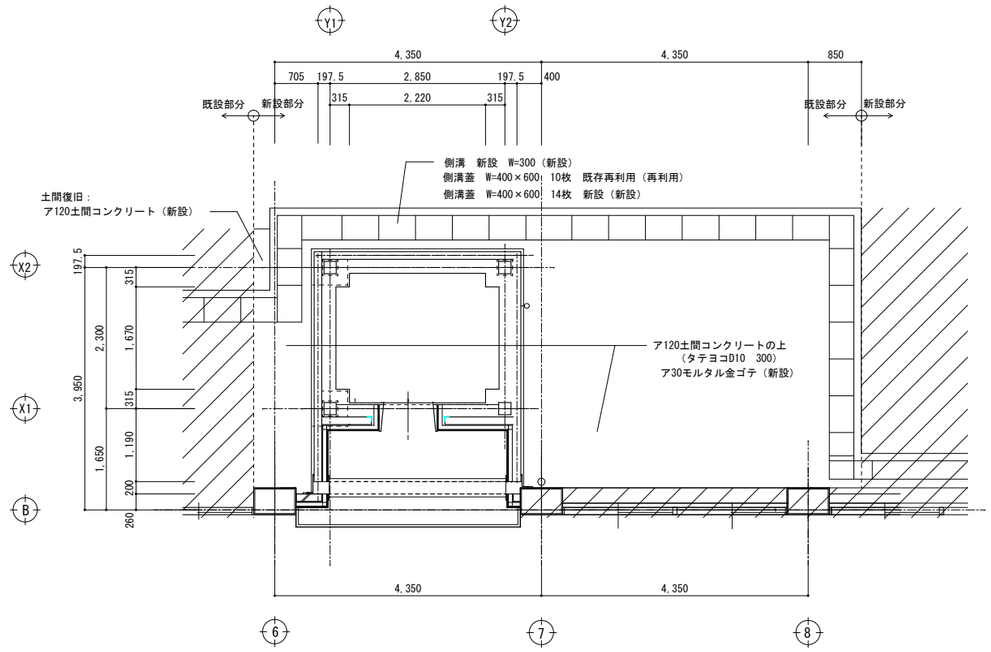
工事名称	阿志岐小学校昇降機設備設置工事	縮尺	図面No.
		A－1　1/50	A－１５
図面名称	既存・増築後　展開図	A－3　1/100	日付 2026.2

既存解体　足洗・手洗　平面・断面詳細図　S＝1/50



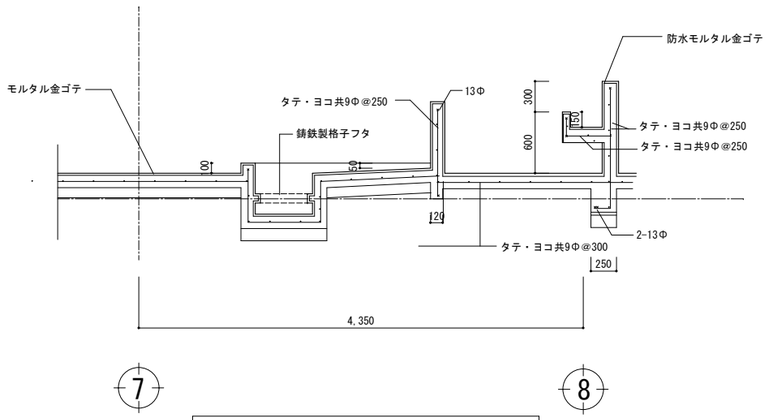
既存　足洗・手洗場平面詳細図　1/50

外構図　復旧図　1/50

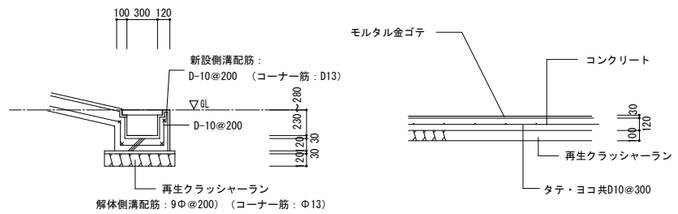


既存　足洗・手洗場平面詳細図　1/30

凡例
- ：既存部分を示す。
- ：解体部分を示す。



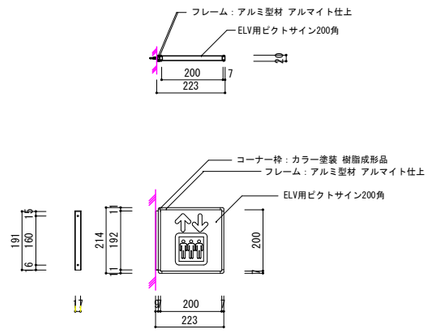
既存　足洗・手洗場断面詳細図　1/30



※　コンクリート強度　21N　スランプ18
※　再生クラッシャーラン

外構図　復旧図　1/30

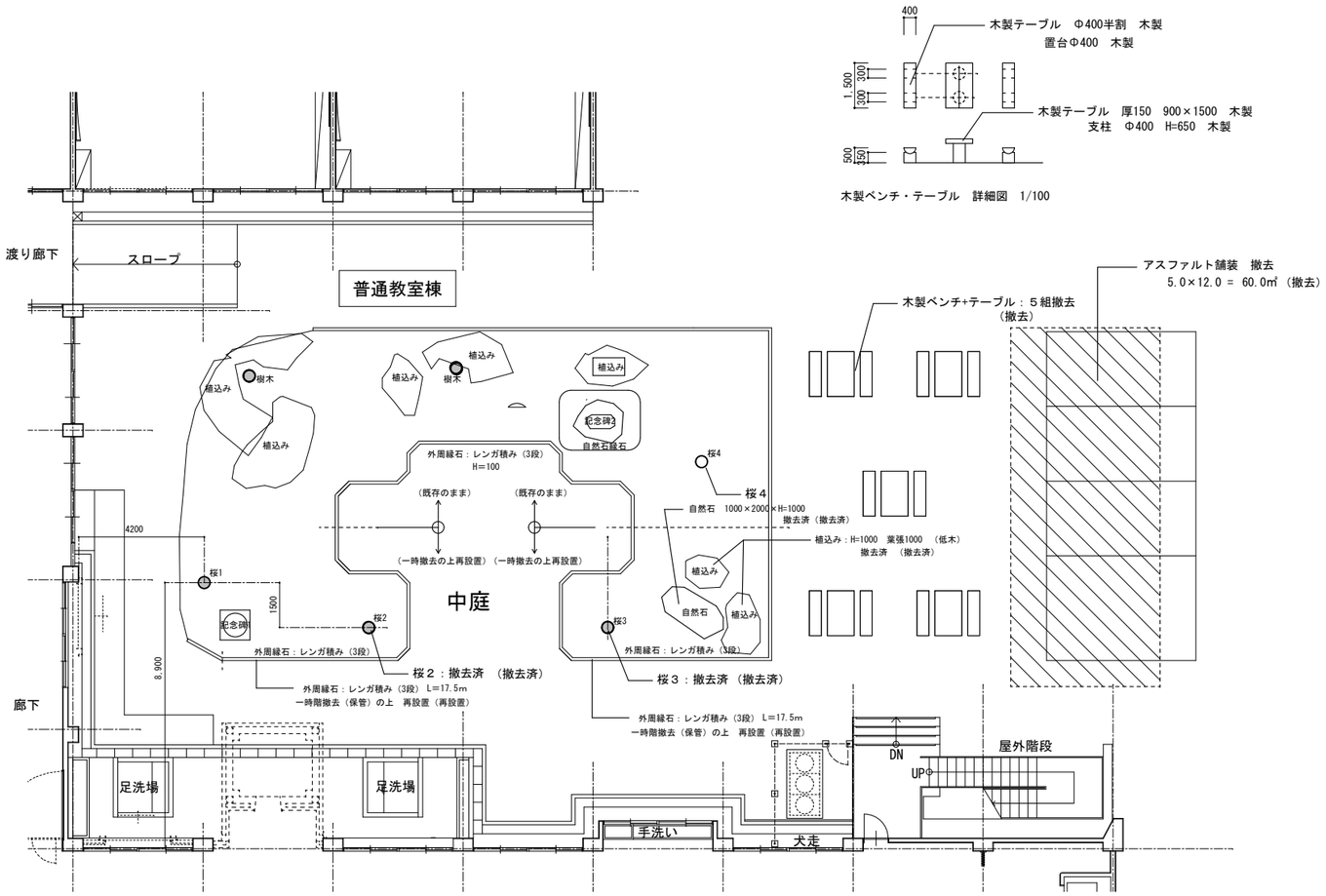
ELV用ピクトサイン200角　1/10



フレーム：アルミ型材 アルマイト仕上

凡例
- ：既存部分を示す。
- ：解体部分を示す。

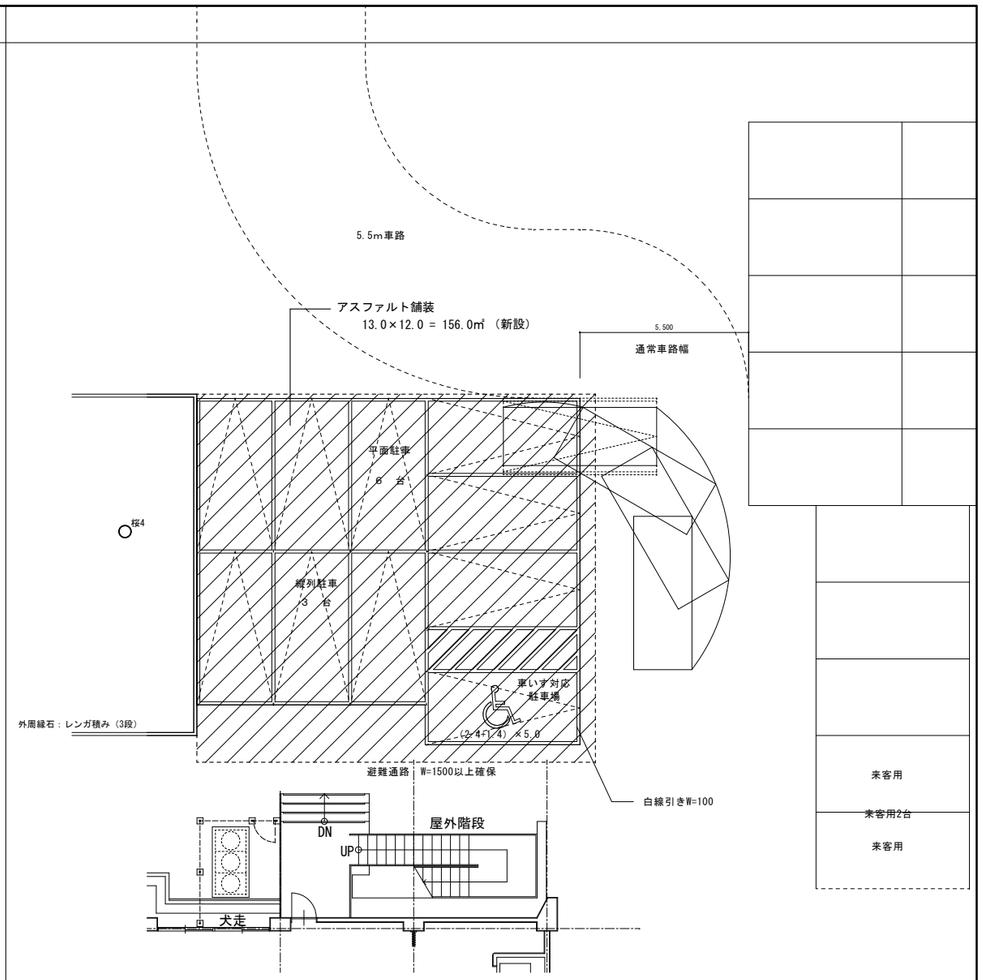
備考					
1級建築士事務所 浜地設計 株式会社	〒814-0133 福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１ 一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号 一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎	工事名称	阿志岐小学校昇降機設備設置工事	A－1　1/30・100	A－１６
		図面名称	雑詳細図・外構図（1）	A－3　1/60・200	日付 2026.2



外構図　施工時養生工事図　1/100

木製ベンチ・テーブル　詳細図　1/100

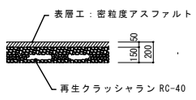
凡例
・▨：解体部分を示す。



外構図　駐車場整備図　1/100

凡例
・▨：新設部分を示す。

アスファルト舗装　廻り詳細図　S=1/30



アスファルト舗装

備考	1級建築士事務所 浜地設計 株式会社	〒814-0133 福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１ 一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号 一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎	工事名称 阿志岐小学校昇降機設備設置工事	縮尺 A－1　1/100	図面No. A－１７
			図面名称 外構図（２）	A－3　1/200	日付 2026.2

ＡＬＣ縦壁ＨＤＲ構法設計施工標準図

ＡＬＣパネル仕様

１ ＡＬＣパネル仕様
JIS A 5416-2007 軽量気泡コンクリートパネル（ＡＬＣパネル）に適合するもの

２ ＡＬＣパネル使用部位およびパネル厚

■外壁
- □ 100厚
- ■ 125厚
- □ 150厚

□間仕切
- □ 75厚
- □ 100厚
- □ 125厚
- □ 150厚

□屋根
- □ 75厚
- □ 100厚
- □ 125厚
- □ 150厚

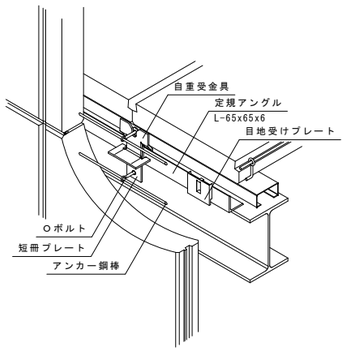
□床
- □ 100厚
- □ 125厚
- □ 150厚

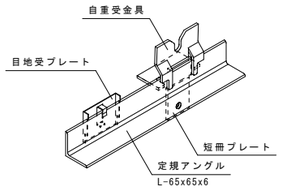
３ ＡＬＣ外壁仕様
(1)パネル取付構法

■縦壁構法
- ■ 縦壁ロッキング構法
  - ■ ＨＤＲ構法
  - □ ロッキンウォール
- □ その他 （ ）

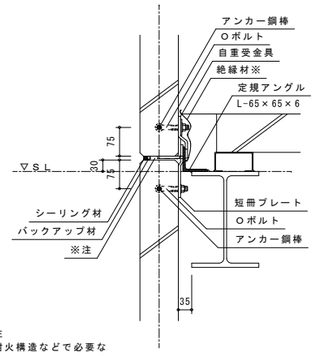
□横壁構法
- □ 横壁ＨＤＲ構法
- □ ボルト止め構法
- □ その他 （ ）

1.構法概要（縦壁ＨＤＲ構法）

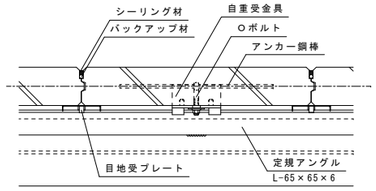




2.一般部

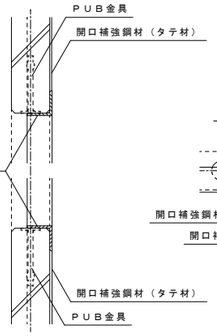


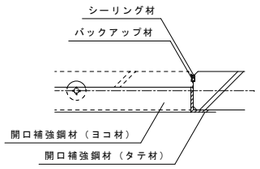
詳細図中
絶縁材：パネルのロッキング機構を
確保するためにパネル内面に
モルタルが接着しないようにする。

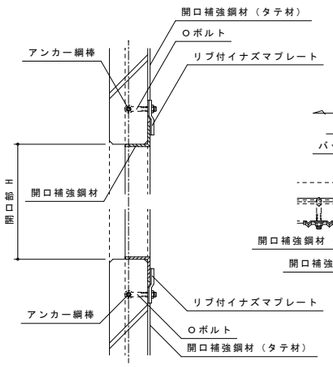


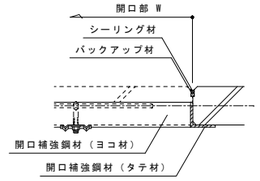
※注
耐火構造などで必要な
場合は、耐火目地材を
充填する。

3.開口部

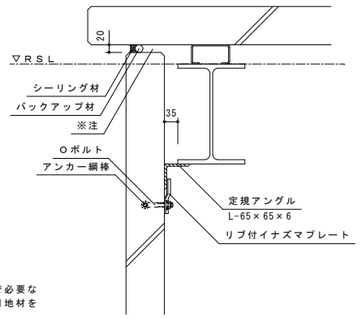






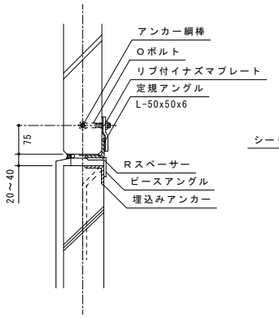


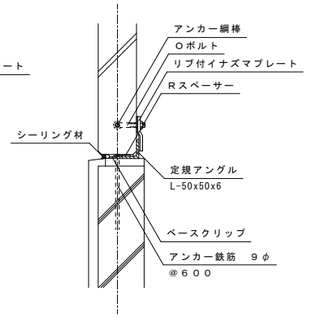
4.軒先部



※注
耐火構造などで必要な
場合は、耐火目地材を
充填する。

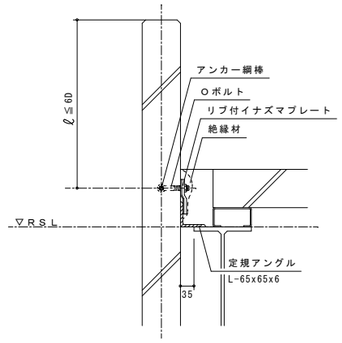
5.布基礎部





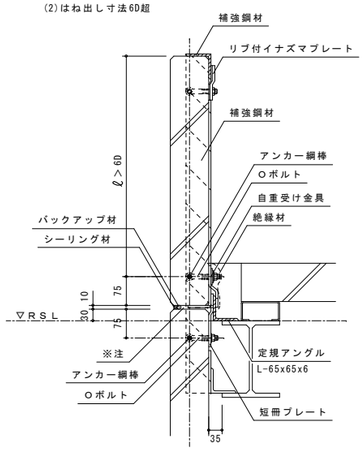
6.パラペット部

(1)はね出し寸法6D以下

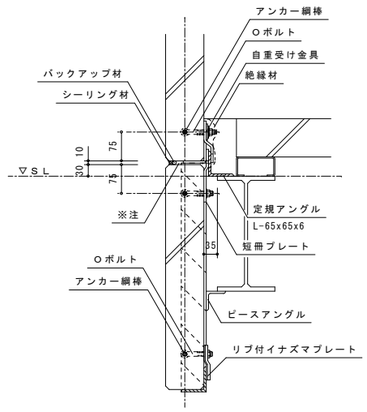


詳細図中
絶縁材：パネルのロッキング機構を
確保するためにパネル内面に
モルタルが接着しないようにする。

(2)はね出し寸法6D超



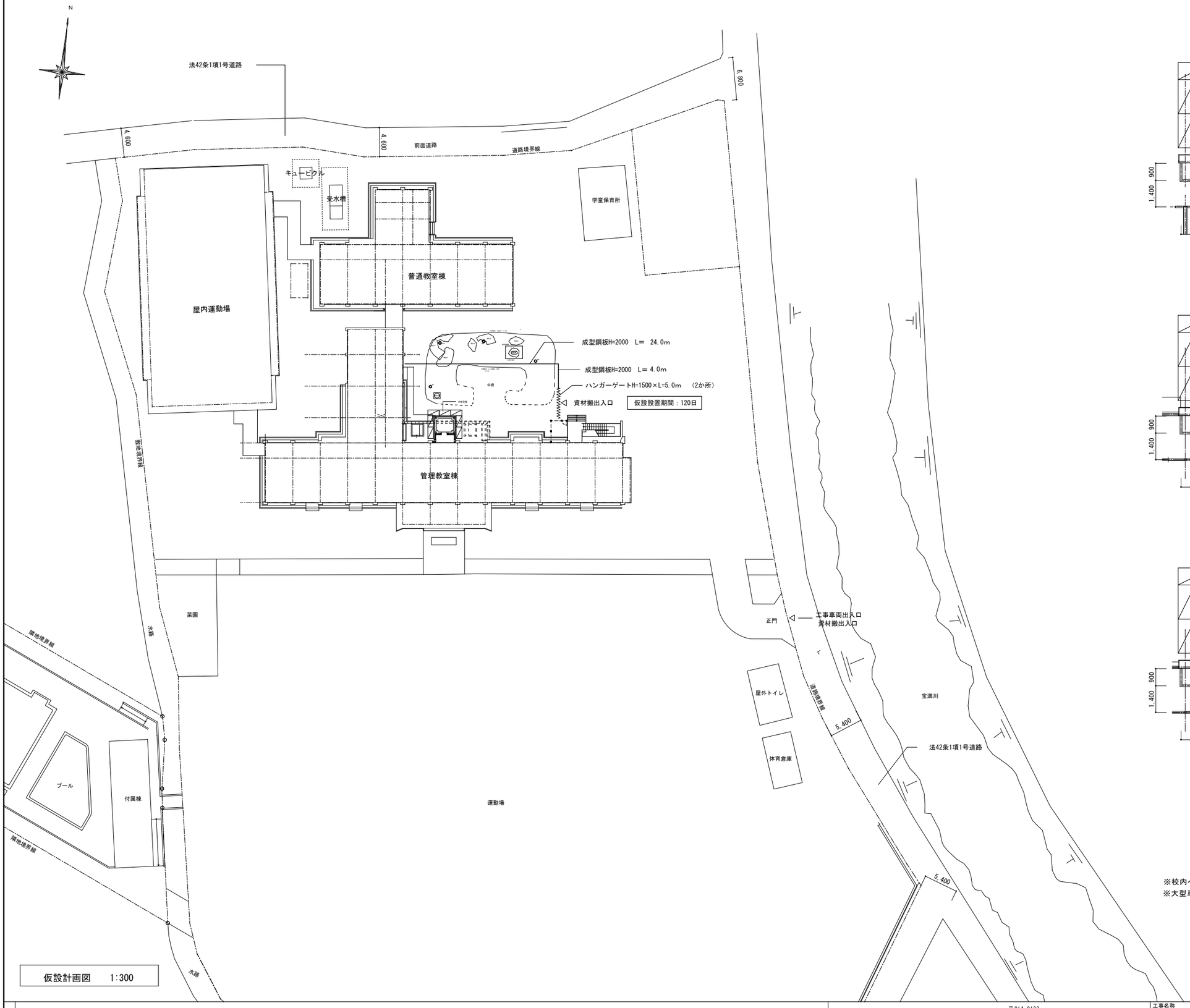
7.下がり壁部



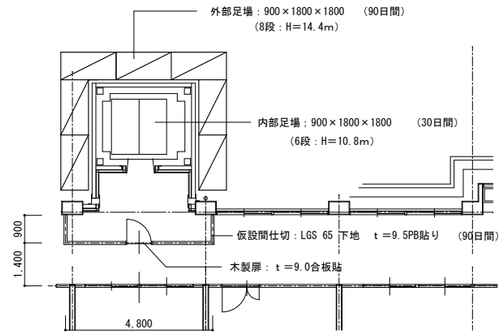
詳細図中
絶縁材：パネルのロッキング機構を
確保するためにパネル内面に
モルタルが接着しないようにする。

（参考図）

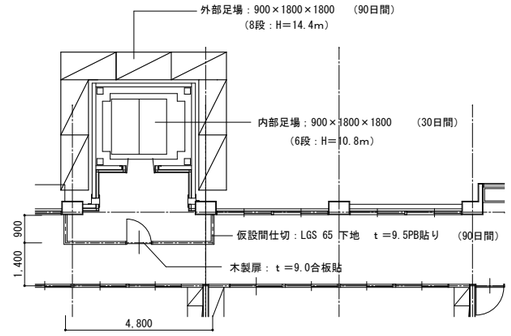
備考	1級建築士事務所 浜地設計 株式会社 〒814-0133 福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１ 一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号 一級建築士　大臣登録第161944号　桒　大二郎	工事名称	阿志岐小学校昇降機設備設置工事	縮尺 A－1 1/100 / 図面No. A－１８
		図面名称	ＡＬＣ縦壁ＨＤＲ構法設計施工標準図	A－3 1/200 / 日付 2026.2



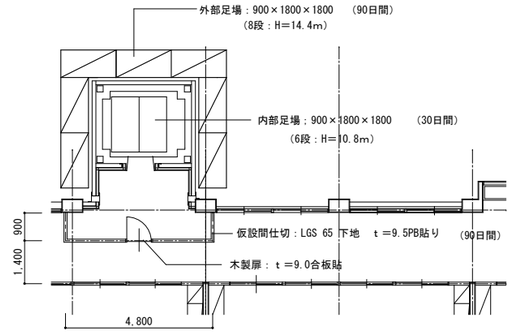
仮設計画図　1:300



1階平面図　1/100



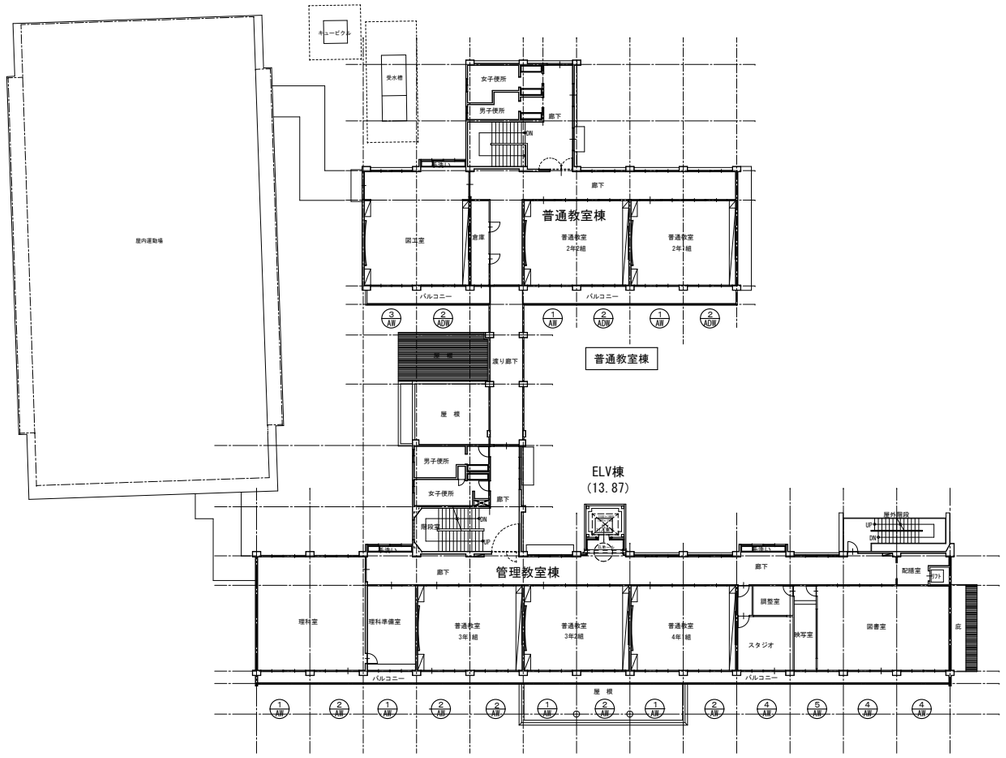
2階平面図　1/100



3階平面図　1/100

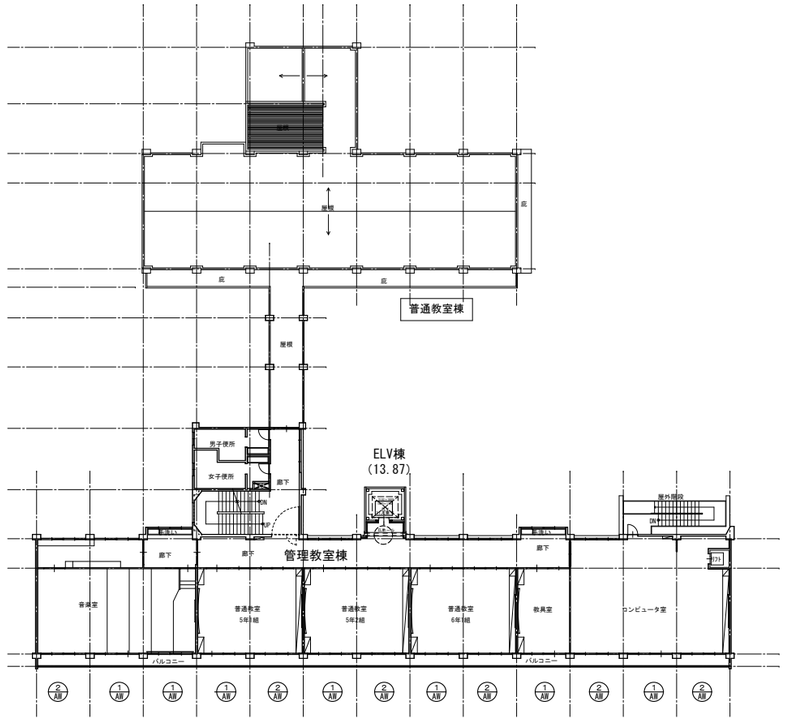
※校内への進入口(学校職員及び関係者、生徒等)は学校側と打ち合わせること。
※大型車両搬入時は交通誘導員を配置し、進入時間帯は学校側と協議すること

備考					
	1級建築士事務所 浜地設計 株式会社	〒814-0133 福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１ 一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号 一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎	工事名称 阿志岐小学校昇降機設備設置工事	縮尺 A-1　1/300・100	図面No. A－１９
			図面名称 仮設計画図	A-3　1/600・200	日付 2026.2



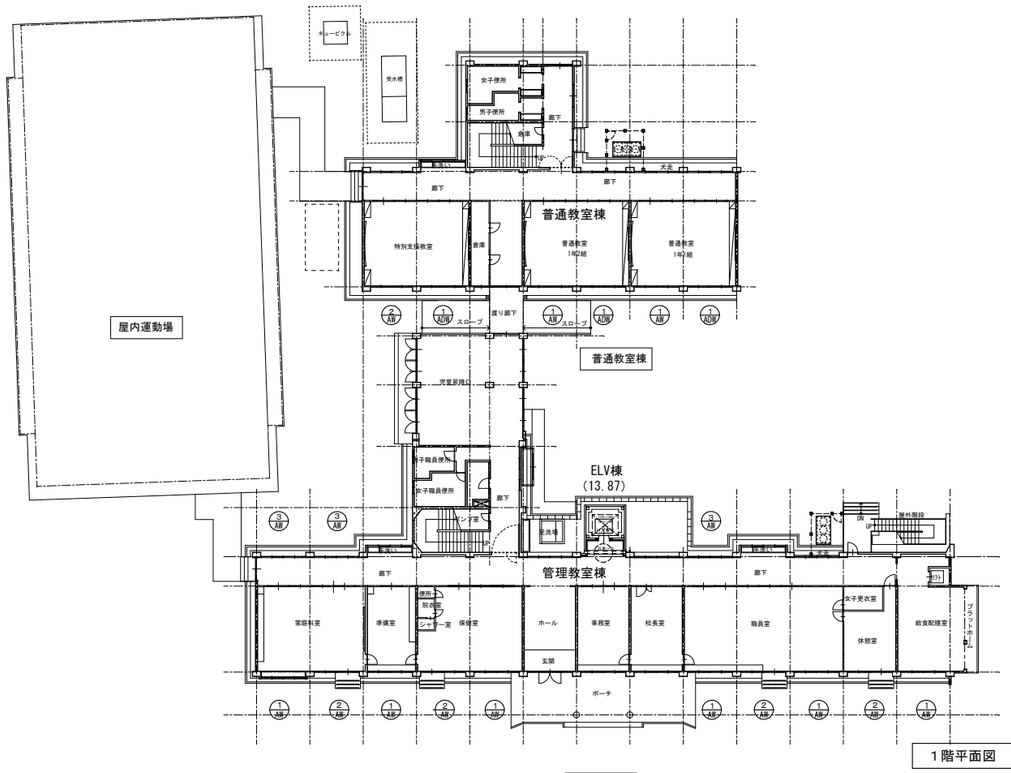
管理教室棟

２階平面図　1:250



管理教室棟

３階平面図　1:250



１階平面図　1:250

管理教室棟

消防法における無窓階の判定		計算式			必要開口面積
２階　校舎棟床面積		995.35		× 1/30	33.18
	記号	開口計算			開口面積
２階　管理教室棟	ＡＷ－１	1.780×1.200/2×2	= 2.13	× 4	8.52
	ＡＷ－２	1.780×1.200/2	= 1.06	× 5	5.30
		1.780×1.900/2	= 1.69	× 5	8.45
２階　普通教室棟	ＡＷ－１	1.725×1.200/2×2	= 2.07	× 1	2.07
	ＡＷ－３	1.575×1.200/2×2	= 1.89	× 2	3.78
	ＡＤＷ－２	1.725×1.900/2	= 1.63	× 3	4.89
	ＡＤＷ－２	1.725×1.200/2	= 1.03	× 3	3.09
			合計		36.10
必要開口面積	33.18	＜ 36.10	・・・・OK		

消防法における無窓階の判定		計算式			必要開口面積
３階　校舎棟床面積		630.61		× 1/30	21.02
	記号	開口計算			
３階　管理教室棟	ＡＷ－１	1.780×1.200/2×2	= 2.13	× 7	14.91
	ＡＷ－２	1.780×1.200/2	= 1.06	× 6	6.36
		1.780×1.900/2	= 1.69	× 6	10.14
			合計		31.41
必要開口面積	21.02	＜ 31.41	・・・・OK		

消防法における無窓階の判定		計算式			必要開口面積
１階　校舎棟床面積		1,155.72		× 1/30	38.53
	記号	開口計算			開口面積
１階　管理教室棟	ＡＷ－１	1.780×1.200/2×2	= 2.13	× 6	12.78
	ＡＷ－２	1.780×1.200/2	= 1.06	× 4	4.24
		1.780×1.900/2	= 1.69	× 4	6.76
	ＡＷ－３	1.780×1.300/2×2	= 2.31	× 3	6.93
１階　普通教室棟	ＡＷ－１	1.725×1.200/2×2	= 2.07	× 2	4.14
	ＡＷ－２	1.725×1.300/2×2	= 2.24	× 1	2.24
	ＡＤＷ－１	1.725×1.900/2	= 1.63	× 3	4.89
	ＡＤＷ－１	1.725×1.200/2	= 1.03	× 3	3.09
			合計		45.07
必要開口面積	38.53	＜ 45.07	・・・・OK		

管理教室・教室棟

	校舎棟　床面積	申請部分	合計
１階	1,141.85	13.87	1,155.72
２階	981.48	13.87	995.35
３階	616.74	13.87	630.61
塔屋	34.05		34.05
合計	2,774.12	41.61	2,815.73

備考

１級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　桑　大二郎

工事名称	縮尺	図面No.
阿志岐小学校昇降機設備設置工事	A－1　1/250	A－２０
図面名称：消防法における無窓階の判定	A－3　1/500	日付：2026.2

仕　様　一　覧

号　機		――
用　途		乗用（車いす仕様）
機　種		Ele Glance（エレ・グランス／機械室レス）JS25
制御方式		インバータ制御方式（電力回生無し）
運転操作方式		乗合全自動方式
積　載		750　ｋｇ　11　名
速　度		45　ｍ／ｍｉｎ
動力用電源		三相３線　210　Ｖ　60　Ｈｚ
照明用電源		単相　100　Ｖ　60　Ｈｚ
巻上電動機		3.1　ｋＷ
停止階及び数		(正面)　1-3　階　3　箇所
		(背面)　階　箇所
かご内法		(間口)　1400　㎜　(奥行)　1350　㎜　(高さ)　2300　㎜
出入口寸法		(間口)　800　㎜　(高さ)　2100　㎜
戸の方式		2枚 両引き（電動式）
荷重条件　※1		250　ｋｇ以下
管制運転	地震時管制運転	●：（P・S波）リスタート運転機能付
	火災時管制運転	●
	停電時自動着床	●
	冠水時管制運転	●
	自家発時管制運転	－
	緊急地震速報連動	－
	長周期地震時管制運転	－
セーフティ機能	カードアボケットセンサー	●
	光電式ドアニック	●：（光電式）
	光電式多光軸ドアセンサー	●
	ドアエッジセンサー	－
	ドアウインカー	－
ユニバーサルデザイン	車いす仕様	●
	音声案内装置	●：四ヶ国語対応（通常時：日英、緊急時：日英中韓）
	福祉対応 視覚障がい者仕様（点字）	●
	聴覚障がい者仕様（応答灯付インターホン呼びボタン）	●
	発音機能付タクタイルボタン	●
	走行お知らせ音	●
	敷居除間 10㎜	●
乗場	三方枠	全階　大枠 鋼板塗装仕上
	幕板	
	扉	全階　鋼板塗装仕上
	遮煙乗場ドア	●：1-3階
	防犯窓	－
	敷居	全階　硬質アルミ製
	乗場意匠機器 表示機器	全階　液晶表示／押ボタン組込
	押ボタン	全階　35φ抗菌樹脂ボタン／非接触呼登録（一体型）
	フェースプレート	全階　ステンレスバイブレーション仕上（樹脂フレーム）
かご	天　井	スタンダードタイプ
	袖　壁	ステンレスヘアライン仕上（入口柱一体）
	入口柱	－
	側　壁	化粧鋼板
	幕　板	化粧鋼板
	扉	化粧鋼板
	幅　木	アルミアルマイト仕上
	床	t=3：ビニールタイル
	敷　居	硬質アルミ製
	換気装置	クロスフローファン
	主操作盤 表示機器	液晶表示／操作盤組込
	押ボタン	35φ抗菌樹脂ボタン／非接触呼登録（一体型）
	フェースプレート	ステンレスヘアライン仕上
	手すり	32φ ステンレス製地仕上（端部・支持部：ステンレスブラスト仕上）
	鏡	標準ステンレス鏡（周囲縁付）
	ガード	－
	保護幕	－
	床マット	●
	ＩＴＶカメラ	●：メンテナンス用（122万画素）

特記仕様		AirTap 非接触ボタン（一般用主操作盤、車いす用操作盤、インジケータ押ボタン）
		非常呼信号 1A
		故障信号 1A
		インターホンボックス
		行先階キャンセル機能
		視覚障がい者用注意銘板
	監視盤	－
高調波対策	EMIフィルタ 常相リアクトル（標準）	－　（回路分類NO.31 換算係数Ki＝3.4）
	標準＋ACリアクトル	－　（回路分類NO.32 換算係数Ki＝1.8）
	標準＋DCリアクトル	●　（回路分類NO.33 換算係数Ki＝1.8）
	標準＋AC・DCリアクトル	－　（回路分類NO.34 換算係数Ki＝1.4）

※1　4輪手押し台車等で荷物を積み込む場合は、台車の重量を含んで、荷重条件以下に分けて積み込みください。

※3　Ele Glance（エレ・グランス／機械室レス）JS25のみ

NEWゴールドメンテナンス契約により有効となる機能

地震管制後の自動診断・仮復旧運転

メンテナンス用カメラによる、遠隔映像監視・遠隔開込救出対応

２４時間リモート点検

NEWゴールドメンテナンスアップデート契約により追加で有効となる機能　※3

メンテナンス用カメラによる録画機能

次回点検日表示（表示機器液晶部に表示）

基本仕様

最寄階救出運転

戸開き不能時救出運転

乗り過ぎ検出（警報ブザー及び音声案内）

各階強制停止運転（各停運転）

昇降機耐震設計・施工指針（２０１６年版）対応

戸開走行保護装置

イオンフル（プラズマクラスター技術搭載／シャープ（株）登録商標）

耐震クラス（　A14 ）

車いす仕様

乗　場	車いす専用乗場ボタン
かご内室	車いす専用かご主副操作盤（主側のみインジケータ付）
	鏡
	手すり
セーフティ機能	戸開放時間の延長
	戸閉速度の低減
	自動着床修正装置
	光電式多光軸ドアセンサー

遮煙エレベータ乗場ドア

認定番号　CAS-1263（国住参建第3170号）

1~3　階　乗場ドアは、上記認定品とする。

認定条件通り　停電時自動着床装置と火災管制運転（自動）を合わせて設置しております。

遮煙エレベータ乗場ドア設置上の注意事項

・遮煙エレベータ乗場ドア設置条件として、建物の火災感知信号をエレベータ制御盤へ供給いただく必要があります。

・建物側で自動火災報知設備の設置義務が無い場合においても、遮煙エレベータ乗場ドア設置階のエレベータホールに煙感知器などの火災感知器を設置の上火災感知信号をエレベータ制御盤へ供給願います。

注意事項

1. 昇降路内に他の用途の配管、ダクトを設けないように願います。
   昇降機に必要な配管設備にあっては、昇降機の機能に支障無きよう願います。
   また、昇降路壁には、エレベータ以外の電気・水道等の配管・器具類を埋め込まないで下さい。
2. エレベータ受電端における電源電圧の変動は±５％以内、照明用は±２％以内、
   電圧不平衡率は５％以内に保つよう電源を設置下さい。
3. 昇降路内温度は４０℃、湿度は月平均９０％・日平均９５％を超えないようにして下さい。
4. 昇降路には有毒ガスや甚だしい塵あい等が入らないようにして下さい。
5. 昇降路および出入口は風雨に直接さらされたり、塩分の影響を受けないようにして下さい。
6. エレベータ機器の搬入に支障のない経路を確保願います。
   （必要に応じてコンクリート孔あけ、および埋戻し工事）
7. 据付工事用仮設電源、試運転用電力、砂、セメント、水等は無償供給願います。
8. 工事現場におけるエレベータ部品、据付材料の保管場所を無償貸与願います。

下記作業については、別途見積りとなります

夜間作業

部分営業中現場への搬入に際し、警備員・誘導員及び道路使用許可を必要とする場合

２階以上の階もしくは地階からの搬入作業

荷下ろし場所から設置・仮置き場所までの距離が３０ｍを超える場合

据付工事短縮を必要とする場合

エレベータをエ事用として使用する場合の検査・清掃・復旧・補修・保守費用

エレベータ据付工事以外で立会いが発生する場合

屋望用エレベータ等で昇降路を養生する必要がある場合

床・壁等に養生を必要とする場合

エレベータ着工前までの出入口開口部の養生材及び養生材設置工事

その他特殊な事情がある場合

※昇降路内温度の制約

下記いずれかの場合は、「換気上有効な開口部、換気設備又は空気調和設備」を設ける必要があります。

・昇降路内温度が40℃を超える場合
（エレベータ機器の発熱や昇降路外からの入射熱等による）

・エレベータ機器発熱量による昇降路内温度上昇が7℃を超える場合

エレベータ機器発熱量 ~~（かご用クーラーなど）~~	437 W
エレベータ機器発熱量による昇降路内温度上昇	7℃以下

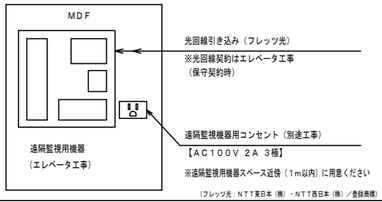
※エレベータ機器の発熱や昇降路外からの入射熱等により、昇降路内温度が40℃を超えないかご確認ください。

遠隔監視・リモート自動点検について

遠隔監視・リモート自動点検は弊社との保守契約（NEWゴールドメンテナンス契約）が必要となります。
また建屋側で下記対応が必要となります。

1）建屋ＭＤＦ内に遠隔監視用機器（エレベータ工事）設置スペースの確保
　・遠隔監視用機器 設置スペース：Ｗ４８０×Ｈ４３０×Ｄ１１０
　・ＭＤＦ内に「ＡＣ１００Ｖ ２Ａ ３極コンセント」の用意

2）遠隔監視用機器への光回線（フレッツ光）引き込み
　・光回線契約はエレベータ工事



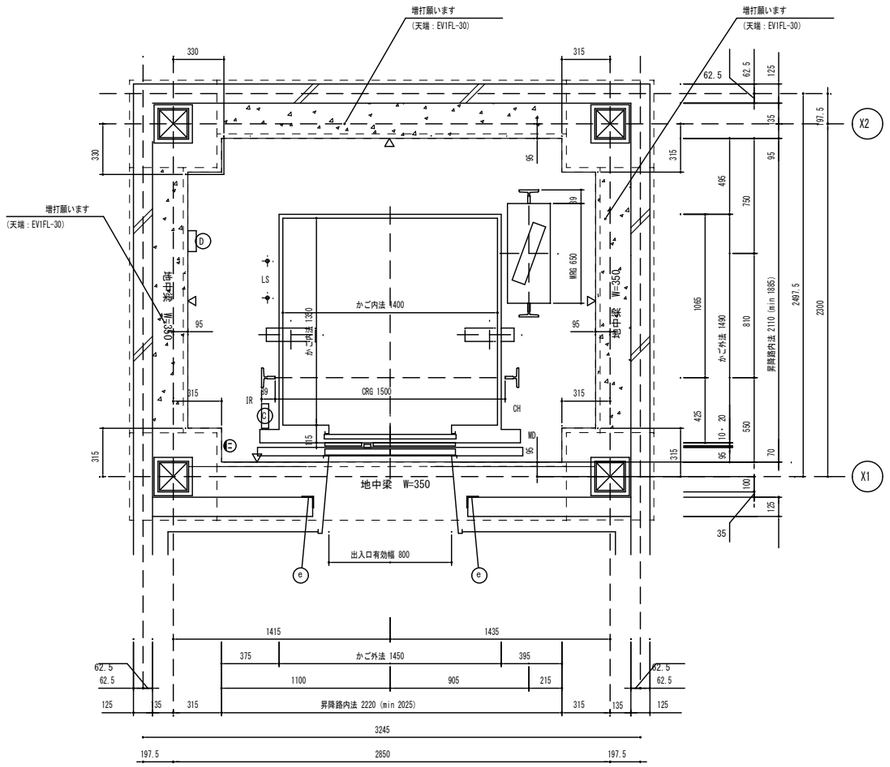
工　事　区　分　表

エレベータ工事内容			建　築	電　気	設　備	昇降機	備　考
昇降路	01	昇降路築造工事、防火区画工事 コンクリート強度は２１Ｎ／㎟　以上とする 昇降路のコンクリート壁厚は　１５０㎜ 以上 昇降路の壁（囲い）は、５ｃｍ の任意の面に直角方向の外力（３００Ｎ）が 作用しても１５㎜を超える変形及び塑性変形を生じない構造とする	○				
	02	ピット防水仕上工事	○				
	03	ピット点検用タラップの設置工事				○	
	04	ピットに段差が有る場合の転落防止対策（金網等）	○				
	05	ピットが法定又は必要寸法より深い場合の埋め戻し工事	○				
	06	ピット下利用がある場合、二重スラブ又はつり合いおもり側の直下部厚壁工事	○				
	07	昇降路が鉄骨構造の場合の鉄骨材の耐火、及び飛散防止処理工事	○				
	08	レール取付用ビーム設置工事	○				
	09	レールブラケット取付用立柱及びファスナープレートの設置工事	○				
	10	昇降路頂部に搬重用吊りフック又は、吊り鋼材の設置工事	○				
	11	昇降路換気設備工事（昇降路・機械室内温度は40℃以下）			○		
	12	昇降路換気設備用配管・配線工事		○			
	13	昇降路に換気設備が設けられない場合の給排気ダクト設置工事			○		
乗場	14	各階出入口の開口工事及び補強（インジケータ・押ボタン等の開口を含む）	○				
	15	各階乗場機器取付用部材（三方枠・敷居・押ボタン等）の設置工事	○				
	16	各階乗場機器取付後の周囲床等の埋め戻し工事	○				
	17	各階乗場機器取付後の周囲壁及び床等の仕上工事	○				
	18	各階三方枠取付後の裏詰め工事並びに耐火処理工事	○				
電気	19	100Ｖ点検用コンセント設備工事（機械室内および昇降路ピット）		○			
	20	昇降路頂部および機械室内の煙感知器設備工事（昇降路内の露出配管は不可）		○			
	21	動力用電源（接地線含む）のエレベータ昇降路または機械室受電盤（制御盤）迄の配管・配線工事		○			
	22	エレベーター遠隔監視用電話回線工事		○			
	23	館内放送（スピーカー）付の場合の信号線引込工事		○			
	24	照明用電源のエレベータ昇降路制御盤迄の配管・配線工事		○			
	25	クーラー用電源のエレベータ昇降路制御盤迄の配管・配線工事		○			
	26	昇降機用インターホン（親機・子機）の設置工事				○	
	27	昇降路外の監視盤関係・インターホン等昇降機に必要な配管・配線工事		○			
	28	昇降機用自家発電源の供給		○			
	29	昇降機の監視盤設置工事				○	
	30	その他信号線の昇降路外配管配線工事		○			
	31	エレベーターと防火シャッター等の連動用接点信号の配管・配線の引込工事		○			
その他	32	地震時非常着床階の避難通路照明及び非常灯設置工事	○				
	33	乗場戸に近接して設ける防火シャッター等の防火区画工事（建設省告示第１１１１号の廃止による）	○				
	34	その他建築に関する工事	○				

備考

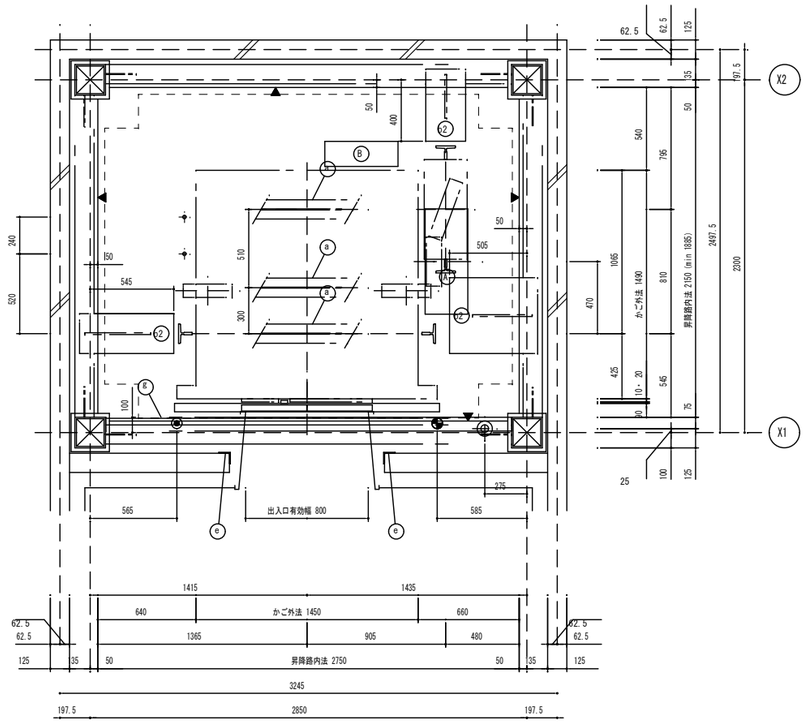
１級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎

工事名称	阿志岐小学校昇降機設備設置工事	縮尺 A－1　－	図面No. A－２１
図面名称	エレベーター詳細図（１）	A－3　－	日付 2026. 2



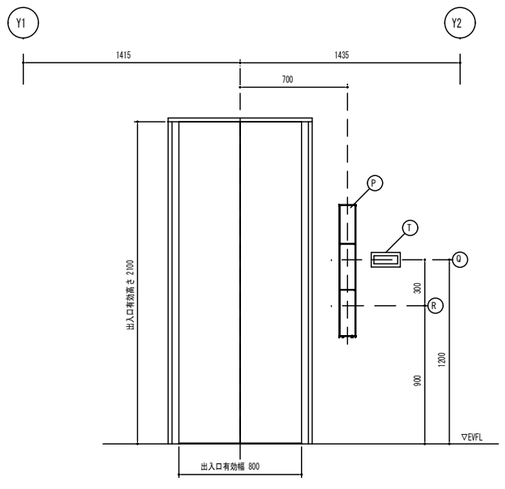
U（1F）昇降路平面図

注：ピット内は、塗膜防水仕上願います。
△：防水仕上面を示す。

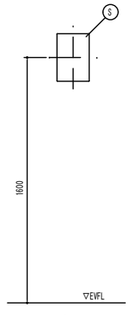


U（2,3F）昇降路平面図

▲：耐火ヒフク面を示す。（t-25）



U（1-3F）出入口正面図

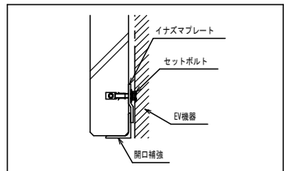


※インターホンボックス取付場所は
別途打ち合わせ願います。

a	20kN 吊りビーム	（建築工事）
b2	PL-16t（12tリブ付）	
e	L-75×75×6	
g	L-90×90×7	

A	巻上機	（EV工事）
B	制御盤	
C	ピットタラップ	
D	地震感知器	

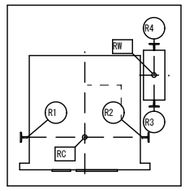
P	インジケータ
Q	一般用押釦芯
R	車いす用押釦芯
S	インターホンボックス
T	視覚障がい者用注意銘板



セットボルトの昇降路内への突出は不可

※突出する場合は昇降路の拡張が必要となる可能性があります。
また、エレベーター用部材の移動が必要となります。

ALCパネル取付金物施工時の注意事項



ピット部反力（ｋＮ）：長期荷重

R1	R2	R3	R4
23	4	41	19

ピット床衝撃力（ｋＮ）：短期荷重

RC	RW
67	57

レールに作用する荷重値　（ｋＮ）

		Ｐｘ	Ｐｙ
Ｐｙ / Ｐｘ	かご	6	3.8
	おもり	7	8.7

短期荷重による建築部材のたわみは
５mm以下としてください

電源設備（１台当たり）　【電気工事】

記号	種別	線種等		引込み高さ	引出し線長さ
	動力用電源	３φ　３Ｗ　ＡＣ　210V　Hz		SFL-2600	6000 mm
		幹線サイズ（mm ²）	3.5 / 5.5 / 8		
		幹線こう長（m）	45 / 70 / 101		
		電気室ブレーカ（Ａ）	30		
		接地線（mm ²）	2		
		電源設備容量（ｋＶＡ）	5		
		全負荷定速時電流（Ａ）	-		
		全負荷加速時電流（Ａ）	-		
		制御盤内洞圧トランス容量（ｋＶＡ）	0.15		
	自家発動力用電源	-			
	照明用電源	１φ　２Ｗ　ＡＣ　100V　Hz			
		照明用電源容量（ｋＶＡ）	1		
	ピットコンセント	ＡＣ１００Ｖ　１０Ａ　１個		1FL-200	
	遠隔監視用配線	別途打合せによる		SFL-2600	1000 mm
	弱電関係用配線			SFL-2600	4000 mm

高調波（高周波ノイズ）への注意事項

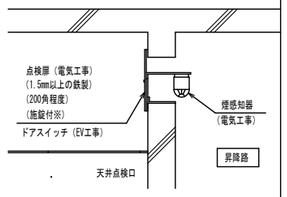
電源側遮断器に漏電遮断器等を設置する場合は、下記対応を実施願います。
1. 漏電遮断器等を設置する場合は「インバータ対応型」とし、
感度電流値は昇降機1台あたり50mA（感度設定値100mA相当）の
漏洩電流として設定下さい。
2. 昇降機と同一電源トランスを使用している機器の漏電遮断器、漏電警報器にも
「インバータ対応型」を使用して下さい。

また高周波漏洩電流と高周波ノイズの影響を低減するため、下記対策を推奨します。
1. 昇降機の動力線と弱電機器の電源・信号線は、平行に配線しないで下さい。
やむを得ず平行配線する場合は、1m以上離して下さい。
2. 昇降機の電源トランスと弱電機器の電源トランスを分離して下さい。
3. 昇降機のアース線と弱電機器のアース線は、各々独立して配線のうえ、接地下さい。
4. 昇降機の昇降路や動力線の近くにラジオや通信機器のアンテナを設置しないで下さい。

備考

１級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎

工事名称	縮尺	図面No.
阿志岐小学校昇降機設備設置工事	A－1　1/20	A－２２
図面名称：エレベーター詳細図（２）	A－3　1/40	日付 2026.2

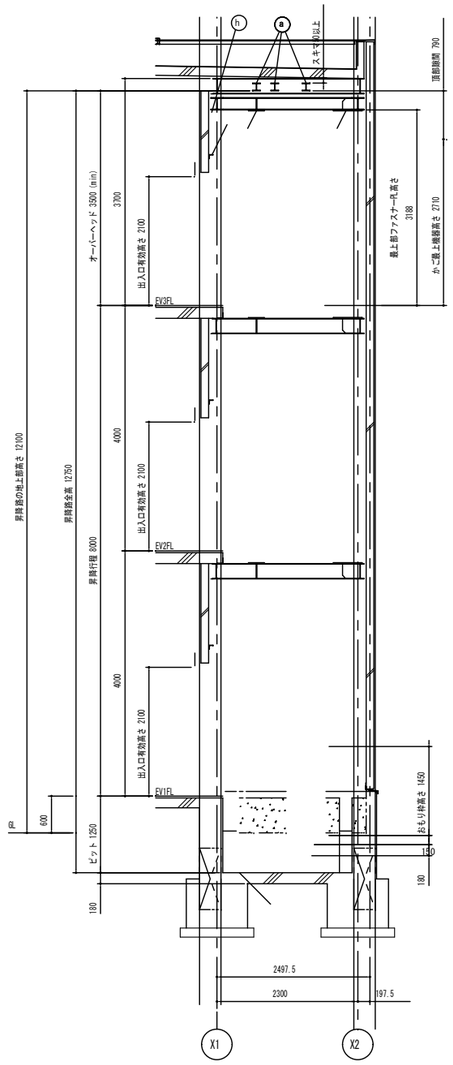


昇降路頂部に煙感知器を設置する場合は外部に引き出した
状態で点検可能なよう施工願います。（建築工事）
点検口の位置は、塔内機器と干渉する恐れがあるため、
事前にご相談下さい。
※施錠は、緩めるのに工具が必要なネジで代用可。

煙感知器の施工例（屋内用）

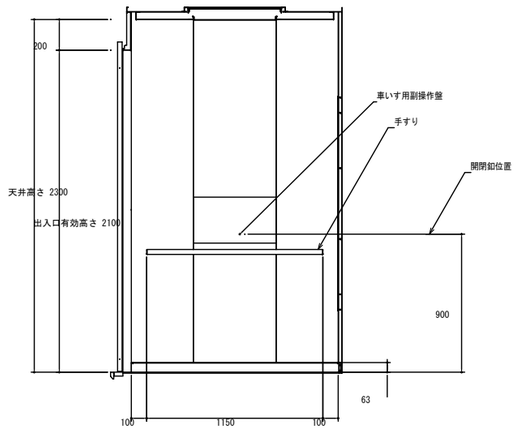
a	20kN 吊りビーム	(建築工事)
b	PL-16t（12tリブ付）	
f	L-65×65×6	
g	L-90×90×7	
h	煙感知器	(電気工事)

E	タラップ	(EV工事)
F	フェッシャープレート	

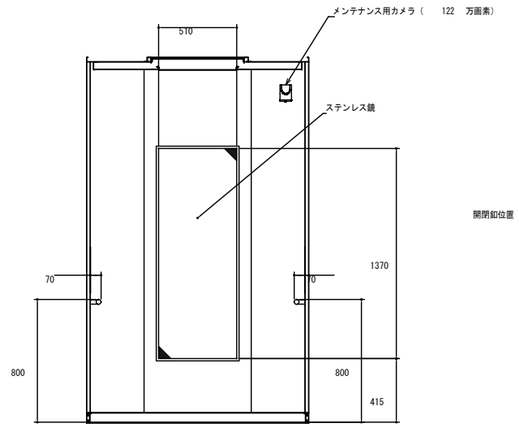


昇降路断面図

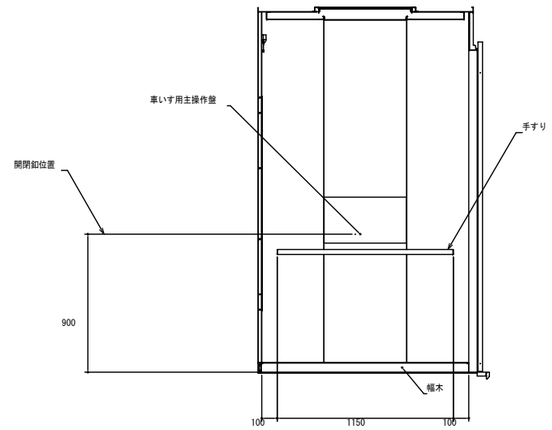
備考	1級建築士事務所 浜地設計 株式会社	〒814-0133 福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１ 一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号 一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎	工事名称 阿志岐小学校昇降機設備設置工事	縮尺 A-1　1/50	図面No. A－２３
			図面名称 エレベーター詳細図（３）	A-3　1/100	日付 2026.2



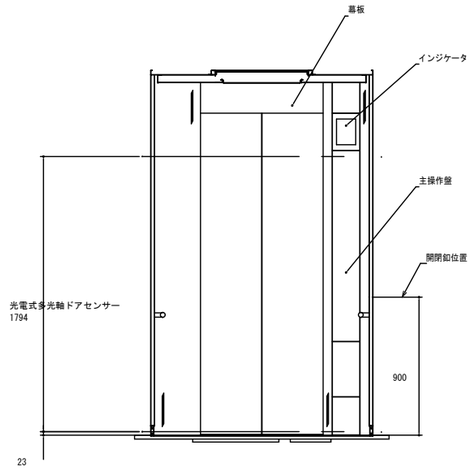
U矢視 A



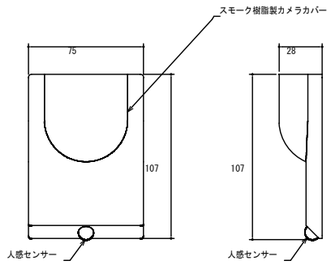
U矢視 B



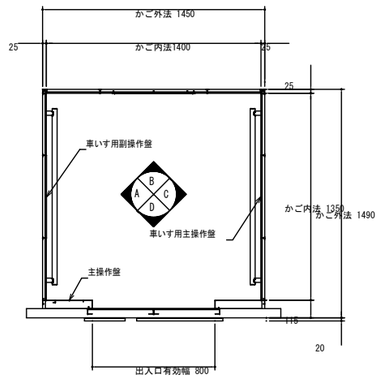
U矢視 C



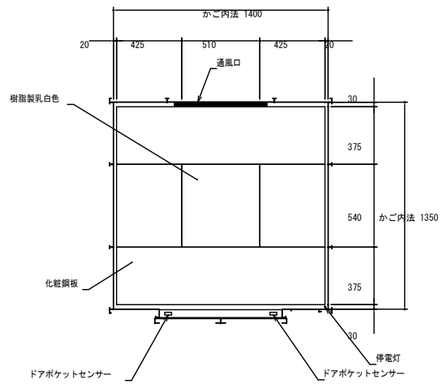
U矢視 D



Uカメラ詳細図



Uかご平面図



U天井見上図

備考	1級建築士事務所 浜地設計 株式会社	〒814-0133 福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１ 一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号 一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎	工事名称 阿志岐小学校昇降機設備設置工事	縮尺 A－1 1/20	図面No. A－２４
			図面名称 エレベーター詳細図（４）	A－3 1/40	日付 2026.2

２０２１年１２月１日　発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

構造設計特記仕様　その1

・修正箇所は下線を引くこと
適用は　●　印を記入する。

1．本仕様の適用範囲

（1）本仕様の適用範囲
本特記仕様および配筋標準図は、設計基準強度が 18 N/mm² 以上 60 N/mm² 以下のコンクリートと、JIS G 3112に規定するSD295、SD345、SD390およびSD490の鉄筋コンクリート用棒鋼を用いる高さが 60 m 以下の鉄筋コンクリート造、鉄骨造等建築物の設計及び工事に適用する。

（2）仕様書等の優先順位
設計図書および仕様書の優先順位は以下による。
①特記仕様
②設計図（伏図、軸組図、部材リスト、詳細図など）
③標準図（鉄筋コンクリート構造配筋標準図など）
④建築工事標準仕様書・同解説（日本建築学会）等

2．建築物の構造内容

（1）建築場所
福岡県筑紫野市大字阿志岐2350番
（2）工事種別
◉新築　□増築　□改築　□　□
（3）構造設計一級建築士の関与　◉必要　□必要としない
◉法第20条第二号　（□RC造高さ 20 m超　□S造 4 階建以上　□木造高さ 13 m超　◉その他 ）
□
（4）階数
地下　階　地上　3 階　塔屋　階
地下　階　地上　階　塔屋　階
地下　階　地上　階　塔屋　階
（5）構造種別

構造種別	該当階等	架構特徴等
□鉄筋コンクリート造　(RC)	基礎　階～　階	□免震建物
□鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC)	階～　階	□制震建物
◉鉄骨造　(S)	1 階～ 3 階	□搭状建物
□		□
□		□
□		□

（6）主要用途
◉エレベーター　□事務所　□共同住宅　□病院　□店舗　□倉庫　□工場
（7）屋上付属物
□キュービクル　kN　□高架水槽　kN　□広告塔　kN　□煙突　m
□太陽光発電設備　□　□　□
（8）設計荷重
(a)主な積載荷重　(N/m²)

室名	床用	架構用	地震用
	※構造計算書参照		

(b)1次設計用地震力
Co = 0.2　Z = 0.8　Rt = 1.0　K（地下）= 0.08
(c)風荷重
地表面粗度区分　Ⅲ　基準風速　Vo = 34　m/sec
(d)雪荷重
◉垂直積雪量　20 cm　◉設計用雪荷重　400 N/㎡　特定緩勾配屋根の割増α＝
(e)特殊の荷重及び仕上材
□エレベーター　kN　基　□受水槽　kN　□エスカレーター
□クレーン　吊荷重　t　基　□　□
（9）構造計算ルート
X方向ルート　3　Y方向ルート　3
（10）一次設計時用層間変形角
X方向　1/150　Y方向　1/150
（11）付帯工事
□門塀　□擁壁　□駐輪場　□機械式駐車場　□
（12）特定天井
□有　◉無
（13）屋根、床、壁

材種	型式　厚　その他	使用箇所	仕様・構法
ALC　(JIS A 5416)	厚 125 mm	◉壁　□床版	□スライド　□ボルト止め
押出し成形セメント版			◉ロッキング　□
□ハーフPca版　□Pca版	厚	□壁　□床版	□
折　版	H=　厚	□屋根 □	□ ハゼ式
特殊デッキプレート大臣認定	型式QL99-50 厚 山上80mm	◉屋根 ◉床版	□

3．使用建築材料表・使用構造材料一覧表

（1）コンクリート　（レディーミクストコンクリート　JIS Q 1001, JIS Q 1011, JIS A 5308）

適用箇所 階	部位	設計基準強度 Fc = N/mm²	品質基準強度 Fq = N/mm²	スランプ cm (スランプフロー)	比重 γ= kN/m³	備考
	□柱　□壁　□梁　□床版　□					
	□柱　□梁　□壁　□床版　□　□					
	□柱　□梁　□壁　□床版　□　□					
R階	□柱　□梁　□壁　◉床版　□　□	21	21	15	23	
3階	□柱　□梁　□壁　◉床版　□　□	21	21	15	23	
2階	□柱　□梁　□壁　◉床版　□　□	21	21	15	23	
1階	□床版　□　◉基礎　◉地中梁	21	21	15	23	
	□ 擁壁　□					
	土間コンクリート	◉　18	18	18	23	※本仕様適用外
	捨てコンクリート	◉　18		18		※本仕様適用外

セメントの種類	◉普通ポルトランドセメント　□中庸熱ポルトランドセメント　□低熱ポルトランドセメント　◉高炉セメント（B種）
細骨材の種類	◉砂　◉山砂　◉砕砂　□
粗骨材の種類	◉砂利　◉砕石　□　□
水の区分	◉水道水　◉地下水　□工業用水　□
構造体コンクリート強度を保証する材齢	材齢（◉28日　□56日　□91日　□　） 養生（◉標準　□現場水中　□現場封かん　□　）
単位水量	◉185 kg/m³以下　□175 kg/m³以下　□
単位セメント量	◉270 kg/m³以上　□　□
混和剤	◉AE減水剤　◉高性能減水剤　□ □　□　□
空気量	◉4.5 % 以下　□3.0 % 以下　□
塩化物量	◉0.3 kg/m³以下　□　□
水セメント比	◉65 % 以下　□50 % 以下　□

（2）コンクリートブロック　（□JIS A 5406）
□A種　□B種　□C種　厚　□100　□120　□150　□190　使用箇所（□　□　）
（3）鉄　筋

鉄筋	種類	使用径mm	使用箇所	備考
異形鉄筋 (JIS G 3112)	◉SD295	D16以下	基礎、地中梁、デッキ床、土間	◉重ね継手
	◉SD345	D19～D25	基礎、地中梁	□ガス圧接継手
	□SD390	D29以上		□溶接継手
	□SD490			□機械式継手
	□			□
	□			□機械式定着工法
高強度せん断補強筋	□685			□大臣認定番号 MSRB-
	□785			
	□1275			
	□			
溶接金網 (JIS G 3551)	◉	φ6	デッキ床	
	□			

注1）SD490をガス圧接する場合は施工前に試験を行うこと。
注2）各継手の使用詳細については本仕様その2の9.(2)鉄筋の項の鉄筋継手の項に■にて表示すること。
（4）鉄　骨

種類			使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号等
□SN400A	◉SN400B	□SN400C	大梁	□有 ◉無	JIS G 3136
◉SN490B	◉SN490C	□	大梁・ダイヤフラム	□有 ◉無	JIS G 3136
◉SS400	□SS490	□	大梁・小梁 ALC定規アングル	□有 ◉無	JIS G 3101
□SM400A	□SM490A	□		□有 □無	JIS G 3106
◉BCR295	□BCP235	□BCP325	柱	□有 ◉無	大臣認定品 認定番号 MSTL-
□TSC295	□UBCR365	□JBCR385		□有 □無	大臣認定品 認定番号 MSTL-
□STKR400	□STKR490	□		□有 □無	JIS G 3466
□SSC400	□	□		□有 ◉無	JIS G 3350
□STK400	□	□			
溶接材料	□	□			JIS Z

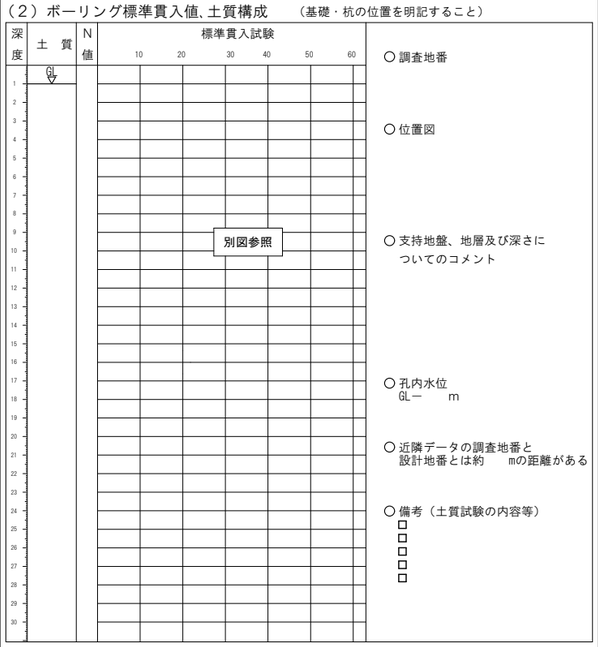
（5）ボルト等
◉高力ボルト
◉F10T(JIS B1186)　◉S10T 大臣認定番号（　）　（◉M16、◉M20、□M22、□M24、□　）
◉溶融亜鉛めっき高力ボルト F8T 大臣認定番号（　）（◉M16、◉M20、□M22、□M24、□　）
□
◉ボルト(JIS B1180)　M16　M12　◉4.8(4T)　□　□
◉アンカーボルト（構造用アンカーボルト）　HIBASE NEO 工法に準ずる。※特記仕様書参照
□SS400　M　L=　mm　ナット（□シングル、□ダブル）
□ABR400　M　L=　mm　ナット（□シングル、□ダブル）(JIS B 1220)
□ABR490　M　L=　mm　ナット（□シングル、□ダブル）
□頭付スタッド(JIS B1198)
φ=　L=　mm　使用箇所（□柱　□大梁　□小梁）
φ=　L=　mm　使用箇所（□柱　□大梁　□小梁）

4．地　盤

（1）地盤調査資料と調査計画
◉有　（◉敷地内　□近隣）　□無　（調査計画　□有　□無）

調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	○		静的貫入試験			標準貫入試験	○	
水平地盤反力係数の測定			土質試験	○		物理探査		
試験堀（支持層の確認）			平板載荷試験			液状化判定	○	
スウェーデン式サウンディング			現場透水試験			ＰＳ検層		

注）上記表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに○を記入する。
（2）ボーリング標準貫入値、土質構成　（基礎・杭の位置を明記すること）



注）地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

5．地業工事

（1）直接基礎　□ベタ基礎　□布基礎　□独立基礎　試験堀　□有　□無
深さ GL－　m、支持層－　、長期許容支持力度　kN/m²　載荷試験　□有　□無
（2）地盤改良　□浅層混合処理工法　□深層混合処理工法　□
深さ　GL－　m、長期許容支持力度　kN/m²　載荷試験　□有　□無
注）「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2018」を参考とする
（3）杭基礎
◉支持層の想定深度分布図を作成し、杭と支持層の関係を確認する。
◉施工計画書に施工時における試験杭と本杭の支持層の確認方法を明記する。
◉支持層の確認結果を施工結果報告書にまとめる。

杭種	材料	施工法	備考
□場所打ち コンクリート杭	コンクリートFc　N/mm² スランプ　cm以下 セメント量　kg/m³ 単位水量　kg/m³	□オールケーシング □リバースサーキュレーション □アースドリル □拡底杭　□拡頭・拡底杭 □鋼管補強杭　□ □深礎（□手堀　□機械堀）	認定 第　号 年　月　日

既製杭・杭種	種類	材料	施工法	備考
□PRC	□Ⅰ種 □Ⅱ種 □Ⅲ種 □	鋼材◉	□埋め込み	国住参建第2449号
□PHC	□A種　□B種　□C種　□	鋼材□	□打ち込み	令和4年2月7日
◉鋼管	◉ スクリューパイルEAZET	コンクリート□FC85	◉回転式	認定番号
□SC	□	コンクリート□FC105	□	第 TACP-0635 号

杭仕様　◉施工計画書承認　□杭施工結果報告書
試験杭　（◉有・□無）　（□打ち込み・□載荷・□孔壁測定）

杭径(mm)	設計支持力(kN)	杭の先端の深さ(m)	本数	特記事項
216.3mm	420kN(長期鉛直)	GL-8.0m	4本	

6．鉄骨工事（施工方法等計画書）

（1）鉄骨工事は指示のない限り下記による
◉　日本建築学会「ＪＡＳＳ６ 2018年版」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
◉　一社）日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
◉　鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」
（2）工事監理者の承認を必要とするもの
◉製作工場　◉製作要領書　◉工作図　◉施工計画書
◉認定または登録工場（大臣認定　S　H　(M)　R　J　グレード　都登録　T1　T2　T3　ランク）
◉材料規格証明書※、または試験成績書
◉鋼材　◉高カボルト　□特殊ボルト　□頭付スタッド
※一社）日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。
◉社内検査表　□　□
（3）工事監理者が行う検査項目
（■印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）
◉現寸検査　◉組立・開先検査　◉製品検査　◉建方検査　□
（4）接合部の溶接は下記によること
◉　平成12年建設省告示第1464号第二号 イ、ロ
□　鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱
◉　日本建築学会「溶接工作規準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」
◉　日本建築学会「鉄骨工事技術指針　工事現場施工編」
（5）接合部の検査
◉　溶接部の検査（検査結果は工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 工場自主検査	第三者受入検査	工事監理者	備考
◉完全溶込み溶接部（突合せ溶接）□	外観検査（※）	100 % 個	30 % 個	30 % 個	※平成12年建設省告示第1464号第二号による（目視及び計測）（注）東京都の要綱に基づき必要となる建築物の場合に実施する
	超音波探傷検査	100 % 個	30 % 個	30 % 個	
	内質検査(注) □硬さ試験	% 個	% 個	% 個	
	内質検査(注) □示温塗料塗布	% 個	% 個	% 個	
	マクロ試験・その他	個	個	個	
◉ 隅肉溶接	外観検査（※）	100% 個	100% 個	30% 個	
第三者検査機関名		（知事登録　号）			

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

注１）現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと
注２）知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること
◉高力ボルトの検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）
軸力導入試験　□要　◉否　高力ボルトすべり係数試験　□要　◉否
◉一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常が無いことを確認する。
◉トルシア形高力ボルトは二次締め後、マーキングのずれとピンテールの破断を確認する。
（6）防錆塗装
◉防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。
錆止めペイントは、□JIS K 5621、◉JIS K 5674、□JIS K 5551、□　（フォースター　F☆☆☆☆）を使用し、２回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。
◉現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し、２回塗りとする。
（7）耐火被覆の材料
◉吹付ロックウール t=25mm

7．設備関係

施行令第129条の2の3において、下記の項目に対し、構造設計1級建築士が関与されているかどうか確認
＊建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
◉　建築設備の構造および構造体への緊結部分は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
◉　建築設備の支持構造部および緊結金物には、錆止め等、防腐のための有効な措置を講じること。
□　建築物に設ける屋上からの突出する水槽・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。
□　煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造とすること。
◉　設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。
◉　設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。
□　エレベーター・エスカレーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。
また、地震時の層間変形に追従できること。
◉　特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。
◉　床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの１／３以下とし管の間隔を管径の３倍以上かつ５ｃｍ以上を原則とする。
□　給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること

8．その他

◉　諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
◉　各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
◉　必要に応じて記録写真を撮り保管すること。
□　六価クロム溶出試験
・配合設計の段階で実施する環境庁告示第46号溶出試験とする。

一級建築士　大臣登録　第237250号　猪又　忠彦
構造設計一級建築士　第5517号

備考

１級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎

工事名称	縮尺	図面No.
阿志岐小学校昇降機設備設置工事		Ｓ－０１
図面名称：新 構造設計特記仕様書(1)	A－3　NONSCALE	日付 2026.1

新 構造設計特記仕様　　その２

・修正箇所は下線を引くこと
適用は　■　印を記入する。

９．鉄筋コンクリート工事

（１）コンクリート

鉄筋コンクリート工事の施工に関しては記載無きは、JASS 5 2018 による。

(a) コンクリートの仕様

本仕様書では、JASS 5に規定する普通骨材を用いた一般仕様のコンクリートを「普通コンクリート」と定義し、表9.1に示す様に設計基準強度が36N/mm^{2}以下のコンクリートについてはJASS5の3節～11節を適用し、36N/mm^{2}を超えるコンクリートについてはJASS5の17節（高強度コンクリート）を適用する。また、設計基準強度もしくは品質基準強度と構造体強度補正値から定める調合管理強度以上とし、発注するレディーミクストコンクリートの呼び強度が表9.2に示すJIS規格外となる場合は、法第37条の大臣認定を受けた製品を用いる必要がある。
軽量コンクリートについてはJASS 5の14節によること。

表9.1　コンクリート圧縮強度(N/mm^2)に応じた仕様書の使い分け

設計基準強度 Fc	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60
JASS 5での区分	普通コンクリート							高強度コンクリート							

表9.2　レディーミクストコンクリートのJIS規格品

調合管理強度(N/mm^2)	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60	60超
呼び強度(JIS規格品)	21	24	27	30	33	36	40	42	45	50	55	55	60	60	※

※印は規格外

(b) 品質と施工

□　構造体の計画供用期間の級は特記による。特記が無い場合は標準とする。
　□　標準　　□　長期　　□　超長期
（本仕様書では計画供用期間の級は、「短期」を想定していない。）

◙　コンクリートは JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）に適合するJIS認証工場の製品とする。

□　設計基準強度が 36 N/mm^{2}を超えるコンクリートを扱うレディーミクストコンクリート工場は、「高強度コンクリート」の製品認証を受けているか、建築基準法第37条第二号によって国土交通大臣が指定建築材料として認定した高強度コンクリートの製造工場とする。

◙　レディーミクストコンクリート工場および高強度コンクリートを打設する施工現場には、コンクリート主任技士またはコンクリート技士、あるいはこれらと同等以上の知識経験を有すると認められる技術者が常駐していなければならない。

◙　施工者は、工事に先立ち、コンクリートの調合・製造計画、施工計画、品質管理計画書を作成し、工事監理者の承認を得ること。

◙　フレッシュコンクリートの流動性は、スランプまたはスランプフローで表し、設計基準強度が 36 N/mm^{2}以下 33 N/mm^{2}以上の場合スランプ21cm以下、33 N/mm^{2}未満の場合スランプ18cm以下とし設計基準強度が36 N/mm^{2}超 45 N/mm^{2}未満の場合はスランプ 21 cm以下またはスランプフロー 50 cm以下、設計基準強度が 45 N/mm^{2}以上の場合はスランプ 23 cm以下またはスランプフロー 60 cm以下とし、特記による。

◙　コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量として 0.3 kg/m^{3}以下とする。

◙　コンクリートの練混ぜから打込み終了までの時間は，原則として外気温が25℃未満の時は120分、25℃以上の時は90分とする。

◙　コンクリート打込み時の自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。

◙　打継ぎ部は構造的に影響の少ない位置を選び打継ぎ処理を行い、打込み前に十分な水湿しを行う。

◙　コンクリートの打込み中、及び、打込み後5日間はコンクリートの温度が2度を下回らないようにし、セメントの種類に応じて湿潤養生する。

(c) 調合および構造体コンクリート強度

◙　コンクリートの強度を求める強度試験は、JIS A 1108（コンクリートの圧縮強度試験方法）もしくはJIS A 1107（コンクリートからのコアの採取方法）による。

ｉ）高強度コンクリート

□　調合強度を定めるための基準とする材齢は、特記による。特記のない場合は 28日とする。

□　構造体コンクリート強度を保証する材齢は、特記による。特記のない場合は 91日とする。

□　構造体コンクリート強度は、次の①または②を満足するものとする。
　① 標準養生した供試体による場合、調合強度を定めるための基準とする材齢において調合管理強度以上とする。
　② 構造体温度養生した供試体による場合、構造体コンクリート強度を保証する材齢において設計基準強度に 3 N/mm^{2}加えた値以上とする。

□　調合管理強度は、以下による。
　$_{H}F_m = F_c + mS_n$ (N/mm^2)
　　$_{H}F_m$ ： 高強度コンクリートの調合管理強度　(N/mm^2)
　　F_c ： コンクリートの設計基準強度　(N/mm^2)
　　mS_n ： 高強度コンクリートの構造体強度補正値で JASS 5 による。

□　調合強度は標準養生供試体の圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。
　$_{H}F \geqq {}_{H}F_m + 1.73\sigma_H$　(N/mm^2)
　$_{H}F \geqq 0.85\,{}_{H}F_m + 3\sigma_H$　(N/mm^2)
　　$_{H}F$ ： 高強度コンクリートの調合強度　(N/mm^2)
　　σ_H ： 高強度コンクリートの圧縮強度の標準偏差　(N/mm^2)　で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績がない場合は、0.1($F_c + mS_n$)とする。

ⅱ）普通コンクリート

◙　調合を定めるための基準とする材齢は、原則として 28日とする。

◙　構造体コンクリート強度は表9.3を満足すれば合格とする。

表9.3　構造体コンクリートの圧縮強度の判定基準

供試体の養生方法	試験材齢(1)	判定基準
標準養生(2)	28 日	X ≧ F_m
コ　　ア	91 日	X ≧ F_q

ただし、X :1回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値（N/mm^2）
　　F_m:コンクリートの調合管理強度（N/mm^2）
　　F_q:コンクリートの品質基準強度（N/mm^2）

[注] (1)早い材齢において試験を行い、合否判定基準を満たした場合は、合格とする。
　　(2)工事監理者の承認を得て、供試体成型後、翌日までは20±10℃の日光および風が直接当らない箇所で、乾燥しないように養生して保管することができる。

＊ 標準養生供試体の代わりにあらかじめ準備した現場水中養生供試体によることができる。
その場合の判定基準は材齢28日までの平均気温が20℃以上の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であり、平均気温が20℃未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3 N/mm^{2}を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

＊ コア供試体の代わりにあらかじめ準備した現場封かん養生供試体によることができる。
その場合の判定基準は材齢28日を超え91日以内のn日において3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3 N/mm^{2}を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

◙　調合管理強度は、以下による。
　$F_m = F_q + mS_n$ (N/mm^2)
　　F_m ： コンクリートの調合管理強度　(N/mm^2)
　　F_q ： コンクリートの品質基準強度　(N/mm^2)
　　mS_n ： 標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度と構造体コンクリートの n 日における圧縮強度の差による構造体強度補正値 (N/mm^2)

◙　調合強度は標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。調合強度を定める材齢 m 日は、原則として 28 日とする。
　$F \geqq F_m + 1.73\sigma$　(N/mm^2)
　$F \geqq 0.85\,F_m + 3\sigma$　(N/mm^2)
　　F ： コンクリートの調合強度 (N/mm^2)
　　σ ： 使用するコンクリートの圧縮強度の標準偏差(N/mm^2) で、レディミクストコンクリート工場の実績による。実績のない場合は 2.5N/mm^2、または 0.1Fm の大きい方の値とする。

(d) 検査

◙　フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（一財）国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し、工事監理者の承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合 1 日 1 回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。

◙　スランプの許容差は普通コンクリートの場合、スランプが 8cm以上18cm以下の場合±2.5cm、21cmの場合±1.5cm（呼び強度27以上で高性能AE減水剤を使用する場合は±2cm）とする。
高強度コンクリートの場合は、スランプが 18cm以下の場合±2.5cm、21cm以上の場合±2cmとし、スランプフローの許容差は、目標スランプフローが 50cm以下の時は±7.5cm、50cmを超える時は±10cmとする。

◙　使用するコンクリートの圧縮強度試験は、普通コンクリートでは標準養生を行った供試体を用いて材齢 28日で行い、1回の試験は、打込みエ区ごと、打込み日ごと、かつ 150m^{3}またはその端数ごとに 3個の供試体を用いて行う。 3回の試験で 1検査ロットを構成する。
高強度コンクリートでは、打込み日かつ 300m^{3}ごとに検査ロットを構成して行う。1検査ロットにおける試験回数は 3回とする。検査は適当な間隔をあけた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の供試体による試験結果を用いて行う。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生とする。

◙　構造体コンクリートの圧縮強度の検査は普通コンクリートでは、打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ 150m^{3}またはその端数ごとに 1回行う。 1回の試験には適当な間隔をおいた 3台の運搬車から 1個ずつ採取した合計 3個の供試体を用いる。
高強度コンクリートでは打込み日、打込み工区かつ 300m^{3}ごとに行う。検査には適当な間隔をあけた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の供試体を用いる。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生または構造体温度養生とする。

◙　使用するコンクリートの圧縮強度の判定は、JASS5による。
構造体コンクリートの圧縮強度の判定は、(c)調合および構造体コンクリート強度による。

□　コンクリートの試験は、「建築物の工事における試験および検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。
　試験・検査機関名　　（都知事登録　　号）
　代行業者名　　（登録番号　　号）
代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行するものを言う。

（２）鉄　筋

(a) 施工

◙　鉄筋はJIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）に適合するものを用いる。溶接金網および鉄筋格子は、JIS G 3551（溶接金網および鉄筋格子）に適合するものを用いる。

□　高強度せん断補強筋は、技術評価を取得し、建築基準法第37条の材料認定を受けたものを用いる。

◙　鉄筋の加工寸法、形状、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)～(3)」による。

◙　鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手または溶接継手によることとし、鉄筋径と使用箇所を定め特記による。

表9.4　鉄筋の継手

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級				鉄筋の径	使用箇所
	(1) 引張力最小部位	(2)(1)以外の部位(注)				
		A 級	B 級	SA級		
◙重ね継手	標準図による	＼	＼	＼	◙D（ 16 ）以下	
◙圧接継手	◙告示1463号第2項各号	□	＼	＼	◙D（ 19 ）以上	
◙溶接継手	◙告示1463号第3項各号	□	□	＼	◙D（ 19 ）以上	
□機械式継手	□告示1463号第4項各号	□	□	□	□D（　　）以下	

注）(1)以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって『鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書(2020)』によって検討した部材の条件・仕様によること。

◙　機械式継手および圧接継手および溶接継手は（公社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」による他、所要の品質が得られるように工事計画および工事管理計画を定めて、工事監理者の承認を受ける。

◙　ガス圧接の施工は、強風時または降雨時には原則として作業を行わない。ただし、風除け、覆いなどの設備をした場合には、工事監理者の承認を得て作業を行うことができる。

◙　圧接技量資格者は、（公社）日本鉄筋継手協会によって認証された技量適格性証明書を工事監理者に提出し、承認を受ける。

□　機械式鉄筋定着工法に用いる定着板には信頼できる機関による性能証明書等を取得した定着金物を用いる。

(b) 検査

ｉ）鉄筋の種類・径の検査

□　鉄筋搬入時に鉄筋の種類と径をミルシート、ロールマーク、結束ごとの表示で確認し、必要に応じて径は計測する。

ⅱ）配筋の検査

□　鉄筋の数量、材質、加工形状、配置、間隔、継手と定着の位置と長さ、カットオフ長さ等を目視、又は計測で確認する。

ⅲ）鉄筋継手部の検査
各継手工法ごとの検査は平12建告1463号による他、具体的な検査方法は、（公社）日本鉄筋継手協会の仕様書を参照のこと。

表9.5　鉄筋継手部の検査　（検査結果は工事監理者に報告すること）

鉄筋継手工法	検査の種類	検査数量	試験方法
圧接継手	□外観検査	全般	目視又は計測
	□超音波探傷検査	抜取り１検査ロット当たり（　）箇所~~又は（　）%~~	JIS Z 3062:2014による
	□引張試験による検査	抜取り１検査ロット当たり（　）箇所~~又は（　）%~~	JIS Z 3120:2014による
溶接継手	□外観検査	全般	目視又は計測
	□超音波探傷検査	抜取り１検査ロット当たり（　）箇所~~又は（　）%~~	JRJS 0005:2017による
	□引張試験による検査	抜取り１検査ロット当たり（　）箇所~~又は（　）%~~	JIS Z 2241:2011による
機械式継手	□外観検査	全般	目視又は計測
	□超音波探傷検査	抜取り１検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JRJS 0003:2017による
	□引張試験による検査	抜取り１検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z 2241:2011による

注）1　抜取り1検査ロットは、同一作業班が同一日に作業した継手箇所で200箇所程度とする。
注）2　ガス圧接部分の検査を超音波探傷検査によって行う場合、数ロットについては引張試験も併用し、1回の引張試験は超音波探傷試験に合格した部位から抜取った3本以上とする。

※外観検査の実施は次による。（必要に応じて測定器具等の検査機器を用いること）

表9.6　外観検査の要領

	自主検査	受入検査		工事監理者	備　　考
		検査機関	施　工　者		
□	全数	全数	（　　）	（　　）	
□	全数	超音波探傷又は超音波測定検査実施部位	検査機関による検査部位以外	（　　）	
□	全数	―	全数	（　　）	
□	全数	抜取り1検査ロット当たり（　　）箇所又は（　　）%	（　　）	（　　）	

□　引張試験を行う試験機関、非破壊試験を行う検査機関は、建築主、工事監理者、または施工者が自ら契約した機関とする。

□　試験機関は、「建築物の工事における試験及び検査における東京都取扱要綱」第4条の試験機関、検査機関は同要綱第8条の検査機関とする。
　試験機関名　　（都知事登録　　号）
　検査機関名　　（都知事登録　　号）

（３）かぶり厚さ

◙　最小かぶり厚さは、表9.6に規定する設計かぶり厚さを10mm減じた値とする。

◙　設計かぶり厚さは、コンクリート打込み時の変形・移動などを考慮して、最小かぶり厚さが確保されるように、部位・部材ごとに定めるものとし、表9.6以上の値とする。

表9.7　設計かぶり厚さ（単位：mm）

構造体の計画供用期間の級		標準・長期		超長期	
部材の種類		屋　内	屋　外(2)	屋　内	屋　外(2)
構造部材	柱・梁・耐力壁	40	50	40	50
	床スラブ・屋根スラブ	30	40	40	50
非構造部材	構造部材と同等の耐久性を要求する部材	30	40	40	50
	計画供用期間中に維持保全を行う部材(1)	30	40	(30)	(40)
直接土に接する柱・梁・壁・床および布基礎の立上り部分、擁壁の壁部分		50			
基礎、擁壁の基礎・底盤		70			

注）(1) 計画供用期間の級が超長期で計画供用期間中に維持保全を行う部材では、維持保全の周期に応じて定める。
　(2) 計画供用期間の級が標準，長期および超長期で、耐久性上有効な仕上げを施す場合は、屋外側では設計かぶり厚さを 10mm減じることができる。

◙　完成した構造体の各部位における最外側鉄筋のかぶり厚さは，最小かぶり厚さ以上とする。

◙　コンクリート構造体に誘発目地・施工目地などを設ける場合は、建築基準法施行令第79条に規定する数値を満足し、構造耐力上必要な断面寸法を確保し、防水上および耐久性上有効な措置を講じれば上記によらなくても良い。

（４）型　枠

◙　型枠および支保エの存置期間は、下表による。

表9.8　型枠存置日数　　昭和46年建設省告示第110号（最終改正：令和元年国土交通省告示第203号）

種類／部位	せ　き　板				支　柱		
	基礎、梁側、柱、壁		スラブ下、梁下		スラブ下		梁下
セメントの種類	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
存置期間の平均気温							
コンクリートの材令（日）　15℃以上	2	3	4	6	8	１７	２８
5℃～15℃	3	5	6	１０	１２	２５	２８
5℃未満	5	8	１０	１６	１５	２８	２８
コンクリートの圧縮強度	※５．０N/mm^2		設計基準強度の５０％		設計基準強度の ８５％		１００％

※　JASS 5では普通コンクリートの場合計画供用期間の級が標準にあっては 5 N/mm^{2}以上、長期及び超長期の場合は 10 N/mm 以上、また高強度コンクリートの場合は 10 N/mm^{2}以上。
注）1 片持ち梁、庇、スパン 9.0m以上の梁下は、工事監理者の承認による。
注）2 大梁の支柱の盛替えは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
注）3 支柱の盛替えは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注）4 盛替え後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注）5 支柱の盛替えは、小梁が終ってからスラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って盛替えをしてはならない。
注）6 直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛替えを行わないこと。
注）7 支柱の盛替えは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動または衝撃を与えないように行うこと。

一級建築士　大臣登録　第237250号　猪又　忠彦
構造設計一級建築士　　第5517号

備考

１級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎

工事名称	縮尺	図面No.
阿志岐小学校昇降機設備設置工事		S－０２
図面名称：新 構造設計特記仕様書(2)	A－３　NONSCALE	日付：2026.1

２０２１年１２月１日　発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　　監修　東京都建築構造行政連絡会

新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

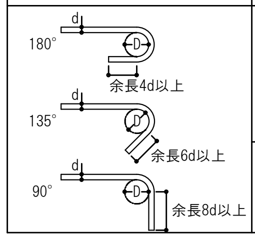
※修正箇所は下線を引くこと

１. 一般事項

（１）構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
（２）記号
ｄ･･･異形棒鋼の呼び名に用いた数値（径）　Ｄ･･･部材の成、又は鉄筋内法直径
@･･･間隔　ｒ･･･半径　℄･･･中心線　ℓo･･･部分間の内法距離　ho･･･部材間の内法高さ
ＳＴ･･･あばら筋　ＨＯＯＰ･･･帯筋　Ｓ.ＨＯＯＰ･･･補強帯筋

２. 鉄筋加工

（１）鉄筋の折り曲げ加工

図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
	180° 135° 90°	SD295 SD345	D16以下	3d以上
			D19～D41	4d以上
		SD390	D41以下	5d以上
	90°	SD490	D25以下	
			D29～D41	6d以上

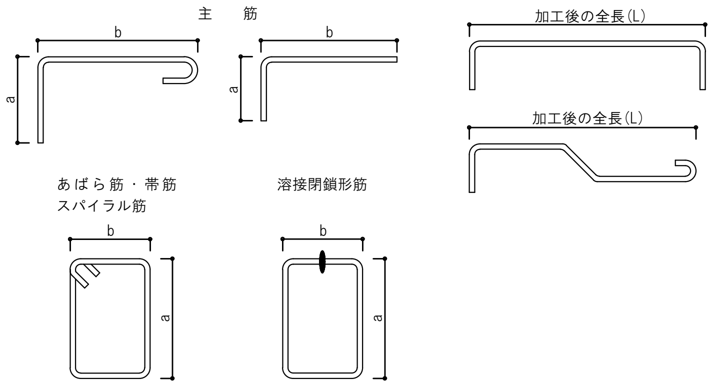
［注］（１）　dは呼び名に用いた数値とする。
（２）　スパイラル筋の重ね継手部に90°フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。
（３）　片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
（４）　スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。
（５）　折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。
（６）　SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

（２）加工寸法の許容差

(mm)

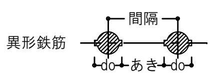
項		目	符　号	許　容　差
各加工寸法(1)	主　筋	D25以下	a, b	± 15
		D29以上D41以下	a, b	± 20
	あばら筋・帯筋・スパイラル筋		a, b	± 5
加　工　後　の　全　長			L	± 20

［注］（１）　各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



（３）鉄筋のあき

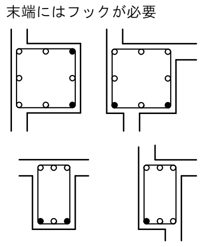
異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値。



（４）鉄筋のフック

a～eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。
a. あばら筋、帯筋、および幅止メ筋
b. 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
c. 柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分
　および下端の両端にある場合の鉄筋(右図参照)
d. 単純梁の下端筋
e. その他、本配筋標準に記載する箇所

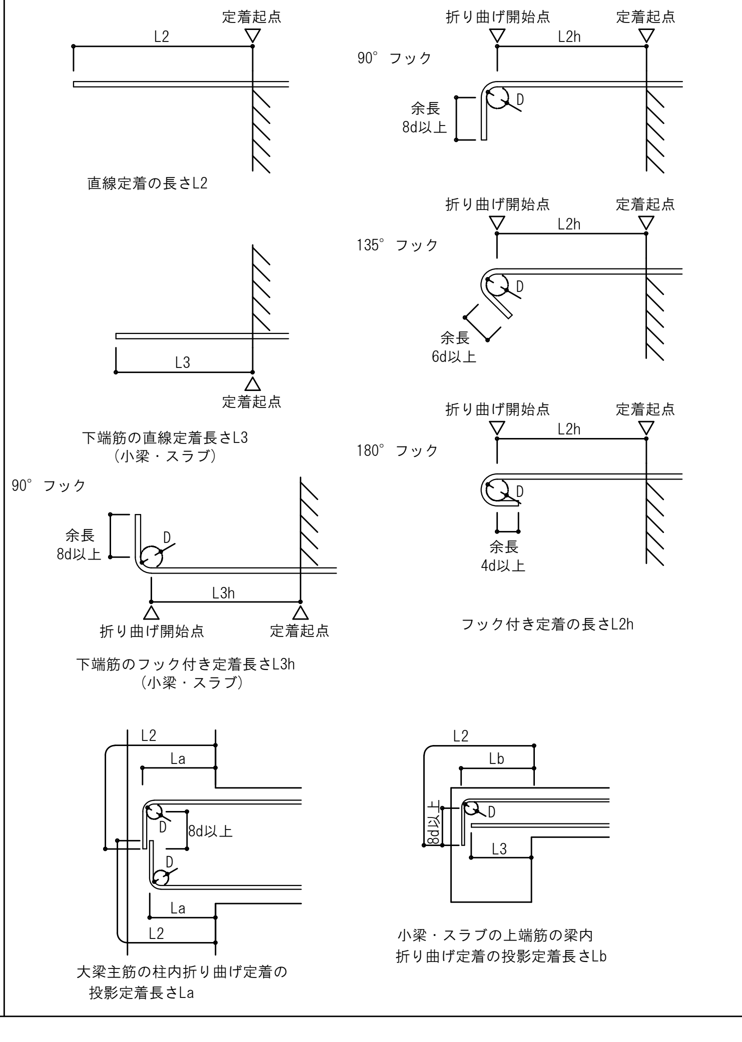
図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



（５）定着長さ

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	定着の長さ 一般 L2（フックなし）	L2h（フックあり）	(3) La	Lb	小梁下端筋 L3（フックなし）	L3h（フックあり）	スラブ下端筋 L3（フックなし）
SD295	18	40d	30d	20d	15d	20d	10d	10d かつ 150以上
	21	35d	25d	15d	15d			
	24～27	30d	20d	15d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	25d	15d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD345	18	40d	30d	20d	20d			
	21	35d	25d	20d	20d			
	24～27	35d	25d	20d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	30d	20d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD390	21	40d	30d	20d	20d			
	24～27	40d	30d	20d	20d			
	30～36	35d	25d	20d	15d			
	39～45	35d	25d	15d	15d			
	48～60	30d	20d	15d	15d			
SD490	24～27	45d	35d	25d	—	—	—	—
	30～36	40d	30d	25d	—			
	39～45	40d	30d	20d	—			
	48～60	35d	25d	20d	—			

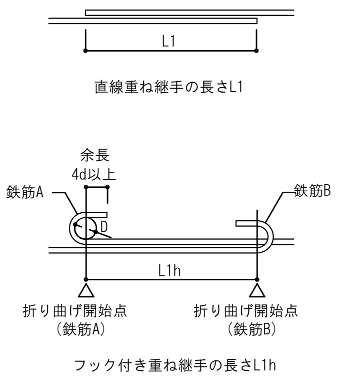
［注］（１）フック付き鉄筋の定着長さL2hは、定着起点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。
（２）フック部の折り曲げ内法直径D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。
（３）梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL2h確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長をL2以上とするとともに、水平投影長さをLa以上とし、余長を8d以上とする。尚、Laの値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。
（４）耐圧スラブの下端筋の定着帳は一般定着L2とする。



（５）継手

■重ね継手　（軽量コンクリートでは5dを加算する。）

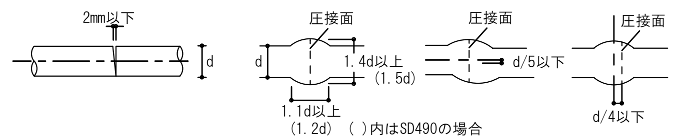
鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	重ね継手長さ L1（フックなし）	L1h（フックあり）
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24～27	35d	25d
	30～36	35d	25d
	39～45	30d	20d
	48～60	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24～27	40d	30d
	30～36	35d	25d
	39～45	35d	25d
	48～60	30d	20d
SD390	21	50d	35d
	24～27	45d	35d
	30～36	40d	30d
	39～45	40d	30d
	48～60	35d	25d
SD490	24～27	55d	40d
	30～36	50d	35d
	39～45	45d	35d
	48～60	40d	30d



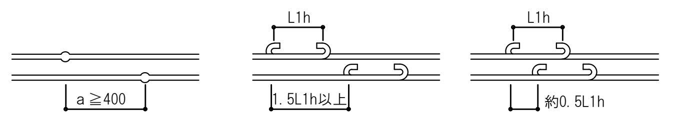
［注］（１）表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。
（２）直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。
（３）フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

■継手に関する注意点
１. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
２. D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。
３. 鉄筋径dの差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。
４. ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。

・ガス圧接形状(平成12年建設省告示1463号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、垂れ下がり及び内部欠損がないもの)



・圧接継手　　・重ね継手（下図のいずれかとする）フックなしの場合はL1hはL1



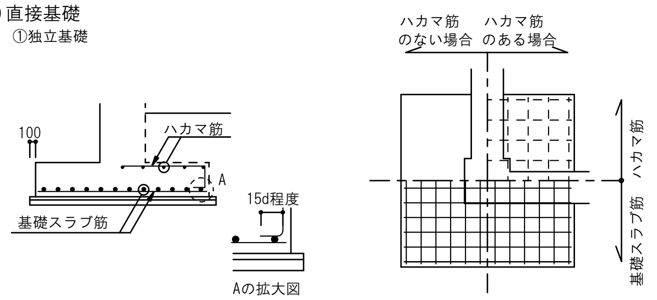
５. 溶接継手および機械式継手を用いる場合は、信頼できる機関の評定等を受けたA級継手工法とする。
６. 非破壊検査は工事監理者が承諾した信頼できる検査機関で行うこと。

３. 杭・基礎

（配筋については地震力等の水平力等を考慮して別途検討すること）

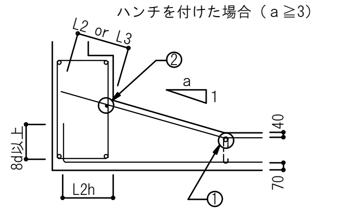
（１）直接基礎

①独立基礎



②ベタ基礎

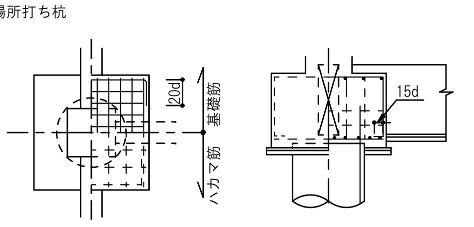
ハンチを付けた場合（ａ≧3）



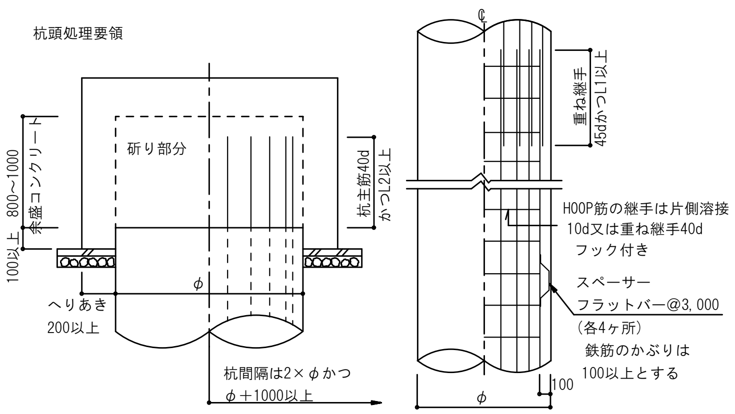
１. 耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
　但し上筋と下筋を読みかえる
２. ① の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
３. ② の鉄筋は D13以上
４. 埋戻し土のある場合は40を70とする

（２）杭基礎

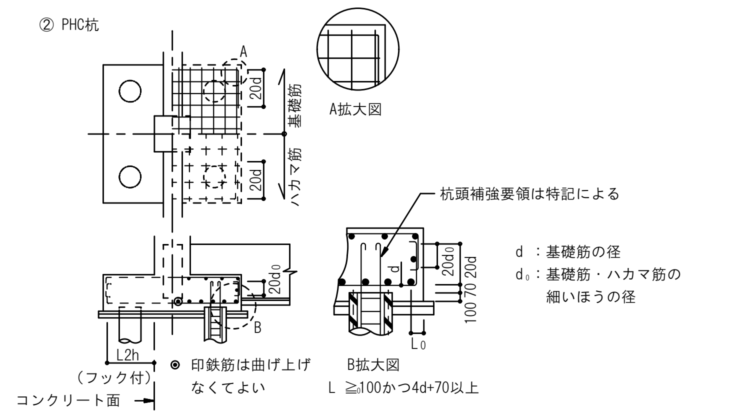
① 場所打ち杭



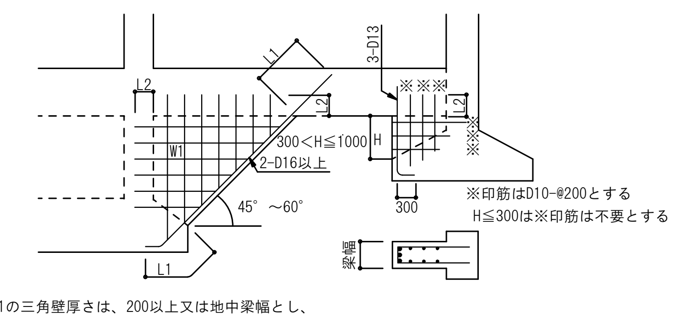
杭頭処理要領



② PHC杭



（３）基礎接合部の補強



W1の三角壁厚さは、200以上又は地中梁幅とし、
配筋は同厚の壁リストにならう

一級建築士　大臣登録　第237250号　猪又　忠彦
構造設計一級建築士　　第5517号

備考	

１級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎

工事名称	縮尺	図面No.
阿志岐小学校昇降機設備設置工事		Ｓ－０３
図面名称		日付
新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	A-3　NONSCALE	2026.1

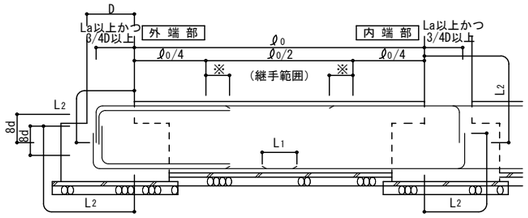
２０２１年１２月１日　発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　　監修　東京都建築構造行政連絡会

新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

※修正箇所は下線を引くこと

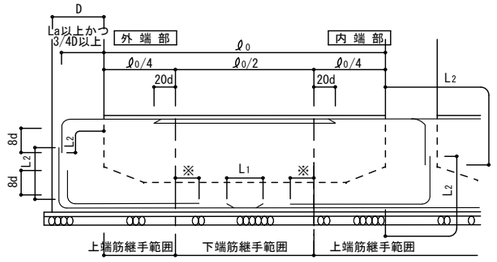
４．地中梁

（１）独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）
（長期荷重が支配的な場合の継手は6.(2)大梁継手位置とする。）



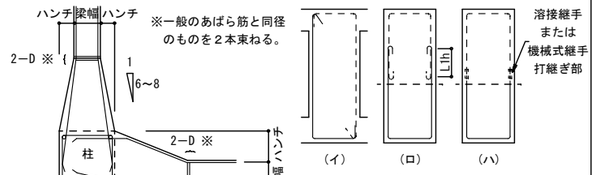
※主筋のカットオフ長さは ℓ0/4 + 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項の表6-1による。

（２）布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）



※主筋のカットオフ長さは ℓ0/4 + 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項の表6-1による。

（３）水平ハンチの場合のあばら筋加工要領　（４）せいの高い梁のあばら筋加工要領図



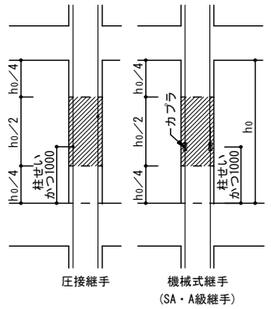
※一般のあばら筋と同径のものを２本束ねる

［注］（イ）で、 を使用してよいが、
 は使用してはいけない。

（ロ）では、あばら筋の継手は
180° フック付きとする。

５．柱

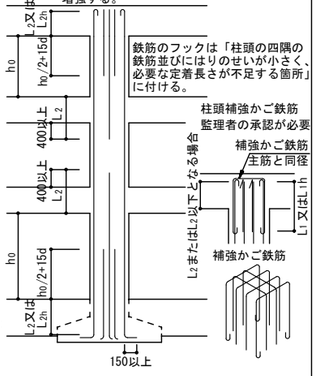
（１）柱主筋の継手位置



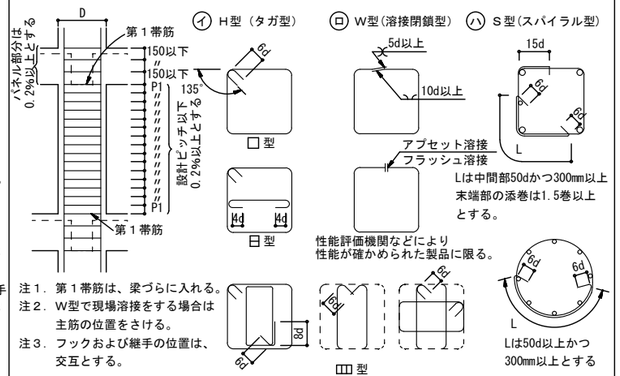
※ 柱せいが1.0mを超える場合の1階の継手位置は特記による。

（２）柱主筋の定着

柱、梁の定着L2又はL2h以上が確保されない場合はかご鉄筋で補強、または特記により増強する。

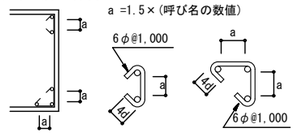


（３）帯　筋

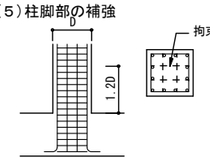


注１．第１帯筋は、梁づらに入れる。
注２．W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける。
注３．フックおよび継手の位置は、交互とする。

（４）寄せ筋の保持

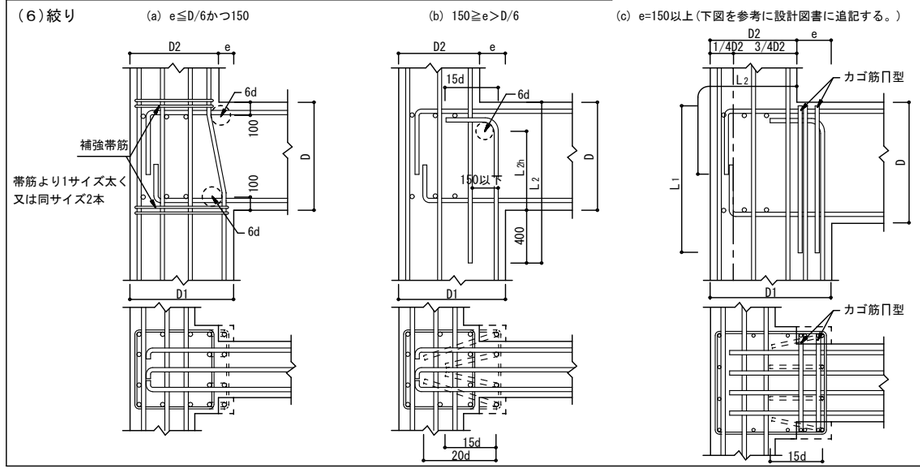


（５）柱脚部の補強



1階柱脚の主筋は梁上から柱せいの1.2倍の範囲を拘束筋で拘束する。
拘束筋は以下による。
□帯筋と同径・同ピッチ、X・Y 2巻づつ
□図示による

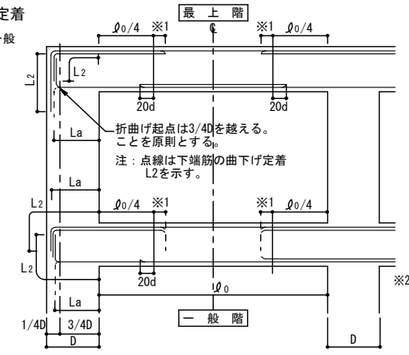
（６）絞り

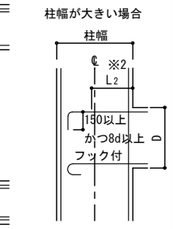


６．大梁

（１）定着

ⓐ一般





※2 柱幅が大きくて、直線部だけでL2がとれる場合でも柱中心線を超えて中間折曲げテール長150以上又は180°フック付とする。

※1 主筋のカットオフ長さは ℓ0/4 + 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は表6-1による。

ⓑハンチがある場合

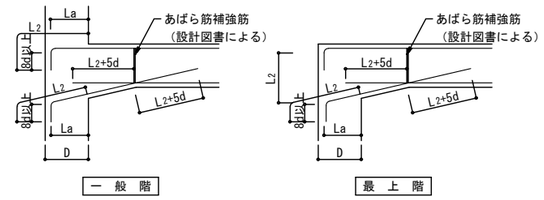
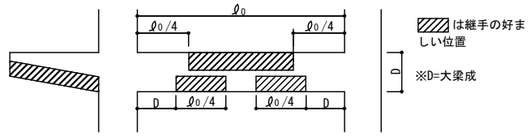


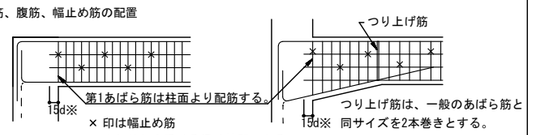
表6-1　特別なカットオフ長さを要する部材　(mm)

部 材 名	ℓ0/4 に加える長さ	部 材 名	ℓ0/4 に加える長さ
別紙参照			

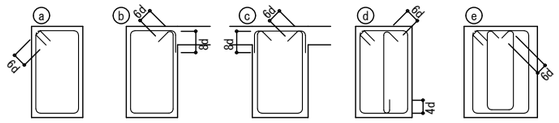
（２）大梁主筋の継手　（SA級、A級継手を使用する場合の継手位置は特記による。）



（３）あばら筋、腹筋、幅止め筋の配置



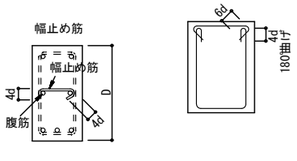
（４）あばら筋の型　（注、床版がない場合は135° 以上のフックとする。）



（イ）原則としてⓐのフック先曲とする。片側床版付（L型）梁でⓑ、両側床版付（T型）梁でⓒ又はⓑとすることができる。
（ロ）フックの位置はⓐにあっては交互、ⓑにあってはスラブ付側とする。
ⓕ梁成の大きい場合やSRC造のあばら筋の納まりに使用することができる。

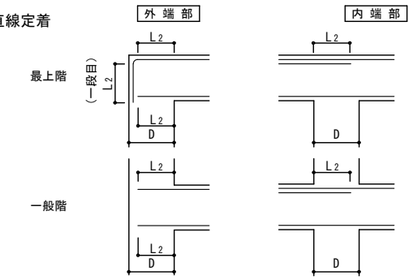
（５）幅止め筋の本数、加工

腹　筋	D<600 不要	
	600≦D<900	2−D10　1段
	900≦D<1200	4−D10　2段
	1200≦D	D10@300以内
	1200以上	D13@300以内
幅止め筋	D10@1000以内で割り付ける	

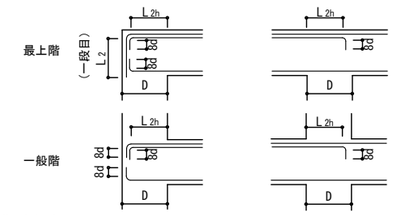


（６）梁主筋の定着

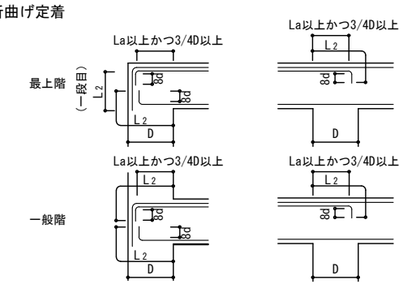
① 直線定着



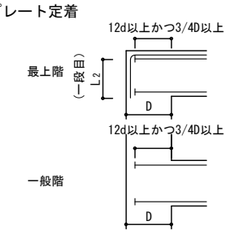
② 90° フック付直線定着



③ 折曲げ定着



④ プレート定着



※最上階 L型接合部における上端部の一段目の定着にプレート定着を用いてはならない。

※プレート定着には性能証明等を取得した材料を用い、その工法の適用範囲と仕様を確認する。

一級建築士　大臣登録　第237250号　猪又　忠彦
構造設計一級建築士　第5517号

備考

１級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５−１−１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　桑　大二郎

工事名称	縮尺	図面No.
阿志岐小学校昇降機設備設置工事		S−04
図面名称：新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	A−3　NONSCALE	日付 2026.1

２０２１年１２月１日　発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　　監修　東京都建築構造行政連絡会

新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（３）

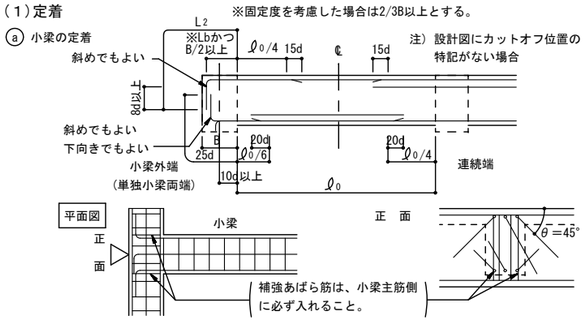
７.小梁、片持梁

（１）定着

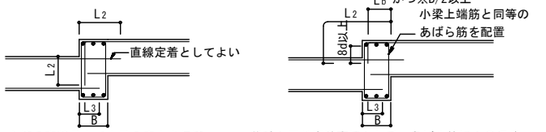
※固定度を考慮した場合は2/3B以上とする。

注）設計図にカットオフ位置の特記がない場合

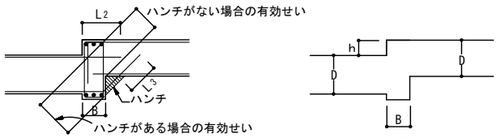
ⓐ 小梁の定着



ⓑ 段差小梁の配筋（連続端の場合）



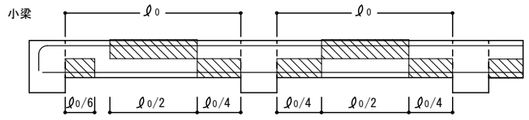
主筋の定着長さで小梁の応力を伝達　　終端と同じ定着方法として、あばら筋に力の伝達



段差部でハンチを設ける例

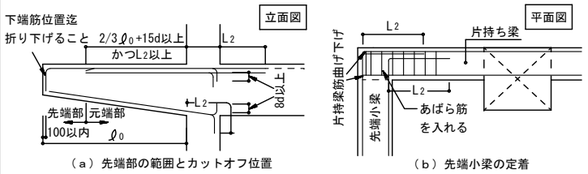
段差hがh＞ $D-\sqrt{D^2-B^2}$ となる場合にはハンチの検討をする。

ⓒ 小梁筋の継手位置

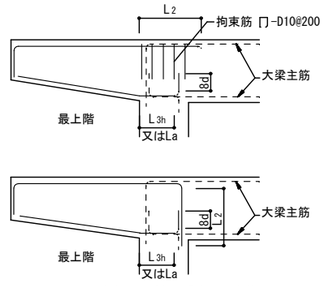


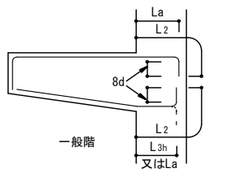
圧接・継手中心位置の好ましい範囲

ⓓ 片持梁の定着　　注）上端筋の柱内への定着は3/4D以上とすること。



（ａ）先端部の範囲とカットオフ位置　　（ｂ）先端小梁の定着





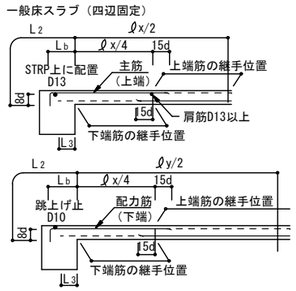
（ｃ）隣接する梁がある場合で柱定着又は、隣接する梁へ定着する場合

（ｄ）隣接する梁がない場合で柱定着

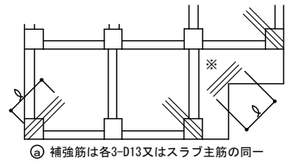
８.床　　版

（１）定着および継手

一般床スラブ（四辺固定）



（２）屋根スラブの補強

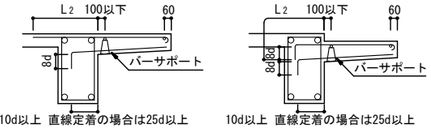


ⓐ 補強筋は各3-D13又はスラブ主筋の同一径で ℓ=1500とし、上端筋の上に配筋する。配筋の際かぶり厚に注意すること。

ⓑ ※の個所（入隅）は各階補強する。

（３）片持床スラブ定着及び出隅部補強

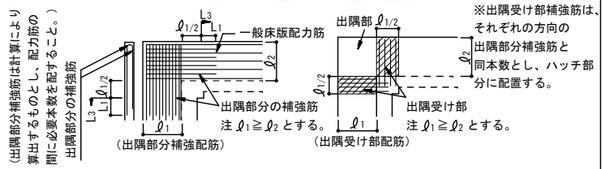
ⓐ 片持床スラブ定着



10d以上 直線定着の場合は25d以上　　10d以上 直線定着の場合は25d以上

ⓑ 片持スラブ出隅部補強　　注）L_1は上端筋、L_3は下端筋の定着長

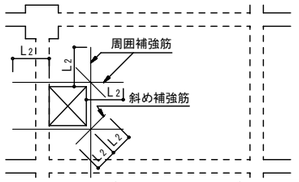
（出隅部分補強筋は計算により算出するものとし、配力筋の間に必要本数を配すること。）出隅部分の補強筋



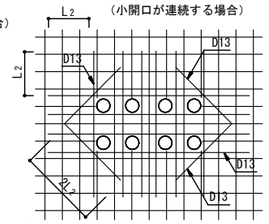
（出隅部分補強配筋）　　（出隅受け部配筋）

※出隅受け部補強筋は、それぞれの方向の出隅部分補強筋と同本数とし、ハッチ部分に配置する。

（４）床版開口部の補強　（開口の径600以下程度の場合）



（小開口が連続する場合）

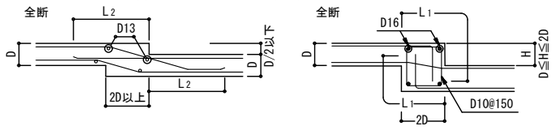


床版厚さD	周　囲	斜　め
D≦１５０	上･下各２－Ｄ１３	１－Ｄ１３
１５０＜D≦３００	上･下各２－Ｄ１３	１－Ｄ１３
３００＜D≦５００	上･下各２－Ｄ１９	１－Ｄ１６

周囲、斜め補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同径、同本数鉄筋を開口横に配筋する。

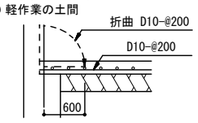
注）設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。孔と孔のへりあき100以上

（５）床版段差　※土間コンクリートにも適用する。

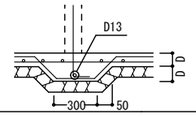


（６）土間コンクリート

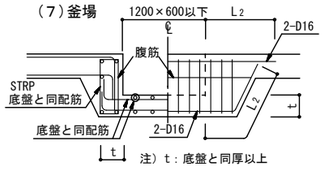
ⓐ 軽作業の土間



ⓑ 間仕切壁との交叉部



（７）釜場

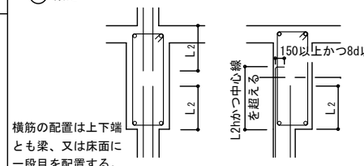


注）t：底盤と同厚以上

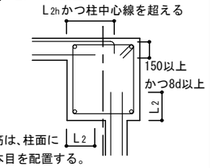
９.壁

（１）定着

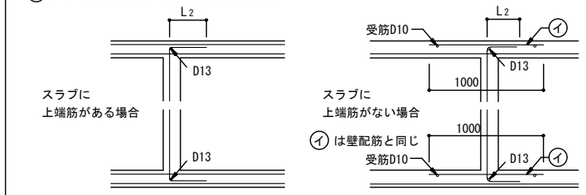
ⓐ 梁に



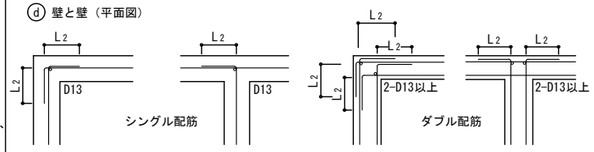
ⓑ 柱に（平面図）



ⓒ 床に（非耐力壁とスラブが取り合う場合）

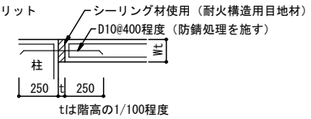


ⓓ 壁と壁（平面図）



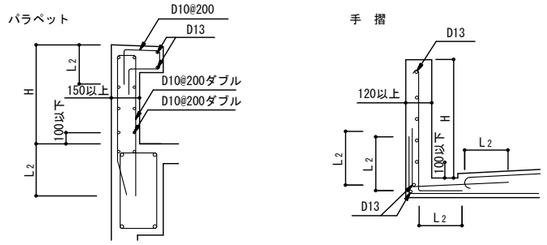
（２）スリット部　（設計図に記入のあるとき）

完全スリット



tは階高の1/100程度

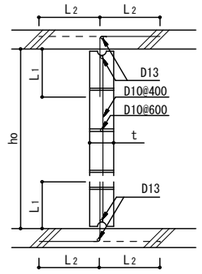
（３）手摺、パラペット



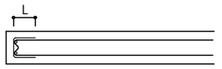
（但し、H>800以上の場合、設計図による）

（４）コンクリートブロック帳壁

一般の場合



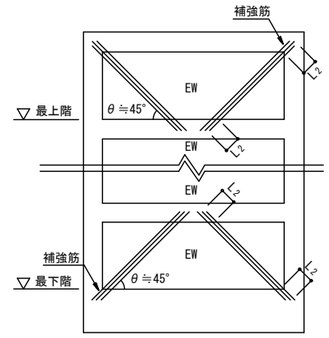
（５）耐震壁端部の納まり



：鉄筋径および間隔は壁筋と同等、同ピッチ以上とし、壁筋に135°フックを設けた場合のLは8dとする。
壁筋にフックを設けない場合のLはL_2とする。

注）ho≦25tかつ3500以下とする。但し直交方向25t以内に壁、又は柱がある場合は除く
注）hはコンクリートブロック段数調整寸法とする。但し、200≦h≦400
注）継手部は必ずモルタルを充填すること

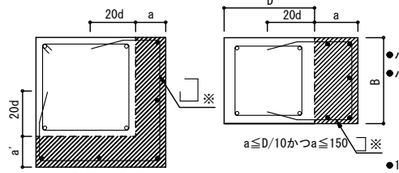
（６）連層耐震壁乾燥収縮の補強筋



注）補強筋はEW150の場合3-D13@100シングル
EW180～200の場合4-D13@100シングル
EW250以上の場合4-D16@100ダブルとする。

10.柱、梁増打コンクリート補強　（増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと）

（１）柱



●印は補強筋を示す

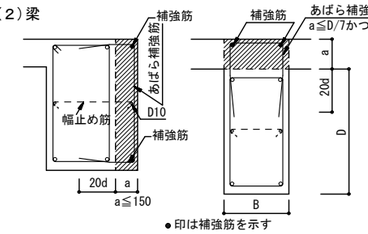
●ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
●ハッチ部分の面積 A cm²

補強タテ筋

A<500	500≦A<1000
3-D16	4-D16

●150以上の増打ちは図示による。
●増打ち50以下は補強なし。
●※柱HOOPと同径、同ピッチとする。

（２）梁



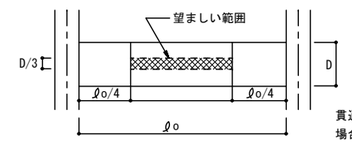
●印は補強筋を示す

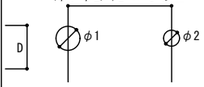
●補強筋は、梁主筋の1段落し径（D16以上）とする。
●あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
●腹筋D10ピッチは、梁の腹筋と合せる。
●B≧400の場合は補強筋を３本とする。
●梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
●ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
●150以上の増打ちは図示による。
●増打ち50以下は補強なし。

11.梁貫通孔補強　（開口補強筋については計算により確認すること）

（１）設置可能範囲

梁端部（スパンℓo/10以内かつ2D以内）は原則として避ける。





貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は設計者又は工事監理者と打合せのこと。

（２）既製品　（指定条件と異なる場合は、設計者又は工事監理者と打合せのこと）

□製品名
施工前に計算書を提出し、承認を得ること。
設計時に使用する評価取得品については計算書を提出する事。

一級建築士　大臣登録　第237250号　猪又　忠彦
構造設計一級建築士　第5517号

備考

HA
１級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎

工事名称	縮尺	図面No.
阿志岐小学校昇降機設備設置工事		S－０５
図面名称：新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)	A－３　NONSCALE	日付 2026.1

２０２１年１２月１日　発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　　監修　東京都建築構造行政連絡会

鉄 骨 構 造 標 準 図（1）

※修正箇所は下線を引くこと

1．一般事項

（1）材料及び検査

(a) 新構造設計特記仕様その1による。
(b) 本標準図はベースプレートを除き鋼材の厚さが40mm以下の工事に適用する。
　但し、ベースプレートの厚さは除く。
(c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の検査結果を添付する。

（2）工作一般

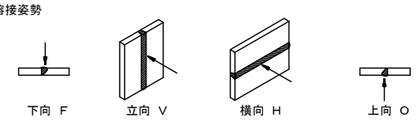
(a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る。
(b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。
(c) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする。

（3）高力ボルト接合

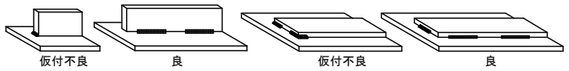
(a) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。
(b) 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外形2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、一様にさびを発生させた状態とする。但しショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、50μm Rz以上である場合は、さびの発生は要しない。
(c) 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。

（4）溶接接合

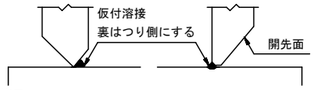
(a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。
(b) 溶接技能者
　溶接技能者は施工する溶接に適応するJIS Z 3801(手溶接)又はJIS Z 3841(半自動溶接)の溶接術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする。
(c) 溶接機器
　（イ）交流アーク溶接機 300A～500A　　（ニ）炭酸ガスアーク半自動溶接機
　（ロ）アークエアーガウジング機(直流)　　（ホ）溶接電流を測定する電流計
　（ハ）セルフシードアーク溶接機　　（ヘ）溶接棒乾操器
(d) 溶接方法
　被覆アーク溶接（アーク手溶接、MC、MP）　　ガスシールドアーク溶接（半自動溶接、GC、GP）
　セルフシールドアーク溶接（半自動溶接、NGC）　　アークエアーガウジング（AAG）
(e) 溶接姿勢



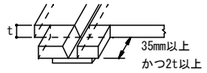
(f) 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う。
（イ）仮付位置
組立溶接は溶接の始,終端,隅角部など強度上,工作上,問題となり易い箇所は避ける。



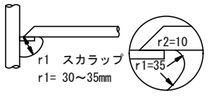
（ロ）完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。



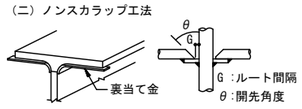
(g) 溶接施工
（イ）エンドタブ
・完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける。
・エンドタブの材質は,母材と同質とする。但し、鉄骨製作に十分な実績があり、かつ溶接部の品質が十分確保できると判断される場合には監理者の承認を受けて他の方法とすることができる。
・エンドタブの長さは、MC:35mm以上
　NGC、GC:40mm以上とし特記のない場合は、
　溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、
　グラインダー仕上げとする。



・ブレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出し設計者、又は工事監理者の承認を得る。
（ロ）裏当て金
　材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、幅は25mm以上を原則とする。
　但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる。
（ハ）スカラップ半径はr1=30～35mmとr2=10mmのダブルアールとする。
　但し梁成が D=150mm未満の場合のスカラップはr1=20mmとする。



（ニ）ノンスカラップ工法



（ホ）裏はつり
　規準図の溶接においてＡＡＧと記載のある部分は全て、アークエアガウジングを行った上で、部材に確認マークを付ける。
（ヘ）現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。
　又、開先部を傷めない様に養生を行う。

（5）塗 装

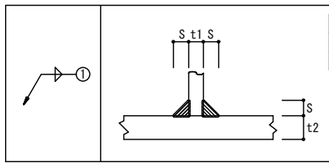
コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない。

2．溶接規準図

（注）f:余盛　G:ルート間隔　R:フェース　S:脚長

（単位mm）

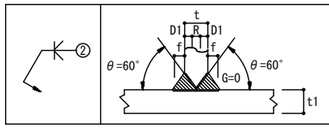
（1）隅肉溶接



t≦16				
t	7以下	8～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

・但し片面溶接の場合はS=tとする。
・tはt1,t2の小なる方とする。
　余盛は(1+0.1S)mm以下とする。
・軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい。

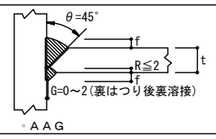
（2）部分溶け込み溶接（使用箇所に注意）



R≦2
t/4 ≦ f ≦ 10
t≦t1

t	16<t≦40
溶接姿勢	F.V

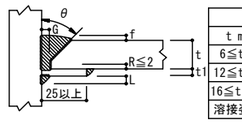
（3）完全溶込み溶接（平継手　T形継手）



t/4 ≦ f ≦ 10

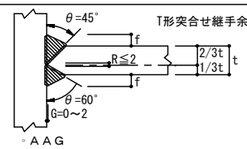
t	6≦t≦40
溶接姿勢	F.V

◦ＡＡＧ



t/4 ≦ f ≦ 10

	MC NGC				GC			
t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6≦t<12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t<16	35°	9	9	8	45°	6	9	8
16≦t≦40	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V							



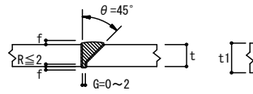
T形突合せ継手余盛

t/4 ≦ f ≦ 10

のど厚t mm	余盛の高さmm
t≦4	1
4<t≦12	2
12<t≦19	3
19<t≦40	4
溶接姿勢	F.V

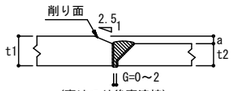
◦ＡＡＧ

0 < f ≦ 3.0
（但し、t≧15 mm の時 3.0mmを4.0 mm とする）



（裏はつり後裏溶接）

t2/4 ≦ a ≦ 10
（平継手で板厚が異なる時）

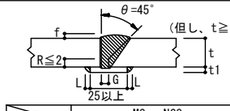


（裏はつり後裏溶接）

t	6<t≦40
溶接姿勢	F.V

◦ＡＡＧ

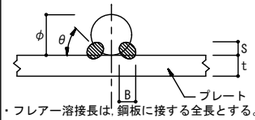
0 < f ≦ 3.0
（但し、t≧15 mm の時 3.0mmを4.0 mm とする）



	MC NGC				GC			
t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6<t<12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t≦19	35°	9	9	5	45°	6	9	5
19<t≦40	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V							

（4）フレアー溶接

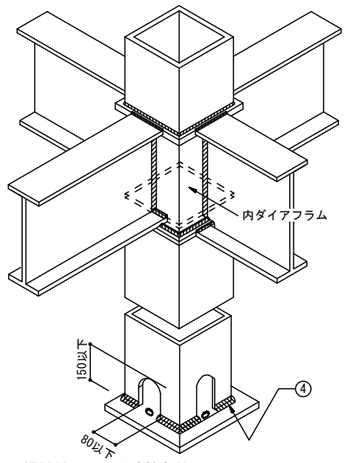
K形の場合

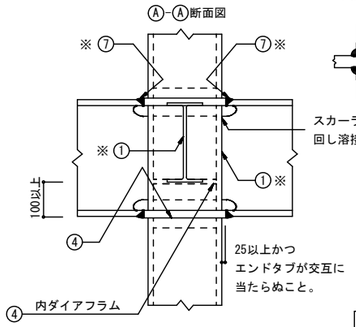


寸法 (mm)		
φ	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

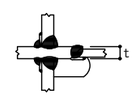
・フレアー溶接長は,鋼板に接する全長とする。
・9 mm～16 mmは1パス以上,19 mm以上は2パス以上とする。
溶接棒角度θは30°～40°とする。

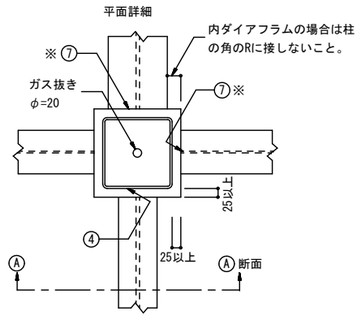
●BOX型　（通しダイアフラムの場合）





⑦※ はりフランジは、通しダイアフラムの厚み(t)の内部で溶接すること。





① ※ t>16 mm 場合の溶接は、 2 ・又は③～⑤とする。

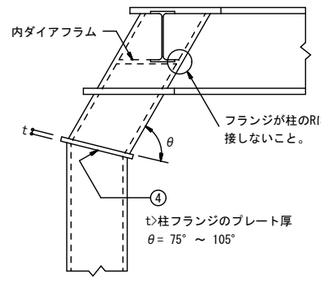
ダイアフラム厚は、接合する梁の最大厚の2サイズアップ以上とする。
< 柱材料:BCR295,BCP325を使用する場合 >
ダイアフラムは、柱フランジ厚 16 mm未満の場合 SN490C　SN490B
　　柱フランジ厚 16 mm以上の場合 SN490C　を使用する。

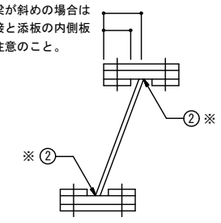
●鋼材種別による溶接条件　溶接材料と入熱量・パス間温度

鋼材の種類		規　格	溶 接 材 料	入熱(kJ/cm)	パス間温度(℃)
一般鋼材	400N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW11, YGW15	40 以下	350 以下
			YGW18, YGW19	30 〃	450 〃
		JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	40 〃	350 〃
			T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30 〃	450 〃
		JIS Z 3211	E43xx, E49xx	40 〃	350 〃
	490N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW11, YGW15	30 〃	250 〃
			YGW18, YGW19	40 〃	350 〃
		JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	30 〃	250 〃
			T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40 〃	350 〃
		JIS Z 3211	E49xx	40 〃	350 〃
冷間成形角形鋼管	400N級炭素鋼 BCR295、BCP235 STKR400	JIS Z 3312	YGW11, YGW15	30 〃	250 〃
			YGW18, YGW19	40 〃	350 〃
		JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40 〃	350 〃
	490N級炭素鋼 BCP325 STKR490	JIS Z 3312	YGW18, YGW19	30 〃	250 〃
		JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		

注)ロボット溶接の場合(一社)日本ロボット工業会による建築ロボットの型式認証条件に従うこと。
　490N/mm²を超える部材は適合する溶着金属を使用すること。
　ガスシールドアーク溶接法による完全溶け込み溶接部に適用する。

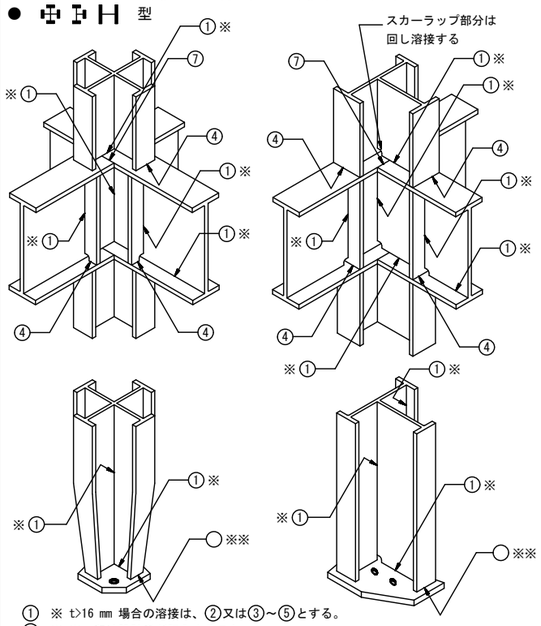
● 柱が途中で折れる場合、及び梁せいが異なる場合



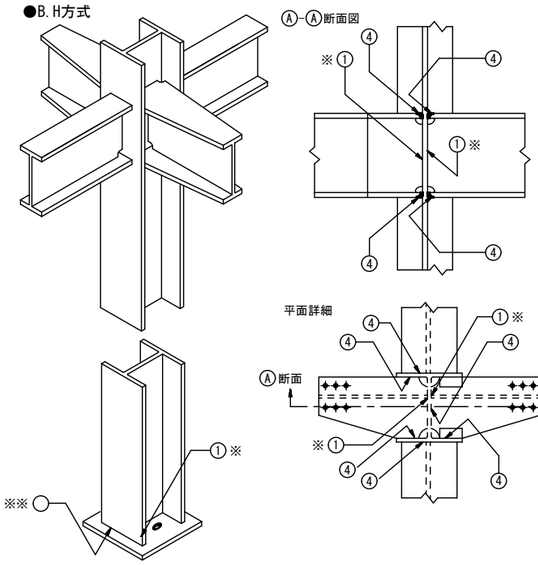


② ※ t>16 mm 場合の溶接は、③～⑤とする。

● H 型



●B.H方式



① ※ t>16 mm 場合の溶接は、③～⑤とする。

① ※ t>16 mm 場合の溶接は、②又は③～⑤とする。
○ ※※ 印は設計者が記入すること。

一級建築士　大臣登録　第237250号　猪又　忠彦
構造設計一級建築士　第5517号

備考	1級建築士事務所 浜地設計 株式会社	〒814-0133 福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１ 一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号 一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎	工事名称 阿志岐小学校昇降機設備設置工事	縮尺	図面No. S－０６
			図面名称 鉄骨構造標準図(1)	A－3　NONSCALE	日付 2026.1

２０２１年１２月１日　発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

鉄 骨 構 造 標 準 図（２）

※修正箇所は下線を引くこと

３.継手規準図，その他

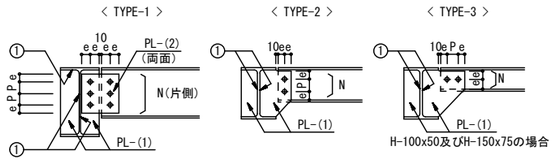
（１）高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ（P）

ボルト穴径・最小縁端距離（mm）

呼び径 d		ボルト穴径	最小縁端距離 (e) (1)	(2)	(3)	(2)(3)の標準	ピッチ (P) 最小	標準
高力ボルト	M16	18	40	28	22	40	40	60
	M20	22	50	34	26	40	50	60
	M22	24	55	38	28	40	55	60
	M24	26	60	44	32	45	60	70
アンカーボルト・ボルト（）内はボルトを示す	M16	21 (16.5)		28	22	(40)	(40)	(60)
	M20	25 (20.5)		34	26	(40)	(50)	(60)
	M22	27 (22.5)		38	28	(40)	(55)	(60)
	M24	29 (24.5)		44	32	(45)	(60)	(70)
	M27	32		49	36			
	M30	35		54	40			
	M30を超える	呼び径+5		9d/5	4d/3			

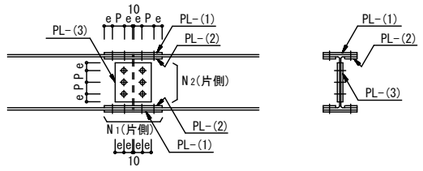
〔注〕(1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離。
(2) せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離。
(3) 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離。

（２）ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部材	PL-(1)	PL-(2)	N－径
		別図参照			

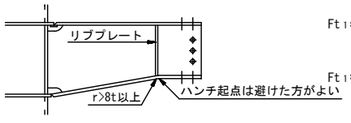
（３）剛接合梁継手リスト（SCSS-H97による）



〔注〕端部をBHとする場合の部材は設計図による。

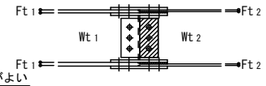
符号	部材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	N1-径	ウェブ PL-(3)	N2-径
	別図参照					

（４）ハンチ部の継手



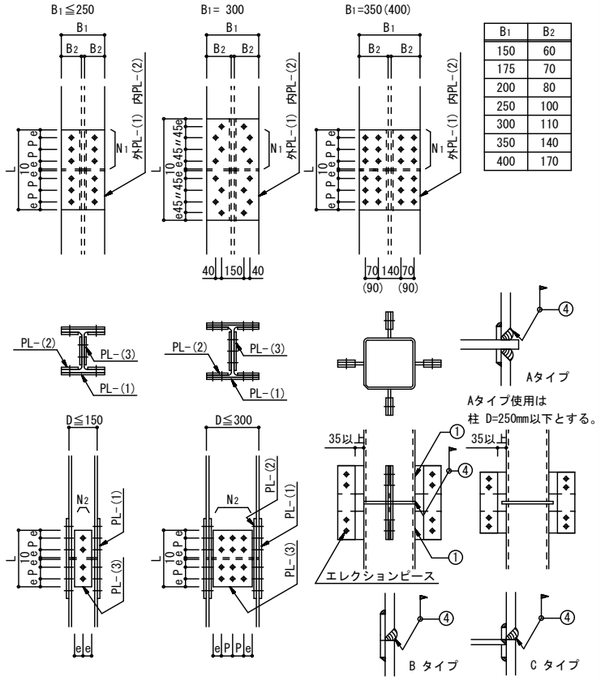
ハンチ勾配は普通1:4程度であるが構造図による。
r：半径　t：板厚

フランジ及びウェブ厚の差のある場合



Ft1-Ft2 / Wt1-Wt2 ≧1mm　フィラプレート併用の事

（５）柱継手リスト



B1	B2
150	60
175	70
200	80
250	100
300	110
350	140
400	170

注）現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%行う。

符号	部材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	N1-径	ウェブ PL-(3)	N2-径
	別図参照					

（６）ターンバックルブレース（JIS規格品とする … JIS A 5540 … 2008 / 5541 … 2008）

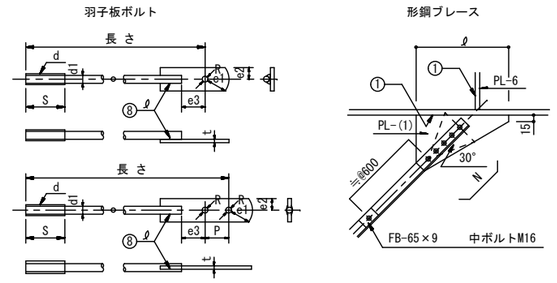
(a) 羽子板ボルト

ねじの呼び (d)			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 d1	最大		10.83	12.66	14.66	16.33	18.33	20.33	22.00
	最小		10.59	12.41	14.41	16.07	18.07	20.07	21.69
調整ねじの長さ		S	100	115	125	140	150	165	175
取付けボルト穴径 許容差 +0 ,-0.5 mm		R	17.0	17.0	17.0	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき(最小)	(2)	e1	40	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき (最小) (1)	e2	28	28	28	34	34	38	38
	板厚	t	6	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき (最小) (1)	e2	25.0	25.0	25.0	32.5	32.5	37.5	37.5
	板厚	t	6	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴芯のあき (最小)		e3	52	52	59	66	66	73	70
溶接長さ(最小)		w	40	50	55	60	75	85	85
取付ボルト(2)	種類		JIS B 1186 2種高力ボルト(F10T)(3)						
	ねじの呼び		M16	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本数		1	1	1	1	1	1	2

〔注〕(1)e1,e2が確保されてれば形状は自由でよい。
(2)羽子板とガセットプレートの場合は表に示す取付けボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする。
(3)溶融亜鉛メッキ製品では、JIS B 1186に規定する１種　F8TAに準じるものを使用する。

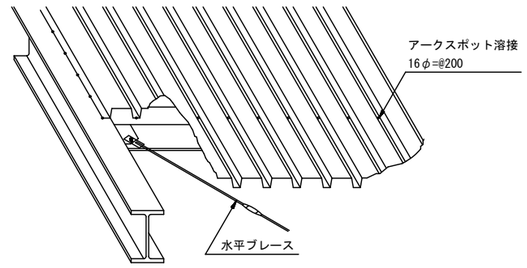
(b) 形鋼ブレース

符号	部材	PL-(1)	N－径	ℓ
	別図参照			



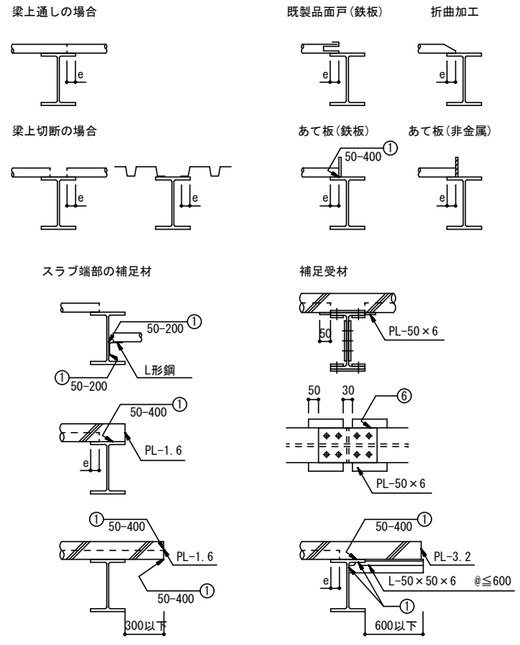
（７）デッキプレート（床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照）

梁との溶接およびコネクター



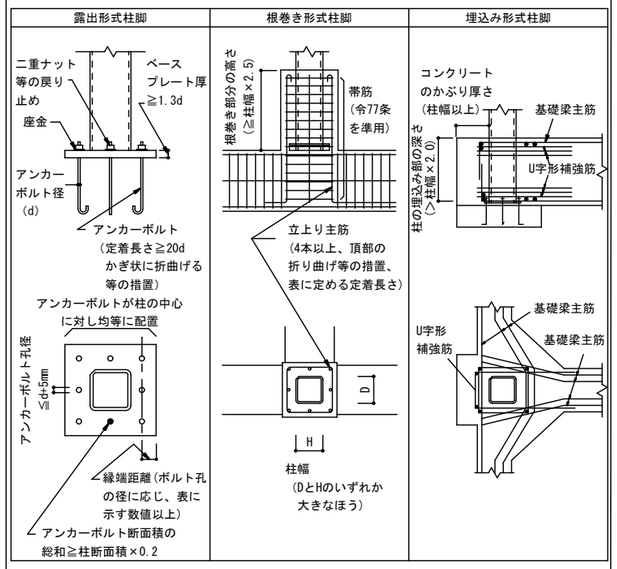
受梁へのかかり寸法及端部処理

e:長手方向で50mm以上、幅方向で30mm以上とする。
且つ、各メーカーの仕様による。



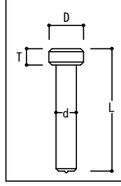
（８）柱脚

注）許容応力度計算を行わなかった場合の構造形式
※ 構造用アンカーボルトは原則としてJIS B 1220,JIS B 1221を使用する。



（９）頭付きスタッド（JIS B 1198 - 2011）

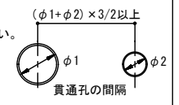
スタッド材の標準形状・寸法

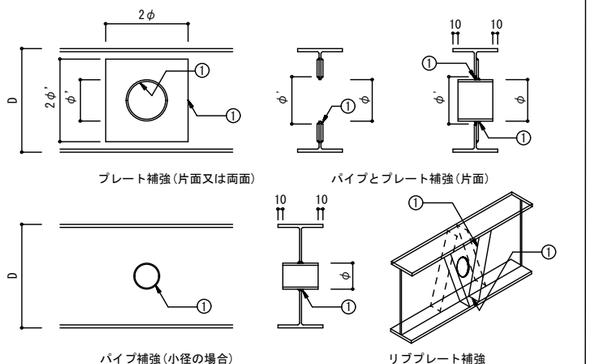


呼び名	軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	呼び長さ L mm
φ13mm	13	25	8	□80 □100 □120 □
φ16mm	16	29	8	□80 □100 □120 □150 □
φ19mm	19	32	10	□80 □100 □120 □150 □
φ22mm	22	35	10	□80 □100 □120 □150 □
φ25mm	25	41	12	□120 □150 □170 □

（10）梁貫通補強

・計算で確認された場合は下図の位置,寸法及び補強方法によらなくて良い。
・梁端部（内法スパンℓ_0の1/10以内かつ、2D以内）は避ける。
・φ≦ 0.4D
・φ'は補強板の穴径を示す。





プレート補強の板厚

スリーブ径	補強板
φ≦ 0.15D	補強板不要
φ≦ D/4	Web板厚以上（片面）
φ≦ D/3	Web板厚x1.2倍以上（片面）
φ≦ 0.4D	Web板厚以上（両面）

一級建築士　大臣登録　第237250号　猪又　忠彦
構造設計一級建築士　第5517号

備考

１級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　桑　大二郎

工事名称	縮尺	図面No.
阿志岐小学校昇降機設備設置工事		S－07
図面名称: 鉄骨構造標準図(2)	A-3 NONSCALE	日付 2026.1

スクリューパイルEAZET(イーゼット)設計施工標準(中四国・九州地区(沖縄含))

・引抜き評定適用時の許容支持力及び適用範囲については別途カタログをご参照ください。
・本掲載内容及び仕様については、予告なしに変更することがあります。
・本掲載内容及び仕様は、2025年7月現在のものです。

【許容支持力および適用範囲】

1.件名

先端羽根付き鋼管杭　　スクリューパイルＥＡＺＥＴ

2.本工法により施工される基礎ぐいの許容支持力を定める際に求める長期ならびに短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

1）長期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

$$Ra = \frac{1}{3}[\alpha\ \overline{N}\ Ap + (\beta\ \overline{Ns}\ Ls + \gamma\ \overline{qu}\ Lc)\ \Psi]\ (kN) \cdots (i)$$

2）短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

$$Ra = \frac{2}{3}[\alpha\ \overline{N}\ Ap + (\beta\ \overline{Ns}\ Ls + \gamma\ \overline{qu}\ Lc)\ \Psi]\ (kN) \cdots (ii)$$

ここで、(i)，(ii)式において、

α：基礎ぐいの先端付近の地盤（地震時に液状化するおそれのある地盤を除く）におけるくい先端支持力係数（α＝300）

β：基礎ぐいの周囲の地盤（地震時に液状化するおそれのある地盤を除く）のうち砂質地盤におけるくい周面摩擦力係数（$\beta\overline{Ns}$＝15を満たすβ）

γ：基礎ぐいの周囲の地盤（地震時に液状化するおそれのある地盤を除く）のうち粘土質地盤におけるくい周面摩擦力係数（$\gamma\overline{qu}$＝15を満たすγ）

$\overline{N}$：基礎ぐいの先端付近（くい先端位置より下方に1Dw（Dw：羽根の直径）、上方に1Dwの範囲）の地盤の標準貫入試験による打撃回数の平均値（回）

ただし、基礎ぐいの先端地盤が砂質地盤（礫質地盤含む）の場合は $15 \leq \overline{N}$ とし、60を超える場合は60を上限とする。

また、基礎ぐいの先端地盤が粘土質地盤の場合は $12 \leq \overline{N}$ とし、60を超える場合は60を上限とする。

Ap：基礎ぐいの先端の有効断面積（㎡）

Ap ＝ Ap・e

e：有効面積率（e＝0.5）

Ap：くい先端平面積　Ap ＝ π・Dw2/4（㎡）

$\overline{Ns}$：基礎ぐいの周囲の地盤のうち砂質地盤の標準貫入試験による打撃回数の平均値（回）

ただし、$0 < \overline{Ns}$ とし、30を超える場合は30とする。なお、Ns値が0の場合、周面摩擦力を考慮しない。

$\overline{qu}$：基礎ぐいの周囲の地盤のうち粘土質地盤の一軸圧縮強度の平均値（kN/㎡）

ただし、$0 < \overline{qu}$ とし、200を超える場合は200を上限とする。なお、qu値が0の場合、周面摩擦力を考慮しない。

Ls：基礎ぐいの周囲の地盤のうち砂質地盤に接する有効長さの合計（m）

Lc：基礎ぐいの周囲の地盤のうち粘土質地盤に接する有効長さの合計（m）

Ψ：基礎ぐいの周囲の有効長さ（m）

Ψ ＝ π・Do

Do：くい本体部径（m）

3.くい材から決まる許容鉛直支持力

$Ra2 = fe \cdot Ae \times 10^{-3}$

Ra2：くい材から決まる長期許容鉛直支持力（kN）

fe ：くい材の長期許容応力度（＝ F※/1.5）

F ※：設計基準強度（N/mm2）

F ※ ＝ F・(0.80 ＋ 2.5te / r)かつ F※≦F

F ：くい材の許容応力度を決定する場合の基準値

（STK400→235N/mm2、STK490→325N/mm2、SEAH590[STKT590]→440N/mm2）

te：腐食しろを除いた鋼管の肉厚(mm)

r ：鋼管の半径(mm)

Ae：腐食しろを考慮したくい材の有効断面積（mm2）

4.適用範囲

1）適用する地盤の種類

基礎ぐいの先端付近の地盤：

砂質地盤（礫質地盤含む）――――― TACP-0635

粘土質地盤 ――――――――――― TACP-0636

基礎ぐいの周囲の地盤：砂質地盤及び粘土質地盤

2）最大施工深さ（m）

杭本体部径	114.3	139.8	165.2	190.7	216.3	267.4	318.5	355.6	406.4
先端砂質地盤（礫質地盤）	14.8	18.1	21.4	24.7	28.1	34.7	41.4	46.2	51.3
先端粘土質地盤	14.8	18.1	21.4	24.7	28.1	34.7	41.0	45.8	－

3）適用する建築物の規模

床面積の合計が500,000㎡以下の建築物

【EAZET（イーゼット）の構造・規格】

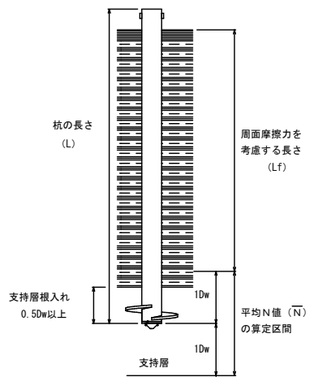
1.中四国・九州地区向け杭材仕様（沖縄含）

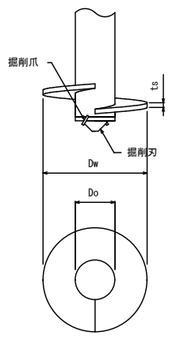
杭本体部				杭先端羽根部		
径 Do(mm)	STK400	STK490	SEAH590 [STKT590]	径 Dw(mm)	厚 ts(mm)	材質
	厚 t(mm)					
114.3	〈6.0〉	－	－	250	12	SM490A
				300	16	
139.8	〈6.6〉	－	－	300	16	
				350	19	
				400	19	
165.2	－	7.1	－	350	16	
				450	22	
190.7	－	7.0	－	400	19	
				500	22	
				570	25	
216.3	－	8.2	－	470	22	
		12.7		550	25	
				600	28	
				650	28	
267.4	－	8.0	〈8.0〉	580	28	
		〈9.3〉	〈12.7〉	650	28	
		12.7		700	28	
				750	32	
				800 ※1	28	
318.5	－	〈7.9〉	－	600	22	
		〈12.7〉		750	28	
				800	32	
355.6	－	〈7.9〉	－	700	28	
		〈12.7〉		750	28	
				800	32	
406.4	－	〈7.9〉〈9.5〉	－	800	28	
		〈12.7〉〈19.0〉		880	32	

※1：N値30まで限定

※〈　〉の仕様は準標準材です。ご検討される場合は弊社担当までお問い合わせください。

部材	規格
杭本体部	JIS G 3444　一般構造用炭素鋼鋼管　　STK400、STK490
	MSTL-0419 国土交通大臣認定 基礎ぐい用高張力鋼管　SEAH590[STKT590]
杭先端部	JIS G 3106　溶接構造用圧延鋼材　　SM490A

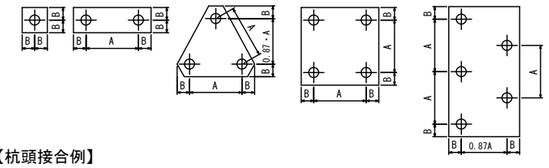




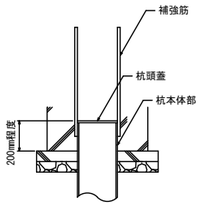
【基礎とフーチング形状例】

A：杭心間隔	B：へりあき
Dw ＋ Do	1.25 × Do

※ Dw：杭先端羽根部径　　Do：杭本体部径



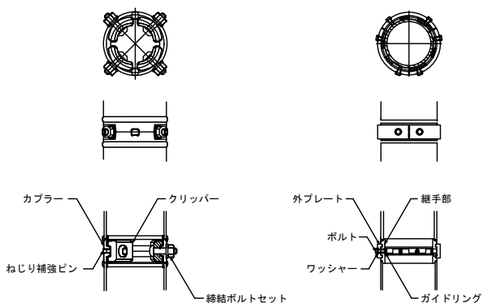
【杭頭接合例】



※杭頭接合部の設計は、認定書・評定書の中で規定されていませんので、設計者の判断に委ねられています。

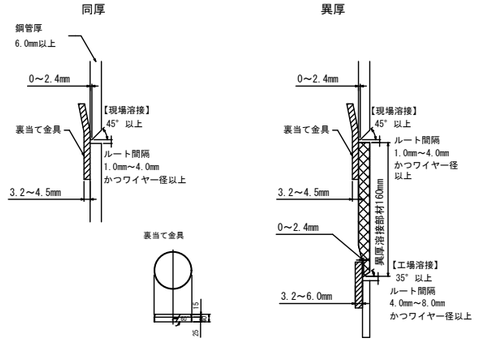
【継手接続例】

ＮＣＣジョイント継手　　ＡＫジョイント継手



溶接継手

同厚　　異厚



【施工管理項目一覧】

工　程	管理項目	管理方法	管　理　値
杭材の受け入れ	材料寸法	・搬入時に測定検査	・杭径、杭長、肉厚、羽根径、羽根厚に誤りがないこと
	外観不良・数量	・搬入時に目視確認	・継手部に異常がないこと
回転埋設	杭心からのずれ	・逃げ心棒にて測定	・偏心量±2cm以内
	杭の鉛直性	・水準器で確認	・傾斜　1/100以内 ※気泡が中央にあること
	回転トルク	・施工機械の管理装置（トルク計）	・杭体のねじり強さ以内
溶接継手	杭の鉛直性	・水準器で確認	・傾斜　1/100以内 ※気泡が中央にあること
	接続状況	・目視により確認	・異常なアンダーカット、ピット、割れがないこと
NCC　ジョイント	一次締付けトルク	・トルクレンチによる	・ボルトM16→約100N・m ・ボルトM20→約150N・m
	本締め	・シャーレンチによる	・ピンテールの破断、ボルト余長はネジ山２山以上
	共廻り防止	・マーキングで確認	・マーキングのずれ
ＡＫジョイント	一次締付けトルク	・トルクレンチによる	・締付トルク　90N・m±10%
	本締めトルク		・締付トルク 180N・m±10%
	締め忘れ防止	・マーキングで確認	・マーキングのずれ
支持層の確認	支持層到達確認	・施工機械のトルク計	・施工回転トルクの変化傾向 ・地盤調査データのN値の推移 ・施工回転トルクの管理目標値
	根入れ長さ	・施工機械の深度計	・支持層に0.5Dw以上かつ設計時に設定された根入れ長さ以上
	回転貫入量	・専用用紙に記録する	・回転貫入量の管理値による
杭頭のずれ	偏心量	・逃げ心棒にて測定	・±10cm以内

【EAZET（イーゼット）取得済認定、公的評価】

国土交通大臣認定

名称	認定番号	取得年月日
先端羽根付き鋼管杭（名称：スクリューパイルEAZET）（先端地盤：砂質地盤（礫質地盤含む））	TACP-0635	令和4年2月7日
先端羽根付き鋼管杭（名称：スクリューパイルEAZET）（先端地盤：粘土質地盤）	TACP-0636	令和4年2月7日

一般財団法人 日本建築センター評定

件名	番号	取得年月日
鋼管くいに用いる無溶接継手（クリッパー式継手）	BCJ評定-FD0045-10	令和5年10月13日
鋼管杭に用いる接続プレート・嵌合方式無溶接継手（ＡＫジョイント）	BCJ評定-FD0509-04	令和6年4月12日

一般財団法人 ベターリビング評定

件名	認定区分	番号	取得年月日
スクリューパイルEAZET工法における引抜き方向の許容支持力（先端地盤：砂質地盤礫質地盤を含む）	一般評定	CBL FP001-24号	令和7年2月28日

一般財団法人 日本建築センター評定

件名	番号	取得年月日
スクリューパイルEAZET工法による基礎ぐいの引抜き方向の地盤の許容支持力（先端地盤：粘土質地盤）	BCJ評定-FD0579-02	令和5年4月14日

旭化成建材株式会社

広島県広島市中区鉄砲町７－１８（東芝フコク生命ビル 9F）
ＴＥＬ．082-511-5120　ＦＡＸ．082-222-8036

福岡県福岡市中央区白金１－２０－３（紙与薬院ビル 10F）
ＴＥＬ．092-526-2109　ＦＡＸ．092-526-2493

一級建築士　大臣登録　第237250号　猪又　忠彦
構造設計一級建築士　　第5517号

備考

１級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎

工事名称	縮尺	図面No.
阿志岐小学校昇降機設備設置工事		Ｓ－０８
図面名称：スクリューパイルEAZET設計施工標準図	A－３　NONSCALE	日付 2026.1

ハイベースNEO工法設計施工標準

（ハイベースNEO工法は、Ｓ造及びＣＦＴ造に適用）

2025/10

大臣認定　MSTL-0566（Gタイプ用ベースプレート）
MBLT-0042～0044, 0046, 0228～0230（アンカー用ボルトセット）

BCJ評定　BCJ評定-ST0058（Gタイプ）
BCJ評定-ST0059（エコタイプ、高強度柱適用タイプ）

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 ＪＡＳＳ ６ 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説 ＪＡＳＳ ５ 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

設　計

１．材質

（１）ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

エコタイプ（ＥＢ型式、ＥＭ型式、ＥＨ型式），高強度柱適用タイプ（KB型式）

	ベースプレート エコタイプ	ベースプレート 高強度柱適用タイプ	アンカーボルト※2	エコナット※2	ナット※2	座金※2	定着板
規格	JIS G3136※5 又はTMCP鋼※4	TMCP鋼※4	HAB（大臣認定取得材）	大臣認定取得材	JIS B1181（六角ナット）	JIS G3106	JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）
ねじの種類	—	—	メートル並目	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	板厚40mm以下の場合SN490B 板厚40mm超の場合TMCP325B, C	TMCP385B, C	降伏比 ７０％以下	–	強度区分5	SM490A	SS400

エコタイプ、高強度柱適用タイプのベースプレート上ナットはエコナットを使用する。

Gタイプ（ＧＢ型式、ＧＭ型式、ＧＨ型式）

	ベースプレート※1	アンカーボルト※2	ナット※2	座金※2	定着板
規格	HCW490B（大臣認定取得材）	HAB（大臣認定取得材）	JIS B1181（六角ナット）	JIS G3106	JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）
ねじの種類	—	メートル並目※3	メートル並目※3	—	—
備考	SN490B同等	降伏比 ７０％以下	強度区分5（二重ナット時） 強度区分6（一重ナット時）	SM490A	SS400

※１ 国土交通大臣認定（ＭＳＴＬ-0566）　※２ 国土交通大臣認定（ＭＢＬＴ-0042～0044, 0046, 0228～0230）
※３ Ｍ７２は細目ねじ　※４ 建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用　※５ 電炉材を使用する場合があります

（２）ベースプレート下面のモルタル

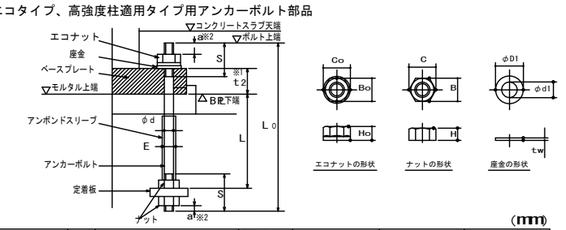
後詰めモルタル	ハイベース工法無収縮モルタルＮＸ-２０００、又はクイック３およびこれと同等以上の無収縮性モルタル※　※ センクシアが供給するものに限る
中心塗部分モルタル	○無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル（NX-２０００及びクイック３は使用不可。） ○強度はこれに接するコンクリートの強度以上

（３）基礎・基礎ばり

コンクリート	○日本建築学会「ＪＡＳＳ ５ 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート ○設計基準強度は、Ｆｃ＝１８～３６Ｎ／
鉄筋	ＪＩＳ Ｇ ３１１２「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼
柱形	へりあき量は、ベースプレート外形寸法の０．１倍以上確保しなければならない。

２．アンカーボルトのセット寸法

エコタイプ、高強度柱適用タイプ用アンカーボルト部品



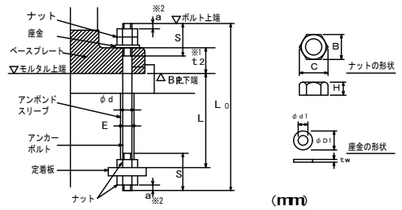
(mm)

	ねじの呼び	アンカーボルト 軸径	ねじ ピッチ	ねじ 長さ	余長※2	定着長さ	全長	アンボンドスリーブ 外径	エコナット 高さ	二面幅	対角距離	ナット 高さ	二面幅	対角距離	座金 厚さ	内径	外径
		φd	P	S	a	L	LO	E	HO	BO	CO	H	B	C	tw	φd1	φD1
エコタイプ※3	M24	24	3	95 105	10	400 480	550 645	29	22	46	53	19	36	42	6	25	56
	M30	30	3.5	110 130	13	600 600	800 880	35	27	50	58	24	46	53	6	31	60
	M36	36	4	130	16	480 720	690 925	41	33	55	64	29	55	64	6	37	66
	M42	42	4.5	155	18	840	1080	48	38	65	75	34	65	75	9	43	78
高強度柱適用タイプ	M42	42	4.5	165	18	840	1110	48	38	65	75	34	65	75	9	43	78

※１ t_2 はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースＮＥＯ型式によって変わります。
※２ ａ寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
施工時は、ねじ山が最低３山ナットの外に出るように余長を確保してください。
※３ 表中のエコタイプ上段はEB、EM型式のアンカーボルト4本タイプ、
エコタイプ下段はEB、EM型式のアンカーボルト8本、12本タイプ及びEHタイプの場合の寸法です。

⚠注意
・エコタイプ、高強度柱適用タイプのアンカーボルトはシングルナットとしておりますので、ゆるみ止め処置としてコンクリートスラブで被覆してください。
・コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め処置が必要です。その場合、せん断耐力が変わる可能性がありますのでセンクシアにご相談ください。
・アンカーボルト上部には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

Gタイプ用アンカーボルト部品



(mm)

ねじの呼び	アンカーボルト 軸径	ねじ ピッチ	ねじ 長さ	余長※2	定着長さ	全長	アンボンドスリーブ 外径	ナット 高さ	二面幅	対角距離	座金 厚さ	内径	外径
	φd	P	S	a	L	LO	E	H	B	C	tw	φd1	φD1
M24	24	3	105	10	480	645	29	19	36	42	6	25	44
M30	30	3.5	130	13	600	800	35	24	46	53	6	31	56
M36	36	4	150 150	16	720	925 955	41	29	55	64	6	37	66
M42	42	4.5	155 165	18	840	1080 1110	48	34	65	75	9	43	78
M48	48	5	175 190	22	960	1225 1270	54	38	75	87	9	50	92
M56	56	5.5	185 210	24	1120	1420 1470	62	45	85	98	9	58	105
M64	64	6	200 230	28	1280	1610 1660	70	51	95	110	12	66	115
M72	72	6	250	30	1440	1850	79	58	105	121	12	74	125

※1
t_2 はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースＮＥＯ型式によって変わります。

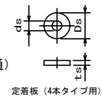
※2
ａ寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
施工時は、ねじ山が最低３山ナットの外に出るように余長を確保してください。

※3
上段はGB型式及びGM型式の場合、下段はGH型式の場合の寸法です。

⚠注意
・Gタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。
・一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置が必要です。（一重ナットとする場合は、センクシアにご相談ください。）

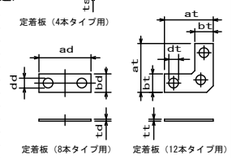
ベースプレートのアンカーボルト孔径 (mm)

ねじの呼び	M24	M30	M36	M42	M48	M56	M64	M72
エコタイプ 高強度柱適用タイプ	38	44	50	57	–	–	–	–
Gタイプ孔径	–	38	45	53	61	70	79	87



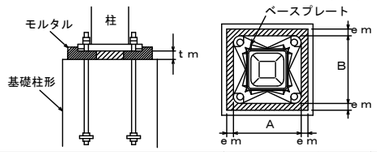
定着板（エコタイプ、高強度柱適用タイプ、Gタイプ共通） (mm)

ねじの呼び	4本タイプ用 厚さ ts	外径 Ds	内径 ds	8本タイプ用 厚さ td	長さ ad	幅 bd	内径 dd	12本タイプ用 厚さ tt	長さ at	幅 bt	内径 dt
M24	16	70	27	–	–	–	–	–	–	–	–
M30	16	90	33	9	180	65	33	–	–	–	–
M36	19	100	39	9	215	75	39	–	–	–	–
M42	22	120	45	9	240	85	45	9	225	85	45
M48	25	140	52	9	270	95	52	9	260	95	52
M56	28	160	60	9	305	110	60	9	295	110	60
M64	32	180	68	12	330	130	68	12	340	130	68
M72	–	–	–	16	380	145	76	16	375	145	76



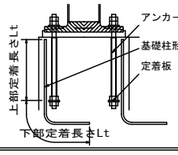
ベースプレートの形状・寸法は、ハイベースＮＥＯ工法設計ハンドブックを参照ください。

３．ベースプレート下面モルタルの標準寸法



各部名称	寸法	備考
中心塗り部分モルタルの厚さ（ｔｍ）	標準寸法 ｔｍ=50mm	許容範囲 ３０≦ｔｍ≦７０mm
ベースプレート周辺のモルタル幅（ｅｍ）	ｅｍ≧３０mm	許容範囲 em≧２５mm

４．基礎柱形主筋の定着長さ（最小値）



基礎柱形主筋の定着長さ（Lt）は、定着板上面を境にして上下とも確保する必要があります。

工場加工

１．溶接材料

被覆アーク溶接	JIS Z 3211（旧JIS Z 3212）に従い選定する（低水素系）
ガスシールドアーク溶接	JIS Z 3312 又は JIS Z 3313に従い選定する

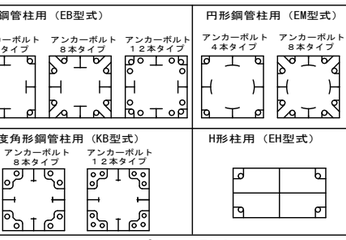
※ベースプレートと柱のF値が異なる場合は、JASS6や各材質毎に定められた指針に従い溶接材料を選定する。

２．ベースプレートの鉄骨柱への取付け（柱端部に開先を設ける）

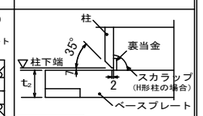
※　柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
開先はＭＣ－ＴＬ－１Ｂ、ＧＣ－ＴＬ－１Ｂによる　※開先形状は参考

エコタイプ・高強度柱適用タイプ

ベースプレート形状



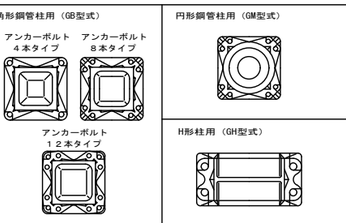
開先形状



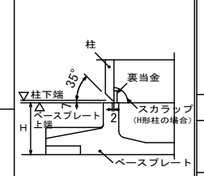
⚠注意
柱はベースプレートのフラット面に取り付けてください。
アンカーボルト孔周辺に凹加工している面はベースプレート裏面であり、無収縮モルタルと接する面となります。

Gタイプ

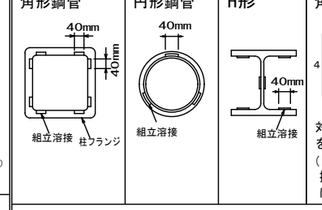
ベースプレート形状



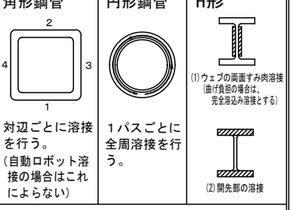
開先形状



３．組立溶接

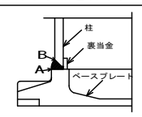


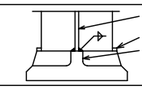
４．本溶接の手順



５．溶接施工一般

予熱	鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。
余盛	溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。 余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手またはＴ継手余盛り高さに準拠する（Gタイプ）。
H形柱の溶接	エンドタブの取付とH形柱ウェブのすみ肉溶接





⚠注意　柱の溶接時にベースプレートとの組合せによってはベースプレートが溶接熱歪によって曲がることがあります。

６．検査

方法	溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。探傷は柱フランジ側から行う。
不良溶接部の補正	（１） 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。 （２） 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から５０mm以上、はつり取り再溶接する。

現場施工

(#)：センクシアの担当範囲

１．捨てコンクリート打設

柱脚部の捨てコンクリートの厚さは９０mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

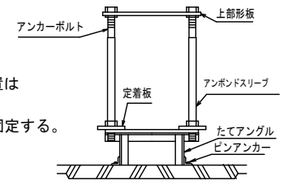
２．墨出し

３．アンカーボルト搬入（#）

４．アンカーボルト据付（#）

アンカーボルト設置

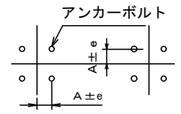
アンカーボルトの設置は自立できる形式とし、捨てコンクリートに固定する。



アンカーボルト設置例
（架台の形状は異なる場合あり）

アンカーボルト設置精度の目標値

平面



e≦３mm
（形板芯にて検査）

レベル

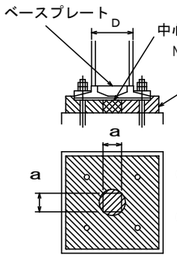
基準高さよりの誤差eh
－３mm≦eh≦10mm

５．鉄筋配筋・型枠の立込み

６．基礎コンクリート打設

基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。

７．中心塗り部分モルタル施工



中心塗部分モルタル
NX-2000、クイック3は使用不可。

後詰めモルタル
ハイベース工法無収縮モルタルＮＸ-２０００、又はクイック３およびこれと同等以上の無収縮性モルタル※
注入方法はヘッド圧工法による。
※ センクシアが供給するものに限る

（イ）□ ２５０以下、φ２６７．４以下、Ｈ２５０以下の場合
１００mm ≦ ａ ≦２００mm　かつ柱寸法 Ｄ以下

（ロ）□ ３００以上□７００以下、φ３００以上φ７１１．２以下、および Ｈ２５０以上の場合
１５０mm ≦ ａ ≦３００mm　かつ柱寸法 Ｄ以下

（ハ）□ ７５０～□１２００、φ７５０～φ１０１６の場合
３００mm ≦ ａ ≦５００mm

中心塗部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

EB, GB, EM, GM, EH, KB型式	GH型式
８．鉄骨建方 アンカーボルト締付 アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。	８．鉄骨建方
	９．モルタル注入枠設置（#） 後詰めモルタル充填（#）
９～１０．モルタル注入枠設置（#） 後詰めモルタル充填（#） アンカーボルト締付確認（#） ベースプレートと座金とナットが密着していることを確認。	１０．アンカーボルト締付（#） 予備締め マーキング ナット回転法による本締め （30°回転、許容差：+10°/−0°）

１１．モルタル注入枠取り外し

施工完了後、ハイベースＮＥＯ工法のチェックシートに工事記録を記載する。

センクシア株式会社

URL　https://www.senqcia.co.jp/

本社　ＴＥＬ　０３-４２１４-１９３２
札幌　ＴＥＬ　０１１-７０８－１１７７
東北　ＴＥＬ　０２２-２１３-５５９５
関東　ＴＥＬ　０２７-３２２-９４１１
中部　ＴＥＬ　０５２－５８２－３３５６
北陸　ＴＥＬ　０７６-２３３-５２６０
関西　ＴＥＬ　０６-６３９５-２１３３
中四国　ＴＥＬ　０８２-２４０-１６３０
九州　ＴＥＬ　０９２-４５２-０３４１

⚠注意
1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。（日本建築センターの評定で義務付けられています。）
2. アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
3. 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちきずやコンクリートが付着しないようにねじ部の保護養生をしてください。
4. 建て入れ直し用のワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
5. 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

一級建築士　大臣登録　第237250号　猪又　忠彦
構造設計一級建築士　第5517号

備考

１級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　桒　大二郎

工事名称	縮尺	図面No.
阿志岐小学校昇降機設備設置工事		S－０９
図面名称：ハイベースNEO工法 設計施工標準図	A－３　NONSCALE	日付 2026.1

ハイベースNEO工法　各種寸法及び基礎柱形設計例（Fc21の場合）
〈角形鋼管柱用 □150～□550〉

（ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用）
（ハイベースNEO工法エコタイプは、S造及びCFT造に適用）

大臣認定　MSTL-0566,0404,0180(Gタイプ用ベースプレート)
MBLT-0042～0044,0046,0228～0230(アンカーボルト)

BCJ評定　BCJ評定-ST0058（Gタイプ）
BCJ評定-ST0059（エコタイプ）

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書ＪＡＳＳ６鉄骨工事、建築工事標準仕様書同解説ＪＡＳＳ５鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

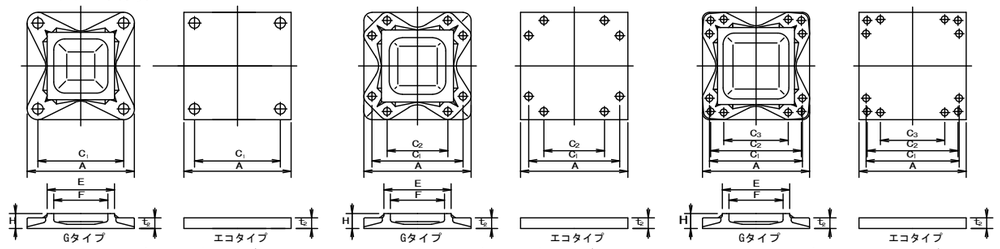
2025/10

型式表示例

エコタイプ：EB350－8－36
Gタイプ　：GB500－8－42

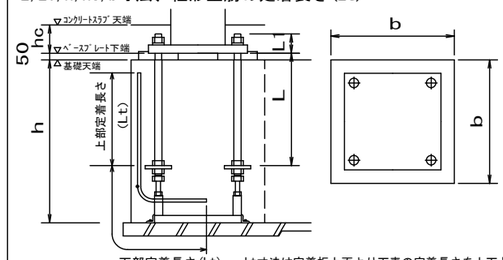
- 36：アンカーボルト径
- 8：アンカーボルト本数
- 350：柱外形寸法
- EB／GB：角形鋼管柱用

ベースプレート形状



アンカーボルト４本タイプ　アンカーボルト８本タイプ　アンカーボルト１２本タイプ

L, L1, h, hc, b寸法、柱形主筋の定着長さ(Lt)



エコタイプはシングルナット仕様（コンクリートスラブに埋込）
Gタイプはダブルナット仕様(露出が標準)
注)表中のh寸法は杭がない場合です。
　杭がある場合は表中のh寸法に+100mm以上確保して下さい。
　Gタイプでコンクリートスラブに埋め込む場合、スラブ厚(hc寸法)は"L1寸法+最低40mm以上のかぶり"となる寸法を確保してください。

下部定着長さ(Lt)　Lt寸法は定着板上面より下表の定着長さを上下とも確保してください。

・ハイベースNEO工法
（角形鋼管柱用□150～□550）

採用 柱符号	採用 数量	適用柱 柱サイズ	適用柱 板厚範囲	ハイベースNEO型式 エコタイプ	ハイベースNEO型式 Gタイプ	アンカーボルト	回転バネ定数 X10³kN・m/rad	寸法(mm) A	C1	C2	C3	E	F	H	t2	質量(kg) ベースプレート	部品	セット質量	L (mm)	L1 (mm)	基礎天端～地中コン天端 h(mm)	ベースプレート下端～コンクリートスラブ天端 hc(mm)	基礎柱形の設計例(Fc21) 〈側・隅柱用〉 Iゾーン 柱形b(mm)	Iゾーン 主筋量	Iゾーン 帯筋	IIゾーン 柱形b(mm)	IIゾーン 主筋量	IIゾーン 帯筋	鉄筋の定着長さ Lt(mm)	基礎柱形の設計例(Fc21) 〈中柱用（4方向から基礎梁が取り付く場合のみを示す。)〉 Iゾーン 柱形b(mm)	Iゾーン 主筋量	Iゾーン 帯筋	IIゾーン 柱形b(mm)	IIゾーン 主筋量	IIゾーン 帯筋	鉄筋の定着長さ Lt(mm)
		□150	4.5～12	EB150-4-24		4-M24	14.0	290	210	－	－	－	－	－	25	17	14	31	400	80	550以上	120	**500**	**8-D16**	**D13@150**	**500**	**16-D16**	**D13@150**	**210**	**500**	**8-D16**	**D13@150**	**500**	**16-D16**	**D13@150**	**210**
		□175	4.5～12	EB175-4-24		4-M24	17.9	310	230	－	－	－	－	－	25	19	14	33	400	80	600以上	120	520	8-D16	D13@150	520	16-D16	D13@150	210	520	8-D16	D13@150	520	16-D16	D13@150	210
		□200	6～12	-24		4-M24	21.9	340	260	－	－	－	－	－	25	23	14	37	400	80	600以上	120	550	8-D16	D13@150	550	16-D16	D13@150	200	550	8-D16	D13@150	550	16-D16	D13@150	200
○				EB200-4 -30		4-M30	35.4	360	270						32	33	23	56	400	102	600以上	150	570	8-D19	D13@150	570	16-D19	D13@150	300	570	8-D19	D13@150	570	16-D19	D13@150	300
				-36		4-M36	41.4	360	270						40	41	36	77	480	117	700以上	160	580	12-D19	D13@150	580	20-D19	D13@100	350	580	12-D19	D13@150	580	20-D19	D13@100	350
		□250	6～16	-24		4-M24	32.2	390	310	－	－	－	－	－	25	30	15	45	400	80	600以上	120	600	8-D19	D13@150	600	12-D19	D13@150	200	600	8-D19	D13@150	600	12-D19	D13@150	200
				EB250-4 -30		4-M30	51.3	410	320						32	43	23	66	400	102	600以上	150	610	8-D19	D13@150	610	16-D19	D13@150	300	610	8-D19	D13@150	610	16-D19	D13@150	300
				-36		4-M36	59.7	410	320						40	53	36	89	480	117	700以上	160	610	12-D19	D13@150	610	20-D19	D13@100	350	610	12-D19	D13@150	610	20-D19	D13@100	350
				EB250-8-30		8-M30	51.1	450	360	190					40	64	51	115	600	110	800以上	150	640	12-D22	D13@150	640	20-D22	D13@100	470	640	12-D22	D13@150	640	20-D22	D13@100	470
		□300	6～22	EB300-4 -30		4-M30	70.1	460	370	－	－	－	－	－	32	54	24	78	400	102	600以上	150	660	8-D19	D13@150	660	16-D19	D13@150	280	660	8-D19	D13@150	660	16-D19	D13@150	280
				-36		4-M36	82.9	460	370						40	67	37	104	480	117	700以上	160	660	12-D19	D13@100	660	20-D19	D13@100	350	660	12-D19	D13@100	660	20-D19	D13@100	350
				EB300-8 -30		8-M30	69.4	500	410	240					36	71	51	122	600	106	800以上	150	700	16-D22	D13@150	700	20-D22	D13@100	440	700	16-D22	D13@150	700	20-D22	D13@100	440
				-36		8-M36	84.0	510	420	220					44	90	82	172	720	121	900以上	170	720	16-D25	D13@150	720	24-D25	D13@100	610	720	16-D25	D13@150	720	24-D25	D13@100	610
		□350	9～22	EB350-4-30		4-M30	93.1	510	420	－	－	－	－	－	32	66	24	90	400	102	600以上	150	710	8-D19	D13@100	710	16-D19	D13@100	250	710	8-D19	D13@100	710	16-D19	D13@100	250
				EB350-8 -30		8-M30	89.5	550	460	290					36	86	52	138	600	106	800以上	150	750	16-D22	D13@150	750	20-D22	D13@150	490	750	16-D22	D13@150	750	20-D22	D13@150	490
				-36		8-M36	105	560	470	270					40	99	83	182	720	117	900以上	160	770	16-D25	D13@150	770	24-D25	D13@100	590	770	16-D25	D13@150	770	24-D25	D13@100	590
				-42		8-M42	133	590	480	260					48	132	131	263	840	138	1100以上	180	790	20-D25	D13@150	790	32-D25	D13@100	730	790	20-D25	D13@150	790	32-D25	D13@100	730
			9～25		GB350-4 -42	4-M42	128	550	440	－	－	356	280	75	50	107	72	179	840	145	1100以上	－	750	12-D25	D13@150	750	16-D25	D13@150	510	750	12-D25	D13@150	750	16-D25	D13@150	510
					-48	4-M48	156	590	460					90	61	142	113	255	960	168	1200以上	－	790	12-D25	D13@150	790	20-D25	D13@150	610	790	12-D25	D13@150	790	20-D25	D13@150	610
					GB350-8 -30	8-M30	150	540	450	280				55	28	77	52	129	600	95	800以上	－	740	16-D22	D13@150	740	20-D22	D13@150	490	740	16-D22	D13@150	740	20-D22	D13@150	490
					-36	8-M36	188	560	470	270				65	36	95	83	178	720	116	900以上	－	770	16-D25	D13@150	770	24-D25	D13@100	590	770	16-D25	D13@150	770	24-D25	D13@100	590
					-42	8-M42	216	590	480	260				70	45	118	131	249	840	140	1100以上	－	790	20-D25	D13@100	800	32-D25	D16@100	630	790	20-D25	D13@100	800	32-D25	D16@100	630
		□400	9～25	EB400-8 -30		8-M30	111	600	510	340	－	－	－	－	36	102	52	154	600	106	800以上	150	800	16-D22	D13@150	800	20-D22	D13@150	470	800	12-D22	D13@150	800	20-D22	D13@150	470
				-36		8-M36	127	610	520	320					40	117	83	200	720	117	900以上	160	820	16-D25	D13@100	820	24-D25	D13@100	570	820	12-D25	D13@100	820	24-D25	D13@100	570
				-42		8-M42	175	640	530	310					48	155	131	286	840	138	1100以上	180	840	20-D25	D13@100	840	32-D25	D13@100	730	840	20-D25	D13@100	840	32-D25	D13@100	730
			9～32		GB400-4 -42	4-M42	163	600	490	－	－	408	320	75	49	129	73	202	840	144	1100以上	－	810	12-D25	D13@100	810	16-D25	D13@100	420	810	12-D25	D13@100	810	16-D25	D13@100	420
					-48	4-M48	194	640	510					85	59	165	114	279	960	166	1200以上	－	840	12-D25	D13@100	840	20-D25	D13@100	520	840	12-D25	D13@100	840	20-D25	D13@100	520
					GB400-8 -36	8-M36	234	610	520	320				60	34	110	83	193	720	114	900以上	－	820	16-D25	D13@100	820	24-D25	D13@100	570	820	16-D25	D13@100	820	24-D25	D13@100	570
					-42	8-M42	282	640	530	310				70	42	136	131	267	840	137	1100以上	－	840	20-D25	D13@100	850	32-D25	D16@100	640	840	20-D25	D13@100	850	32-D25	D16@100	640
					-48	8-M48	321	680	550	300				80	52	176	211	387	960	159	1300以上	－	880	20-D29	D13@100	890	28-D29	D16@100	810	880	20-D29	D13@100	890	28-D29	D16@100	810
		□450	9～25	EB450-8 -36		8-M36	169	660	570	370	－	－	－	－	44	150	84	234	720	121	900以上	170	870	16-D25	D13@100	870	24-D25	D13@100	550	870	16-D25	D13@100	870	24-D25	D13@100	550
				-42		8-M42	199	690	580	360					48	180	132	312	840	138	1100以上	180	890	24-D25	D13@100	890	32-D25	D13@100	710	890	20-D25	D13@100	890	32-D25	D13@100	710
			9～36		GB450-4 -42	4-M42	199	650	540	－	－	458	360	75	48	153	73	226	840	143	1100以上	－	860	12-D25	D13@100	860	16-D25	D13@100	420	860	12-D25	D13@100	860	16-D25	D13@100	420
					-48	4-M48	236	690	560					85	58	192	116	308	960	165	1200以上	－	890	12-D25	D13@100	890	20-D25	D13@100	510	890	12-D25	D13@100	890	20-D25	D13@100	510
					GB450-8 -36	8-M36	296	660	570	370				60	32	130	84	214	720	112	900以上	－	870	16-D25	D13@100	870	24-D25	D13@100	550	870	16-D25	D13@100	870	24-D25	D13@100	550
					-42	8-M42	348	690	580	360				65	40	158	132	290	840	135	1100以上	－	890	24-D25	D13@100	890	32-D25	D13@100	710	890	20-D25	D13@100	890	32-D25	D13@100	710
					-48	8-M48	413	730	600	350				75	49	196	213	409	960	156	1300以上	－	930	20-D29	D13@100	940	28-D29	D16@100	810	930	20-D29	D13@100	940	28-D29	D16@100	810
		□500	9～28	EB500-8 -36		8-M36	210	710	620	420	－	－	－	－	44	173	89	262	720	121	900以上	170	950	16-D25	D13@100	950	24-D25	D13@100	540	950	12-D25	D13@100	950	24-D25	D13@100	540
				-42		8-M42	238	740	630	410					48	207	133	340	840	138	1100以上	180	950	24-D25	D13@100	950	32-D25	D13@100	700	950	20-D25	D13@100	950	32-D25	D13@100	700
				EB500-12-42		12-M42	396	740	630	600	350				60	258	197	455	840	150	1100以上	190	950	28-D25	4-D16@100	1050	44-D25	4-D16@100	630	950	20-D25	4-D16@100	1050	44-D25	4-D16@100	630
			9～40		GB500-4 -42	4-M42	244	700	590	－	－	508	400	80	47	183	74	257	840	142	1100以上	－	910	12-D25	D13@100	910	16-D25	D13@100	410	910	12-D25	D13@100	910	16-D25	D13@100	410
					-48	4-M48	290	740	610					90	57	226	127	353	960	164	1200以上	－	950	12-D25	D13@100	950	20-D25	D13@100	500	950	12-D25	D13@100	950	20-D25	D13@100	500
					GB500-8 -36	8-M36	354	710	620	420				65	30	154	89	243	720	110	900以上	－	950	16-D25	D13@100	950	24-D25	D13@100	540	950	16-D25	D13@100	950	24-D25	D13@100	540
					-42	8-M42	421	740	630	410				70	37	181	133	314	840	132	1100以上	－	950	20-D25	D13@100	950	32-D25	D13@100	700	950	20-D25	D13@100	950	32-D25	D13@100	700
					-48	8-M48	489	780	650	400				80	46	225	215	440	960	153	1300以上	－	1000	20-D29	D13@100	1000	28-D29	D16@100	780	1000	20-D29	D13@100	1000	28-D29	D16@100	780
					-64	8-M64	659	850	690	390				105	68	346	464	810	1280	210	1600以上	－	1100	32-D29	D16@100	1150	48-D29	D16@75	1150	1100	28-D29	D16@100	1150	48-D29	D16@75	1150
					GB500-12 -48	12-M48	695	780	650	610	320			90	57	265	304	569	960	164	1300以上	－	1000	24-D29	4-D16@100	1100	40-D29	4-D16@100	790	1000	16-D29	4-D16@100	1100	40-D29	4-D16@100	790
					-56	12-M56	771	810	670	630	300			105	72	342	455	797	1120	195	1450以上	－	1050	32-D29	4-D16@100	1500	56-D29	4-D16@80	950	1050	24-D29	4-D16@100	1500	56-D29	4-D16@80	950
		□550	9～28	EB550-8-42		8-M42	317	800	690	470	－	－	－	－	48	242	133	375	840	138	1100以上	180	**1000**	**24-D25**	D13@100	**1000**	**32-D25**	**D13@100**	**680**	**1000**	**20-D25**	**D13@100**	**1000**	**32-D25**	**D13@100**	**680**
				EB550-12-42		12-M42	475	790	680	650	400				60	294	198	492	840	150	1100以上	190	1000	28-D25	4-D16@100	1050	44-D25	4-D16@100	630	1000	20-D25	4-D16@100	1050	44-D25	4-D16@100	630
			9～40		GB550-4 -48	4-M48	339	790	660	－	－	558	450	90	56	257	129	386	960	163	1200以上	－	1000	12-D25	D16@150	1000	20-D25	D16@150	490	1000	12-D25	D16@150	1000	20-D25	D16@150	490
					-56	4-M56	408	820	680					100	69	308	187	495	1120	192	1350以上	－	1050	16-D25	D16@150	1050	28-D25	D16@150	610	1050	16-D25	D16@150	1050	28-D25	D16@150	610
					GB550-8 -36	8-M36	419	760	670	470				65	29	180	90	270	720	109	900以上	－	1000	16-D25	D13@100	1000	24-D25	D13@100	530	1000	16-D25	D13@100	1000	24-D25	D13@100	530
					-42	8-M42	498	790	680	460				70	36	207	133	340	840	131	1100以上	－	1000	24-D25	D13@100	1000	32-D25	D13@100	680	1000	20-D25	D13@100	1000	32-D25	D13@100	680
					-48	8-M48	580	830	700	450				75	45	250	217	467	960	152	1300以上	－	1050	20-D29	D16@150	1050	28-D29	D16@100	770	1050	20-D29	D16@150	1050	28-D29	D16@100	770
					-64	8-M64	806	900	740	440				95	65	367	467	834	1280	207	1600以上	－	1150	32-D29	D16@100	1150	48-D29	D16@75	1150	1150	28-D29	D16@100	1150	48-D29	D16@75	1150
					GB550-12 -48	12-M48	817	830	700	660	370			85	55	288	306	594	960	162	1300以上	－	1050	24-D29	4-D16@100	1100	40-D29	4-D16@100	790	1050	20-D29	4-D16@100	1100	40-D29	4-D16@100	790
					-56	12-M56	923	860	720	680	350			100	69	366	458	824	1120	192	1450以上	－	1100	32-D29	4-D16@100	1500	56-D29	4-D16@80	950	1100	24-D29	4-D16@100	1500	56-D29	4-D16@80	950

鉄筋はD13,D16はSD295,D19,D22,D25はSD345,D29はSD390をご採用ください。　表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアに問い合わせ下さい。

注 1）Ⅰ,Ⅱ ゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注 2）上記表内の<中柱用>とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、<側・隅柱用>を御採用下さい。
注 3）表中の鉄筋量は基礎立上がりのない場合（基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合）の設計例です。立上がりがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注 4）<中柱用>の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋を□450以下はD10@250、□500以上はD13@250として算定しています。あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
注 5）部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

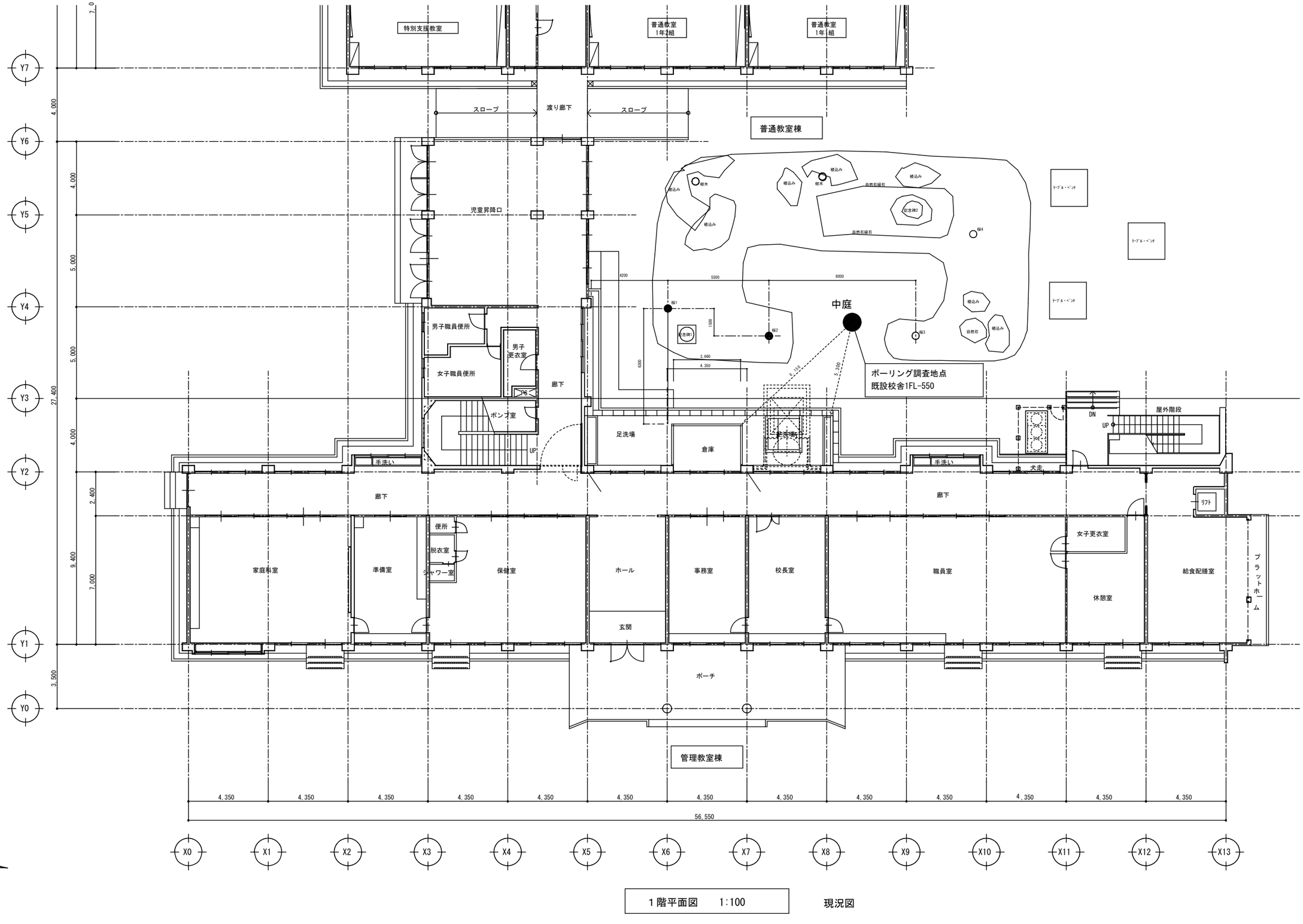
センクシア株式会社
本社　ＴＥＬ　０３-４２１４-１９３２　関東　ＴＥＬ　０２７-３２２-９４１１　関西　ＴＥＬ　０６-６３９５-２１３３
札幌　ＴＥＬ　０１１-７０８-１１７７　中部　ＴＥＬ　０５２-５８２-３３５６　中四国ＴＥＬ　０８２-２４０-１６３０
東北　ＴＥＬ　０２２-２１３-５５９５　北陸　ＴＥＬ　０７６-２３３-５２６０　九州　ＴＥＬ　０９２-４５２-０３４１
ＵＲＬ　https://www.senqcia.co.jp/

一級建築士　大臣登録　第237250号　猪又　忠彦
構造設計一級建築士　第5517号

備考

1級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎

工事名称	縮尺	図面No.
阿志岐小学校昇降機設備設置工事		S－１０
図面名称：ハイベースNEO工法 特記仕様書	A－３　NONSCALE	日付：2026.1



1階平面図　1:100

現況図

一級建築士　大臣登録　第237250号　猪又　忠彦
構造設計一級建築士　第5517号

備考	1級建築士事務所 浜地設計 株式会社 〒814-0133 福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１ 一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号 一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎	工事名称：阿志岐小学校昇降機設備工事	縮尺：A-3　1/100
		図面名称：ボーリング位置図	図面No.：S－１１
			日付：2026.1

ボーリング柱状図

調査名　阿志岐小学校昇降機設備整備工事地質調査

事業・工事名

ボーリングNo	1

シートNo

ボーリング名	No.1	調査位置	福岡県筑紫野市阿志岐2350			北緯	
発注機関				調査期間	令和 7年 7月 29日 ～ 7年 7月 29日	東経	
調査業者名	株式会社 アトリエ・ジオ 電話 (092-951-5100)	主任技師		現場代理人		コア鑑定者	中村和範	ボーリング責任者	金丸政幸
孔口標高	既設校舎1FL -550m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機	東邦DO-D	ハンマー落下用具	半自動
総掘進長	10.24m								エンジン	TF-90M	ポンプ	BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1	-552.20	2.20	2.20		盛土	暗褐～淡褐			GL0.00m～GL-0.80m間 礫混じり粘土 GL-0.80m～GL-2.20m間 真砂土 無水掘削GL-2.00m迄実施し 水位確認されず
2	-552.90	0.70	2.90		砂	暗褐灰			細粒砂主体で軟らかい
3	-553.80	0.90	3.80		礫混じり砂	褐			φ5mm～φ20mmの礫を混入する砂 粘性を少し含む
4					玉石混じり砂	淡褐～褐			φ50mm～φ70mmの玉石を多く 混入する細粒砂 花崗岩を玉石状に混入する
5	-555.80	2.00	5.80						
6					強風化花崗岩	淡褐			風化が強く粘性を少し含む GL-7.00m以深 若干締まりが良くなる
7	-557.80	2.00	7.80						
8					風化花崗岩	淡褐			締まりは良くなるが指圧で 潰れ砂状・礫状となる
9									
10	-560.24	2.44	10.24						
11									

泥水位(m)／測定月日	深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
	1.15	5	5	5	15/30	15
	1.45					
	2.15	1/20	1		2/30	2
7/29 2.90	2.45					
	3.15	2	1	1	4/30	4
	3.45					
	4.15	30	20/8		50/18	83
	4.33	50/4			50/4	375
	5.00					
	5.04					
	6.15	3	4	4	11/30	11
	6.45					
	7.15	9	12	16	37/30	37
	7.45					
	8.15	20	18	12/5	50/25	60
	8.40					
	9.15	16	20	14/3	50/23	65
	9.38					
	10.05	21	29/9		50/19	79
	10.24					

原位置試験

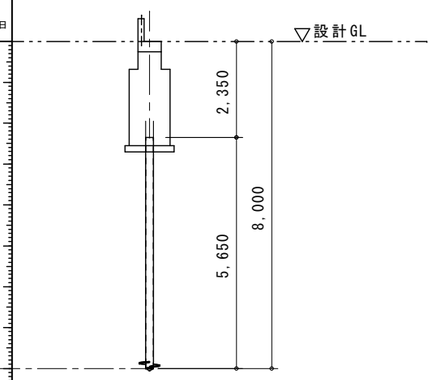
深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法
3.15		
3.45		

室内試験（　）：粒度（フルイ）

掘進月日：7/29



先端N値の平均(押;上方1Dw,下方5Dw)=(11+37+50+50+50)/5=39.6
先端N値の平均(押;上方1Dw,下方1Dw)=(11+37+50)/3=32.6

採用N値：長期許容鉛直支持力検討用　30

一級建築士　大臣登録　第237250号　猪又　忠彦
構造設計一級建築士　第5517号

備考

1級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎

工事名称	縮尺	図面No.
阿志岐小学校昇降機設備設置工事	A-1 NONSCALE	S－１２
図面名称		日付
ボーリング柱状図	A-3 1/150	2026.1

ＱＬデッキ合成スラブ設計・施工標準　耐火仕様①
合成スラブ工業会仕様

JFE 建材 株式会社

［耐火認定FP60FL-9095, 9101, FP120FL-9107, 9113用］

ＱＬデッキ合成スラブの設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」「鉄骨工事技術指針」「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、(一社)日本鋼構造協会「デッキプレート床構造設計・施工規準　2018」、合成スラブ工業会「合成スラブの設計・施工マニュアル」、ＱＬデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

設　　計

材料／デッキプレート　［ISO 9001認証取得］

デッキプレート種類		板厚(mm)	表 面 処 理
■ＱＬ99-50 □ＱＬ99-75	端部加工 ■ｴﾝﾏﾛ有り □無し	― ―	― ― ― ― ― ― ―
		■1.2 □1.6	■裏面防錆処理(一次塗装) ＱＬプライマー(P)*1 □亜鉛めっき　［ □Z12　□Z27 ］ □JFEｴｺｶﾞﾙ(高耐食溶融めっき鋼板)　［ □Y18　□Y27 ］ □その他(　　)　□無し
材　質	ＪＩＳＧ３３５２に定めるSDP1T、SDP2、SDP2G		

*1 現場搬入までの一次防錆（ＪＩＳＫ５６２１２種または3種相当）

材料／コンクリート

種　　類	■普通コンクリート　□軽量コンクリート［□1種　□2種］
設計基準強度	□18　■21　□24　□(　　)N／mm²
厚さ(QLデッキ山上)	□60　□70　■80　□85　□90　□95　□100　□(　　)mm

材料／溶接金網・異形鉄筋

■ 溶接金網	ＪＩＳＧ３５５１	□φ6-75×75　■φ6-150×150 □φ6-100×100　□(　　)*2
□ 異形鉄筋	ＪＩＳＧ３１１２、３１１７	□D10-150×150 □D10-200×200　□(　　)
耐火補強筋	ＪＩＳＧ３１１２、３１１７	D13-@300

*2 線径6mm以上を用いたもの

接　　合

梁との接合	□頭付きスタッド	JIS B 1198 □φ13　□φ16　□φ19　□φ22 (各長さ・ピッチは特記による*3)
	■焼抜き栓溶接	下記焼抜き栓溶接の項による
	□打込み鋲	接合箇所は特記による
	□その他	

*3 最小長さはデッキ高さ＋30mm以上とする

耐　　火

ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ	耐火区分	支持条件	ｺﾝｸﾘｰﾄ種別	耐火補強筋	認定番号
QL99-50 QL99-75	床１時間	単純	普通/軽量	要	■ＦＰ０６０ＦＬ－９１０１
		連続		不要	□ＦＰ０６０ＦＬ－９０９５
	床２時間	単純		要	□ＦＰ１２０ＦＬ－９１１３
		連続		不要	□ＦＰ１２０ＦＬ－９１０７

注）床２時間は床１時間耐火を含む

その他	□指定なし　□(　　)□(　　)

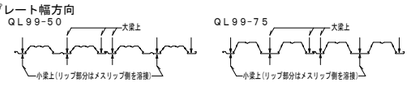
特　　記

支保工有無	
■ 無　□ 有	その他：

上欄内の採用項目に■を記して下さい。

焼抜き栓溶接

デッキプレート幅方向



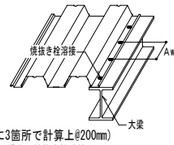
デッキプレートスパン方向

「ＱＬデッキ設計マニュアル」に基づいて決定する。

$$A_w = \frac{1.5Q_a}{Q_D} \times 1000\text{mm かつ}600\text{mm 以下}$$

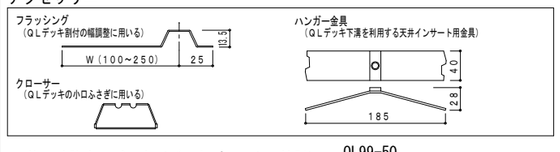
Qa：焼抜き栓溶接１個当たりの長期許容せん断力（N）
Qₚ：設計最大せん断力(N/m)
Aw：焼抜き栓溶接ピッチ

板厚	Qa (N)
1.2	4,900
1.6	7,350(SPW)、6,860(A.P.W)



Ａｗ＝デッキ長さ方向(X) 600 mm デッキ幅方向(Y) 200 mm（幅600mmに3箇所で計算上@200mm）
（注）接合に頭付きスタッドを用いる場合、焼抜き栓溶接は不要

アクセサリー

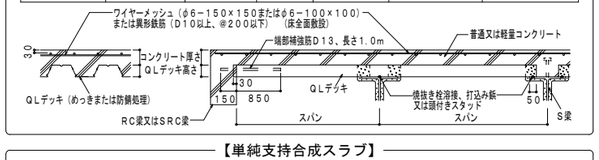


耐　火　仕　様

【連続支持合成スラブ】

支持梁：鉄骨(S)梁及び大梁：鉄筋コンクリート(RC)梁又は鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)梁、小梁：鉄骨(S)梁
コンクリート：設計基準強度１８N/mm²以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート（1種・2種）

耐火時間	コンクリート種類	品名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋(D10～@200)	許容積載荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9095	普通コンクリート	QL99-50	3.0m以下	80mm以上	φ6-150x150	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m以下			算出式 注5)B 参照
			3.6m以下	90mm以上	φ6-100x100	4,400N/m²以下 注2)
	軽量コンクリート	QL99-50	3.0m以下	80mm以上	φ6-150x150	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m以下			算出式 注5)B 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9107	普通コンクリート	QL99-50	2.7m以下	95mm以上	φ6-100x100	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m以下	90mm以上		算出式 注5)B 参照
			3.6m以下	95mm以上	D10-@200	5,400N/m²以下 注2)
	軽量コンクリート	QL99-50	2.7m以下	85mm以上	φ6-100x100	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m以下			算出式 注5)B 参照
			3.6m以下	90mm以上	D10-@200	5,400N/m²以下 注2)



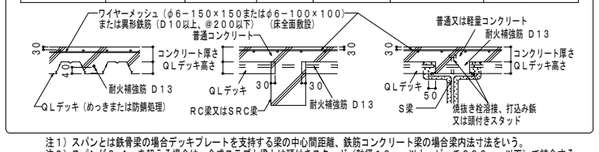
【単純支持合成スラブ】

支持梁：鉄骨(S)梁　　コンクリート：設計基準強度１８N/mm² 以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート（1種・2種）
耐火補強筋：D13（デッキプレート各溝@300）

耐火時間	コンクリート種類	品名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋(D10～@200)	許容積載荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	QL99-50	2.7m以下	80mm以上	φ6-150x150	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m以下			算出式 注5)B 参照
	軽量コンクリート	QL99-50	2.7m以下			算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m以下			算出式 注5)B 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	QL99-50	2.7m以下	95mm以上	φ6-100x100	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m以下	90mm以上		算出式 注5)B 参照
	軽量コンクリート	QL99-50	2.7m以下	85mm以上		算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m以下			算出式 注5)B 参照

支持梁、鉄筋コンクリート(RC)梁又は鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)梁の場合　　コンクリート：設計基準強度１８N/mm² 以上の普通コンクリート
耐火補強筋：D13（デッキプレート各溝@300）

耐火時間	コンクリート種類	品名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋(D10～@200)	許容積載荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	QL99-50	2.7m以下	80mm以上	φ6-150x150	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m以下			算出式 注5)B 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	QL99-50	2.7m以下	95mm以上	φ6-100x100	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m以下	90mm以上		算出式 注5)B 参照



注1）スパンとは鉄骨梁の場合デッキプレートを支持する梁の中心間距離、鉄筋コンクリート梁の場合梁内法寸法をいう。
注2）スパンが3.4mを超える場合は、合成スラブと梁とは頭付きスタッド（軸径16mm以上、ピッチ300mm以下）で結合する。
注3）鉄骨梁の場合、梁との接合は焼抜き栓溶接、打込み鋲、または頭付きスタッドを用いる。
注4）梁の耐火被覆　梁に1、2または3時間の耐火性能が要求される場合は、それらに応じ耐火被覆を施す。
注5）許容積載荷重W　算出式　　ℓ：支持スパン (m)

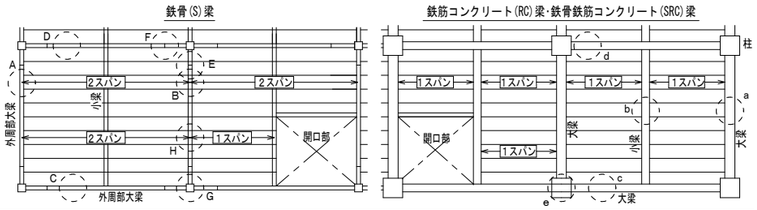
[A] QL99-50	[B] QL99-75
$W=5,400\times\left(\frac{2.7}{\ell}\right)^2$ かつ9,800 N/m² 以下	$W=5,400\times\left(\frac{3.4}{\ell}\right)^2$ かつ9,800 N/m² 以下

※許容積載荷重は、床にかかる全荷重(仕上げ荷重も含む)から床荷重(デッキプレートとコンクリートの自重)を差し引いた値を示します。

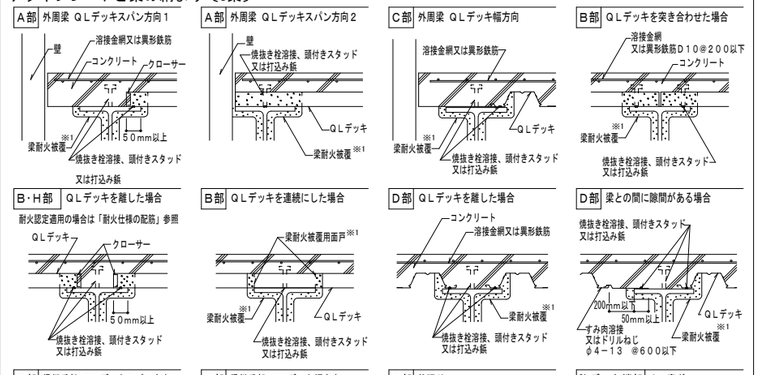
付帯条件
連続支持合成スラブの場合、デッキプレートは２スパン以上にわたって連続的に小ばり等によって、ほぼ等間隔(スパン比３：２を超えない程度※)に支持されるものとする。
※合成スラブ工業会発行「合成スラブの設計・施工マニュアル」参照

標　　準　　納　　ま　　り

図中※１は、梁に１、２または３時間の耐火性能が要求される場合のみ適用。　※２はＱＬデッキ耐火認定を適用する場合に必要。
※３ 溶接方法等は別途検討が必要。（合成スラブ工業会Ｑ＆Ａ参照）

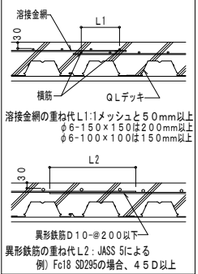


デッキプレートと梁の納まり［S梁］



スラブの配筋

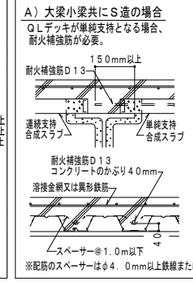
コンクリート表面よりのかぶり厚さが３０mmになるようレベル保持し、全面に配筋する。



耐火仕様の配筋

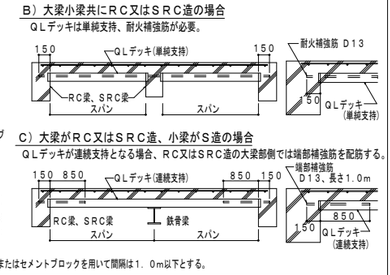
・ＱＬデッキが単純支持となる場合、耐火補強筋を配筋する。配筋はＪＡＳＳ５鉄筋コンクリート工事による。
・耐火補強筋・端部補強筋が必要な場合、ＱＬデッキの各溝中央部にかぶり４０mmで配筋する。
・耐火補強筋、端部補強筋共、梁へ１５０mm以上定着させる。梁上で定着が１５０mmとれない場合は、Ｌ型に曲げて１５０mm以上を確保する。

Ａ）大梁小梁共にＳ造の場合
ＱＬデッキが単純支持となる場合、耐火補強筋が必要。



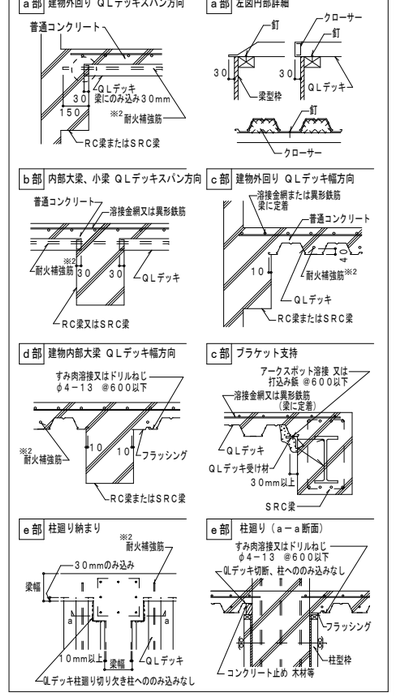
※配筋のスペーサーは φ４．０mm以上鉄線またはセメントブロックを用いて間隔は１．０m以下とする。

Ｂ）大梁小梁共にＲＣ又はＳＲＣ造の場合
ＱＬデッキは単純支持、耐火補強筋が必要。



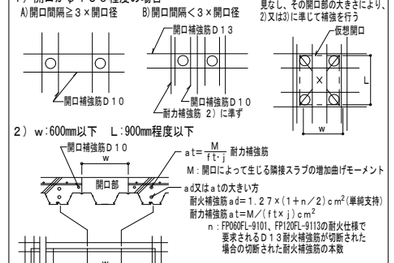
Ｃ）大梁がＲＣ又はＳＲＣ造、小梁がＳ造の場合
ＱＬデッキが連続支持となる場合、ＲＣ又はＳＲＣ造の大梁部側では端部補強筋を配筋する。

デッキプレートと梁の納まり［RC・SRC梁］

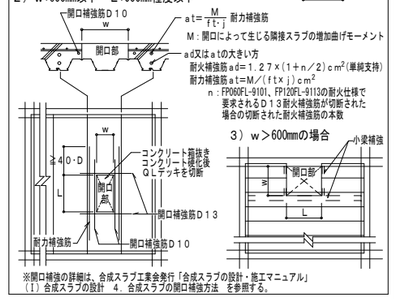


開口部補強案

1）開口がφ１５０程度の場合
A)開口間隔≧３×開口径　　B)開口間隔＜３×開口径　　C)開口が連続している場合
連続する開口の開口群(仮想開口)と見なし、その開口部の大きさにより、2)又は3)に準じて補強を行う



2）w：600mm以下　L：900mm程度以下



※開口補強の詳細は、合成スラブ工業会発行「合成スラブの設計・施工マニュアル」（1）合成スラブの設計　4．合成スラブの開口補強方法　を参照する。

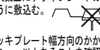
施　工

施工順序

墨出し
↓
敷込み仮止め溶接
↓
ＱＬデッキと梁との接合
1）頭付きスタッド
2）打込み鋲
3）焼抜き栓溶接
↓
溶接金網敷込み
↓
検　査
↓
コンクリート打設

敷　込　み

鉄骨梁の場合
1）墨出し線に合わせて１枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数(５～１０枚)ごとに仮止め溶接する。
2）各大梁上にデッキプレートの溝部が乗るように敷込む。



デッキプレート幅方向のかり代は、５０mm以上あることを確認する。
(頭付きスタッドの場合は３０mm以上)
3）デッキプレート長手方向の大梁のかかり代は、５０mm以上あることを確認する。

ＲＣ梁またはＳＲＣ梁の場合
1）デッキプレートは梁型枠に釘止めする。
2）デッキプレートの梁型枠へのめみ込み代が幅方向１０mm以上、長手方向が３０mmあることを確認する。

デッキプレートと梁との接合

1）頭付きスタッド
施工は、JASS6「鉄骨工事」による。
デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する。

2）打込み鋲
施工は打込み鋲製造業者の施工要領による。
施工の仕様等については別途製造業者へご確認下さい。
日本ヒルティ(株)

3）焼抜き栓溶接
国土交通省告示第３２６号(平成14年4月16日制定)及び国土交通省告示第６０６号(平成19年6月20日改正)の第２接合ハ(4)焼抜き栓溶接に基づく下記仕様による。（梁フランジの表面処理条件；黒皮または一般鋼止め塗装）
合成スラブ工業会主催の「焼抜き栓溶接講習会」の受講が望ましい。

焼抜き栓溶接［ＳＰＷ］ ―アーク手溶接―

（1）溶接機
交流アーク溶接機 AW２５０Ａ以上　エンジン溶接機 ２３０Ａ以上
（2）溶接棒
JIS Z 3211のE4316、E4916 に定める低水素系被覆アーク溶接棒で棒径４mmのもの
（3）標準溶接条件
梁フランジ板厚：６mm以上
溶接電流　：１９０～２３０Ａ(標準２１０Ａ)
（4）溶接工の資格
JIS Z 3801、JIS Z 3841 における基本級の有資格者
（5）手順・要領
右の１～４の順に行う。

	工　程	手　順・要　領
1	アーク発生	ＱＬデッキを梁になじませ(隙間２mm以下)溶接棒をＱＬデッキに垂直にしてアークを発生させる。
2	ＱＬデッキ焼抜き	溶接棒を若干引き上げてアークを飛ばし、径10mm時で"の"字を描いてＱＬデッキを焼抜く。
3	押し込み・溶着	溶接棒を梁上まで押し込み、焼抜きの内側をなぞるように円中央へ２～３回転しながら溶棒。
4	整　形	溶着金属を整え、中央部でそっと溶接棒を引き上げる。スラグを除去して仕上がりを確認。

溶接時間の目安：電流値２１０Ａ(標準)の場合８秒程度

自動焼抜き栓溶接［Ａ．Ｐ．Ｗ］ ―ＣＯ２アークスポット溶接 ―

（1）一次側電源の必要容量：仮設電力の場合　１８ＫＶＡ以上　３相　２００Ｖ
発電機の場合　３５ＫＶＡ以上　３相　２００Ｖ
（2）ワイヤの種類と直径　：ＹＧＷ　１１、１２　φ１.２mm
（3）標準溶接条件：下表

ＱＬデッキ板厚	梁フランジ板厚	電流 (Ａ)	電圧 (Ｖ)	アークタイム (秒)
1.2mm	6～9mm未満	３００～３２０	３３～３５	３.０～４.０×１度打ち
	9mm以上	３００～３２０	３３～３５	３.０～４.０×２度打ち
1.6mm	6～9mm未満	３００～３２０	３４～３６	３.５～４.５×１度打ち
	9mm以上	３００～３２０	３４～３６	４.０～４.５×２度打ち

注1．デッキプレート　板厚１．２、１．６mm　表面条件：Ｚ１２、Ｚ２７、裏面塗装
２．ＣＯ２ガス流量：２０ℓ／分以上

検　査

【焼抜き栓溶接（ＳＰＷ）及び自動焼抜き栓溶接（Ａ．Ｐ．Ｗ）】
□事前検査
ＳＰＷ：適正な溶接を行うため下記1)または2)の方法で電流値をチェックする。
1）検流計での計測
2）溶接棒の消費長さによる確認 ―― 未使用の規定の溶接棒を用いて、アーク長さを約３mmに保持し、１０mm程度の円を描いて１０秒間溶接した時の溶接棒の消費長さが４５～５３mmであること。
Ａ．Ｐ．Ｗ：試し溶接を行って溶接棒を確認する。
□溶接後の外観検査
1）溶接箇所の確認　2）焼き切れ、余盛り不足の有無
3）標準余盛り径　SPW：18mm以上　A.P.W：25mm±3
□不良部の補修
ＳＰＷ　の場合：スラグ除去後、梁にデッキプレートを密着させて再溶接する。
不具合箇所に溶着金属を流し込む要領で補修。
Ａ．Ｐ．Ｗの場合：重ね溶接して補修する。
【そ　の　他】
(1)ＱＬデッキ相互の嵌合状況　(2)ひび割れ拡大防止筋の敷込み状況　(3)開口部の補強状況

施工時許容スパン表（デッキプレートの検討）

注１：普通コンクリート（単位体積重量24.0kN/m³）、
表面処理が亜鉛めっきの場合
注２：（）数値は表面処理がめっきなしまたは塗装品の許容スパンを示す。
注３：表を超える場合は、別途支保工が必要です。

QL99-50　　（単位：m）

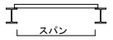
コンクリート厚(mm)		60		70		80		90		100	
板厚(mm)		1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6
支持条件	単純(内法)	2.52 (2.52)	2.75 (2.75)	2.47 (2.47)	2.69 (2.69)	2.42 (2.42)	2.64 (2.64)	2.37 (2.37)	2.59 (2.59)	2.33 (2.33)	2.54 (2.54)
	2連続	3.38 (3.38)	3.67 (3.67)	3.31 (3.31)	3.61 (3.61)	3.24 (3.24)	3.54 (3.54)	3.18 (3.15)	3.47 (3.47)	3.12 (3.07)	3.41 (3.41)
	3連続	3.12 (3.12)	3.40 (3.40)	3.05 (3.05)	3.33 (3.33)	2.99 (2.99)	3.26 (3.26)	2.93 (2.93)	3.20 (3.20)	2.88 (2.88)	3.15 (3.15)

QL99-75　　（単位：m）

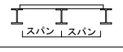
コンクリート厚(mm)		60		70		80		90		100	
板厚(mm)		1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6
支持条件	単純(内法)	3.31 (3.31)	3.61 (3.61)	3.24 (3.24)	3.55 (3.55)	3.18 (3.18)	3.48 (3.48)	3.13 (3.13)	3.42 (3.42)	3.07 (3.07)	3.37 (3.37)
	2連続	4.02 (3.89)	4.30 (4.30)	3.96 (3.78)	4.24 (4.24)	3.91 (3.67)	4.18 (4.18)	3.83 (3.58)	4.13 (4.13)	3.73 (3.49)	4.07 (4.07)
	3連続	3.78 (3.78)	4.05 (4.05)	3.73 (3.73)	3.99 (3.99)	3.68 (3.68)	3.93 (3.93)	3.63 (3.63)	3.88 (3.88)	3.58 (3.58)	3.83 (3.83)

S造・施工時のスパンの取り方

【単純支持】



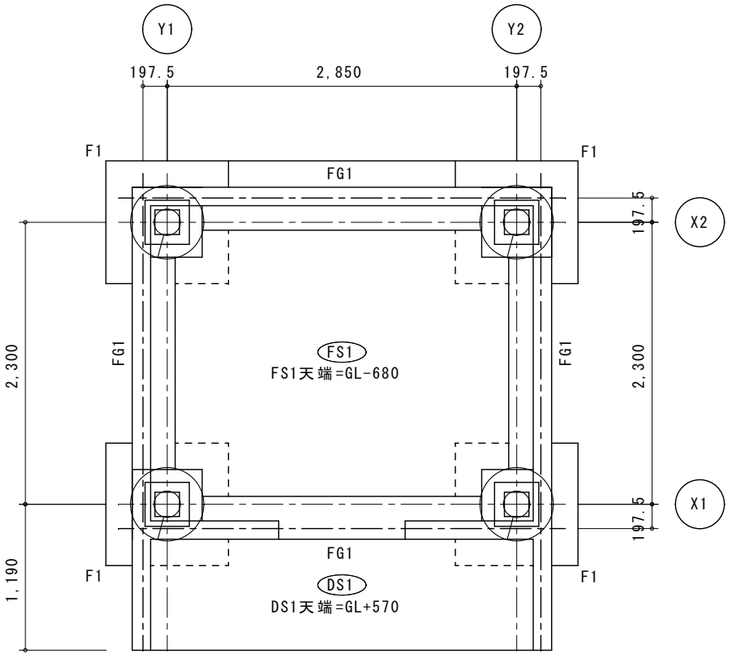
【連続支持】



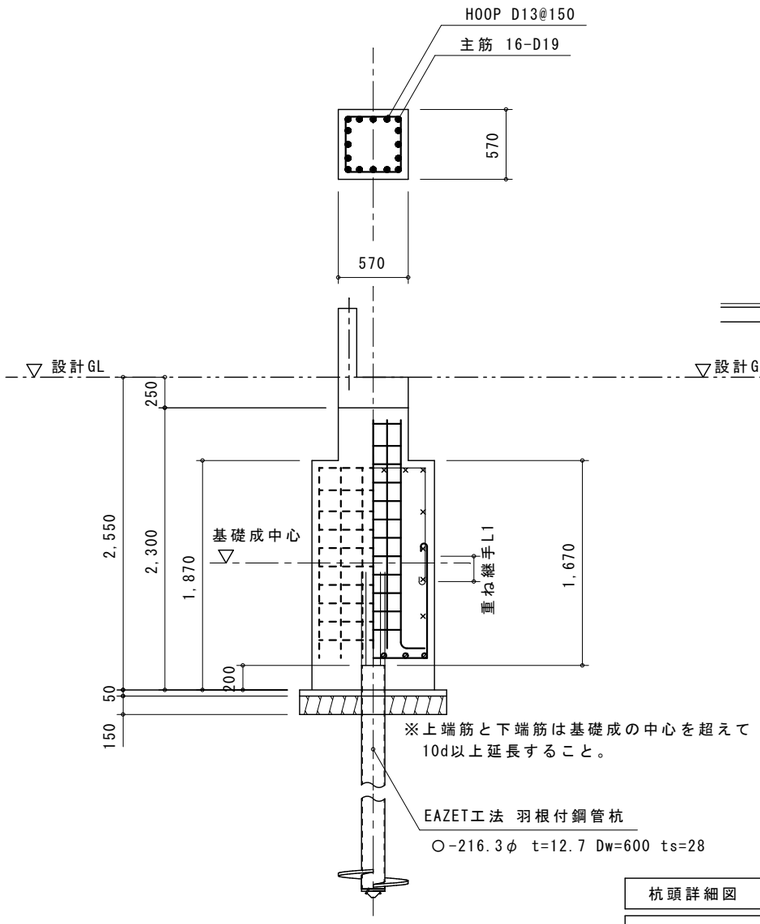
その他の納まり・参考例等については、ＱＬデッキ施工マニュアルまたは別途『納まり図』（技術資料CADデータ収録）を参照下さい。　　2021/7/01

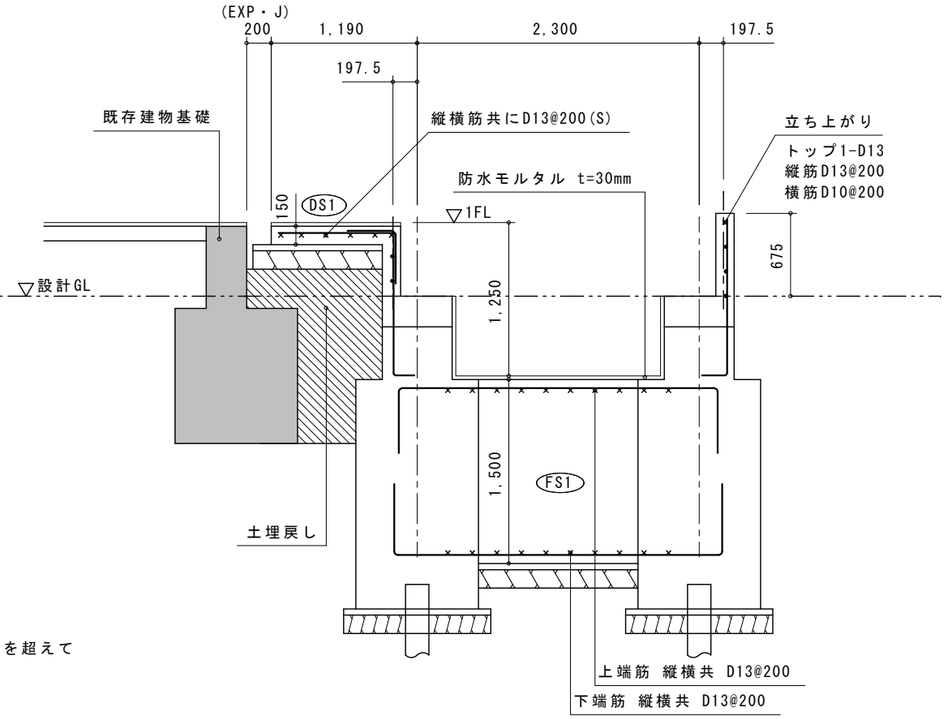
一級建築士　大臣登録　第237250号　猪又　忠彦
構造設計一級建築士　第5517号

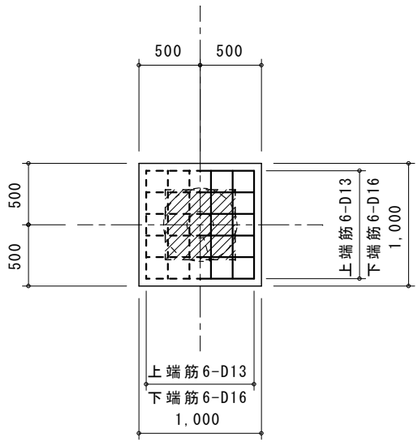
備考		1級建築士事務所 浜地設計 株式会社	〒814-0133 福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１ 一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号 一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎	工事名称	阿志岐小学校昇降機設備設置工事	縮尺	図面No. S－１３
				図面名称	デッキプレート特記仕様書	A－３　NONSCALE	日付 2026.1



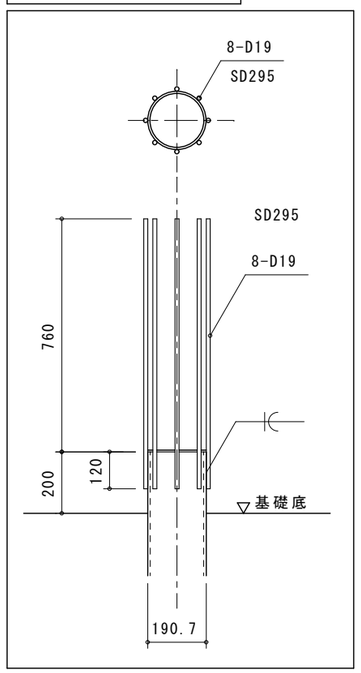
基　礎　伏　図　　S＝１：５０



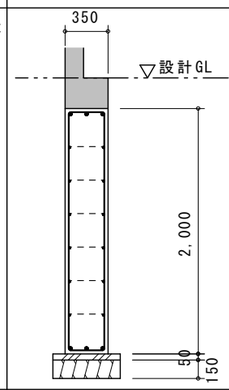
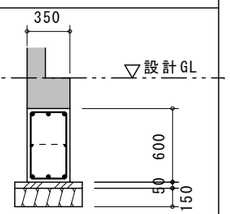




杭頭詳細図　S= 1:20



地中梁リスト表　S= 1:50

符号	FG1	FCG1
位置	全断面	全断面
増し打ち配筋要領は S-05 10 (2)参照 断面		
B×D	350 × 1000	350 × 600
上端主筋	3-D19	3-D19
下端主筋	3-D19	3-D19
スタラップ	□D13@200	□D13@200
腹　筋	4-D10	2-D10
巾止筋	D10@1000	D10@1000

使　用　材　料

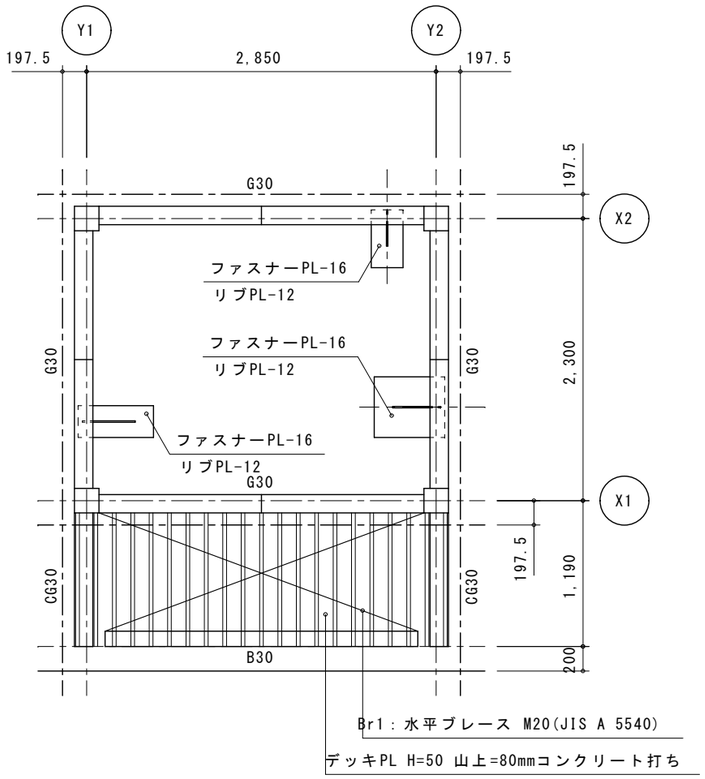
鉄　筋　Ｄ16以下　ＳＤ295Ａ　Ｄ19以上　ＳＤ345

コンクリート　　Ｆｃ＝21Ｎ/ｍｍ²

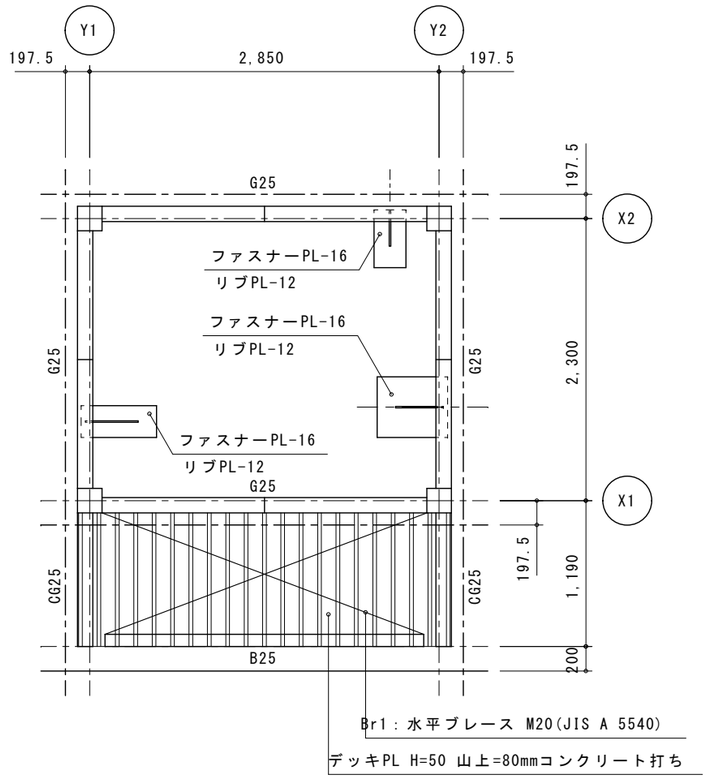
杭先端Ｎ値＝30(許容圧縮支持力検討用)
※許容引抜き耐力については杭先端より1Dw上部のＮ値が低くなっている為
基礎の重量が引き抜き応力より大きくなるように検討している。

一級建築士　大臣登録　第237250号　猪又　忠彦
構造設計一級建築士　第5517号

備考	1級建築士事務所 浜地設計 株式会社	〒814-0133 福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１ 一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号 一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎	工事名称 阿志岐小学校昇降機設備設置工事	縮尺 / 図面No. S－１４
			図面名称 基礎伏図・詳細図	A-3　1/50 / 日付 2026.1



２階梁伏図　　Ｓ＝１：５０



３階梁伏図　　Ｓ＝１：５０

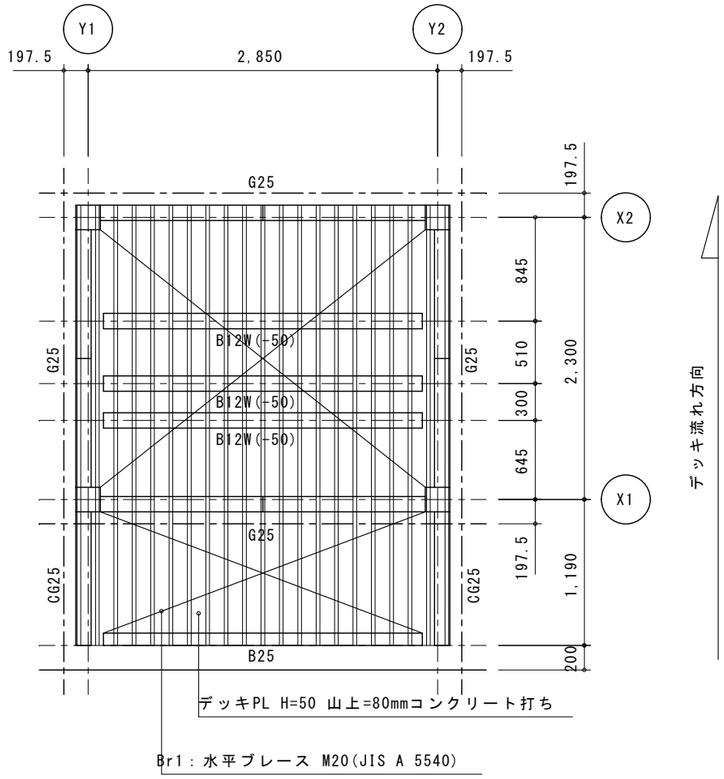
使用部材リスト表	
C1(3階)	□ - 200 × 200 × 9.0
(2階)	□ - 200 × 200 × 9.0
(1階)	□ - 200 × 200 × 12.0
G30	H - 300 × 150 × 6.5 × 9
G25	H - 250 × 125 × 6 × 9
B30	H - 300 × 150 × 6.5 × 9
B25	H - 250 × 125 × 6 × 9
B20W	H - 200 × 200 × 8 × 12
B12W	H - 125 × 125 × 6.5 × 9
CG30	H - 300 × 150 × 6.5 × 9
CG25	H - 250 × 125 × 6 × 9
Br1(水平ブレース)	M20 (JIS A 5540)
デッキプレート	QL99 - 50 - 1.2
使用鋼材	
柱	BCR295
梁	SS400
HTB	S10T
アンカーボルト	ハイベースNEO EB200-4-30仕様による
ベースプレート	ハイベースNEO EB200-4-30仕様による
ダイヤフラム	SN490 C種

一級建築士　大臣登録　第237250号　猪又　忠彦
構造設計一級建築士　第5517号

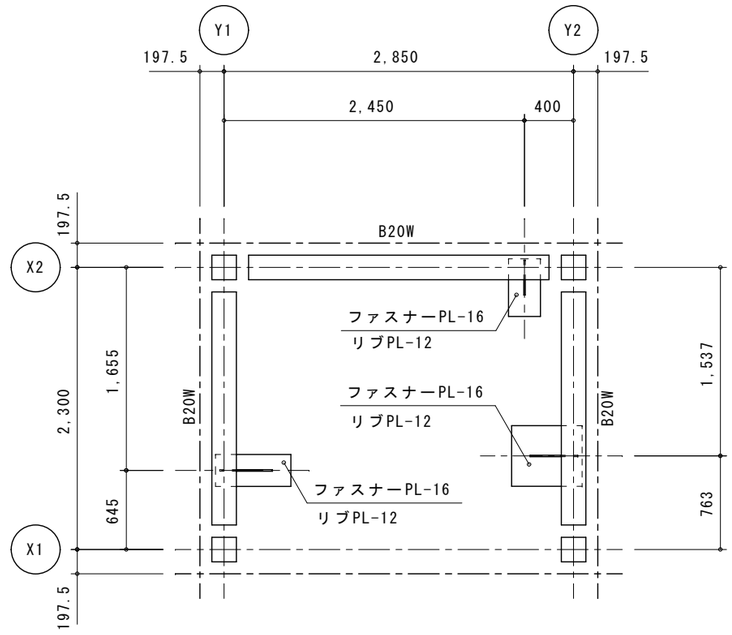
備考

１級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎

工事名称	阿志岐小学校昇降機設備設置工事	縮尺	図面No.
図面名称	梁伏図1	A-3　1/50	S－１５
			日付 2026.1



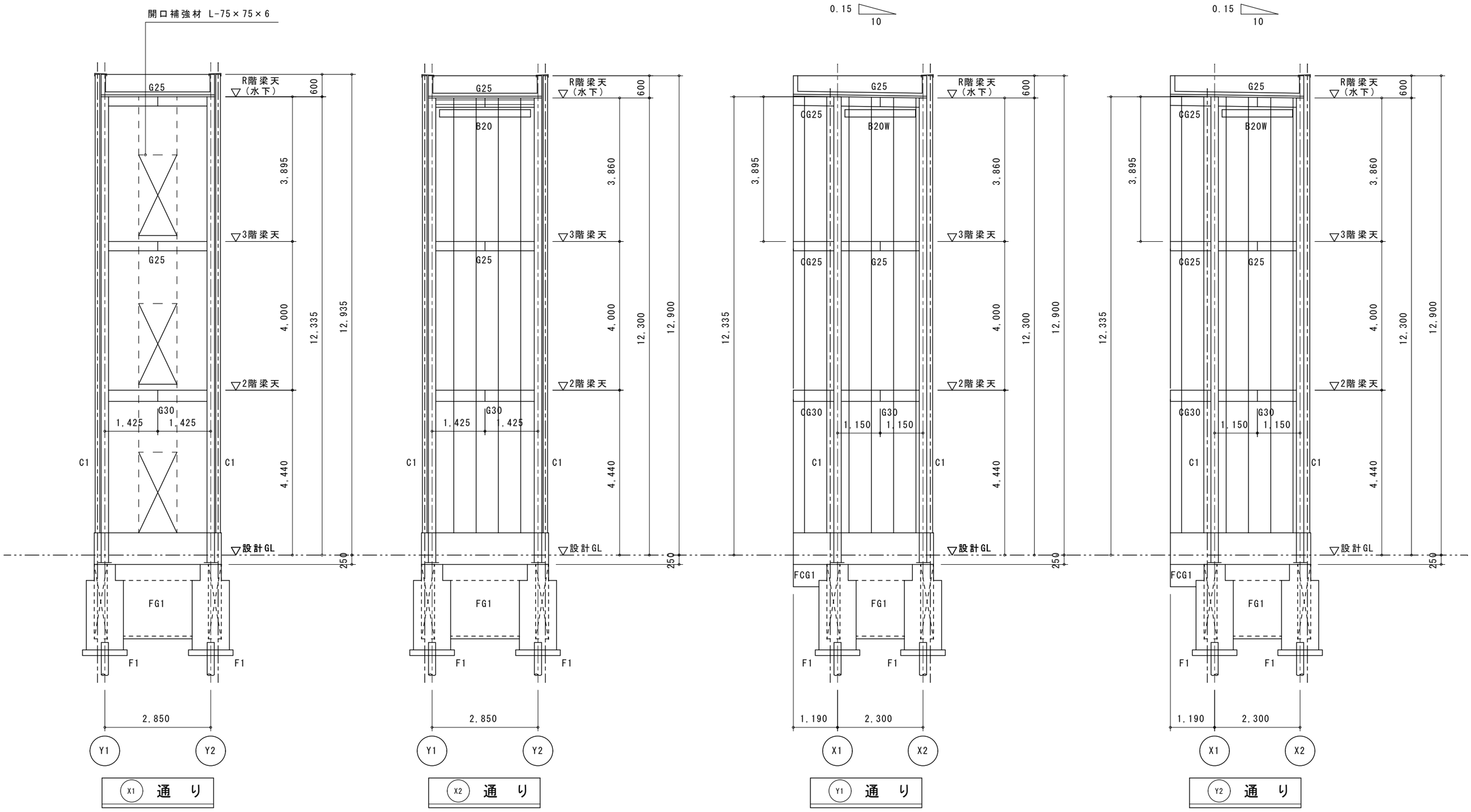
R階梁伏図　　S＝１：５０



R階 -312 LV 梁伏図　　S＝１：５０

一級建築士　大臣登録　第237250号　猪又　忠彦
構造設計一級建築士　第5517号

備考	1級建築士事務所 浜地設計 株式会社	〒814-0133 福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１ 一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号 一級建築士　大臣登録第161944号　桑　大二郎	工事名称 阿志岐小学校昇降機設備設置工事	縮尺 / 図面No. Ｓ－１６
			図面名称 梁伏図2	A－３　1/50 / 日付 2026.1



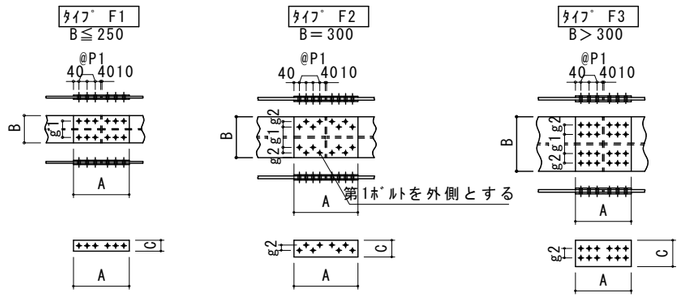
一級建築士 大臣登録 第237250号 猪又 忠彦
構造設計一級建築士 第5517号

備考	1級建築士事務所 浜地設計 株式会社 〒814-0133 福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１ 一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-11389号 一級建築士 大臣登録第161944号 秦 大二郎	工事名称 阿志岐小学校昇降機設備設置工事	縮尺	図面No. S－１７
		図面名称 軸組図	A－３ 1/100	日付 2026.1

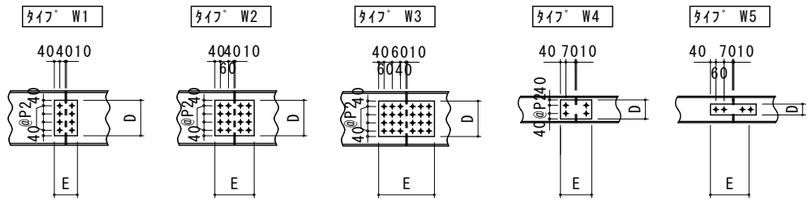
梁 継 手 リ ス ト

※形鋼の材質は SS400 とする。
※添板の材質は母材と同じとする。

【ﾌﾗﾝｼﾞ】



【ｳｪﾌﾞ】



適用(○印)	符号	継手呼称	部材	HTB	フランジ ﾀｲﾌﾟ	@P1	g1	g2	H.T.B	A	B	C	外添板	内添板	ウェブ ﾀｲﾌﾟ	@P2	H.T.B	D	E	ｳｪﾌﾞ添板	備考
		GGF-4X-J-1010・0609-16	H-100×100× 6× 8	S10T	F1	1@60	56	-	16-M16	290	100	-	2PL-16×100×290	-	W5	-	4-M16	50	350	2PL- 9× 50×350	
		GGF-4X-J-1510・0609-16	H-148×100× 6× 9	S10T	F1	1@60	56	-	16-M16	290	100	-	2PL-16×100×290	-	W2	-	4-M16	80	290	2PL- 6× 80×290	
		GGF-4X-J-2015・0609-16	H-194×150× 6× 9	S10T	F1	1@60	90	-	16-M16	290	150	60	2PL- 9×150×290	4PL- 9× 60×290	W4	1@60	4-M16	140	230	2PL- 6×140×230	
		GGF-4X-J-2517・0612-16	H-244×175× 7×11	S10T	F1	1@60	105	-	24-M16	410	175	70	2PL- 9×175×410	4PL- 9× 70×410	W2	1@90	8-M16	170	290	2PL- 6×170×290	
		GGF-4X-J-2015・0609-20	H-194×150× 6× 9	S10T	F1	1@60	90	-	16-M20	290	150	60	2PL- 9×150×290	4PL- 9× 60×290	W4	1@60	4-M20	140	230	2PL- 6×140×230	
		GGF-4X-J-2517・0612-20	H-244×175× 7×11	S10T	F1	1@60	105	-	16-M20	290	175	70	2PL- 9×175×290	4PL- 9× 70×290	W1	1@60	4-M20	140	170	2PL- 9×140×170	
		GGF-4X-J-3020・0912-20	H-294×200× 8×12	S10T	F1	2@60	120	-	24-M20	410	200	80	2PL- 9×200×410	4PL- 9× 80×410	W1	2@60	6-M20	200	170	2PL- 9×200×170	
		GGF-4X-J-3525・0916-20	H-340×250× 9×14	S10T	F1	3@60	150	-	32-M20	530	250	100	2PL-12×250×530	4PL-12×100×530	W2	2@60	12-M20	200	290	2PL- 9×200×290	
		GGF-4X-J-4030・0916-20	H-390×300×10×16	S10T	F2	3@45	150	40	32-M20	440	300	110	2PL-12×300×440	4PL-12×110×440	W1	3@60	8-M20	260	170	2PL- 9×260×170	
		GGF-4X-J-4530・1219-20	H-440×300×11×18	S10T	F2	3@45	150	40	32-M20	440	300	110	2PL-12×300×440	4PL-12×110×440	W1	4@60	10-M20	320	170	2PL- 9×320×170	
		GGF-4X-J-5030・1219-20	H-488×300×11×18	S10T	F2	3@45	150	40	32-M20	440	300	110	2PL-12×300×440	4PL-12×110×440	W2	3@90	16-M20	350	290	2PL-12×350×290	
		GGF-4X-J-6030・1219-20	H-588×300×12×20	S10T	F2	4@45	150	40	40-M20	530	300	110	2PL-12×300×530	4PL-16×110×530	W2	3@120	16-M20	440	290	2PL- 9×440×290	
		GGF-4X-J-7030・1425-20	H-700×300×13×24	S10T	F2	5@45	150	40	48-M20	620	300	110	2PL-19×300×620	4PL-19×110×620	W1	8@60	18-M20	560	170	2PL- 9×560×170	
		GGF-4X-J-8030・1425-20	H-800×300×14×26	S10T	F2	5@45	150	40	48-M20	620	300	110	2PL-19×300×620	4PL-19×110×620	W2	6@90	28-M20	620	290	2PL-12×620×290	
		GGF-4X-J-9030・1628-20	H-900×300×16×28	S10T	F2	6@45	150	40	56-M20	710	300	110	2PL-19×300×710	4PL-22×110×710	W2	7@90	32-M20	710	290	2PL-12×710×290	
		GGF-4X-J-2010・0609-16	H-200×100×5.5×8	S10T	F1	1@60	56	-	16-M16	290	100	-	2PL-16×100×290	-	W1	1@60	4-M16	140	170	2PL- 6×140×170	
○	G25	GGF-4X-J-2512・0609-16	H-250×125× 6× 9	S10T	F1	2@60	75	-	24-M16	410	125	-	2PL-12×125×410	-	W2	1@90	8-M16	170	290	2PL- 6×170×290	
○	G30	GGF-4X-J-3015・0609-16	H-300×150×6.5×9	S10T	F1	1@60	90	-	16-M16	290	150	60	2PL- 9×150×290	4PL- 9× 60×290	W1	2@60	6-M16	200	170	2PL- 6×200×170	
		GGF-4X-J-3517・0612-16	H-350×175× 7×11	S10T	F1	2@60	105	-	24-M16	410	175	70	2PL- 9×175×410	4PL- 9× 70×410	W1	3@60	8-M16	260	170	2PL- 6×260×170	
		GGF-4X-J-3015・0609-20	H-300×150×6.5×9	S10T	F1	1@60	90	-	16-M20	290	150	60	2PL- 9×150×290	4PL- 9× 60×290	W1	1@120	4-M20	200	170	2PL- 6×200×170	
		GGF-4X-J-3517・0612-20	H-350×175× 7×11	S10T	F1	1@60	105	-	16-M20	290	175	70	2PL- 9×175×290	4PL- 9× 70×290	W1	2@90	6-M20	260	170	2PL- 6×260×170	
		GGF-4X-J-4020・0912-20	H-400×200× 8×13	S10T	F1	2@60	120	-	24-M20	410	200	80	2PL- 9×200×410	4PL- 9× 80×410	W1	3@60	8-M20	260	170	2PL- 9×260×170	
		GGF-4X-J-4520・0916-20	H-450×200× 9×14	S10T	F1	2@60	120	-	24-M20	410	200	80	2PL-12×200×410	4PL-12× 80×410	W1	4@60	10-M20	320	170	2PL- 9×320×170	
		GGF-4X-J-5020・0916-20	H-500×200×10×16	S10T	F1	2@60	120	-	24-M20	410	200	80	2PL-12×200×410	4PL-12× 80×410	W1	4@60	10-M20	320	170	2PL- 9×320×170	
		GGF-4X-J-6020・1216-20	H-600×200×11×17	S10T	F1	2@60	120	-	24-M20	410	200	80	2PL-12×200×410	4PL-12× 80×410	W2	3@120	16-M20	440	290	2PL- 9×440×290	

※ｎG○○及びｎCG○○のｎは階を示す。

※ SCSS-H97 による。

一級建築士 大臣登録 第237250号 猪又 忠彦
構造設計一級建築士 第5517号

備考

1級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士 大臣登録第161944号 桑 大二郎

工事名称	縮尺	図面No.
阿志岐小学校昇降機設備設置工事		S－１８
図面名称: 小梁接合部詳細図	A－３ NONSCALE	日付 2026.1

鉄骨二次部材ﾘｽﾄ

※HTBはS10T(ﾄﾙｼｱ型)とする。　※ﾎﾞﾙﾄ本数は片側・片ﾌﾗﾝｼﾞを示す。　※仕口ﾀｲﾌﾟは仕口ﾀｲﾌﾟﾘｽﾄによる。
※GPL,SPLの材質は母材と同等とする。ただし溶融亜鉛ﾒｯｷする場合はF8Tとする。※継手は梁継手ﾘｽﾄ・柱継手ﾘｽﾄによる。　h'およびe'は仕口ﾀｲﾌﾟﾘｽﾄ参照のこと。

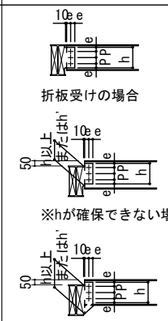
適用(○印)	符 号	部 材	仕口タイプ・使用ボルト他（頂部）	仕口タイプ・使用ボルト他（脚部）
	P10	H-100×100× 6× 8 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟG　GPL- 9 HTB 2-M16	仕口ﾀｲﾌﾟL　A.B 2-M16 SS400 L=400 ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め B.P t=16×160×200
	P15	H-150× 75× 5× 7 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟG　GPL- 9 HTB 2-M16	仕口ﾀｲﾌﾟL　A.B 2-M16 SS400 L=400 ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め B.P t=16×210×175
	P17	H-175× 90× 5× 8 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟF　GPL- 9 HTB 2-M16	仕口ﾀｲﾌﾟL　A.B 2-M16 SS400 L=400 ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め B.P t=16×235×190
	P20	H-200×100×5.5×8 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟF　GPL- 9 HTB 2-M16	仕口ﾀｲﾌﾟL　A.B 2-M16 SS400 L=400 ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め B.P t=16×260×200
	P25	H-250×125× 6× 9 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟF　GPL- 9 HTB 2-M16	仕口ﾀｲﾌﾟL　A.B 2-M16 SS400 L=400 ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め B.P t=16×310×225
	P30	H-300×150×6.5×9 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟF　GPL- 9 HTB 3-M16	仕口ﾀｲﾌﾟL　A.B 2-M16 SS400 L=400 ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め B.P t=16×360×250
	P35	H-350×175× 7×11 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟF　GPL- 9 HTB 3-M16	仕口ﾀｲﾌﾟL　A.B 2-M16 SS400 L=400 ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め B.P t=16×410×275
	P14	H-148×100× 6× 9 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟF　GPL- 9 HTB 2-M16	仕口ﾀｲﾌﾟL　A.B 2-M16 SS400 L=400 ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め B.P t=16×208×200
	P19	H-194×150× 6× 9 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟF　GPL- 9 HTB 2-M16	仕口ﾀｲﾌﾟL　A.B 2-M16 SS400 L=400 ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め B.P t=16×254×250
	P24	H-244×175× 7×11 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟF　GPL- 9 HTB 2-M16	仕口ﾀｲﾌﾟL　A.B 2-M16 SS400 L=400 ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め B.P t=16×304×275
	P29	H-294×200× 8×12 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟF　GPL- 9 HTB 3-M16	仕口ﾀｲﾌﾟL　A.B 2-M16 SS400 L=400 ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め B.P t=16×354×300
	P34	H-340×250× 9×14 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟF　GPL- 9 HTB 3-M16	仕口ﾀｲﾌﾟL　A.B 2-M20 SS400 L=400 ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め B.P t=19×400×350
	P44	H-440×300×11×18 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟF　GPL-12 HTB 3-M16	仕口ﾀｲﾌﾟL　A.B 2-M20 SS400 L=400 ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め B.P t=19×500×400
	P48	H-488×300×11×18 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟF　GPL-12 HTB 3-M16	仕口ﾀｲﾌﾟL　A.B 2-M20 SS400 L=400 ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め B.P t=19×548×400
	P1	□-100×100×6 (STKR400)	仕口ﾀｲﾌﾟI　GPL- 9 HTB 2-M16	仕口ﾀｲﾌﾟM　A.B 2-M16 SS400 L=400 ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締め B.P t=16×160×300

適用(○印)	符 号	部 材	仕口タイプ・使用ボルト他
○	B12W	H-125×125×6.5×9 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟB　GPL- 9 HTB 2-M20@60 h=80
○	B20W	H-200×200× 8×12 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟA　GPL- 9 HTB 2-M20@70 h=160
○	B25	H-250×125× 6× 9 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟA　GPL- 6 HTB 3-M20@60 h=200
○	B30	H-300×150×6.5×9 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟA　GPL- 9 HTB 3-M20@60 h=200
	B35	H-350×175× 7×11 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟA　GPL- 9 HTB 4-M20@60 h=260
	B40	H-400×200× 8×13 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟA　GPL- 9 HTB 4-M20@70 h=290
	B45	H-450×200× 9×14 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟA　GPL- 9 HTB 5-M20@60 h=320
	B50	H-500×200×10×16 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟA　GPL-12 HTB 5-M20@60 h=320
	B14	H-148×100× 6× 9 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟB　GPL- 6 HTB 2-M16@60 h=80
	B19	H-194×150× 6× 9 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟA　GPL- 6 HTB 2-M20@80 h=160
	B24	H-244×175× 7×11 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟA　GPL- 9 HTB 3-M20@60 h=200
	B29	H-294×200× 8×12 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟA　GPL- 9 HTB 3-M20@60 h=200
	B34	H-340×250× 9×14 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟA　GPL- 9 HTB 4-M20@60 h=260
	B39	H-390×300×10×16 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟA　GPL-12 HTB 5-M20@60 h=320
	B44	H-440×300×11×18 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟA　GPL-12 HTB 5-M20@60 h=320
	B48	H-488×300×11×18 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟA　GPL-12 HTB 5-M20@60 h=320
	B58	H-588×300×12×20 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟA　GPL-12 HTB 6-M20@60 h=380
	B70	H-700×300×13×24 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟA　GPL-16 HTB 6-M20@60 h=380
	B80	H-800×300×14×26 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟA　GPL-16 HTB 6-M20@60 h=380
	HB20	H-200×100×5.5×8 (SS400)(横使い)	仕口ﾀｲﾌﾟA,D　GPL- 6 HTB 2-M20@60 h=140
	HB25	H-250×125× 6× 9 (SS400)(横使い)	仕口ﾀｲﾌﾟA,D　GPL- 6 HTB 2-M20@60 h=140
	HB30	H-300×150×6.5×9 (SS400)(横使い)	仕口ﾀｲﾌﾟA,D　GPL- 9 HTB 2-M20@60 h=140
	HB19	H-194×150× 6× 9 (SS400)(横使い)	仕口ﾀｲﾌﾟA,D　GPL- 6 HTB 2-M20@60 h=140
	HB24	H-244×175× 7×11 (SS400)(横使い)	仕口ﾀｲﾌﾟA,D　GPL- 9 HTB 2-M20@60 h=140
	HB29	H-294×200× 8×12 (SS400)(横使い)	仕口ﾀｲﾌﾟA,D　GPL- 9 HTB 2-M20@60 h=140
	HB34	H-340×250× 9×14 (SS400)(横使い)	仕口ﾀｲﾌﾟA,D　GPL- 9 HTB 2-M20@60 h=140
	T1	○-114.3×4.5 (STK400)	仕口ﾀｲﾌﾟE　GPL- 9 HTB 3-M20@60 溶接長L=120
	g10	[-100x 50x 5x7.5 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟB　GPL- 6 HTB 2-M16 (h'= 120,e'= 60)
	g15	[-150x 75x6.5x10 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟC　GPL- 9 HTB 2x2-M20(Px=60,Py=60) (h'= 150)
	g18	[-180x 75x 7x10.5 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟC　GPL- 9 HTB 2x2-M22(Px=60,Py=80) (h'= 180)
	g25	[-250x 90x 9x13 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟC　GPL- 9 HTB 3x2-M22(Px=60,Py=60) (h'= 230)
		(JIS規格品)	
○	Br1	M20(ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ締)(JIS規格品)	仕口ﾀｲﾌﾟK　GPL- 9 HTB 1-M20
	V1	L-75x75x 6 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟN　GPL- 9 HTB 5-M16
	V2	L-75x75x 9 (SS400)	仕口ﾀｲﾌﾟN　GPL- 9 HTB 5-M16
	胴縁・母屋	C-100x50x20x2.3@600 (SSC400)	仕口ﾈｺPL-4.5　中ﾎﾞﾙﾄ 1-M12　柱面、胴縁面のあき寸法は25mmとする。
	胴縁・母屋	C-100x50x20x3.2@600 (SSC400)	仕口ﾈｺPL-4.5　中ﾎﾞﾙﾄ 1-M12　柱面、胴縁面のあき寸法は25mmとする。

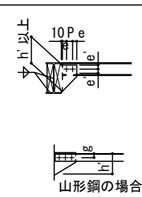
柱脚・仕口タイプリスト

※特記なき限り e=40 , P=60 , @=60 とする。
※h',e',g,Px,Py はそれぞれ鉄骨二次部材ﾘｽﾄによる。

仕口ﾀｲﾌﾟA

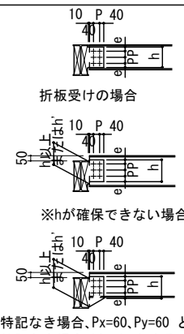


仕口ﾀｲﾌﾟB



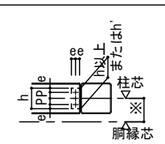
特記なき場合、e'= 40 とする。

仕口ﾀｲﾌﾟC



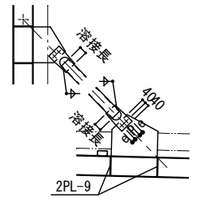
特記なき場合、Px=60、Py=60 とする。
特記なき場合、h'= h とする。

仕口ﾀｲﾌﾟD



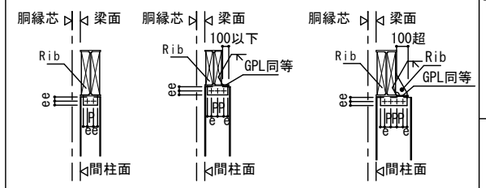
特記なき場合、h'= h とする。

仕口ﾀｲﾌﾟE



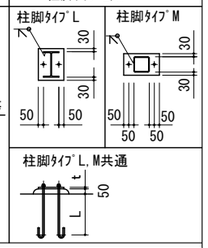
※溶接長は鉄骨二次部材ﾘｽﾄによる。

仕口ﾀｲﾌﾟF

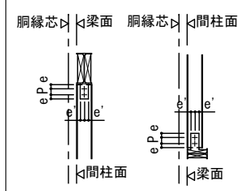


RibはGPL同厚とする。

柱脚ﾀｲﾌﾟL,M

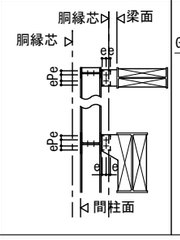


仕口ﾀｲﾌﾟG

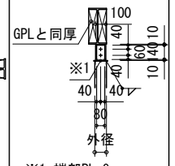


特記なき場合、e'= 40 とする。

仕口ﾀｲﾌﾟH

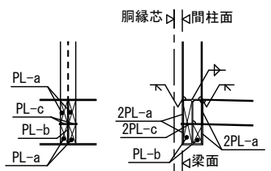


仕口ﾀｲﾌﾟI



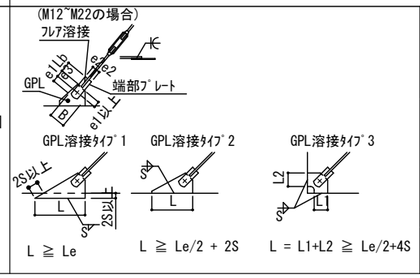
※1 端部PL-9
端部PLのサイズは
外径+20mmとする。

仕口ﾀｲﾌﾟJ



aは間柱ﾌﾗﾝｼﾞ厚の1ｻｲｽﾞUP以上とする。
bはｳｪﾌﾞ厚の大きい方の1ｻｲｽﾞUP以上とする。
cは小梁ﾌﾗﾝｼﾞ厚の1ｻｲｽﾞUP以上とする。

仕口ﾀｲﾌﾟK

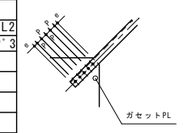


端部プレート	呼び径	ﾌﾟﾚｰﾄ厚さ	e1	e2	e3	Lb
	M20	9	50	34	66	75
	M16	6	45	28	59	55
	M12	6	40	28	52	40

ガセットプレート	呼び径	GPL厚さ	B	隅肉ｻｲｽﾞ	Le	L ﾀｲﾌﾟ1	L ﾀｲﾌﾟ2	L1,L2 ﾀｲﾌﾟ3
	M20	9	80	8	80	97	65	81
	M16	9	75	8	80	80	56	72
	M12	6	60	6	60	60	42	54

※数値は最小値を示す。
※隅肉の有効長さは 10S以上 かつ 40mm以上 とする。

仕口ﾀｲﾌﾟN



使用材料および特記外

特記なき限り下記による。

1.鉄骨部材の材質
- 形鋼 :SS400
- 鋼管 :STK400
- 軽量形鋼 :SSC400
- GPL :母材と同等の材質とする。
- SPL :母材と同等の材質とする。
- ﾍﾞｰｽﾌﾟﾚｰﾄ :SS400(間柱)
- 定着板 :SS400

2.ﾎﾞﾙﾄ類の材質
- HTB :S10T(F10T)
  ただし溶融亜鉛ﾒｯｷする場合はF8Tとする。
- 中ﾎﾞﾙﾄ :強度区分 4.6 4.8
- ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ :SS400(間柱)

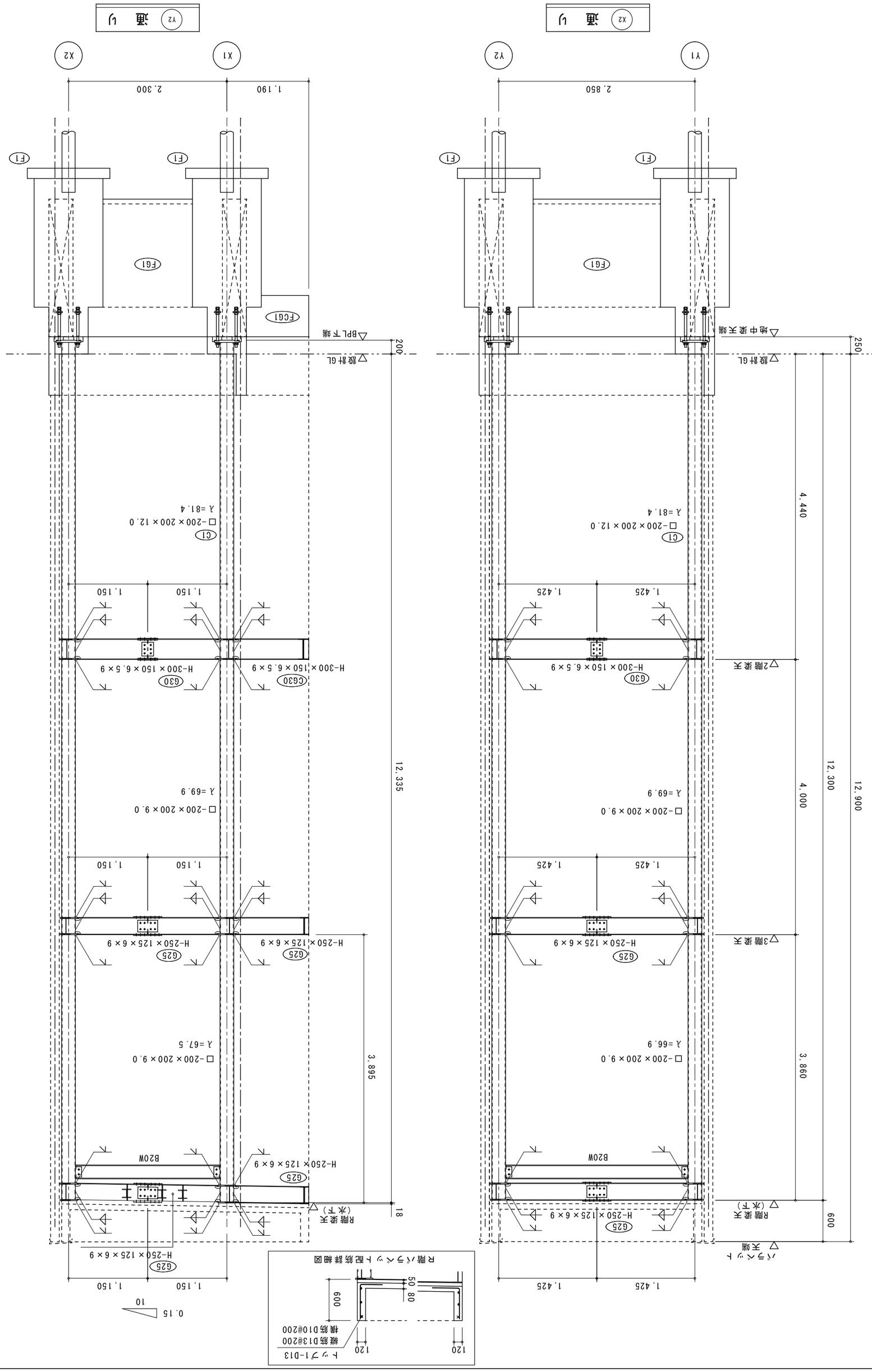
3.ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄはﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ締ﾌｯｸ付とする。
4.ﾍﾞｰｽﾓﾙﾀﾙは無収縮ﾓﾙﾀﾙとする。
5.ﾎﾞﾙﾄﾋﾟｯﾁは60、はしあき・へりあきは40とする。
6.水平ﾌﾞﾚｰｽの取付高さは協議の上、
意匠図・施工図にて決定のこと。
7.胴縁・開口補強の仕口は協議の上最終決定のこと。
8.※印寸法は協議の上決定のこと。

一級建築士　大臣登録　第237250号　猪又　忠彦
構造設計一級建築士　第5517号

備考

HA
1級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎

工事名称	縮尺	図面No.
阿志岐小学校昇降機設備設置工事		S－１９
図面名称: 小梁接合部詳細図	A-3　NONSCALE	日付 2026.1

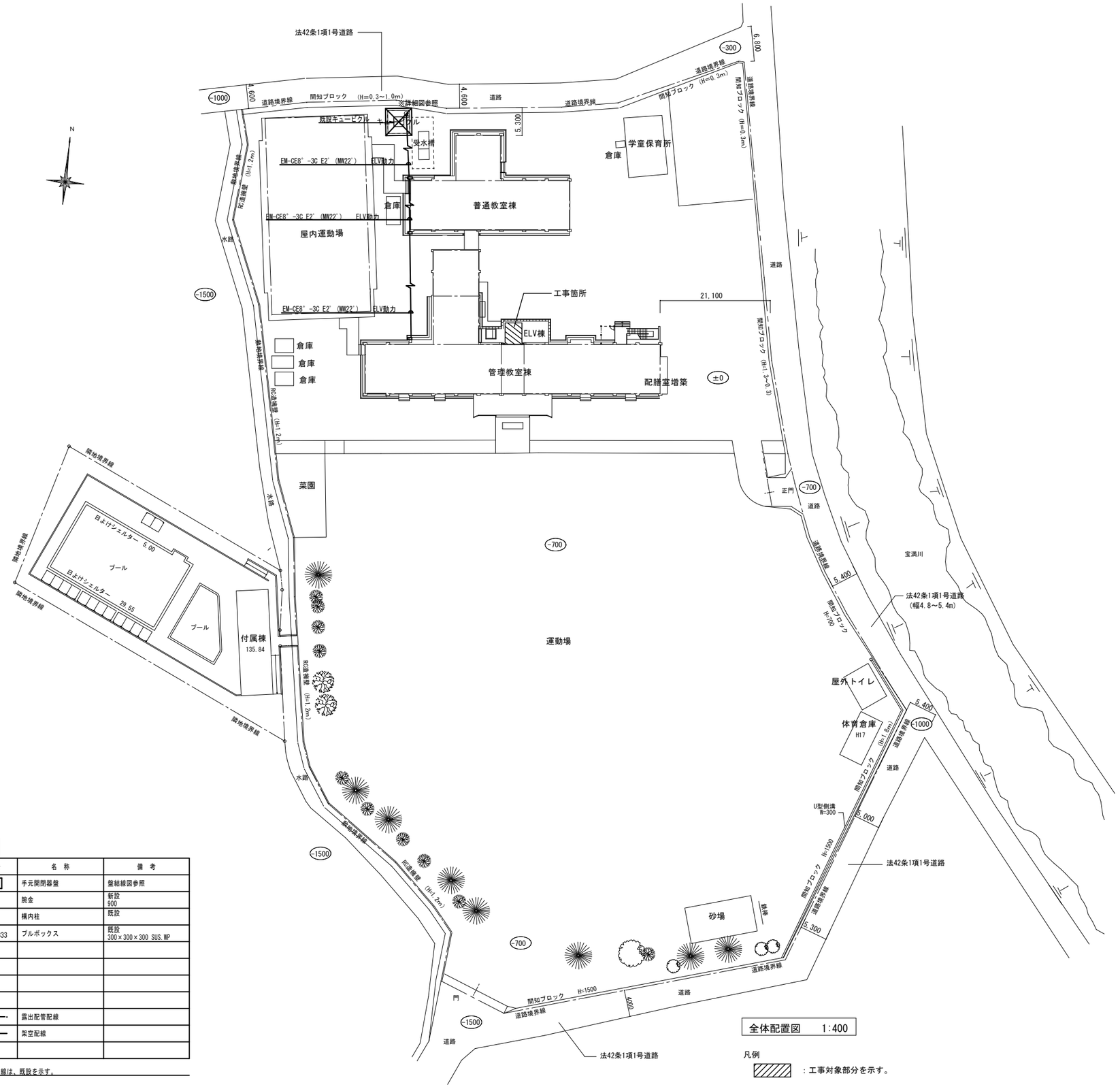


一級建築士 大臣登録 第237250号 猪又 忠彦
構造設計一級建築士 第5517号

工事名称	阿志岐小学校昇降機設備設置工事
縮尺	A-3 1/50
図面No.	S-20
図面名称	鉄骨詳細図
日付	2026.1

1級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈3丁目5-1-101
一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士 大臣登録第161944号 兼 大二郎

番号	摘要



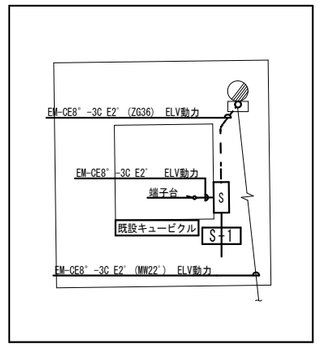
全体配置図　1:400

凡例

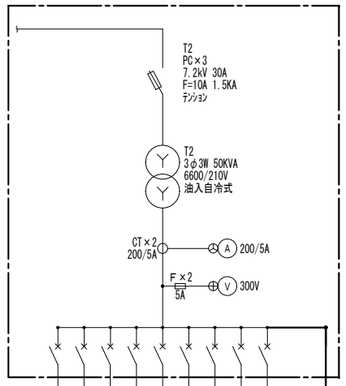
：工事対象部分を示す。

工事場所：筑紫野市阿志岐2350番地

付近見取図　NON SCALE

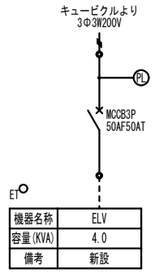


既設キュービクル廻り詳細図　1:400



盤結線図

S-1	屋外防水壁掛型　SUS製　指定色仕上げ



機器名称	ELV
容量(KVA)	4.0
備考	新設

回路番号	負荷名称	定格出力(KVA)	配線サイズ	配線用遮断器 定格電流(A)
A	消火ポンプ	5.766	FP22°-3C	MCCB3P100AF100AT
B	揚水ポンプ	3.550	CV14°-3C	MCCB3P100AF100AT
C	P-4本館2F		CV38°-3C	MCCB3P100AF100AT
D	受水槽ポンプ		CV8°-3C	MCCB3P50AF50AT
E	1F屋外空調盤（1）	4.130	CVT14°	MCCB3P50AF50AT
F	新プール動力	4.870	CVT22°	MCCB3P100AF75AT
G	2FベランダE空調盤（2）	3.440	CVT14°	MCCB3P50AF50AT
H	P-3コンピュータ動力		CVT60°	MCCB3P100AF100AT
J	学童保育動力		CVT14°	MCCB3P100AF100AT

低　圧　盤

回路番号	負荷名称	配線サイズ	端子容量
K	S-1	EM-CE8°-3C	50A以上

既設ユービクル改造(製造：内外電機株式会社 製造番号150TB0663-1)
1.キュービクル改造
端子台50A以上×1個の増設を行う。

凡例

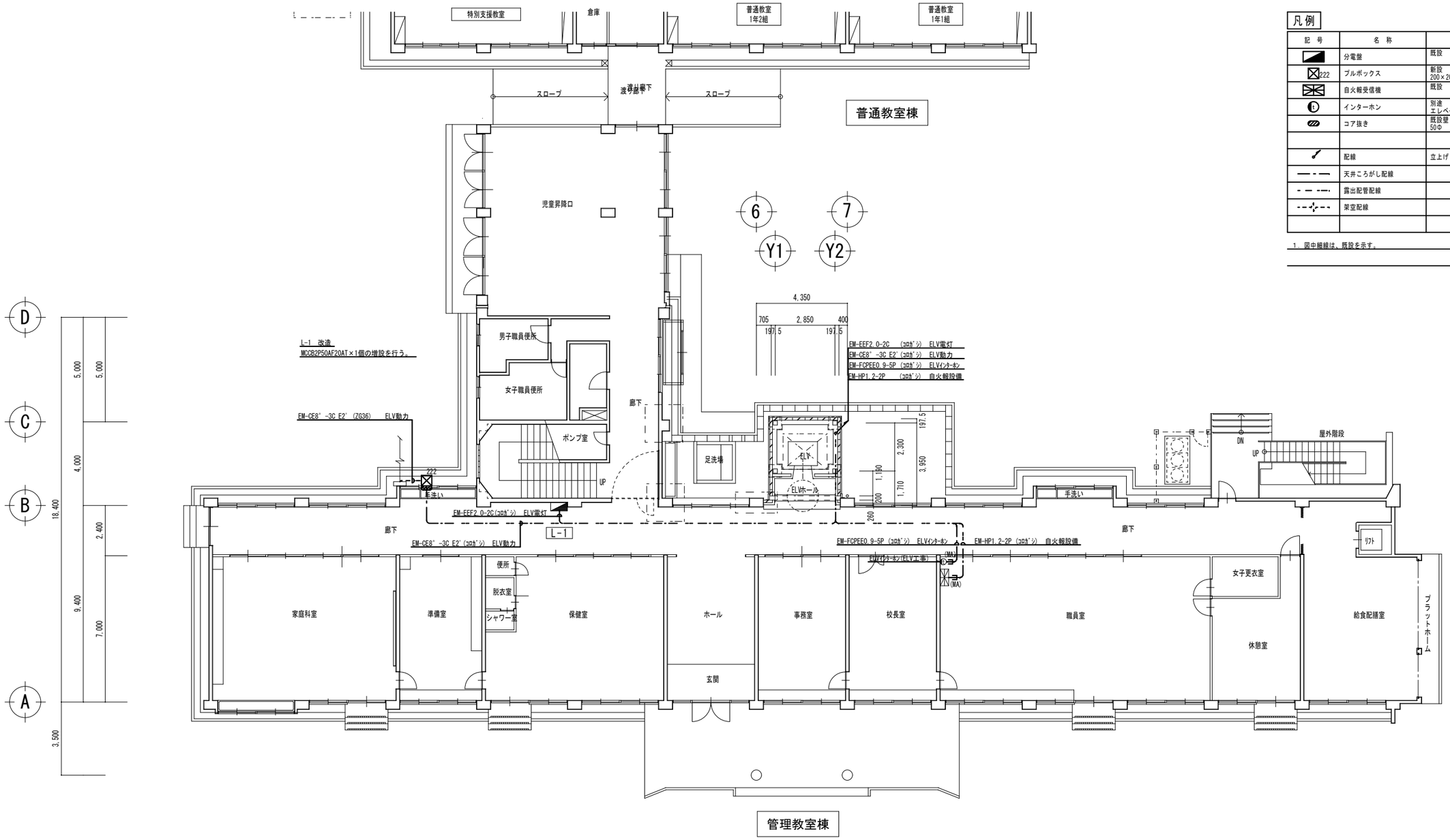
記号	名称	備考
S	手元開閉器盤	盤結線図参照
	腕金	新設 900
	構内柱	既設
333	プルボックス	既設 300×300×300 SUS.WP
	露出配管配線	
	架空配線	

1．図中細線は、既設を示す。

備考

1級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎

工事名称	阿志岐小学校昇降機設備設置工事	縮尺	A－1　1/400	図面No.	E－1
図面名称	構内配電線路		A－3　1/800	日付	2025.9



管理教室棟

凡例

記号	名称	備考
	分電盤	既設
222	プルボックス	新設 200×200×200 SUS.WP
	自火報受信機	既設
	インターホン	別途 エレベーター工事
	コア抜き	既設壁 50Φ
	配線	立上げ
	天井ころがし配線	
	露出配管配線	
	架空配線	

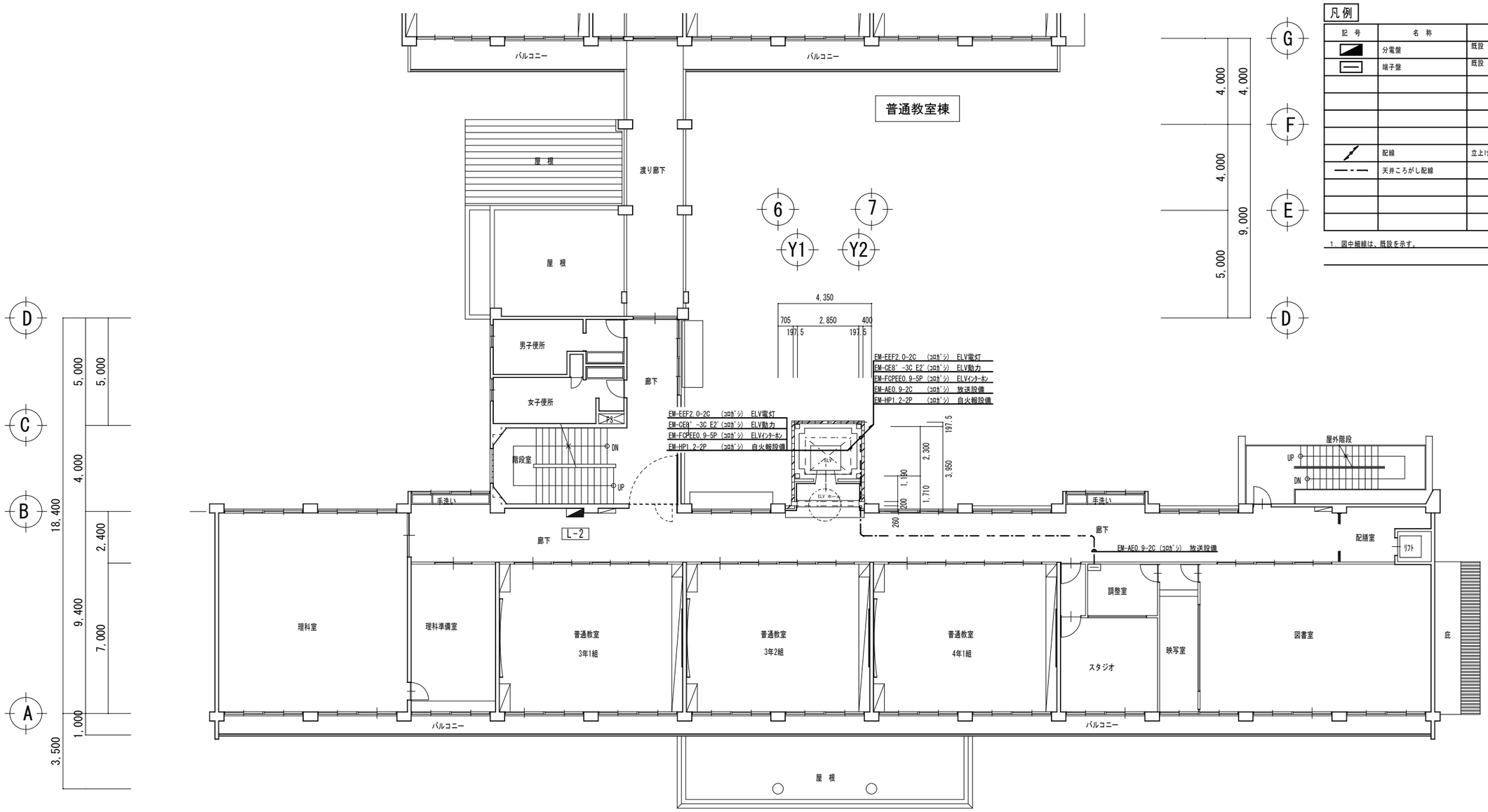
1. 図中細線は、既設を示す。

1階平面図　1:100

備考

1級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒814-0133
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号
一級建築士　大臣登録第161944号　秦　大二郎

工事名称	縮尺	図面No.
阿志岐小学校昇降機設備設置工事	A－1　1/100	E－2
図面名称：1階平面図	A－3　1/200	日付：2025.9



２階平面図　1:100

凡例

記号	名称	備考
	分電盤	既設
	端子盤	既設
	配線	立上げ・立下げ
	天井ころがし配線	

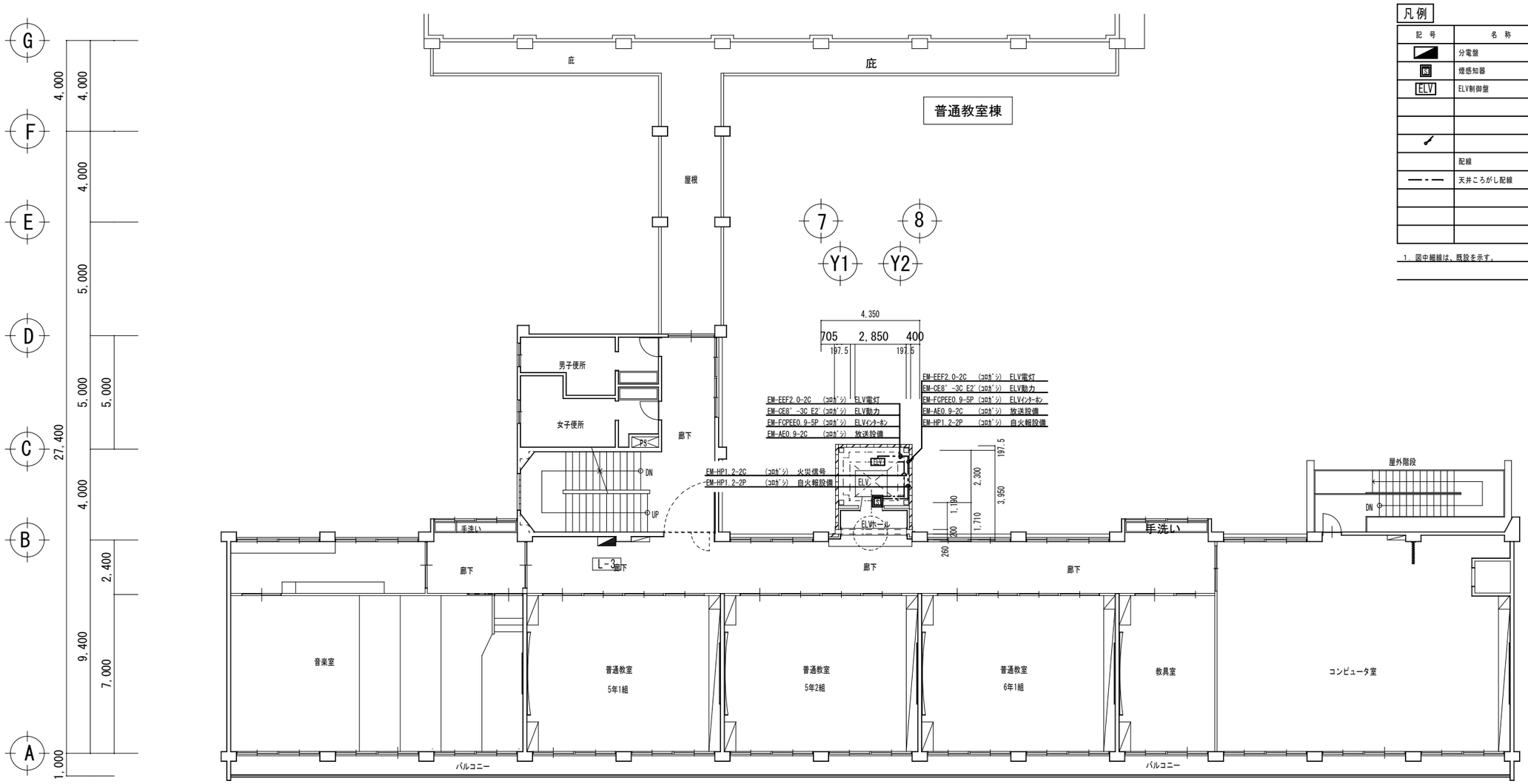
1. 図中細線は、既設を示す。

備考	1級建築士事務所 浜地設計 株式会社 〒814-0133 福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１ 一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-11389号 一級建築士 大臣登録第161944号 秦 大二郎	工事名称 阿志岐小学校昇降機設備設置工事	縮尺 A－1 1/100 / 図面No. E－３
		図面名称 ２階平面図	A－３ 1/200 / 日付 2025.9

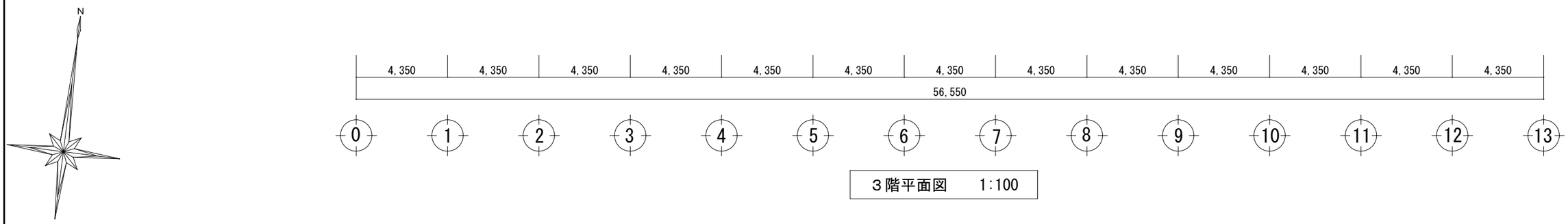
凡例

記号	名称	備考
	分電盤	既設
	煙感知器	2種露出型　点検ボックス付
ELV	ELV制御盤	別途 エレベーター工事
		立上げ・立下げ
	配線	立下げ
	天井ころがし配線	

1. 図中細線は、既設を示す。



管理教室棟

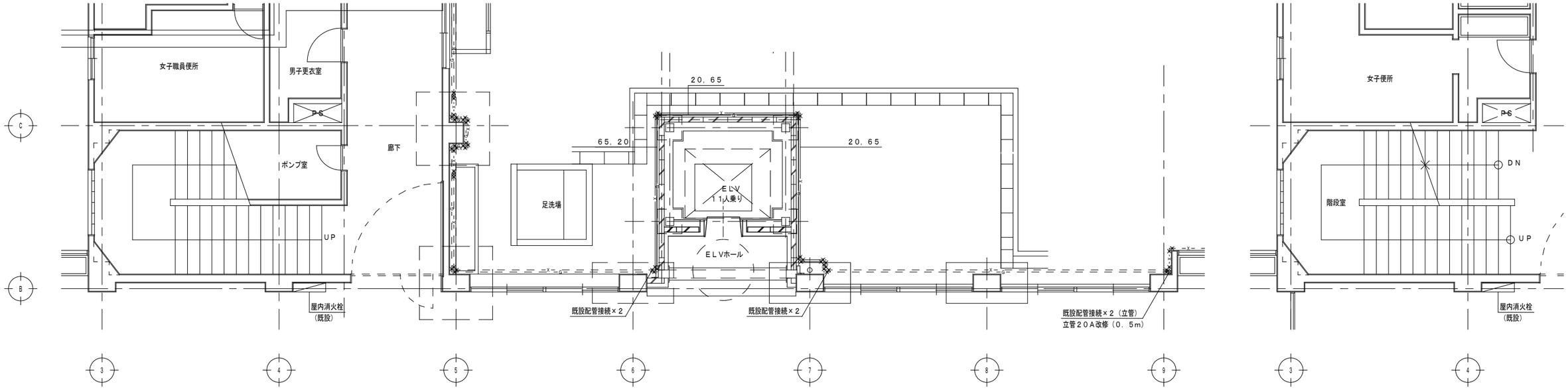


３階平面図　1:100

備考	1級建築士事務所 浜地設計 株式会社	〒814-0133 福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１ 一級建築士事務所　福岡県知事登録第1-11389号 一級建築士　大臣登録第161944号　桒　大二郎	工事名称 阿志岐小学校昇降機設備設置工事	縮尺 A－1　1/100	図面No. E－4
			図面名称 ３階平面図	A－3　1/200	日付 2025.9

凡例

記号	名称	仕様	
——— - ———	給水管	屋外配管用 ： 配管用炭素鋼鋼管（ＳＧＰ（白））※ＳＵＳラッキング	ＪＩＳ Ｇ ３４５２
——— x ———	消火管	屋外配管用 ： 配管用炭素鋼鋼管（ＳＧＰ（白））※ＳＵＳラッキング	ＪＩＳ Ｇ ３４５２
——— G ———	ガス管	屋外配管用 ： 配管用炭素鋼鋼管（ＳＧＰ（白））※塗装	ＪＩＳ Ｇ ３４５２
⊗	横水栓		

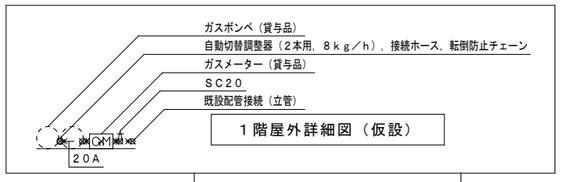


１階平面詳細図（改修後）

注１）太実線配管を改修すること。

注２）改修後の屋外配管は三角ブラケット（３００×３００，ＳＵＳ製）にて支持をとること。

※４０Ａ以下は２m以内、５０Ａ以上は３m以内に１個設置すること。

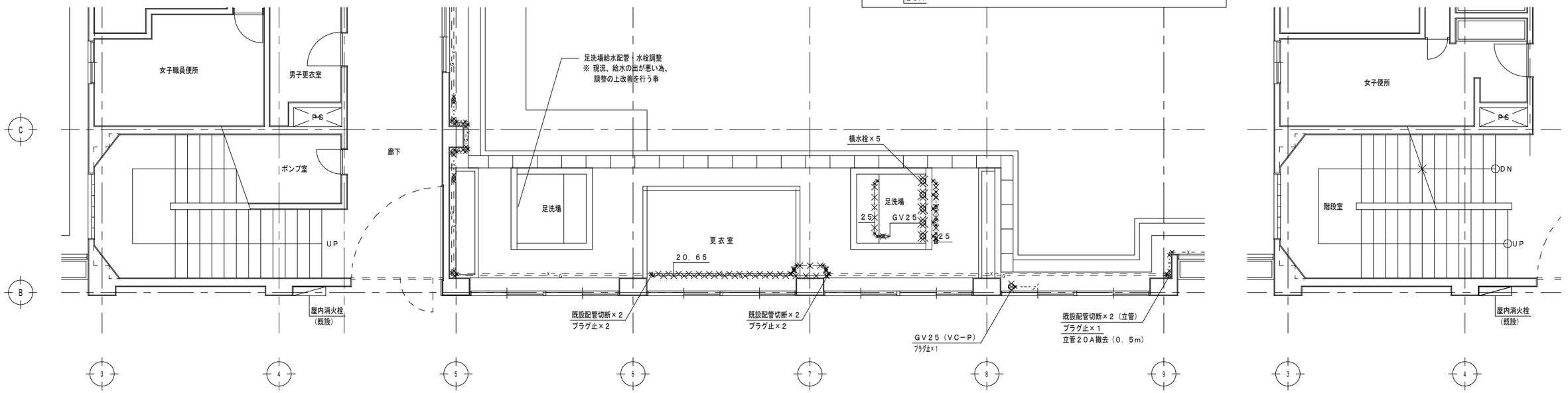


１階屋外詳細図（仮設）

３階平面詳細図（既存）

注１）工事期間中、上記屋内消火栓（既設）に使用出来ない屋内消火栓（既設）の消火ホースを仮設すること。

注２）使用できない屋内消火栓のカバー範囲に消火器（ＡＢＣ１０型）を仮設すること（×２本）。



１階平面詳細図（既存）

注１）工事期間中、上記屋内消火栓（既設）に使用出来ない屋内消火栓（既設）の消火ホースを仮設すること。

注２）使用できない屋内消火栓のカバー範囲に消火器（ＡＢＣ１０型）を仮設すること（×２本）。

注３）～～ 印は撤去を示す。

２階平面詳細図（既存）

注１）工事期間中、上記屋内消火栓（既設）に使用出来ない屋内消火栓（既設）の消火ホースを仮設すること。

注２）使用できない屋内消火栓のカバー範囲に消火器（ＡＢＣ１０型）を仮設すること（×２本）。

備考			

１級建築士事務所
浜地設計 株式会社
〒８１４－０１３３
福岡市城南区七隈３丁目５－１－１０１
一級建築士事務所 福岡県知事登録第１－１１３８９号
一級建築士 大臣登録第１６１９４４号 桑 大二郎

工事名称	縮尺	図面No.
阿志岐小学校昇降機設備設置工事	A-1 1/50	Ｍ－１
図面名称：衛生設備 各階平面詳細図（既存・改修後）	A-3 1/100	日付 2025. 9